

京濱運河及埋立計畫埋立地賣却豫定表

年	度	賣却坪數	賣却單價	金	額
五	年	七〇,〇〇〇 ^坪	三〇,〇〇〇	二,一〇〇,〇〇〇 ^円	
六	年	七〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二,一〇〇,〇〇〇	
七	年	八〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二,四〇〇,〇〇〇	
八	年	六八,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二,〇四〇,〇〇〇	
九	年	六八,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二,〇四〇,〇〇〇	
十	年	六八,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二,〇四〇,〇〇〇	
十一	年	六八,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二,〇四〇,〇〇〇	
十二	年	六八,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二,〇四〇,〇〇〇	
十三	年	六八,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二,〇四〇,〇〇〇	
十四	年	六八,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二,〇四〇,〇〇〇	
十五	年	六八,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二,〇四〇,〇〇〇	
十六	年	六八,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二,〇四〇,〇〇〇	
十七	年	六八,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二,〇四〇,〇〇〇	
十八	年	六八,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二,〇四〇,〇〇〇	
十九	年	六八,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二,〇四〇,〇〇〇	
二十	年	六八,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二,〇四〇,〇〇〇	
二十一	年	六八,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二,〇四〇,〇〇〇	
計		一,二三八,二〇〇	三〇,〇〇〇	一,九八六,〇〇〇	三七,一四六,〇〇〇

備考 一、年度ハ工事着手年度ヨリ起算セリ

(圖面省略)

右ハ三月三十日ノ會議ニ上程、菊池民一君ノ動議ニ據リ、議長指名二十七名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

- | | | | | |
|-------|------|-------|-------|-------|
| 市倉兼吉 | 黒田保次 | 中塚榮次郎 | 大橋清太郎 | 横溝直也 |
| 神山錠五郎 | 中西雄洞 | 羽田如雲 | 石原永明 | 瀬田麟一 |
| 鈴木菊太郎 | 花村四郎 | 中島勝五郎 | 新井京太 | 廣瀬喜之助 |
| 川田友之 | 一又安平 | 鈴木正之助 | 高崎高次郎 | 平林淺次郎 |
| 本多市郎 | 天野頼義 | 鍋木小平次 | 大野菊三 | 淺沼稻次郎 |
| 早川庄太郎 | 中林軍平 | | | |

委員ハ羽田如雲君ヲ委員長ニ、黒田保次、中塚榮次郎、横溝直也、廣瀬喜之助、川田友之ノ五君ヲ理事ニ推シ、審査ノ末、五月十三日ノ會議ニ於テ、委員長ヨリ左ノ意見報告アリ、異議ナク報告通可決セリ。

諮問第十三號議案調査委員意見報告

委員ハ別紙ノ通告申スルコトニ議決セリ

右報告候也

昭和十一年五月七日

委員長 羽田如雲

東京市會議長 森俊成殿

答申案

本年三月十七日付子河發第五二號ヲ以テ諮問相成候京濱運河埋立工事施行ニ關スル件ハ左記條件及希望ヲ容認セラルルニ於テハ支障無之旨議決候條此段答申候也

昭和 年 月 日

議長

東京府知事宛

記

條件

- 一 本件ハ關係漁業者ニ及ボス影響甚大ナルヲ以テ本埋立ニ關スル工事施行區域内ノ漁業權者竝自由漁業者ニ對シ相當ノ補償金ヲ交付スルト共ニ工事施行ノ爲喪失スベキ漁業權者ニハ之レニ相當スル換地ヲ與ヘ尙漁業關係者ノ爲ニ作業場ヲ設定スル等本事業ニ依リ漁業者ノ生業ヲ奪ハザルハ勿論其ノ伸張進展ヲ期セラレ度
- 二 本埋立計畫中第十號及第十一號地ハ多摩川下流ト接近シ昭和二年內務省臨時港灣調查會決議ノ次第モ有之尙將來ノ計畫ト多分ノ關係アルヲ以テ特ニ此ノ際其ノ免許ヲ留保セラレ度
- 三 本埋立計畫中第五號地ハ左記理由ニ依リ東京府施行區域ヨリ之ヲ除外シ東京市施行ノ埋立地區トシテ豫メ決定シ置カレ度尙此ノ場合ニ於テモ喪失スベキ漁業權ニ對シテハ第一項同様府市協力シテ萬全ヲ期スルコト

(理由)

本市ニ於テ現在施工中ニ屬スル東京港修築計畫ノ内其ノ航路ニ關シテハ昭和八年一月三十一日內務省臨時港灣調查會ニ於テ其幅員ヲ二百米ニ増加スベク修正セラレタリ

今回東京府ニ於テ京濱運河開鑿ヲ實施セラル、ニ際シテハ勢ヒ此ノ幅員ノ増加ニ伴フ浚渫ト竝同運河ト東京港航路トノ接續地點ノ浚渫トヲ急施スルヲ要ス

仍テ之等ノ工事ヲ擔當スベキ本市ニ對シ右土砂ノ處分地トシテ最モ便宜ニシテ且ツ將來東京港ト密接ノ關係アル第五號埋立地ヲ此ノ際東京市埋立地區トシテ決定シ置カレ度シ

四 埋立地ニハ豫メ公園廣場學校用地等ノ充分ナル公共用地ヲ設定スルコト

希望

一 本工事ノ施行並埋立地ノ管理處分ニ就テハ東京市ト緊密ナル連絡ヲ採リ協調シテ事業ノ圓滿ナル遂行ヲ期セラレ度尙之レガ爲東京府ハ特ニ市理事者市會議員ヲ參加セシムル委員會ヲ設置セラレムコトヲ望ム

第貳拾節 公園使用條例及ビ公園特殊施設使用條例中改正ノ件

▽公園使用料條例中改正ノ件 左記議案ハ二月二十五日ノ會議ニ於テ、菊池民一君ノ動議ニ據リ、第二十號議案

(昭和十一年度東京市歳入出豫算)外三十五議案ト共ニ一括シテ、同一委員ニ調査ヲ併託スル事ニ決シ、委員ハ銳意調査ノ末、三月三十日マデニ左記議案以外付託サレタル議案全部ヲ議了シタルモ、左記議案ノミハ議了ニ至ラズ、爾來

尙ホ引續キ審査中、翌十二年三月市會議員ノ任期終了シ、該議案ハ自然消滅ニ歸セリ。

第三十九號

東京市公園使用料條例中改正ノ件

東京市公園使用料條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第二條第一號常時使用料別表ヲ別紙ノ通改ム

說明 現行使用料ハ附近地代ニ比シ低廉ニシテ且本市公園使用料條例第二十四條第二項所定ノ据置期間ハ昭和十年三月三十一日ヲ以テ滿了シタルニ依リ別紙ノ通改正スルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス

(參照)

東京市公園使用料條例抄錄

第二十四條 使用者ハ別ニ定ムル使用料ヲ納付スヘシ

使用料額ハ新設又ハ改正後五箇年ヲ經過スルニ非サレハ之ヲ增加セス

一 常時使用料

(別表ヲ以テ之ヲ定ム)

(使用料別表略)

附記 昭和十三年二月五日附議案第七十號ヲ以テ、市理事者ヨリ更メテ本案ト同一議案ノ提出アリタルニ付、使用料別表ハ之ヲ略シタリ

▽公園特殊施設使用條例中改正ノ件

左記議案モ二月二十五日ノ會議ニ上程、菊池民一君ノ動議ニ據リ、第二十號議案(昭和十一年度東京市歳入出豫算)外三十五議案ト共ニ一括シテ、同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、三月三十日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第六十四號

東京市公園特殊施設使用條例中改正ノ件

東京市公園特殊施設使用條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

第四條別表ヲ別紙ノ通改ム

別表		一、使用料	
名	稱	種別	別
日比谷公園大音樂堂	音樂堂	晝間	八 十 圓
		夜間	百 圓
		備付ピアノ	二 十 圓
芝公園鼓技場	鼓技場	小學	二 十 圓
		學校青少年團及之ニ準スル團體	三 十 圓
		其ノ他一般	四 十 圓
		小學	十 圓
		學校青少年團及之ニ準スル團體	十 五 圓
		其ノ他一般	二 十 圓
隅田、繪糸、濱町及猿江恩賜公園鼓技場	鼓技場	其ノ他一般	二 十 圓

昭和年間 第貳章 昭和十一年 第貳拾節 公園使用條例及ビ公園特殊施設使用條例中改正ノ件

名	稱	種別		一箇所	二箇所	時	入場料會費ノ類ヲ徵收セサルモノ	入場料會費ノ類ヲ徵收スルモノ
		種	別					
濱園及新月島公園競技場		小學	五圓					十圓
		學校青少年團及之ニ準スル團體	八圓					十六圓
		其ノ他一般	十圓					二十圓
野球場								
新月島公園野球場				三箇所				六圓
隅田、濱町及上野恩賜公園野球場				二箇所				四圓
錦糸、猿江恩賜及埠頭公園野球場				一箇所				三圓
濱園公園野球場				一箇所				二圓
庭球場								
日比谷公園庭球場		一時間以内	五十錢					
		二時間以内	一圓					
		四時間以内	三圓					
		六時間以内	六圓					
		八時間以内	九圓					
		一時間以内	三十錢					
		二時間以内	六十錢					
		四時間以内	一圓八十錢					
		六時間以内	三圓六十錢					
		八時間以内	五圓四十錢					
芝、上野、隅田、錦糸、深川公園及舊芝離宮恩賜庭球場								
排球場								五圓四十錢

名	稱	種別		一箇所	二箇所	時	入場料會費ノ類ヲ徵收セサルモノ	入場料會費ノ類ヲ徵收スルモノ
		種	別					
排球場		一時間以内	三十錢					
		二時間以内	六十錢					
		四時間以内	一圓八十錢					
		六時間以内	三圓六十錢					
		八時間以内	五圓四十錢					
水泳場								
芝公園水泳場		一般	五百圓					二百圓
		婦人	五十圓					百圓
隅田公園水泳場		一般	百圓					二百圓
		小兒	六十圓					百二十圓
濱町公園水泳場		一般	七十圓					百四十圓
日比谷、錦糸、大塚及上野恩賜公園水泳場		同	六十圓					百二十圓
井ノ頭恩賜公園水泳場		同	三十圓					六十圓
短艇場								

昭和年間 第貳章 昭和十一年 第貳拾節 公園使用條例及公園特殊施設使用條例中改正ノ件

名	稱	種	別	一	艘	一	時	間	以	內							
上野及井之頭恩賜公園短艇場		二	人	乘						三十錢							
碑文谷公園短艇場		四	人	乘						五十錢							
猿江恩賜公園短艇場		二	人	乘						二十錢							
弓道場		四	人	乘						三十錢							
名	稱	入場料會費ノ類ヲ徵收セサルモノ		十	五	圓	入場料會費ノ類ヲ徵收スルモノ		三	十	圓						
舊芝離宮恩賜庭園弓道場																	
庭園																	
名	稱	一	日	=	付	園内施設全部		百	二十	圓							
清澄庭園						活動寫眞撮影等ノ爲庭園ノ一部ヲ使用スルモノノ使用料ニ付テハ右使用料ノ範圍内ニ於テ市長別ニ之ヲ定ム											
集會場		一	回	(五時間以内)	=	付											
名	稱	小學校並同關係團體		一	年	市長別ニ之ヲ定ム		三	十	圓							
羽澤公園分區種藝園		其ノ他一般															
陳列所																	
名	稱	一	坪	一	日	=	付	十	錢								
日比谷公園陳列所																	
攜帶品預所																	
名	稱	一	箇	一	回	(當日限)	=	付									
上野恩賜公園動物園攜帶品預所																	
動物園	二、入場料																
名	稱	十二	歲	以上	ノ	者	一	回	六	歲	以上	十二	歲	未	滿	ノ	者
上野恩賜公園動物園																	
井之頭恩賜公園動物園																	
名	稱	十二	歲	以上	ノ	者	一	回	六	歲	以上	十二	歲	未	滿	ノ	者
芝公園競技場																	
新月島及濱町公園競技場																	
水泳場																	

昭和年間 第貳章 昭和十一年 第貳拾節 公園使用條例及ビ公園特殊施設使用條例中改正ノ件

名	稱	十二歳以上ノ者	六歳以上十二歳未滿ノ者
隅田、芝、濱町、日比谷、錦糸、大塚及上野恩賜公園水泳場		十	五
井之頭恩賜公園水泳場		五	三
月島第二公園水泳場		一	三
幼年用芝、日比谷及井之頭恩賜公園水泳場		一	二
弓道場			
名	稱	人	回
舊芝離宮恩賜庭園弓道場		一	一
音樂堂			
名	稱	人	回
日比谷公園大音樂堂		一	一

說明 本件ハ別表様式ヲ改ムルト共ニ施設充實セル新月島公園野球場其ノ他ノ使用料ノ改正及舊芝離宮恩賜庭園排球場使用料決定ノ爲本案ヲ提出ス

第貳拾壹節 天機奉伺竝ニ戒嚴司令官ニ對スル感謝狀議定ノ件

三月二日附ヲ以テ市長ヨリ左ノ如ク市會開會ノ請求アリ、三月四日午前十時五十五分特ニ市會ヲ開ク。

財主發第一八六號

天機奉伺竝戒嚴司令官ニ對スル感謝狀議定ノ爲來ル三月四日午前十時市會開議相成度候也

昭和十一年三月二日

東京市長 牛塚虎太郎

東京市會議長子爵森俊成殿

劈頭ニ於テ議長森俊成君ハ市會開會ノ理由ヲ説明シテ曰ク、去ル二月二十六日日本市ニ於テ未曾有ノ重大事件勃發シ、爲ニ畏多クモ 陛下ノ宸襟ヲ惱マシ奉リタルハ、輦轂ノ下ニ在ル本市民ノ特ニ恐懼ニ堪ヘズト爲ス所ナリ。尙ホ事件發生以來身命ヲ賭シテ帝都ノ治安維持ニ努メ、市民ヲシテ安ジテ其業ニ就クヲ得セシメタル香椎戒嚴司令官ニ對シ、市民ヲ代表シテ感謝ノ意ヲ表セント欲ス。右ニ付 天機奉伺及ビ戒嚴司令官ニ對スル感謝ノ意ヲ表明スル爲、市長ヨリ市會開會ノ請求モアリタルガ故ニ、本日特ニ諸君ノ參集ヲ煩ハシタルナリト。斯テ左ノ議案ヲ議題ニ供セリ。

天機奉伺ニ關スル件

右議案議題ニ供セラル、ヤ、市長牛塚虎太郎君先ヅ提案ノ理由ヲ説明シテ曰ク、去ル二月二十六日以来輦轂ノ下ニ起リタル不慮ノ事件ニ就キ、上御一人ニ於カセラレテハ深ク宸襟ヲ惱マサセ給ヒ、遂ニ戒嚴令ノ布告ヲ見ルニ至リタルハ、眞ニ恐懼ノ至リニ堪ヘズ、事件ハ幸ニモ御稜威ニ因リ速ニ鎮靜シ、市民ハ各々其業ニ安ズルヲ得タルハ、帝都市民ノ深ク感激ニ堪ヘズト爲ス所、小職ハ取敢ヘズ宮中ニ參内 天機ヲ奉伺シタルガ、尙ホ此ノ際特ニ東京市會ノ決議ヲ經、六百萬市民ノ赤誠ヲ披瀝シテ天機ヲ奉伺スル事ガ、市民一同ノ衷心ヨリノ熱望ナリト考ヘ、茲ニ特ニ市會ノ開會ヲ請求シ本案ヲ提出シタル次第ナリト。次デ議長ハ 天機奉伺ニ關スル案文起草ニ付議場ニ諮リテ、起草委員十一名ヲ左ノ如ク指名選定セリ。

大橋清太郎 森脇源三郎 池田清秋 宮村龜一 佐藤榮志

安部利七 伊藤仁太郎 小川紋太郎 山口直 大野菊三
中林軍平

次デ議長ハ更ニ左ノ議案ヲ議題ニ供セリ。

戒嚴司令官ニ對シ感謝表明ニ關スル件

牛塚市長再ビ提案ノ理由ヲ説明シテ曰ク、不祥事件突發ノ際大命ヲ奉ジテ戒嚴司令官ノ重任ヲ拜シ、我ガ帝都ノ治安確保ト秩序恢復トニ日夜努力セラレタル戒嚴司令官ニ對シ、東京市會ノ決議ヲ以テ、市民ノ深厚ナル謝意ヲ表明セント欲シテ本案ヲ提出シタルナリト。次デ議長ハ前例ニ遵ヒ、議場ニ諮リテ感謝文起草委員十一名ヲ左ノ如ク指名選定セリ。

横溝直也 廣瀬新平 中南定太郎 野波淳 田中榮藏
田仲忠左衛門 林連辰野保 鮎貝昌藏 鍋木小平次
木村元吉

右委員ノ選定終ルヤ、各委員ハ直ニ別室ニ退キ、天機奉伺ニ關スル案文起草委員ハ伊藤仁太郎君ヲ委員長ニ推シ、戒嚴司令官ニ對スル感謝文起草委員ハ中南定太郎君ヲ委員長ニ推シ、慎重審議ノ末、夫々成案ヲ得、先ヅ伊藤委員長ヨリ左ノ如ク案文ノ謹讀アリタリ。

鞞轂ノ下不慮ノ事件起リ深ク

宸襟ヲ惱マシ給ヒ遂ニ戒嚴ヲ令セラル臣等恐懼ノ至ニ堪ヘス畏クモ

御稜威ニ依リ速ニ鎮靜ヲ見滿都其ノ業ニ安ンスルコトヲ得タルハ六百萬市民ノ感喜措ク能ハサル所ナリ臣虎太郎茲

ニ東京市會ノ議決ヲ經テ市民ヲ代表シ誠恐誠喜謹ミテ
天機ヲ奉伺ス

昭和十一年三月四日

東京市長正三位勳一等 臣牛塚虎太郎

右謹讀終ルヤ、總員起立シ、滿場一致ヲ以テ之ヲ可決セリ。次デ中南委員長ハ、左ノ感謝文ヲ朗讀シテ之ヲ議場ニ報告シタルニ、是レ亦滿場異議ナク、委員長ノ報告通可決セリ。

今次都下不慮ノ事件ニ當テ閣下ハ戒嚴司令官ノ重任ヲ拜シテ日夜治安確保ニ盡瘁セラレ秩序速ニ恢復シテ全市其ノ堵ニ安ンスルコトヲ得タルハ市民一同ノ感銘措ク能ハサル所ナリ茲ニ東京市會ノ議決ヲ經六百萬市民ヲ代表シテ深厚ナル謝意ヲ表ス

昭和十一年三月四日

東京市長 牛塚虎太郎

戒嚴司令官
陸軍中將香椎浩平閣下

第貳拾貳節 電氣軌道及電氣供給兩事業費整理公債起債其他ニ關スル件

▽電氣軌道事業費元金整理公債(第一回)起債ニ關スル件 左記議案ハ二月二十五日ノ會議ニ上程、第七十一號議案

(昭和十一年度電氣軌道事業費歳入出豫算)外ハ議案ト共ニ一括シテ、同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査

ノ末、三月三十日ノ會議ニ於テ原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第七十二號

東京市電氣軌道事業費元金整理公債(第一回)起債ニ關スル件

一起債金額 四百六十九萬四千圓

但シ右起債金額中爲替相場ニ於テ對英一志二片對佛四法三七、英貨公債市場相場券面百磅ニ付八十磅ニ對シ増減アリタル時ハ其ノ限度ニ於テ起債金額ヲ更改スルコトヲ得ルモノトス

二 起債ノ目的 電氣軌道事業公債昭和十一年度分償還元金支拂資金ニ充當

三 利率 四分三厘以内

四 起債ノ方法 債券發行又ハ普通貸借

本起債ノ時期適當ナラザルトキハ市長ニ於テ適宜償還期限ヲ定メ利子年率五分以内ノ公債ヲ發行シ若ハ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ズ

前項ノ公債若ハ借入金ハ其ノ償還期限内ニ本公債募集金其ノ他收入ヲ以テ之ヲ償還ス

五 起債ノ時期 昭和十一年度但シ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

六 償還ノ方法 別表償還年次表ノ如ク起債年度ヨリ五年度据置爾後三十五年度間ニ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利ニ借替ヲ爲スコトヲ得

七 償還ノ財源 電氣軌道事業收入及一般歳入

政府資金ノ供給ヲ受ケタル場合ハ該資金ノ融通條件ニ從フモノトス

說明 第七十一號議案(電氣軌道事業費昭和十一年度歳入出豫算)ニ伴ヒ本案ヲ提出ス

(償還年次表略)

▽電氣軌道事業費復興外債整理公債(第一回)起債ニ關スル件 左記議案ハ二月二十五日ノ會議ニ上程、前項記載ノ

第七十二號議案ト同一ノ經過ニテ、三月三十日ノ會議ニ於テ原案通可決セリ。

第七十三號

東京市電氣軌道事業費復興外債整理公債(第一回)起債ニ關スル件

一起債金額 二百五十九萬九千圓

但シ右起債金額中爲替相場ニ於テ對英一志二片對米二十八弗八分ノ五、英貨公債市場相場券面百磅ニ對シ増減アリタル時ハ其ノ限度ニ於テ起債金額ヲ更改スルコトヲ得ルモノトス

二 起債ノ目的 電氣軌道事業復興外債昭和十一年度分元利金支拂資金ニ充當

三 利率 年四分三厘以内

四 起債ノ方法 債券發行又ハ普通貸借

本起債ノ時期適當ナラザルトキハ市長ニ於テ適宜償還期限ヲ定メ利子年率五分以内ノ公債ヲ發行シ若ハ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定

額ヲ繰越スコトヲ得ズ

前項ノ公債若ハ借入金ハ其ノ償還期限内ニ本公債募集金其ノ他収入ヲ以テ之ヲ償還ス

五 起債ノ時期 昭和十一年度但シ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

六 償還ノ方法 別表償還年次表ノ如ク起債年度ヨリ四十年間ニ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還

ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利ニ借替ヲ爲スコトヲ得政府資金ノ供給ヲ受ケタル場合ハ該資金ノ融通條件ニ從フモノトス

七 償還ノ財源 電氣軌道事業收入及一般歳入

説明 第七十一號議案(昭和十一年度電氣軌道事業費歳入出豫算)ニ伴ヒ本案ヲ提出ス

(償還年次表略ス)

▽電氣軌道事業費昭和十一年度整理公債(甲號)起債ニ關スル件 左記議案モ二月二十五日ノ會議ニ上程、前項記載

ノ議案ト同一ノ經過ニテ、三月三十日ノ會議ニ於テ原案通可決セリ。

第七十四號

東京市電氣軌道事業費昭和十一年度整理公債(甲號)起債ニ關スル件

一起債金額 百五十五萬八千圓

二起債ノ目的 電氣軌道事業昭和十一年度財政整理資金ニ充當

三利率 年四分三厘以内

四起債ノ方法 債券發行又ハ普通貸借

本起債ノ時期適當ナラザルトキハ市長ニ於テ適宜償還期限ヲ定メ利率五分以内ノ公債ヲ發行シ若ハ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ズ

前項ノ公債若ハ借入金ハ其ノ償還期限内ニ本公債募集金其ノ他収入ヲ以テ之ヲ償還ス

五 起債ノ時期 昭和十一年度但シ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

六 償還ノ方法 別表償還年次表ノ如ク起債年度ヨリ五年度据置爾後二十五年度間ニ償還ス但シ市財政ノ

都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利ニ借替ヲ爲スコトヲ得

政府資金ノ供給ヲ受ケタル場合ハ該資金ノ融通條件ニ從フモノトス

七 償還ノ財源 一般歳入

説明 第七十一號議案(昭和十一年度電氣軌道事業費歳入出豫算)ニ伴ヒ本案ヲ提出ス

(償還年次表略)

▽電氣軌道事業費昭和十一年度整理公債(乙號)起債ニ關スル件 左記議案モ二月二十五日ノ會議ニ上程、前項記載

ノ議案ト同一ノ經過ニテ、三月三十日ノ會議ニ於テ原案通可決セリ。

第七十五號

東京市電氣軌道事業費昭和十一年度整理公債(乙號)起債ニ關スル件

一起債金額 百萬圓

二起債ノ目的 電氣軌道事業增收計畫實施迄ノ財政整理資金ニ充當

昭和年間 第二章 昭和十一年 第貳拾貳節 電氣軌道及電氣供給兩事業費整理公債起債其他ニ關スル件

三 利率 年四分三厘以内

四 起債ノ方法 債券發行又ハ普通貸借

本起債ノ時期適當ナラザルトキハ市長ニ於テ適宜償還期限ヲ定メ利子年率五分以内ノ公債ヲ發行シ若ハ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ズ

前項ノ公債若ハ借入金ハ其ノ償還期限内ニ本公債募集金其ノ他收入ヲ以テ之ヲ償還ス

五 起債ノ時期 昭和十一年度但シ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

六 償還ノ方法 別表償還年次表ノ如ク起債年度ヨリ五年度据置爾後二十五年度間ニ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利ニ借替ヲ爲スコトヲ得

政府資金ノ供給ヲ受ケタル場合ハ該資金ノ融通條件ニ從フモノトス

七 償還ノ財源 一般歳入

説明 第七十一號議案(昭和十一年度電氣軌道事業費歳入出豫算)ニ伴ヒ本案ヲ提出ス

(償還年次表略)

▽電氣供給事業費内債元金整理公債(第一回)起債ニ關スル件 左記議案モ二月二十五日ノ會議ニ上程、前項記載ノ

議案ト同一ノ經過ニテ、三月三十日ノ會議ニ於テ原案通可決セリ。

第七十七號

東京市電氣供給事業費内債元金整理公債(第一回)起債ニ關スル件

一起債金額 五十二萬七千三百圓

二起債ノ目的 電氣供給事業内債昭和十一年度分償還元金支拂資金ニ充當

三利率 年四分三厘以内

四起債ノ方法 債券發行又ハ普通貸借

本起債ノ時期適當ナラザルトキハ市長ニ於テ適宜償還期限ヲ定メ利子年率五分以内ノ公債ヲ發行シ若ハ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ズ

前項ノ公債若ハ借入金ハ其ノ償還期限内ニ本公債募集金其ノ他收入ヲ以テ之ヲ償還ス

五起債ノ時期 昭和十一年度但シ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

六償還ノ方法 別表償還年次表ノ如ク起債年度ヨリ四十年度間ニ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利ニ借替ヲ爲スコトヲ得

政府資金ノ供給ヲ受ケタル場合ハ該資金ノ融通條件ニ從フモノトス

七償還ノ財源 電氣供給事業收入及一般歳入

説明 第七十六號議案(昭和十一年度電氣軌道事業費歳入出豫算)ニ伴ヒ本案ヲ提出ス

(償還年次表略)

▽第三回、第三回ノ二、第六回ノ二、第九回各電氣事業公債條例中改正ノ件 左記四議案ハ何レモ九月二十六日ノ

會議ニ上程、原案通可決セリ。

昭和年間 第二章 昭和十一年 第二拾貳節 電氣軌道及電氣供給兩事業費整理公債起債其他ニ關スル件

第三百三十五號

東京市第三回電氣事業公債條例中改正ノ件

東京市第三回電氣事業公債條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八條ノ六 前條ノ短期債償還ノ爲本公債發行ノ時期適當ナラザルトキハ市長ニ於テ適宜償還期限ヲ定メ利率年四分一厘以内ノ公債ヲ發行シ若ハ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ズ

前項ノ短期債ハ本公債募集金及其ノ他收入ヲ以テ之ヲ償還ス

説明 第八條ノ五ニ依リ起債シタル短期債償還ノ爲條例所定ノ本公債發行豫定ノ處財界ノ情勢ニ鑑ミ之方條例改正ヲ要スルヲ以テ本案ヲ提出ス

(參照)

東京市第三回電氣事業公債條例抄

(大正八年四月一日條例第四號)

第八條 本公債募集ノ時期適當ナラス事業資金ニ不足ヲ生スル場合ハ當該年度豫定手取額ヲ限度トシ利率年百分ノ八以内償還期限五年以内ノ短期債ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ第一條ノ募債期間ハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

前項ノ短期債ハ本公債募集金ヲ以テ償還スルモノトシ其利率及償還ノ方法ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二條、第四條及第七條ノ規定ハ短期債發行ノ場合ニ之ヲ適用ス

第八條ノ二 短期債償還ノ爲發行スヘキ本公債募集ノ時期適當ナラサルトキハ前條ノ規定ヲ準用シ更ニ償還期限大正十九年度ヲ超エサル短期債ヲ發行スルコトヲ得

第八條ノ三 前條ノ短期債償還ノ爲本公債募集ノ時期適當ナラス若ハ財政上必要ト認ムルトキハ前二條ノ規定ヲ準用シ更ニ短期債ヲ發行スルコトヲ得

第八條ノ四 前條ノ短期債償還ノ爲本公債募集ノ時期適當ナラス若ハ財政上必要ト認ムルトキハ第八條及第八條ノ二ノ規定ヲ準用シ更ニ短期債ヲ發行スルコトヲ得

行スルコトヲ得

第八條ノ五 前條ノ短期債償還ノ爲發行スヘキ本公債ノ募集ニ當リ經濟界ノ狀況其ノ他ノ關係ニ於テ其ノ償還期限ヲ第五條第一項ノ規定ニ依リ定ムルコト困難ナル場合ハ償還期限十五年以内ノ公債ヲ發行スルコトヲ得

前項公債ノ各年度償還豫定額ハ第五條第一項ノ規定ニ準據シタルモノトシ最終年度ノ未償還額ハ借替償還ノ方法ニ依ルコトヲ得借替償還ノ爲發行スル公債ノ償還期限ハ昭和三十一年度迄トス

第三百三十六號

東京市第三回ノ二電氣事業公債條例中改正ノ件

東京市第三回ノ二電氣事業公債條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條中「第八條ノ三」ノ次ニ、「第八條ノ四」ヲ加フ

第八條ノ四 前條ノ短期債償還ノ爲本公債發行ノ時期適當ナラザルトキハ前條ノ規定ヲ準用シ市長ニ於テ適宜償還期限ヲ定メ利率年四分一厘以内ノ公債ヲ發行シ若ハ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ズ

第十九條第二項中「第八條ノ三」ノ次ニ、「第八條ノ四」ヲ加フ

説明 第八條ノ三ニ依リ起債シタル短期債償還ノ爲條例所定ノ本公債發行豫定ノ處財界ノ情勢ニ鑑ミ之方條例改正ヲ要スルヲ以テ本案ヲ提出ス

(參照)

東京市第三回ノ二電氣事業公債條例抄

(昭和四年三月三十日條例第五號)

第五條 本公債ハ昭和三年度以降五年内ニ必要ニ應シ之ヲ募集ス但シ第八條、第八條ノ二、第八條ノ三ノ規定ニ依リ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

第八條 本公債發行ノ時期適當ナラス事業資金ニ不足ヲ生スルトキハ當該年度豫定手取額ヲ限度トシテ利率年百分ノ七以内償還期限五年以内ノ短期債ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ第一條ノ募債期間ハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

昭和年間 第二章 昭和十一年 第貳拾貳節 電氣軌道及電氣供給兩事業費整理公債起債其他ニ關スル件

期債ヲ起スコトヲ得
 前項ノ短期債ハ本公債募集金ヲ以テ之ヲ償還ス
 第一項ノ短期債ヲ起スニ付必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム
 第八條ノ二 前條ノ短期債償還ノ爲本公債ヲ募集スルニ當リ其ノ時期適當ナラス若ハ財政上必要ト認ムルトキハ前條ノ規定ヲ準用シ更ニ償還期限五
 年以内ノ短期債ヲ起スコトヲ得
 第八條ノ三 前條ノ短期債償還ノ爲本公債ヲ募集スルニ當リ其ノ時期適當ナラザルトキハ前條ノ規定ヲ準用シ更ニ償還期限五年以内ノ短期債ヲ起ス
 コトヲ得
 第十九條 本公債又ハ短期債ハ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ銀行其ノ他ヨリノ借入金ニ依ルコトヲ得
 第三條、第八條ノ二、第八條ノ三、第十四條乃至第十六條ノ規定ハ前項ノ借入金ニ之ヲ準用ス
 第三百三十七號

東京市第六回ノ二電氣事業公債條例中改正ノ件

東京市第六回ノ二電氣事業公債條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第五條中「第八條ノ三」ノ次ニ、「第八條ノ四」ヲ加フ
 第八條ノ四 前三條ノ短期債償還ノ爲本公債發行ノ時期適當ナラザルトキハ前條ノ規定ヲ準用シ市長ニ於テ適宜
 償還期限ヲ定メ利率年四分一厘以内ノ公債ヲ發行シ若ハ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ償還年次表ニ定ムル年次ヲ
 延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ズ
 第十九條第二項中「第八條ノ三」ノ次ニ、「第八條ノ四」ヲ加フ
 說明 第八條ノ三ニ依リ起債シタル短期債償還ノ爲條例所定ノ本公債發行豫定ノ處財界ノ情勢ニ鑑ミ之ガ條例改正ヲ要スルヲ以
 テ本案ヲ提出ス

(參照)

東京市第六回ノ二電氣事業公債條例抄

(昭和四年六月十九日條例第八號)

第五條 本公債ハ昭和四年度以降四年内ニ必要ニ應ジ之ヲ募集ス但シ第八條、第八條ノ二、第八條ノ三ノ規定ニ依リ短期債ヲ起シタルトキハ短期債
 ノ償還終期迄之ヲ延長ス
 第八條 本公債發行ノ時期適當ナラス事業資金ニ不足ヲ生スルトキハ當該年度豫定手取額ヲ限度トシテ利率年百分ノ九以内償還期限五年以内ノ短
 期債ヲ起スコトヲ得
 前項ノ短期債ハ本公債募集金ヲ以テ之ヲ償還ス
 第一項ノ短期債ヲ起スニ付必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム
 第八條ノ二 前條ノ短期債償還ノ爲本公債ヲ募集スルニ當リ其ノ時期適當ナラス若ハ財政上必要ト認ムルトキハ前條ノ規定ヲ準用シ更ニ償還期限五
 年以内ノ短期債ヲ起スコトヲ得
 第八條ノ三 前條ノ短期債償還ノ爲本公債ヲ募集スルニ當リ其ノ時期適當ナラザルトキハ前條ノ規定ヲ準用シ更ニ償還期限五年以内ノ短期債ヲ起ス
 コトヲ得
 第十九條 本公債又ハ短期債ハ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ銀行其ノ他ヨリノ借入金ニ依ルコトヲ得
 第三條、第八條ノ二、第八條ノ三、第十四條乃至第十六條ノ規定ハ前項ノ借入金ニ之ヲ準用ス
 第三百三十八號

東京市第九回電氣事業公債條例中改正ノ件

東京市第九回電氣事業公債條例中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第五條第二項中「第八條ノ二」ノ次ニ、「第八條ノ三」ヲ加フ
 第八條ノ三 前條ノ短期債償還ノ爲本公債發行ノ時期適當ナラザルトキハ前條ノ規定ヲ準用シ市長ニ於テ適宜償
 還期限ヲ定メ利率年四分一厘以内ノ公債ヲ發行シ若ハ借入金ヲ爲スコトヲ得
 昭和年間 第二章 昭和十一年 第貳拾貳節 電氣軌道及電氣供給兩事業費整理公債起債其他ニ關スル件 七四五

第十八條第二項中「第八條ノ二」ノ次ニ、「第八條ノ三」ヲ加フ

説明 第八條ノ二ニ依リ起債シタル短期債ノ爲條例所定ノ本公債發行豫定ノ處財界ノ情勢ニ鑑ミ之方條例改正ヲ要スルヲ以テ本案ヲ提出ス

(參照)

東京市第九回電氣事業公債條例抄

(昭和八年三月三十一日條例第二〇號)

第五條 本公債ハ昭和七年度ニ之ヲ募集ス但シ工事進捗其ノ他ノ都合ニ依リ昭和八年度ニ繰越募集スルコトヲ得

前項ノ募集期間ハ第八條、第八條ノ二ノ規定ニ依リ短期債ヲ起シタルトキハ其ノ償還終期迄之ヲ延長ス

第八條 本公債發行ノ時期適當ナラス事業資金ニ不足ヲ生スルトキハ當該年度豫定手取額ヲ限度トシ利子年率六分五厘以内償還期限五年以内ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項ノ短期債ハ本公債集募金其ノ他收入ヲ以テ之ヲ償還ス

短期債ヲ起ス場合ト雖別表ノ償還年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

第一項ノ短期債ヲ起スニ付必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第八條ノ二 前條ノ短期債償還ノ爲本公債ヲ募集スルニ當リ其ノ時期適當ナラサルトキハ前條ノ規定ヲ準用シ更ニ償還期限五年以内ノ短期債ヲ起スコトヲ得

第十八條 本公債又ハ短期債ハ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ銀行其ノ他ヨリノ借入金ニ依ルコトヲ得

第三條、第八條、第八條ノ二、第十三條乃至第十六條ノ規定ハ前項ノ借入金ニ之ヲ準用ス

第三條、第八條、第八條ノ二、第十三條乃至第十六條ノ規定ハ前項ノ借入金ニ之ヲ準用ス

▽電氣事業佛貨公債處理ニ關スル件 左記議案ハ十月十九日ノ會議ニ上程、原案通可決セリ。

第二百四號

東京市電氣事業佛貨公債處理ニ關スル件

明治四十五年發行五分利東京市電氣事業公債(佛國發行分)ノ償還ニ關シ東京市ハ該公債所持人トノ間ニ左記條項

ニ依リ協定ヲ爲シ得ルモノトス

元金五〇〇法又ハ支拂期到來利札四十枚(即金額五〇〇法)ニ對シ四〇七法七五ノ割増ヲナスコト

説明 本公債ハ明治四十五年二月電氣事業市營ノ資源ニ充當スル爲佛國ニ於テ發行セルモノニシテ大正十五年迄ハ「法」ヲ以テ元利金ノ支拂ヲ行ヒ何等ノ問題モ無カリシ處世界大戰後法暴落シタル爲大正十五年九月佛國所持人ハ磅拂請求ノ訴訟ヲ起シタルヲ以テ本市ハ之ニ應シシ舉力之ヲ争ヒタルモ遂ニ昭和八年佛國最高法院ハ本市敗訴ノ判決ヲ言渡シタリ一面日本内地ニ於テモ昭和六年一所持人ヨリ磅拂請求ノ訴訟提起セラレ昭和九年十二月日本大審院ハ本市勝訴ノ判決ヲ下シ茲ニ日佛兩國判決ノ對立ヲ見ルコトトナリ事態ハ全ク逼塞シ日佛國交上一大暗影ヲ投ズルニ至リタルヲ以テ政府ニ於テハ國策上甚ダ面白カラズトシ極力本件解決ノ促進方懇懇セラレタルニ依リ主トシテ佐藤駐佛大使ヲ通ジ佛國側代表者トノ間ニ於テ種々豫備的交渉ヲ進メツツアリタル處今般先方トノ交渉ノ結果九〇七法七五ニテ妥協成立シ得ル見込トナレリ本市トシテハ本案ヲ容認スルコトハ本市財政ニ及ボス影響少カラザルモノアルニ鑑ミ其ノ諾否ヲ躊躇セシ處政府ニ於テハ已ムヲ得ザルモノト認メ之ニ應ズルコトトシテ解決ニ當ル様本市ニ通達セラレタリ依テ各般ノ事情ヲモ考慮シ茲ニ本案ヲ提出セントス

第貳拾參節 濠地淨化施設費起債ニ關スル件

左記議案ハ五月十三日ノ會議ニ上程、異議ナク即決可決セリ。

第二百二十四號

東京市濠地淨化施設費起債ニ關スル件

- 一 起債金額 二十萬圓
- 二 起債ノ目的 濠地淨化施設費ニ充當

昭和年間 第貳章 昭和十一年 第貳拾參節 濠地淨化施設費起債ニ關スル件

三 利率 年四分五厘以内

四 起債ノ方法 債券發行又ハ普通貸借

本起債ノ時期適當ナラザルトキハ市長ニ於テ適宜償還期限ヲ定メ利率四分八厘以内ノ公債ヲ發行シ若ハ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ズ

五 起債ノ時期 前項ノ公債若ハ借入金ハ其ノ償還期限内ニ本公債募集金其ノ他收入ヲ以テ之ヲ償還ス昭和十一年度但シ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス尙事業進捗ノ都合ニ依リ翌年度ニ繰延起債スルコトヲ得

六 償還ノ方法 別表償還年次表ノ如ク起債年度ヨリ五年度据置爾後十五年度間ニ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利ニ借替ヲ爲スコトヲ得

七 償還ノ財源 一般歳入 政府資金ノ供給ヲ受ケタル場合ハ該資金ノ融通條件ニ從フモノトス

説明 昭和九年第五號市會議決濠池淨化施設費起債ニ關スル件中昭和九年度分ノミヲ昭和十年度債トシテ更正許可アリタル爲更ニ現下ノ情勢ニ鑑ミ舊昭和十年度割額ヲ起債スルモノトシ本案ヲ提出ス

(參照) 内務省九東地第九七號

東京府東京市

昭和九年六月十八日財公發第四六一號及昭和九年十一月二日財公發第八四五號稟請起債ノ件左ノ通更正シ許可ス但シ償還年次表更正ノ上報告スヘシ

昭和十一年一月七日

内務大臣 後藤 文夫
大藏大臣 高橋 是清

記

一起債ノ時期及金額中「昭和九年度 四十萬圓」ヲ「昭和十年度金三十九萬圓」ニ更メ「昭和十年度二十萬圓計六十萬圓」ヲ削ル

(參照)

東京市濠池淨化施設費起債ニ關スル件

昭和九年第五號市會議決

一起債ノ時期及金額 昭和九年度 四十萬圓

昭和十年度 二十萬圓

計 六十萬圓

但シ昭和九年度起債未済額ハ翌年度ニ繰越起債スルコトヲ得

短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

二 起債ノ目的 濠池淨化施設費ニ充當

三 利率 年五分以内

四 起債ノ方法 銀行其ノ他ヨリ借入

本起債ノ時期適當ナラザルトキハ利率年率五分以内償還期限五年以内ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項ノ短期債ハ本借入金及其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ償還ス

短期債ヲ起ス場合ト雖別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

第二項ノ短期債ヲ起スニ付必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

五 償還ノ期間及方法 別表償還年次表ノ如ク借入ノ年度ヨリ五年度据置爾後十五年度間ニ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

六 元利支拂資源 一般歳入

昭和年間 第二章 昭和十一年 第貳拾參節 濠池淨化施設費起債ニ關スル件

第貳拾四節 中小商工業金融施設ニ關スル建議

左記建議ハ九月二十六日ノ會議ニ上程、異議ナク審査委員會報告通可決セリ。

議員提出案審査委員意見報告

一 中小商工業金融施設ニ關スル建議(川田友之君外二十六名提出)

委員ハ審査ノ結果原案ヲ可ナリト認メタリ

右報告候也

昭和十一年九月二日

委員長代理 鈴木堅次郎

東京市會議長森俊成殿

一、中小商工業金融施設ニ關スル建議

右提出候也

昭和十一年八月二十九日

提出者

川田友之	林連	小野利三郎
桑原信助	阿部茂夫	新井京太

田仲忠左衛門	仲澤芳朗	石原永明
天野賴義	倉持忠助	山口久太郎
佐藤榮志	萩島茂留	有馬秀雄
平林淺次郎	川口壽	早川庄太郎
小久保時之助	鍋木小平次	吉田治郎八
島田辰太郎	中西敏二	鈴木堅次郎
大澤梅次郎	市倉兼吉	鍋木由七郎

東京市會議長森俊成殿

中小商工業金融施設ニ關スル建議

帝都商工業ノ大部分ハ所謂中小商工業ニ屬ス而シテ中小商工業者ハ我が産業上基礎的地位ヲ占ムルノミナラズ之ヲ社會的ニ觀ルモ國家ノ中堅階級ヲ成シ之ガ生活ノ安定ヲ圖ルコトハ國力伸長上重大ナル關係ヲ有スルハ言ヲ俟タザル所ナリ然ルニ中小商工業者ハ元來個人的ニハ資産信用共ニ薄弱ニシテ相互ニ連絡提携ナク其ノ企業經營上幾多ノ缺陷ヲ有スルニ搗テ加ヘテ大百貨店ノ合理的經營公私設市場及消費組合ノ進出ニヨル重壓同業過多ノ爲ノ同業相食等幾多其ノ經營ヲ困難ナラシムル情勢下ニ喘ギ延イテ金融上ニ於テモ極メテ不利ナル立場ニ在ルモノニシテ之ヲ自然ノ推移ニ放置セムカ我が産業ノ發展上將タ又國力ノ伸長上洵ニ憂フベキ結果ヲ招來セムコトヲ虞ル故ヲ以テ朝野ノ識者ハ皆之ガ匡救對策ニ關シ種々研究論議スルコト多年ニ及ブト雖未ダ適切妥當ナル恒久的施設ノ實現ヲ見ザルハ頗ル遺憾トスル所ナリ是レ其ノ事ノ甚ダ重要ナルニ拘ハラズ至難ノ業ニ屬スルヲ以テニ外ナラ

ザルベシト思惟セラル應急の對策トシテハ政府ハ大藏省預金部資金六千萬圓ノ融通及元利支拂資金供給等ノ施設ヲ行ヒ又本市ハ元利支拂保證制度ノ實施損失補償制度ノ施行等ニヨリ幾分金融難緩和ニ貢獻スル所アリ近年政府ハ恒久的對策トシテ商業組合法商品券取締法及商工組合中央金庫法ヲ制定發布シ之ガ實施ニ努力シツ、アリ又一方百貨店協會ハ大勢ノ趨ク所ヲ察知シ先年進ンデ百貨店自制案ヲ協定シテ之ヲ實行シツ、アリト雖孰レモ隔靴搔痒ノ感ヲ免レズ固ヨリ之ヲ以テ足レリトスルモノニアラザルベシ眞ニ中小產業者ニ其ノ生活ノ安定ヲ與ヘ其ノ繁榮ヲ策セムニハ深ク業者疲弊困憊今日ニ至レルノ眞因ヲ探究シ其ノ現狀ヲ明察シテ以テ之ガ對策ヲ講ジ永年不遇ノ境地ニ耐忍シ今ヤ全く精根盡キムトスル業者ニ明朗ナル元氣ヲ與ヘ各其ノ業ニ勇躍奮勵セシムルハ又是レ自治ノ要務ナリ經營ノ合理化ト言ヒ共同施設ト言ヒ業者ノ統制ト言ヒ先以テ金融ノ便ナクムバ何事モ爲シ能ハザルハ言ヲ要セザル所ナリ市當局者ハ深ク茲ニ留意シ左記諸件ノ如キハ速ニ講究ヲ遂ゲ其ノ成案ヲ提議セラレムコトヲ望ム

記

- 一 現行ノ元利支拂保證制度ヲ當分繼續シ常時五百萬圓乃至壹千萬圓程度ノ產業資金ノ融通ヲ圖ルコト
- 二 現行ノ損失補償制度ハ本年九月三十日ヲ以テ實施期間滿了トナルモ更ニ其ノ内容ヲ擴充シテ當分之ヲ繼續施行スルコト
- 三 中小商工業者ノ高利債借替ヘノ便宜ヲ與フル爲適當ナル機關ニ對シ相當援助ヲ與ヘ該事業ヲ達成セシムルコト
- 四 信用保證債權保全ノ爲ノ適當ナル機關ノ設立ヲ援助促進シ該事業ノ發達ヲ助成スルコト

- 五 中小商工業者ノ爲ノ共濟機關設立ノ便宜ヲ與ヘ之ガ發達ヲ助成スルコト
- 右建議ス

第貳拾五節 本市三大事業準備局創設ニ關スル建議

左記建議ハ九月二十六日ノ會議ニ上程、異議ナク審査委員會報告通可決セリ。

議員提出案審査委員意見報告

- 一 本市三大事業準備局創設ニ關スル建議(桑原信助君外九名提出
小久保時之助君外十一名賛成)
委員ハ審査ノ結果原案ヲ可ナリト認メタリ
右報告候也

昭和十一年九月二日

委員長代理 鈴木堅次郎

東京市會議長 森俊成殿

- 一、本市三大事業準備局創設ニ關スル建議
右提出候也

昭和十一年九月二日

提出者

桑原信助 阿部茂夫 森脇源三郎

(淺草區)

加藤 榮助

小川 紋太郎

野波 淳

菊池 民一

横井 春野

遠山 丙市

井田 友平

贊成者

小久保時之助

外十一名

東京市會議長 森俊成 殿

本市三大事業準備局創設ニ關スル建議

昭和十五年ハ恰モ皇紀二千六百年ニシテ之ガ記念祝典舉行セラレ同時ニ國際オリムピック競技大會萬國博覽會開催セラル洵ニ未曾有ノ盛事ニシテ本市六百萬市民ノ等シク鶴首待望スルトコロナリ

政府ニ於テハ逸早ク内閣ニ紀元二千六百年祝典事務局ヲ設置シ又文部商工兩省ニ於テモ各其ノ管掌スルトコロニ從ヒ此ノ三大盛事ヲ意義アラシメ之ガ成果ヲ收ムベク銳意其ノ具體策ヲ考究セラレツ、アルニ拘ラズ輦轂ノ下皇恩ノ寵ニ浴スルト厚ク且又萬國博覽會及オリムピック大會ノ開催地タル榮譽ヲ荷ヘル本市ニ於テハ未ダ計畫上何等ノ進捗ヲ見ザルハ遺憾ノ極ミナリ

オリムピック大會ニ付イテハ仄聞スルニ理事者ハ委員組織ヲ以テ之ニ當ラムトスル意圖ナルモノ、如キモ複雜多岐ナル大事業ノ實際的施設ノ立案ハ單ナル一委員會ヲ以テシテハ能ク其ノ任ニ堪フルトコロニアラズ更ニ又萬國博覽會ニ關シテハ博覽會協會創立セラレタリト雖新聞紙ノ報ズルトコロニ依レバ將來ノ方策ニ對シ會内ノ意見一致セズ徒ニ小事ニ拘泥シテ事業ノ進捗ヲ見ルコトナシ

斯クテハ未曾有ノ盛事ヲ目前ニ控ヘ拱手傍觀スルニ等シク理事者ハ今ニシテ自ラ顧ミルトコロナクハ悔ヲ後日ニ

貽スコト明カナリ

茲ニ於テ萬遺漏ナキ對策ヲ樹立スルガタメニハ特別ノ制度ヲ設ケ先ヅ三大事業準備局ヲ創設シ之ヲ皇紀二千六百年祝典部國際オリムピック部萬國博覽會部ニ分チ市長自ラ其ノ掌ニ任ジ各部ニ部長ヲ配シ而シテ三部互ニ企劃ノ連絡統制ヲ圖リ協力一致俱ニ一路目的達成ニ邁進スルト最喫緊事ナリト思考セラル次ニ此ノ好機ニ際シ國ノ内外ヨリ雲集シ來ル觀光客ニ對シテハ小規模ノ市設案内所ノ存スルノミニテハ其ノ機能小ニ失スルヲ以テ速ニ之ヲ觀光課ニ昇格シ三大事業準備局ノ成立ト相俟ツテ完備セル機構ヲ以テ意義アル紀元二千六百年ヲ迎ヘ之ガ成果ヲ舉グル様理事者ニ於テ即刻具體案ヲ樹テ市會ニ提出セラレムコトヲ望ム

右建議ス

第貳拾六節 在滿將士慰問代表者選定並慰問文議定ノ件

十月十九日ノ會議ニ於テ、左ノ議案ヲ上程セリ。

財主發第一一九四號

在滿將士慰問ノ爲本市會代表者派遣致度候ニ付右代表者御選定並前記將士ニ對スル慰問文御議定相成度候也

昭和十一年十月六日

東京市會議長 子爵 森俊成 殿

東京市長 牛塚 虎太郎

劈頭ニ於テ菊池民一君ヨリ、在滿將士慰問代表者數ヲ五名トシ、之レニ託スベキ慰問文ニ就テハ起草委員七名ヲ設置

昭和年間 第貳章 昭和十一年 第貳拾六節 在滿將士慰問代表者選定並慰問文議定ノ件

スル事トシ、其人選ハ何レモ議長ニ一任セラレン事ヲ望ムトノ動議提出アリ、滿場異議ナク菊池君ノ動議成立シ、議長ハ先ヅ案文起草委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

- 友成 四郎
- 豐島 茂一
- 富田 富治郎
- 神山 錠五郎
- 萩島 茂留
- 松崎 權四郎
- 天野 賴義

委員ハ直ニ別室ニ退キ、松崎權四郎君ヲ委員長ニ推シ、慎重審議ノ末、左ノ成案ヲ得タル旨本會議ニ報告、異議ナク委員長ノ報告通可決シタリ。

閣下ノ統率セラルル河村本部隊ハ大命ヲ畏ミ遠ク異域ニ在テ警備ノ重任ニ膺リ嚴ニ皇國ノ權益ヲ保持シ盟邦ノ治安ヲ確保シテ以テ國民ノ信賴ニ副ハル是レ本市六百萬市民ノ感激感謝措ク能ハサル所ナリ茲ニ東京市會ノ議決ヲ經市民一同ヲ代表シテ深甚ノ謝意ヲ表シ併セテ閣下竝將兵各位ノ武運彌々長久ナラムコトヲ祈ル

昭和十一年十月十九日

東京市長 牛塚 虎太郎

河村本部隊長

陸軍中將河村恭輔閣下

尙ホ慰問代表者五名ハ左ノ如ク選定セラレタリ。

- 川口 壽
- 天野 賴義
- 森脇 源三郎
- 横瀬 精一
- 鈴木 正之助

附記 慰問代表者ハ歸廳後市ニ對シテ現地ノ實情報告アリタルモ、市會ニ對シテハ、翌十二年一月二十二日附ヲ以テ在滿皇軍慰安設備擴充ニ關スル建議(本卷第參章第貳拾七節參照)ヲ提出シタル以外、別段ノ報告ハ無カリキ。

第貳拾七節 芝浦屠場及屠場冷蔵庫使用條例設定ノ件

▽芝浦屠場使用條例設定ノ件

左記議案ハ十月十九日ノ會議ニ上程、菊池民一君ノ動議ニ據リ、第百九十八號議案(東京市條例東京市常設家畜市場業務規程設定ノ件「本章第拾貳節第六項參照」)外三議案ト共ニ一括シテ、同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、十月三十日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第百九十九號

東京市設芝浦屠場使用條例設定ノ件

東京市設芝浦屠場使用條例左ノ通設定スルモノトス

東京市設芝浦屠場使用條例

第一條 本屠場ヲ使用セムトスル者ハ市長ノ承認ヲ受クベシ

第二條 本屠場ノ使用料ハ左ノ範圍内ニ於テ市長之ヲ定ム

牛、馬 一頭ニ付 六十 錢

犢(一歳未満ノ牛)、羊、豚 一頭ニ付 十八 錢

切迫屠殺ノ爲使用スル場合ニ於テハ前項使用料ノ倍額ヲ徵收ス

第三條 事務室ノ使用料ハ左ノ範圍内ニ於テ市長之ヲ定ム

三・三〇 (一坪)

一月ニ付 五 圓

昭和三十二年 第貳拾七節 芝浦屠場及屠場冷蔵庫使用條例設定ノ件

第四條 使用ノ承認ヲ受ケタル者ハ其ノ承認ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ市長ノ定ムル保證金ヲ納付スベシ
前項ノ保證金ハ本市市債其ノ他ノ有價證券ヲ以テ代用スルコトヲ得但シ本市市債ノ價格ハ額面ニヨリ其ノ他ノ有價證券ノ種類及價格ハ市長之ヲ定ム

第五條 市長ハ使用者ニ對シ屠場内ノ衛生施設其ノ他必要ナル事項ニ關シ適當ナル措置ヲ命ズルコトアルベシ
第六條 使用者造作ヲ取付又ハ變更セムトスルトキハ市長ノ承認ヲ受クベシ

第七條 本屠場ノ使用ニ關スル費用ハ特ニ市長ノ指定シタルモノヲ除キ總テ使用者ノ負擔トス

第八條 使用者ハ自己又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者ノ故意又ハ過失ニ因リ本市ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ズベシ

第九條 使用者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ市長ハ使用承認ヲ取消スコトアルベシ

一 屠場法並關係法規ニ違反シタルトキ

二 本市ノ條例若ハ規定又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ

三 公益ヲ害スル行爲アリタルトキ

第十條 本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附 則

本條例施行ノ期日ハ市長之ヲ定ム

說明 本市芝浦屠場業務開始ノ爲本條例ヲ制定スルモノトシ本案ヲ提出ス

(參照)

屠 場 法

明治三十九年四月十一日法律第三十二號

第一條 本法ニ於テ屠場ト稱スルハ食用ニ供スル目的ヲ以テ獸畜ヲ屠殺スル屠場ヲ謂フ、本法ニ於テ獸畜ト稱スルハ牛、羊、豚及馬ヲ謂フ

第二條 屠場ヲ設立セムトスル者ハ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 屠場以外ニ於テハ食用ニ供スル目的ヲ以テ獸畜ヲ屠殺解體スルコトヲ得ス但シ自家用其ノ他特別ノ事情アル場合ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四條 屠場ニ於テハ屠畜検査員ノ検査ヲ經サル獸畜ヲ解體スルコトヲ得ス

屠场内藏其ノ他食用ニ供スル部分ハ屠畜検査員ノ検査ヲ經ルニ非サレハ屠場外ニ搬出シ又ハ製造ノ用ニ供シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

第五條 屠場ニハ屠畜検査ノ爲メ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第六條 市町村ニ於テ屠場ヲ設立スルトキハ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ハ必要ト認ムル地區内ニ於ケル私設屠場ノ廢止ヲ命スルコトヲ得

第七條 屠場ヲ設立スル市町村ハ廢場ヲ命セラレタル私設屠場主ニ對シ屠場ノ使用廢止ノ爲受クヘキ損失ヲ補償スヘシ
前項ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス

其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第八條 内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ屠場ノ設置ヲ市町村ニ命スルコトヲ得

第九條 市町村ハ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ノ認可ヲ得ルニ非サレハ屠場ヲ廢止スルコトヲ得ス

第十條 市町村立屠場ノ用地ニ必要ナル國有ノ土地ハ之ヲ市町村ニ讓與シ又ハ無償ニテ使用セシムルコトヲ得

第十一條 衛生上危害ヲ生シ其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ハ屠場ノ廢止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

第十二條 地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ハ必要ト認ムルトキハ屠場設備ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十三條 第三條第四條ニ違背シタル者又ハ第十一條ノ停止ヲ犯シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 屠畜ニ關スル營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 屠畜ニ關スル營業者ハ其ノ代理人戸主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルコトヲ得ス

昭和年間 第二章 昭和十一年 第貳拾七節 芝浦屠場及屠場冷藏庫使用條例設定ノ件

第十六條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附 則

第十七條 本法施行ノ際現ニ存スル屠場ハ本法施行後三箇年間ハ本法ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ許可期間三箇年以内ナルトキハ其ノ期間ニ依ル

前項ノ期間終了後ハ本法ニ依リ許可ヲ受ケヘシ

第十八條 本法中市町村ニ關スル規定ハ北海道ノ區一級町村二級町村及沖繩縣ノ區其ノ他市町村ニ準スヘキ地ニ適用ス

第十九條 本法ハ明治三十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

▽芝浦屠場冷蔵庫使用條例設定ノ件

左記議案モ十月十九日ノ會議ニ上程、前項記載ノ第百九十九號議案ト共ニ同

一ノ經過ニテ、十月三十日ノ會議ニ於テ、原案通可決セリ。

第二百一號

東京市設芝浦屠場冷蔵庫使用條例設定ノ件

東京市設芝浦屠場冷蔵庫使用條例左ノ通設定スルモノトス

東京市設芝浦屠場冷蔵庫使用條例

第一條 本冷蔵庫ニ屠肉ヲ寄託シ又ハ冷蔵庫ヲ使用セムトスル者ハ本條例ニ依ルベシ

第二條 寄託物品ノ保管期間ハ三十日以内トス但シ市長相當ノ事由アリト認ムルトキハ期間ノ更新ヲ承認スルコトアルベシ

第三條 寄託物品ノ保管料ハ左ノ範圍内ニ於テ市長之ヲ定ム

一枝	肉	牛、馬	半丸(二分體)	一個一日ニ付	二十五錢
		後身(四分體)	一個一日ニ付	二十錢	
		肩(四分體)	一個一日ニ付	十錢	
		犢、羊、豚	半丸(二分體)	一個一日ニ付	十錢
二箱	肉	(〇・一三立方米)	半丸(二分體)	一個一日ニ付	十五錢
			後身(四分體)	一個一日ニ付	十五錢
三	冷凍肉		後身(四分體)	一個一日ニ付	十二錢
			肩(四分體)	一個一日ニ付	六錢
四	其	他	三・七五疋(一貫)	一個一日ニ付	一錢五厘

前項ノ保管料ハ出庫ノ際之ヲ徵收ス但シ期間更新ノ場合ニ於テハ其ノ承認ノ際當日迄ノ保管料ヲ徵收ス保管料

ニ付テハ入庫日ヲ一日トシ出庫ノ日ハ之ヲ算入セズ一回ノ保管料五錢ニ充タザルトキハ之ヲ五錢トス

第四條 冷蔵庫ヲ使用セムトスル者ハ市長ノ承認ヲ受クベシ

第五條 冷蔵庫ノ使用料ハ左ノ範圍内ニ於テ市長之ヲ定ム

三・二〇(一坪) 一月ニ付 二十五圓

使用料ハ毎月二十五日限其ノ翌月分ヲ徵收ス

使用一月ニ滿タザル月ノ使用料ハ日割ヲ以テ計算ス

昭和年間 第二章 昭和十一年 第貳拾七節 芝浦屠場及屠場冷蔵庫使用條例設定ノ件

前二項ニ依リ難キモノニ付テハ市長之ヲ定ム

既納ノ使用料ハ還付セズ但シ市長特別ノ事由アリト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ還付スルコトアルベシ

第六條 冷蔵庫ニハ屠肉及其ノ製品以外ノモノハ入庫スルコトヲ得ズ但シ豫メ市長ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限
リニ在ラズ

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル物品ハ之ヲ入庫スルコトヲ得ズ

- 一 腐敗其ノ他著シキ瑕疵アルモノ
- 二 荷造又ハ容器不完全ナルモノ
- 三 其ノ他本市係員ニ於テ不適當ト定ムルモノ

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ市長ハ使用ノ承認ヲ取消シ又ハ寄託者若ハ使用者ニ對シ在庫品ノ全部又
ハ一部ノ出庫ヲ命ズルコトアルベシ

- 一 本市ノ條例若ハ規定又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ
- 二 他ノ在庫品ニ損害ヲ及ボシ又ハ及ボス虞アルトキ
- 三 其ノ他保管上必要アリト認ムルトキ

前項ノ出庫命令ヲ受ケタルモノハ二日以内ニ其ノ在庫品ヲ引取ルベシ

第九條 寄託者又ハ使用者前條ノ義務ヲ履行セザルトキハ市長其ノ在庫品ヲ適宜處分スルコトアルベシ

前項ノ場合ニ於テ使用料保管料處分ニ要シタル諸費用ハ處分シテ得タル金額ヨリ之ヲ控除シ不足アル場合ハ之
ヲ寄託者若ハ使用者ヨリ追徴ス

第十條 前二條ノ事由ニ依リ寄託者又ハ使用者損害ヲ蒙ルコトアルモ本市其ノ責任ニ任ゼズ

第十一條 市長必要アリト認ムルトキハ寄託者若ハ使用者ヲシテ在庫品ニ關シ必要ナル處置ヲ爲サシメ又ハ何時
ニテモ本市係員ヲシテ在庫品ノ検査ヲ爲サシムルコトアルベシ

第十二條 寄託者若ハ使用者ハ自己ノ責任ニ歸スベキ事由又ハ在庫品ノ腐敗ニ因リ冷蔵庫若ハ他ノ在庫品ニ損害ヲ
及ボシタルトキハ之ガ賠償ノ責任ニ任ズベシ

第十三條 寄託物品ノ保管ニ付生ジタル損害ハ其ノ保管上著シキ不注意ニ基クモノノ外本市其ノ責任ニ任ゼズ

第十四條 冷蔵庫ノ使用ニ付生ジタル損害ハ本市之ガ賠償ノ責任ニ任ゼズ但シ管理上著シキ不注意ニ基クモノハ此
ノ限ニ在ラズ

第十五條 本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附 則

本條例施行ノ期日ハ市長之ヲ定ム

説明 本市芝浦屠場ノ經營上冷蔵庫ヲ設クル必要アルニ依リ本條例ヲ制定スルモノトシ本案ヲ提出ス

第貳拾八節 市廳舍建設問題

▽市廳舍建設臨時委員條例設定ニ關ル決議 左記決議案ハ十月三十日ノ會議ニ上程、異議ナク審査委員會報告通
可決セリ。

議員提案審査委員意見報告

昭和年間 第貳章 昭和十一年 第貳拾八節 市廳舍建設問題

一、市廳舍建設臨時委員條例設定ニ關スル決議(山口久太郎君
外七十二名提出)
委員ハ審査ノ結果原案ヲ可ナリト認メタリ
右報告候也

昭和十一年十月二十九日

委員長 中村又一

東京市會議長森俊成殿

一、市廳舍建設臨時委員條例設定ニ關スル決議
右提出候也

昭和十一年十月二十七日

提出者

山口久太郎	高崎高次郎	中西雄洞	本多市郎
廣瀬新平	篠房輔	新井京太	宮村龜一
早川庄太郎	野波淳	田中榮藏	杉野善作
倉持忠助	鈴木堅次郎	木村元吉	綾井樹
瀧澤七郎	中林軍平	鍋木由七郎	川田友之
萩島茂留	河野惣八	吉田治郎八	安藤徳雄
西澤喜三郎	島田文治	井田友平	川口壽

廣川弘	仲澤芳朗	天野頼義	宇田川啓輔
石原永明	松崎權四郎	鍋木小平次	内田秀五郎
有馬秀雄	平林淺次郎	田仲忠左衛門	林連
鈴木菊太郎	山田竹治	糟谷磯平	淺香銀治郎
横溝直也	渡邊秀雄	須藤喜三郎	溝口信
西野吉三郎	板垣信春	松崎孫太郎	吉田直治
鮎貝昌藏	大澤梅次郎	高木惣市	中村梅吉
豐島茂一	杉ノ原英太郎	森脇源三郎	森兼道
友成四郎	山口直	石原勘右衛門	森俊成
市倉兼吉	佐藤榮志	篠原虎之輔	小池長太郎
河緒義三郎	辰野保	川手忠義	富田富治郎

東京市會議長森俊成殿

市廳舍建設臨時委員條例設定ニ關スル決議

市廳舍建設ニ關スル重要事項ヲ調査審議セシムル爲市制第八十三條ニ據ル臨時委員設置ヲ適當ト認ム
仍テ理事者ハ速ニ市廳舍建設臨時委員條例ヲ設定スヘシ

右決議ス

▽東京市廳舍臨時委員條例設定ノ件

左記議案ハ十一月十日ノ會議ニ上程、異議ナク即決可決セリ。

第二百六號

東京市廳舍建設臨時委員條例設定ノ件

東京市廳舍建設臨時委員條例左ノ通設定スルモノトス

東京市廳舍建設臨時委員條例

第一條 東京市廳舍建設ニ關スル重要事項ヲ審議スル爲市廳舍建設臨時委員ヲ置ク

第二條 委員ハ市會議員二十五名ヲ以テ之ニ充ツ

委員ノ任期ハ二年トス但シ補闕委員ノ任期ハ其ノ前任者ノ殘任期間トス

第三條 委員長ハ委員ノ互選トス

第四條 委員ノ職務執行ニ關スル必要ナル事項ハ市長別ニ之ヲ定ム

附 則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附記 昭和十二年六月二十六日ノ會議ニ於テ、本條例中一部改正ノ提案アリ、尙ホ市會議員ヨリ選出スベキ二十五名ノ委員ハ同年二月八日附ヲ以テ市長ヨリ推薦アリタリ。(本卷第參章第貳拾六節第參項及第四項參照)

▽市廳舍建設ニ關スル實行委員廢止ノ動議 前項記載ノ第二百六號議案可決サル、ヤ、長野高一君ヨリ、第二百六號議案タル市廳舍建設臨時委員條例ニ據ル委員會ガ組織サレタル曉ニハ、昭和八年ニ設置サレタル市廳舍建設ニ關スル實行委員會ハ之ヲ廢止サレン事ヲ望ムトノ動議提出アリ、滿場異議ナク長野君ノ動議ヲ可決セリ。

第貳拾九節 市會議員異動

昭和十一年中ニ於ケル市會議員ノ異動左ノ如シ。

選出區	氏名	年 月 日	事由
本 所 區	赤 羽 彌 吾 司	昭和十一年七月八日	辭 職
日 本 橋 區	大 野 菊 三	同 年九月二十四日	死 亡
向 島 區	金 子 留 次 郎	同 年十月七日	辭 職
荒 川 區	丸 山 秀 天	同 年十月二十日	死 亡
荏 原 區	伊 藤 武 七 郎	同 年十月二十六日	死 亡
大 森 區	松 尾 永 次 郎	同 年十二月十七日	死 亡

第參章 昭和拾貳年

第壹節 東京都制制定ニ關スル問題

▽都制ニ關スル實行委員會々名改稱ニ關スル動議 一月二十九日ノ會議ニ於テ篠原輔君ハ、昭和八年五月八日ノ會議ノ際設置サレタル「都制ニ關スル實行委員會」ノ會名ヲ、「東京市都制委員會」ト改稱セント欲ストノ動議ヲ提出シタルニ、滿場異議ナク、全會一致ニテ篠原君ノ動議通り會名ヲ改稱スル事トセリ。

▽東京市都制委員設置 昭和十二年三月市會議員ノ任期終了ト同時ニ、前項記載ノ東京市都制委員ノ任務モ自然消滅ニ歸シ、同年六月二十六日ノ會議ニ於テ中西雄洞君ヨリ、更メテ東京市都制委員設置ノ動議提出アリ、尙ホ委員數ハ正副議長ヲ含メテ二十九名トシ、議長指名トセラレタシト希望シタルニ、滿場異議ナク中西君ノ動議成立シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

- | | | | | |
|---------|-----------|-----------|-----------|---------|
| 廣 瀨 新 平 | 石 原 美 行 | 篠 原 虎 之 輔 | 大 橋 清 太 郎 | 杉 崎 欽 八 |
| 遠 山 丙 市 | 鹽 坂 雄 策 | 井 上 卓 一 | 大 越 半 忠 | 鈴 木 仙 八 |
| 山 口 玉 造 | 大 島 正 德 | 佐 藤 德 松 | 加 藤 勘 十 | 池 田 清 秋 |
| 宮 村 龜 一 | 大 澤 梅 次 郎 | 岩 内 善 作 | 森 兼 道 | 安 藤 德 雄 |
| 吉 峰 誠 一 | 深 澤 豐 太 郎 | 伊 藤 仁 太 郎 | 爲 藤 五 郎 | 溝 口 信 |

- 友 成 四 郎 道 家 齊 一 郎 林 連 松 永 東

第貳節 市政一般ニ關スル質疑應答

一月二十九日ノ會議ニ於テ、川田友之君ハ市理事者ニ問ウテ曰ク、最近本市ニ愛市聯盟ト稱スルモノ、結成アリ、市長ハ之レニ參加シ居レルガ、如何ナル理由ニ因リテ參加シタリヤ、愛市聯盟ニ對スル市長ノ所見ヲ聽カント欲ス。尙ホ同聯盟ハ本市ノ各種營造物ニ、「仰グ宮城淨メヨ帝都」ト書シタル「ポスター」ヲ貼附シ居レルガ、六百萬市民中、宮城ヲ仰ガザルモノハ恐ク一人モナカルベク、從テ「宮城ヲ仰ゲ」ト「ポスター」ニ依ル命令ヲ受クルガ如キ不見識ナル市民ハ一人モ無キ筈ナリ。又「淨メヨ帝都」ト特ニ尿管等ヲ淨化スベキ「淨」ノ文字ヲ使用セルガ、何處ヲ如何ニ淨ムベシトノ意ナリヤ。本員等ガ現市長牛塚氏ニ信賴シ、氏ニ期待シタルハ、理事者ト議決機關トガ互ニ力ヲ協セ、我が大和民族ノ勃興ニ伴フ大東京ノ建設ヲ爲サント欲スルニ在リ、仍テ本市ノ美觀ト品位維持ノ爲、愛市聯盟ガ本市ノ營造物ニ貼附シタル「ポスター」ヲ速ニ撤去セシムル考ヘナキヤ否ヤ、是レ本員ノ質問ノ第一ナリ。第二、東京市政ト人事行政トハ不可分ノ關係ニ在ルガ故ニ、市政ニ參與スル吾々ハ、人事上ニ就テモ無關心タル能ハズ。虎太郎牛塚君ノ人事行政ハ、上ニ厚ク下ニ薄キ憾ミアリ、物價騰貴ノ今日下級吏員ノ給與ニ就キ、何等カノ對策ヲ講ジ居レリヤ否ヤ、任期既ニ幾許モナキ牛塚氏ガ、退職ノ置土産ニ依估ノ人事行政ヲ行ハ、本市將來ノ爲一大事ト考ヘ、此ノ際特ニ人事行政ニ對スル牛塚氏ノ方針ヲ質シ置カント欲ス。第三、市廳舎建設問題ハ、敷地ヲ月島ニ決定シテ既ニ四ケ年ノ歲月ヲ經過セルニ、今日何等聞ク所ナキガ、本問題ニ關スル其後ノ成行キ如何。想フニ三萬ノ多數ヲ算フル市吏員ノ執務スベキ「ウエー・ハウス」又ハ「ウオーク・ショップ」トモ云フベキ事務公署ヲ月島ニ建設スルハ可ナランモ、六百萬ノ大衆

ニ指令スベキ中央司令塔タリ、又外國ノ貴賓等ト應接スベキ市長ノ公室タルベキ「バブリック・ホール」ヲ事務公署ト同一建物内ニ併置スルハ大ニ考ヘザルベカラズト思惟ス、市長ノ所見如何。第四、政府ガ立案シタル今次ノ地方税制改革案ハ、地方農山漁村ノ負擔ヲ輕減セントスル事ト、中央税制ニ弾力性ヲ付與スル事ノミニ急ニシテ、大都市ノ發展ニ伴フ財政ノ必然的膨脹ヲ閉却シ居レリ、換言セバ今次ノ地方税制改革案ハ、伸ビ行ク大東京ノ特殊性ヲ崩潰セシメントスル變態案ナリ、試ニ同案ノ實施ニ際リ本市ノ財政ニ及ボス影響如何ト見ルニ、改革ニ因ル市税減、即チ課率制限ニ因ル市税減ハ參千貳百萬圓ニシテ、此ノ税減ニ對シ、徵收地ニ返還サルベキ家屋税及ビ地租税額壹千五百萬圓、小學校教員交付金壹千萬圓、合計貳千五百萬圓、差引本市ノ收入不足額ハ七百萬圓ヲ算ス、勿論自然增收ノ外國庫ヨリ別途ノ交付金アリトスルモ、其ハ百萬圓乃至貳百萬圓ニ過ギザルベク、結局五百萬圓乃至六百萬圓ノ減收ヲ見ルベシ。此ノ減收ヲ市長ハ如何ナル方法ニテ補填セントスル考ヘナリヤ、東京府會ハ昨年十二月ノ通常府會ニ於テ、府縣制第四十四條ニ據リ反對意見書ヲ議決シテ主務廳ニ提出シタルガ、市長ハ市理事者トシテ其善後處置ニ就キ如何ナル運動ヲ爲シタリヤ。尙ホ税制改革ニ關聯シ、此ノ改革案實施ノ曉ニハ、本市小學校ノ教員給ハ府縣支辨トナリ、其結果本市ノ小學校教員ニ對スル市長ノ任免内申權ハ府知事ノ掌中ニ歸ス、此ハ中央政府ノ自治ニ對スル壓迫ニシテ、吾々ハ此ノ壓迫ニ對シ聲ヲ大ニシテ反對ノ叫ビヲ揚ゲザルベカラズ、蓋シ此ノ具申權取上問題ハ、市長ノ管掌スル本市教育事務ノ歴史の慣例ヲ無視スルノミナラズ、都市ノ實情ニ即スル教員ノ選擇、任用ノ不利不便ヲ招キ、市民ノ小學校ニ對スル關心ヲ稀薄ナラシメ、學校ト教員トノ聯絡ヲ市民ヨリ隔離シ、結局初等教育ノ不振ヲ招來スル結果トナルベシ、斯テハ獨リ本市ノ將來ノミト考フベカラザル由々シキ重大問題タリ。仍テ吾々ハ六大都市教育擁護實行委員會ヲ結成シ、先般來各關係方面ニ呼懸ケテ反對運動ヲ行ヒツ、アルガ、愛市聯盟ノ一員トシテ「仰ゲ宮城淨メ

ヨ帝都」ト市民ヲ不見識者トシテ遇シ居レル市長ハ、本市ノ教育事業擁護ノ爲、果シテ如何ナル行動ヲ爲シタリヤ。第五、昨年十月末新市域ノ尿尿統制ニ關スル第八十七號議案審議ノ際、十一月一日ノ實施期マデニ餘日ナク、原案修正等ノ事アリテハ、尿尿處理實施上支障ヲ生ズベシトノ事ニテ、當時同案審査委員ハ、尿尿取扱手数料ニ關シテ掃除義務者ノ負擔増加ヲ考慮シ、次年度ヨリ適當ニ減額セラレタキ事、手数料徵收方法ニ關シテハ一般的情勢ヲ考慮シテ改善セラレタキ事、手数料減免ノ範圍ニ付テハ現下ノ社會情勢ニ鑑ミ適當ニ考慮セラレタキ事、消毒施行地域範圍ハ衛生的見地ヨリ實情ニ應ジテ一層擴張セラレン事ヲ望ムトノ希望條件ヲ附シテ、原案ヲ可決シ、市會ハ委員會ノ意見通決定シタルナリ、然ルニ昭和十二年度ノ保健局豫算中、尿尿ニ關スル議案調査委員ノ希望條件ヲ考慮シタル形跡ノ片影ダニ見ル能ハザルハ甚ダ遺憾ナリ。市理事者ノ所見如何ト。市長牛塚虎太郎君答ヘテ曰ク、愛市聯盟ノ結成目的ハ選舉肅正ニ在リト云ヘリ、選舉肅正ニ關シテハ、右ニ要スル豫算モ既ニ諸君ノ協賛ヲ經アルガ故ニ、當職モ能フ限リ此ノ點ニ協力セント欲ス。想フニ市政ノ刷新、選舉肅正ノ實行ハ、頗ル困難ナル事柄ナルヲ以テ、實際ノ效果アラシムルヤウ諸君ニモ充分ノ努力ヲ希ハント欲ス。人事行政ニ關シテハ、質問ノ趣意ニ全然同感ナリ。歐米ノ都市ニ於ケル市廳舎「シター・ホール」ト、市長公舎トモ云フベキ「マンシオン・ハウス」ト同一箇處ニ併置セズ、所謂「マンシオン・ハウス」ハ、帝都ニ相應シタル上品ニシテ高尚ナルモノヲ別箇ニ考慮スベキ必要アリト當職モ思惟ス、仍テ川田氏ノ意見ハ當職ノ所見ト根柢ニ於テ全然一致シ居ルヲ欣懷トス。税制改革ニ就テハ、事務局長ヲシテ慎重調査研究ヲ爲サシメ、由テ以テ本市ニ有利ナル政治的解決ノ一助タラシムベク計畫中、圖ラズモ中央ニ政變アリテ困惑シ居ル次第ナルガ、縱ヒ中央ニ如何ナル政變アリ混亂アリト云フト雖モ、吾ガ大東京市ノ地位ハ微動ダモセザル實例ヲ今日市民ニ示サザルベカラザル重大時機ナリト考ヘ居ルガ故ニ、本市ノ利害休戚ニ關スル事柄ニ就テハ、慎重ナル

態度ヲ以テ能フ限リノ努力ヲ致サント欲ス。教育關係ノ問題ニ就テハ、他ノ六大都市ト手ヲ携ヘテ本問題解決ニ努力スベク、目下教育局ニ於テ特ニ研究調査中ナリト。次デ保健局長宮川宗徳君ハ、新市域ノ屎尿處分市營ニ際シ、調査委員會ニ於テ希望サレタル趣旨ニ副フヤウ努力シタルモ、市營ノ實施自體ニ多大ノ困難アリシ爲、十二年度豫算編製ノ際、希望條件ノ趣旨ニ副フ能ハザリシヲ遺憾トス、勿論現在モ尙ホ充分研究調査中ナルガ故ニ、成案ヲ得次第、必ズシモ來年度豫算ノ編製期ヲ待タズ、直ニ市會ニ提案シテ審議ヲ請ハント欲ス、仍テ今暫ク猶豫アラシム事ヲ望ムト答ヘ。川田君ハ更ニ、選舉ノ肅正、市政革新ハ、吾々ト市理事者トガ協力シテ行ハザルベカラズトハ、吾々ノ熟知スル所ニシテ、愛市聯盟ヨリ教ヘヲ受クベキ事柄ニアラズ、殊ニ六百萬市民ヲ不見識者扱ヒニ爲セル者コソ、東京市ヨリ掃ヒ淨ムベキニアラズヤ、市長ハ六百萬市民ヲ代表シテ愛市聯盟ノ立看板ヲ撤去セシムル意思アリヤ否ヤ。人事行政ニ關シ川田ト所見ヲ一ニスト云ヘルハ、物價騰貴ニ伴ヒ下級吏員ヲ優遇ストノ意ナリヤ、明答アラン事ヲ望ム。市廳舎問題ニ就テハ「マンシヨン・ハウス」タル市長ノ司令塔、或ハ中央議事堂、外國貴賓ノ接待室等ハ市ノ中央部ニ設置スル事トシ、「タイプライター」ヲ叩キ、或ハ謄寫版ノ印刷等ヲ爲スガ如キ、或ハ電車ノ齒車、又ハ水道ノ鐵管等ヲ積ミ置クガ如キ、「ウエー・ハウス」、「ウオーク・シヨップ」トモ云フベキモノハ月島ニ設置スル者ヘナリヤ否ヤ、此ノ點モ明答アラン事ヲ請フト質シ。牛塚市長ハ、選舉肅正ニ關シ本市ハ愛市聯盟ノ運動ニ協力シ居ルガ故ニ、立看板ハ本市ノ力ニテ撤去セシムル能ハズト考フ。物價騰貴ニ因ル下級吏員ノ優遇ニ就テハ、事態差擱キ難キ情勢ニ遭遇セバ、勿論本市トシテ能フ限リノ方策ヲ講ゼント欲ス。市廳舎問題ニ就テハ、質問ノ趣意ガ多數吏員ノ執務スベキ屋舎ト市長公舎トハ混同スベカラズト云フニ在リト考ヘ、當職ノ所見ヲ述ベタルナリト答ヘ。川田君三度ビ立テ、「仰グ宮城」ト皇居ヲ選舉肅正ノ標語ニ使用スルハ、甚ダ不謹慎ナリト思惟ス、斯ル不謹慎ノ標語ヲ使用スルハ穩ナラズト

スル空氣ガ市會内ニ在リト云ヘル事ヲ愛市聯盟ノ指導者ニ傳ヘラレン事ヲ望ム。市廳舎問題ニ就テハ、工場ノ如キハ品川ニテモ可ナルベク、月島ニテモ可ナリ、屋舎モ亦「バラック」ニテ可ナルベシ、然レドモ外國ノ貴賓等ト接見スベキ屋舎ハ、工場ト同一視スベカラザルハ勿論、「マンシヨン・ハウス」ノ建設ハ、他ノ屋舎建設ニ先ンズベキ問題ニアラズヤ、仍テ敢テ問フ、此ノ建設ニ要スル豫算ハ何日頃提出スル考ヘナリヤト質シ。牛塚市長ハ、過般「ベルリン」ニ開催セラレタル「オリンピック」大會終了直後ニ歸朝シタル一外交官ヨリモ、市廳舎問題ニ就キ川田氏ト同一意見ヲ聽キタリ、近ク東京ニ於テ「オリンピック」開催ノ場合、各國ノ選手ガ來朝シテ敬意ヲ表スベク最先ニ赴ク所ハ市廳舎ナリト聽キ、當職モ市廳舎建設ノ急務ナルヲ痛感シ居レリ、仍テ市長トシテノ最後ノ奉公トシテ、近日中ニ右ニ關スル議案ヲ當議場ニ提出シ、以テ諸君ノ協賛ヲ求メント欲スト答ヘタリ。

翌三十日ノ會議ニ於テ、黒井直良君ハ市理事者ニ問ウテ曰ク、第一、幾千、幾萬ノ本市吏員中、幾多ノ人材アルニ拘ラズ、牛塚市長ハ之レガ進級拔擢ヲ行ハズシテ、輸入人事ヲ行ヒツ、アリ、勿論二三進級拔擢ヲ見ザルニアラズト雖モ、比轉的上級吏員ハ殆ド輸入ヲ以テ充シ居レリ。殊ニ怪訝ニ堪ヘザルハ、福田保健館庶務部長退任後、前例ニ從ヒ内務省保健課長ヨリ佐々木某ト云ヘル人物ヲ其後任ニ推薦シ來リタルガ、市理事者ハ同氏ノ年齢五十二歳ニシテ、停年ニ近シトノ理由ニテ謝絶シタルニ拘ラズ、佐々木氏ニ比シ一歳ノ年長者タル副島次郎氏ヲ任命シタルハ、如何ナル理由ナリヤ。第二、吾々ガ市廳舎新設促進ヲ圖リタルハ、教育局ガ芝公園ニ、電氣局ガ有樂町ニト各局課ガ各所ニ散在セル現狀ニテハ、事務ノ統制ト敏活トヲ缺クノミナラズ、之ヲ同一箇所ニ集合セシムレバ、經費ノ點ニ於テモ一ケ年約貳百萬圓程度ノ節約ヲ爲シ得ベシト考ヘタルニ因ル。然リ而シテ當時大手町ノ憲兵隊跡ハ、本市ヨリ參拾萬圓ノ出金ヲ爲サバ憲兵隊ハ一ケ月以内ニ他ヘ移轉スベシトノ事ナリキ、然ルニ急施案トシテ突如月島案ヲ提出シ、拾萬金ヲ

投ジテ地鎮祭マデ行ヒ、爾來三箇年毫モ建設工事ヲ進メズ、三年後ノ今夕漸ク市廳舎建設豫算ヲ提出シテ、市長最後ノ奉公トハ何事ゾ、市廳舎建設ノ遅々トシテ進マザルハ、牛塚市長ノ在職延命策ナリトノ風聞ヲ聽ク、月島案ハ三年以前市會ニ於テ可決シタルモノナルニ、在舊今日ニ及ビタル遷延ノ責任ニ對シ、市長ハ之ヲ如何ニ考ヘ居レリヤ。第三、電氣局内ニ電氣事業更生審議會ト稱スルモノアリ、此ノ審議會ニ要スル費用モ市民ヨリ徵收シタルモノヲ以テ支辨シ居ルナランガ、屋上屋ヲ架シタルガ如キ觀アル同會ガ成立後二ヶ年ノ今日マデ如何ナル業務ヲ行ヒタリヤ。第四、地方稅制改革問題ニ關シ、本員ハ曩ニ其對策ニ關シテ數々中野助役ニ質シタルモ、其答辯ハ常ニ不得要領ナリキ。同僚川田君モ昨日日本問題ニ關シ、本市ノ財政上七百幾拾萬圓ノ缺陷ヲ生ズベシト指摘シタルニ拘ラズ、理事者ハ本問題ニハ毫モ關心ヲ有セザルガ如ク見受ケラレタリ。昨年ノ所謂二・二六事件以後準戰時經濟體制トモ云フベキカ、中央政府ノ財政計畫ニモ多大ノ變更アリ、諸物價ハ漸騰シ、參拾億四千萬圓ノ國家豫算ノ出現アルヤ、昨年末諸株ヲ始メ纖維工業ニ對スル物件、「ゴム」等總テノ物ハ一躍五割高トナリ、家庭經濟モ今ヤ行詰ノ觀ヲ呈セリ。此ノ際市理事者ハ本市幾萬ノ職員、吏員ニ對シ、増俸其他ノ給與ニ就キ何等カノ考慮ヲ爲セリヤ、又地方稅制改革ニ因ル本市財政上ニ及ボス缺陷等ニ付、如何ナル對策ヲ有セリヤト。牛塚市長答ヘテ曰ク、保健館ノ部長後任補充ハ適材適所ノ方針ニテ行ヒタリ、又多年本市ニ奉職シ居ル職員中ノ逸材ヲ拔擢シタル事尠カラズ、今後モ逸材ノ拔擢ニハ充分注意スベシ。市廳舎建設費豫算ハ諸君ニ審議ヲ請フベク既ニ市會ニ提出シタルヲ以テ、充分審査セラレン事ヲ望ム。電氣審議會ハ相當ニ其職責ヲ盡シツ、アリ、詳細ノ要目ニ就テハ電氣局長ヨリ答辯セシムベシト。次デ電氣局長後藤悌次君ハ、市電更生審議會ハ成立以來今日マデニ、市電ノ債務處理方策ト市電ノ定期券創設ニ關スル諸問ニ對シテ答申ヲ爲シ、目下市電ヲ中心トスル大東京市ノ交通統制ニ關スル問題ヲ審議中ナリ、審議會ノ爲シタル結果ノミヲ見ル時ハ、

僅々二箇ノ諸問ニ對スル答申ヲ爲シタルニ過ギズト雖モ、此ノ兩諸問案ノ内容ニハ種々ナル故障ト困難トヲ伴ヒ、債務處理方策ノ審議ノミニテモ五十回ノ會合ヲ爲セリ。殊ニ市電ノ定期券創設ハ、日本内地ニ於テハ先例ナキ創始ノ制定ニシテ、而モ赤字財政ニ苦ミツ、アル電氣局トシテハ、財政的ニ果シテ如何ナル影響アリヤトノ將來ノ見透ニ就テハ、相當専門的ニシテ且ツ社會的ニ權威アル人々ニ審議ヲ請ハザルベカラズ、兎ニ角審議會ノ答申ニ據リテ行ヒタル結果ハ電氣局ノ財政ニ多少ノ好影響ヲ與ヘ、市民ニハ頗ル便利ナル制度ヲ今日實施シ得ル事トナレリ。常設委員會アルニ拘ラズ更ニ審議會ヲ設ケタルハ、屋上屋ヲ架スル嫌ヒアリトノ非難ヲ蒙リタルモ、要スルニ市電更生審議會設置ノ趣旨ハ、常設委員會ヲ更ニヨリ専門的ニ、ヨリ社會的ニ、而シテ一層效果的ニ電氣局關係ノ業務ヲ進捗セシメント欲スルニ在ルヲ諒承セラレン事ヲ望ムト答ヘ。財務局長平山泰君ハ、今回ノ地方稅制度改正ハ、政府ガ餘リニ中央地方ノ負擔公平ト中央財政ノ彈性性ト云ヘル事トニ意ヲ用ヒ過ギタル結果、東京市ノ蒙ル影響ハ實ニ甚大ナルモノアリ、若シ今回ノ地方稅制度ノ改正ニシテ實施ノ曉、東京市ノ受クル減收ハ約七百萬圓ヲ算スルニアラズヤト小職等モ考ヘ居レリ。尤モ營業收益稅ヲ基本トスル地方財政調整交付金等、政府ヨリ交付金アリト雖モ、將來本市ノ收入ハ相當減收スベキハ瞭ナリ、他面本市財政ノ現狀ヲ見ルニ、既定經費ノ増加ハ勿論、市債費償還ノ増加、其他大東京ノ實情ニ適應スベキ新規事業ヲ行フニハ、從來ノ實績ニ徵シ五百萬圓程度ノ新財源ヲ要ス、然ルニ地方稅制度改正ノ結果、現在以上ノ收入ノ減少ヲ來サバ、東京市ハ到底立行カザル事トナルヲ以テ、之レガ對策ノ第一案トシテ、東京市ニ所得稅附加稅ノ存置ヲ希望シ、若シ第一案ニシテ不可能ナラバ、第二案トシテ、東京府市間ノ財源ニ就キ政府ノ考慮アラン事ヲ希望セリ。地方稅制度改正ノ結果、東京市ハ七百萬圓ノ減收ヲ來スモ、東京府ハ六百四拾萬圓ノ增收トナル。此ハ劃一的稅制ノ弊ニシテ、斯ル點ニ付政府ノ考慮ヲ求メ得バ、本市ノ財政ハ可ナリ緩和サレ得ベシト思惟

ス。更ニ第一、第二兩案共ニ不可能ナリトセバ、第三案トシテ、住居税又ハ土地増加税ノ如キ財源ヲ本市ニ與ヘラレム事ヲ希望シ、内務、大藏兩省ニ對シテ數々陳情シタルモ、兩廳ノ回答ハ、東京市現在ノ立場ハ諒トスルモ、地方税制度今回ノ改正ハ、改正ノ必要アリテ行ヒタルモノナルヲ以テ、東京市ニ於テモ多少ノ不便ハ忍バレタク、殊ニ近キ將來都制ノ實現スル事アラバ、東京市ハ今回ノ税制改正ニ關シ深ク憂フルニ及バザルベシトノ事ナリキ、仍テ此ノ上ハ立法府ニ向テ運動セザルベカラズト考ヘ居タリシニ、此ハ昨夕川田氏ノ質問ニ對シ市長ヨリ答辯アリタルガ如キ事態ニ遭遇シテ、其運動モ不可能トナリ、暫ク陳情ノ機會ヲ待チ居ル今日ノ實狀ナリ。物價騰貴ニ對スル職員ノ待遇問題ニ關シテハ、昨年末ニ於テモ昇給、賞與等從來ニ比シ相當手厚ク行ヒタル考ヘナリ。明年度ハ此點豫算面ニハ明示セザルモ、相當程度ノ餘裕アラシムルヤウ考慮シタルヲ以テ、職員ノ待遇ハ從前ニ比シ幾分良好ノ結果ヲ得ベシト考フ。兎ニ角一般ノ物價騰貴ニ對應スベキ職員ノ昇給ト云フガ如キハ、獨リ東京市ノミニ就テ考フベキ問題ニアラズト思惟スト答ヘ。黒井君更ニ、本員ハ電氣、財務兩局長ノ答辯ニハ満足スルモ、市長ノ答辯ニハ満足スル能ハズ、否、毫モ誠意ナキ所謂三百代言の市長ノ答辯ハ、本員ノ忍ビ得ザル所ナリ、保健館ノ庶務部長後任補充ニ對スル市長ノ答辯ハ、本市幾千ノ職員、幾萬ノ吏員中、保健館ノ庶務部長タル適材ナシト云ヘルガ如ク解セラル、果シテ左様ニ解シテ可ナリヤ。市廳舎建設三箇年遅延ノ結果、瀧澤七郎君ノ意見ニ從ヘバ、四百五十萬圓ノ損失ヲ招ケリト。如何ニモ諸材料ノ騰貴率ノミニ就テ極メテ内輪ニ二割ト見積ルモ貳百萬圓ヲ算ス、仍テ總額ニ於テ四五百萬圓ノ損失ハ免レザルベシ、三年前急施案トシテ提案シ市會ノ協賛ヲ經タルニ拘ラズ、毫モ起工ノ運ビヲ爲サズ、三年後ノ今日漸ク建設費豫算ヲ提出シテ、市民ニ鉅額ノ損失ヲ蒙ラシムルガ如キ措置ヲ爲セルハ、市長ノ責任ニアラズヤ、此ノ責任ヲ市長ハ如何ニシテ執ラントスル考ヘナリヤ、此點明答アラシムル事ヲ望ムト質シ。牛塚市長ハ、保健館ノ部長後任補充ニ就キ東

京市ト内務省衛生局トノ意見ノ合致シタルモノトシテハ、當時ノ事情トシテ他ニ適任者ナカリシナリ。當職ハ誠心誠意ヲ以テ適材ヲ適所ニ置ク事トセリ、市廳舎建設費豫算案ヲ本日提案シタルハ、本日提案スル事ガ最モ適當ナリト考ヘタルニ由ルト答ヘ。黒井君三度ビ立テ、恩賜病院トシテ有名ナル濟生會ニ在職シ居ル人物ニシテ、内務省衛生局保健課長ノ職ニ在ル者ガ適任者トシテ推薦シタル佐々木氏ハ、年齢五十二歳ニシテ停年ニ近シトテ市長ハ之ヲ拒絕シ、而モ佐々木氏ト同年ノ芝區稅務課長タリシ某氏ヲ其後任部長ト爲スベク、本市ヨリ内務省ニ對シテ同意ヲ求メタルガ、内務省ノ拒絕ニ遭ヒ、困惑ノ末、表面ハ内務次官ノ推薦ナリト云フト雖モ、其實ハ政黨關係ノ「ボス」ノ黒幕ヲ有スル人物ヲ任命セリ。此ノ副島氏モ年齢ハ五十二三ニシテ、既ニ停年ニ近キ人物ニアラズヤ、本員ハ前陳ノ三氏ニ對シテ何等恩怨アルニアラズ、從テ其推薦ノ内容ニ立入ルヲ欲セザルモ、市長ノ答辯ハ餘リニ不誠意ナルガ故ニ、勢ヒ其内容ニマデ立至ラザルベカラザルナリ。市廳舎建設問題ニ對スル答辯ノ如キモ、市廳舎ノ建設ヲ三ヶ年間遅延セシメ、以テ市民ノ負擔ヲ大ナラシムル事ガ、市理事者トシテ適當ナル措置ナリト云ヘルガ如ク解セラル、果シテ左様ノ意ナリヤ、今少シク誠意アル答辯アラシムル事ヲ望ムト質シ。牛塚市長ハ、當職ノ答辯ガ質問ノ壺ニ當ラズトテ、誠意ヲ缺ケリト斷ゼラル、ハ遺憾ナリ、當職ハ常ニ誠心誠意答辯シツ、アリ、(此ノ時年齢ハ如何ト叫ブ者アリ)年齢ノ點ハ當職之ヲ知ラズ、生年月日ヲ知ラント欲セバ、職員課長等ニ就テ質サレン事ヲ望ム。市廳舎建設費豫算案ニ就テモ、是レ亦質問ノ壺ニ當ラズトテ不誠意呼バハリサル、ハ心外ナリ、當職ハ飽マデ誠心誠意答辯シツ、アルナリト答ヘ。黒井君四度ビ立テ、本市吏員中ニ有爲ノ士尠カラズ、然ルニ市長ハ外部ヨリ適任トモ考ヘラレザル人物ヲ拉シ來リテ適材適所ト云ヒ、年齢ハ職員課長ニ聽ケトハ何事ナリヤ、市長ニ對スル議員ノ質問ニ對シテハ、市長ガ職員課長ニ質シテ答辯スベキガ至當ナラズヤ、先ヅ此ノ答辯ヲ得テ、第二段ニ移ルベシト。(此ノ時發言スル者多ク、議場喧騒

ス)議長森俊成君ハ、次ノ質問通告順位者ニ變更アリト告ゲ、直ニ淺沼稻次郎君ニ發言ヲ許スヤ、議場愈々喧騒シ、且ツ「定員ヲ缺ケリ」ト叫ブ者アリ、**黒井君**ハ「本員ノ質問ニ對スル理事者ノ答辯ナキニ、次ノ質問者ニ發言ヲ許セル議長ノ措置ハ不當ナリ、縦ヒ議長ノ命令ナリト雖モ、不當ノ命令ニハ服スル能ハザルヲ以テ、本員ハ登壇スベシ」トテ、**黒井君**五度ビ登壇シタルガ、「定員ヲ缺ケリ」ト叫ブ者、其他發言スル者多ク、議場騒然タリ。此ノ騷擾裡ニ篠房輔君ヨリ、散會ノ動議提出アリ、「異議ナシ」ト叫ブ者アリ、議長ハ散會ヲ宣セリ。

次デ二月一日ノ繼續市會ニ於テ、**黒井直良君**更メテ市長ニ問ウテ曰ク、保健館庶務部長ノ補充ニ關シ、適任者トシテ推薦アリタル二三ノ人々ヲ拒絶シタルハ、何レモ年齢五十歳ヲ超エ、五十五歳ノ停年ニ近シトノ理由ナリシト聞ク、然ルニ停年ニ近キ同年輩ノ副島氏ヲ就任セシメタリ、仍テ其理由ヲ質シタルニ、市長ノ答辯ハ極メテ不親切ナリシヲ以テ、勢ヒ年齢ヲ確メザルベカラザルニ至レリ、然ルニ市長ハ之ヲ職員課長ニ聞ケト云フ、市長ハ如何ニ執行機關ノ首腦者ナリト雖モ、苟モ市民ノ代表トシテ議決機關ニ參與シ居ル吾々ニ對シテ、命令的ナル言辭ヲ弄スル權能ヲ有セリヤ否ヤ、是レ質問ノ第一ナリ。第二、若シ假リニ吾々ガ職員課長ニ對シテ質問シタル場合、職員課長ハ此ノ壇上ヨリ答辯シ得ル資格ヲ有セリヤ否ヤ。第三、三年以前ニ市會ヲ通過シタル市廳舎ノ建設ニ關シ、地鎮祭ト設計トノ爲ニ拾萬圓ヲ費シタル以外、三年後ノ今日マデ何等爲ス事ナク、爾來物價ハ日日ニ騰貴シテ、底止スル所ヲ知ラズ、而モ吾々市會議員モ市長モ共ニ任期將ニ盡キントスル際ニ於テ、突如トシテ市廳舎建設費豫算案ヲ提出シ、而シテ其理由ヲ只單ニ時機ニ適セリト云フガ如キ茫漠タル答辯ニテハ、吾々ハ承服スル能ハズ、仍テ以上ノ三點ニ對シ、良心的ニシテ責任アル答辯アラシム事ヲ望ムト。**牛塚市長**答ヘテ曰ク、年齢ノ點ハ職員課長ニ就テ質サレタシト述ベタル當職ノ意思發表方法ノ拙ナリシ爲、誤解ヲ招キタルガ如キモ、當職ハ決シテ命令的ノ意思ニテ述ベタルニアラズ。職員課

長ガ當議場ニ於テ答辯シ得ルヤ否ヤトノ質問ニ就テハ、帝國議會其他ニ於ケル公議機關ノ事例ニ徵スルニ、政府委員ニアラザル者ト雖モ、議場ノ承認ヲ得バ、説明モシ答辯モ爲シ得ベシト思惟ス。市廳舎建設費豫算ニ就テハ、過日モ答辯シタル如ク、諸君ノ協賛ヲ得ベク既ニ市會ヘ提案シ置キタルヲ以テ、充分審議セラレン事ヲ望ムト。**黒井君**ハ更ニ、當議場内ニハ職員課長ガ控ヘ居ルガ故ニ、副島氏ノ年齢ヲ市長ガ職員課長ニ質シテ答辯セバ、何等問題ハ起ラザリシニ、市長ガ飽マデ其舉ニ出デザルハ、曩ニ二三ノ人々ヲ拒絶シテ採用セザリシ理由ノ追及ヲ避ケンガ爲ノ老獪手段ト解セラル、想フニ歷代市長中現市長程、廳内拔擢ヲ爲サズ廳外輸入ヲ爲シテ其弊ヲ釀セル者尠シ、任期盡キテ將ニ退任セントスルニ際シ、惡人事ヲ行ヒテ本市ニ汚點ヲ遺サザルヤウ充分注意セラレン事ヲ望ム。尙ホ市廳舎建設問題ニ就テハ、三年前ニ急提案トシテ敷地ヲ月島ニ決定シタル議案提出當時、市會ハ市長ヲ信任シ居タリシガ故ニ、同議案ハ多數ヲ以テ通過シタルガ、其後市會ノ形勢ニ變化アリ、此ノ變化ヲ察知シタル市長ハ、建設費豫算案ヲ市會ニ提出シテ否決セラレンカ、自己ノ不信任ヲ裏書スル結果トナルベキヲ考慮シテ、遂ニ今日ニ及ビタルモノト本員ハ信ズ、兎ニ角市廳舎ハ是非建設セザルベカラズ、又必ズ建設セラルベシ。仍テ牛塚氏ガ市長ノ任期盡キテ退職シタル後ニ於テモ、市廳舎ヲ見タル時ハ、此ノ建設ニハ東京市民ニ數百萬圓ノ損失ヲ負擔セシメタルモノナル事ヲ永久ニ忘レザルヤウ、茲ニ特ニ牛塚氏ニ一言ヲ呈シテ、本員ノ質問ヲ打切ルベシト述ベタリ。

次ニ**長野高一君**ハ、昨年十月六日當市會ニ於テ議決セル瓦斯報償契約改訂ノ重要點ガ、今回市會ノ議決ト甚シク相違シタル結果トナリテ現ハレタルガ、其表面ノ理由ハ、過般市會ニ於テ決定シタル條件ニ據リテ締結シタル契約案ニテハ、主務廳ニ於テ認可セザルヲ知り、會社自身ガ單獨ニテ市トノ契約内容ノ一部ヲ變更シ、斯テ主務廳ノ認可ヲ受ケタルナリト云フ、然レ共本市ニ於ケル瓦斯問題ノ歴史沿革等ニ就テ考フルモ、或ハ案自體ノ重大性ニ就テ考フルモ、

將又斯ル重大問題ヲ取扱フ上ヨリ考フルモ、市理事者ト會社トノ双方ガ共ニ慎重ナル態度ニテ臨ミタルモノト思惟ス。殊ニ市會ノ議決ト甚シキ相違ヲ來ス本件ノ取扱ニ就テハ、會社側ガ本市ニ對シ事前ニ諒解ヲ求メ、本市ハ會社側ニ對シ事前ニ承認ヲ與ヘタルモノト想像サル。果シテ然ラバ市理事者ハ如何ナル權根ノ下ニ市會ノ決定ヲ變更シタリヤ、東京市會ノ決定ハ東京市ノ意思ナリ、此ノ意思ヲ變更セント欲セバ、市會ヲ召集シテ、其議決ノ更正、即チ意思ノ變更ヲ市會ニ求ムベキモノニシテ、此ハ何人モ異議ヲ挾ムベキ事柄ニアラズト信ズ、然ルニ理事者ガ事茲ニ出デズ、獨斷專行ヲ爲シタルハ、如何ナル事情ナリシヤ。昨年末以來市理事者ハ本問題ニ關シ、責任回避ヲ爲スベク條文解釋ノ末節ニ没頭シ居タリシト聞ク、此ノ如キハ無益ノ業ニシテ、左様ノ餘裕アラバ、何故市會ヲ開カザリシ實情ヲ披瀝シ、情理ヲ盡シテ市會ノ承認ヲ求ムル態度ヲ執ラザリシヤ、洵ニ遺憾ニ堪ヘズ。一月二十九日附ヲ以テ市長ヨリ議長ノ手許ヘ送達サレタル報告書ハ、一昨々日ノ會議ニ於テ議長ヲシテ之ヲ朗讀セシメタルガ、市長ハ斯ル一片ノ報告ヲ以テ最善ヲ盡シタリト考ヘ居レリヤ。

參照 一月二十九日附ヲ以テ市長ヨリ議長ノ許ヘ送致サレタル報告書ハ左ノ如シ
財主發第六九號

昭和十一年十月六日ノ市會ニ於テ議決相成候本市對東京瓦斯株式會社間ノ報償契約改訂ノ件ハ客年十一月二十五日其ノ契約ヲ締結シ同十二月十八日會社ノ株主總會ニ於テ其ノ承認有之契約ノ效力發生致シ候ニ付爲念報告候也

追テ瓦斯メートル使用料ノ減額ヲ市内不均ニ行フコトハ主務大臣ノ認可ヲ得ル能ハズ昭和十一年十二月二十六日全市域ニ亘リ瓦斯メートル一個ニ付一月金二錢ノ減額認可有之候條申添候

昭和十二年一月二十九日

東京市會議長森俊成殿

東京市長 牛塚 虎 太 郎

又建築助成會社ハ今期ノ決算ニ於テ、約八拾萬圓ノ缺損アルニ拘ラズ、此ノ事實ヲ隱蔽シテ利益ヲ計上シ、而シテ從來通り依然八分ノ配當案ヲ具シテ、本市ニ決算ノ承認ヲ求メ來レリト聞ク、事實果シテ如何。會社ハ本市トノ契約第二十二條ニ據リ、每期ノ決算毎ニ本市ニ對シ其承認ヲ申請スベキニ拘ラズ、過去十箇年間殆ド其申請ヲ爲シ來ラズ、本市モ亦之ヲ其儘放任シ置ケルガ、其ノ責任ニ就キ市理事者ハ如何ニ考ヘ居レリヤ。尙ホ契約第十九條ニ據ル本市ノ保證責任ハ、會社ガ各營業年度ニ於テ眞ニ受ケタル損失並ニ八分ノ配當ニ至ラザル不足額ニ在ルハ明ニ契約ノ規定スル所ナルモ、既ニ決算済トナリタル過去ノ分ニ對シテハ、其内容ノ如何ヲ問ハズ、會社自身ノ責任ニ屬シ、本市ノ保證責任ノ範圍外ナリト信ズ。想フニ從來會社ガ其損失ヲ隱蔽シ、不正經理ニ因リ、契約ヲ無視シテ本市ノ承認ヲ經ズ、隨意ニ八分ノ配當ヲ繼續シ來リタル分ニ對シ、本市ガ正シキ報告ヲ嚴重ニ會社ニ求メナバ、會社ハ僞ラザル眞ノ決算報告ヲ提出スルヤモ知レズ、其場合恐ク幾百萬圓、幾千萬圓ヲ算スル鉅額ノ損失計數ノ現ハレ來ルベキヲ信ズ、斯ル損失ハ、本營業年度内ニ於テ自然ニ生ジタル損失ニアラザルガ故ニ、此ハ會社自身ノ責任ニシテ、本市ガ保證スベキ責任ニアラズトノ見解ヲ本員等ハ堅持シ居レリ、市理事者ノ所見如何。建築助成會社ノ内容ニ就テハ、從來世ニ兎角ノ風評アリ、今回本市ガ其内容ニ就キ監督ノ手ヲ伸バセルハ甚ダ可ナルモ、拔本塞源の解決策ニ就キ何等カノ對案ヲ有セリヤ否ヤト質シタルニ對シ。牛塚市長ハ、瓦斯會社トノ報償契約改訂ニ關シテハ、誠心誠意ヲ以テ、主務廳ノ主務局長、事務次官、政務次官並ニ大臣等ニ對シ、再三再四、手ヲ變ヘ品ヲ替ヘ、説明モシ、陳情モシタルガ、市會ノ希望全部ヲ其儘貫徹スル能ハザリシハ洵ニ遺憾ニシテ、願ミテ自己ノ力ノ足ラザリシヲ耻ヅルノミ、唯理事者トシテ爲スベキ人事ハ盡シタル考ヘナリ。市會ノ附帶決議變更ニ就テハ、市ニ於テ市會召集ノ手續ヲ執ルニ及バザルベシトノ見解モアリシガ故ニ、其手續ハ爲サベリキ。建築助成會社ニ關シテハ、市會ノ委員會其他ヨリノ注意

モアリ、監督上能フ限リノ手段ヲ盡シ居レリト答ヘ。長野君更ニ、本員ハ瓦斯料金問題ニ關スル理事者ノ措置ガ成功ナリシヤ、將タ不成功ナリシヤヲ問ヒタルニアラズ、唯市會ノ附帶條件ハ契約ノ内容ノ説明ニシテ、從テ此ノ附帶條件ハ契約ノ内容トハ不可分ナリ。既ニ契約ノ内容ト不可分ナル附帶條件タル以上、理事者ガ擅ニ之ヲ變更シ得ベキモノニアラズト考フ。殊ニ舊市二百萬市民ノ利害ニ關スル重要問題ノ修正ヲ爲サント欲スル場合ニハ、德義上ヨリ考フルモ、理事者ハ一應之ヲ市會ニ諮ルベキガ至當ナリト思惟ス、要スルニ本員ハ本市ノ將來ニ惡例ヲ貽サバラント欲スルガ故ニ、理事者ニ對シテ三百代言のナラザル答辯ヲ煩サント欲スル所以ナリト質シタルニ對シ。第一助役大久保留次郎君市長ニ代リ答ヘテ曰ク、聊カ議論ニ亘ル嫌ヒアルモ、市會ノ議決ノ性質上確定的意義ヲ有スルモノト、不確定的意義ヲ有スルモノトノ二者アリ、市ノ條例ノ如キハ確定的性質ヲ有スルモ、豫算等ノ如キハ確定的性質ヲ有セズシテ、多少希望の性質ヲ有スルモノト考フ。而シテ瓦斯報償契約ノ場合ハ、市會ト瓦斯會社個人トノ契約ニテ、即チ私法上ノ契約ナリ、私法上ノ契約ニ對シテ監督官廳タル商工大臣ガ、國家ノ權力、國家ノ監督權ヲ以テ斯クスベシト決定シタル以上ハ、之ヲ再ビ市會ニ諮リテ協賛ヲ經ル必要ナシトノ解釋ヲ爲セリ、希クハ此ノ法律上ノ性質ヲ諒承セラレン事ヲ望ムト。長野君三度ビ立チテ、本員ハ理事者ノ道義觀念ニ就テ質問シ居ル者ナルガ、法律上ヨリ云フモ、前段ノ附帶條件ハ後段ノ契約内容ノ説明ニシテ、此ハ不可分ノモノト考フ、從テ市會ノ意思ヲ根本ヨリ破壊スルガ如キ契約ノ更改ヲ爲ス場合ハ、市會ノ意思ヲ問フベキガ當然ニアラズヤ。然ルニ事茲ニ出デザリシハ、想フニ何等カノ事情アリシニ因ルベク、其事情ヲ率直ニ表明シテ、市會ヲ招集セザリシ過誤ヲ謝スル意思ナキヤ如何ト質シ。大久保助役ハ、國家ノ權力トシテ、又監督權ノ作用トシテ、國家ノ意思ガ決定シタル以上、更ニ再ビ市會ノ決定ヲ經ベキ必要ナカルベシトハ、法律上ノ責任、法律上ノ解釋ナリト答ヘ。第二助役中野邦一君ハ、先般來建築助成會社ノ首腦部ニ

對シテ、正シキ方法ニ據ル計算ヲ要求シタル結果、質問者ガ質問サル、如キ事柄ヲ發見シタルハ事實ナリ。次ニ誤リタル計算方法ニ據リ、多年ニ互リテ決算報告ヲ爲シツ、アリシヲ其儘受理シ居タリシニ就テハ、勿論責任ヲ感ズルモ、如何ナル責任ヲ負フベキカハ、抽象的ニ答フル能ハザル問題ナリ。本市ガ會社ニ對スル保證責任問題ハ、各營業年度ニ就テ考フベキモノト思惟スルモ、此ハ法律上ノ問題トシテ相當重要性ヲ有ス、只小職等ノ研究ハ未ダ不充分ナルモ、研究ノ結果ハ小職等モ大體質問者ト同一解釋ナリ。抜本的解決方法ニ就テハ目下攻究中ニシテ、其具體的方法ハ今日茲ニ言明スル能ハザルガ、市ノ直營ニ移ス事モ其一案ナルベシト考フト答ヘ。長野君四度ビ立チテ、瓦斯問題ニ關スル理事者ノ答辯ハ、本員ノ尙ホ諒解スル能ハザル所ナルモ、建築助成會社ニ關スル中野助役ノ答辯ニ對シテハ、満足ノ意ヲ表スト述ブ。引續キ野波淳君ハ、東京市教育局ノ署名アル昭和十一年十二月十二日尋常小學校教員俸給道府縣移管並教員任用申請權廢止反對ニ關スル調書ト題スル「パンフレット」ガ、最近本員ノ手許ニ送達アリタリ、此ハ教育局長ノ意見ナリヤ、而シテ此ノ文書發表ノ際、市長、助役ノ許可ヲ受ケタルモノナリヤ否ヤト質シ。教育局長伊藤昌庸君ハ、「パンフレット」ハ、學務委員會ノ説明材料トシテ教育局ニ於テ研究シタル參考資料ナリ、從テ積極的ニ發表ノ用ニ供シタルモノニアラズト答フ。野波君ハ更ニ財務局長ニ對シ、東京市ハ教育費ノ爲今日マデニ財政上困難ヲ來シタル事實ナキヤ否ヤ、又今後ニ於テモ、學齡兒童ノ増加、文化ノ進歩等ニ因リテ、教育費ニ困難ヲ來ス懸念ナキヤ否ヤト質シ。財務局長平山泰君ハ、教育費ガ經常臨時兩費共ニ年々多額ノ増加ヲ來シ、爲ニ將來其財源ニ就キ相當考慮セザルベカラズト考ヘ居ルモ、今日マデノ所東京市ノ財政ガ教育費ニ重壓サレ、爲ニ豫算編製ニ困難ヲ感ジタリト云ヘルガ如キ事實ハ之レナシト答フルヤ、野波君ハ、最近本市ノ財政ハ小學校教員ニ對シテ壹圓ノ増俸ヲモ爲ス能ハザル實情ニアラズヤ、加之、小學校ノ増築、改築等モ其必要迫リ居ルニ拘ラズ、財政困難ノ爲之ヲ行フ能ハ

ズ、二部教授、甚シキハ三部教授ヲ行ヒ居リ、設備等ノ不備ニ就テモ、落合助役ハ當議場ニ於テ之ヲ認メ居レリト言明セルニアラズヤ、而モ財務局長ハ尙ホ財政難ノ憂ヘナシト明言シ得ルヤ否ヤ。次ニ教育行政問題ニ關シテ市長ニ一言質サント欲ス、本員ハ牛塚氏個人ニ對シテハ、教育問題ニ關シ種々奔走努力シツ、アル其勞苦ニ敬意ヲ表スルモ、本市ノ教育行政ノ實狀ヲ見テハ、轉々感慨ニ堪ヘザルモノアリ。牛塚氏ガ市長在任中ニ於テ小學校教員任用申請權ノ廢止サレタルハ甚ダ遺憾ナルガ、市長ハ任用申請權ノ有無ニ因リテ、市當局ガ國民教育ニ對スル熱意ニ厚薄アリト考ヘ居レリヤ、是レ市長ニ對スル質問ノ第一ナリ。第二、申請權廢止ノ結果、學校ノ建設並ニ教育ノ施設等ニ關シ、市長ハ誠意ヲ示ス能ハズト考ヘ居レリヤ。第三、本市ハ教員ノ資質向上ニ關スル施設及ビ任用申請等ニ關シテ人事行政上、今日マデ支障等ナカリシヤ否ヤ、又教員任用申請權ノミニテ監督權ヲ有セザレバ、人事行政上幾多ノ支障アリト市長ハ考ヘ居レリヤ。第四、庶務ヲ一新シ、國民教育ヲ擴大強化スル事トナラバ、其結果大都市ノ教育行政機關ハ縮小サルベシト考ヘラル、ガ、市長ノ所見如何。第五、教員給府縣負擔ノ結果、都市教員ノ素質ト給料トノ低下ヲ來スベシト考ヘラル、ガ如何。第六、今後都市ノ實情ニ適セザル教員ノ配置ヲ受クルガ如キ事ナキヤ否ヤ。第七、昭和七年秋五郡校長會議ニ於テ、市長ノ教員任用申請權廢止ヲ希望スル決議ヲ爲セリト聞ク、市長ハ其事實ヲ知レリヤ否ヤト質セリ。此ノ時議長ハ、出席者定數ヲ缺キ遺憾ナガラ散會セザルベカラズトテ、散會ヲ宜セリ。斯テ二月四日ノ繼續會議ニ於テ、教育局長伊藤昌庸君ハ市長ニ代リテ答ヘテ曰ク、第一ノ質問タル教員ノ任用申請權喪失ニ因リ、市當局トシテ教育ニ對スル熱意ガ冷却スベシトハ考ヘラレザルモ、客觀的ニ見テ申請權ノ有無ニ因リ多少ノ相違アルベシト思惟ス。第二、任用申請權廢止ノ結果、市ノ爲スベキ事柄ハ物的設備ノミニテ、人的要素ニ就テハ無關係トナルガ故ニ、積極的ニ當方ヨリ誠意ヲ示サマルニアラズト雖モ、物的要素ト人的要素トノ圓滑ヲ缺ク關係

上、質問ノ如キ關係モ自然稀薄トナルベキ虞レアリト考フ。第三、從來教員ノ俸給給與權及ビ任用申請權ガ東京市ニアリシガ故ニ、教員ノ資質向上並ニ人事行政上ニハ支障ナカリキ。第四、庶政一新ノ結果トシテ、前内閣時代ニ於テ政府ガ企圖シタル如ク、教職員ノ俸給並ニ内申權ガ府縣ニ移管セラル、事トナラバ、本市ノ教育行政機關ハ或ハ縮小セラルベシト思惟ス。第五、教職員給府縣移管ニ關スル政府ノ意圖ハ、都市ト町村トノ負擔ノ平均化、均等化ニ在リ、從テ稅制ノ改革ガ行ハレ、其結果トシテ教職員ノ俸給々與權々府縣ニ移管セントスルモノナルガ故ニ、勢ヒ都市教職員ノ待遇ハ低下シ、劣惡トナルベキ傾向アルモ、良好トナルベシトハ考ヘラレズ、待遇劣惡トナラバ、從テ其素質モ低下スベシト思惟ス。第六、教職員ノ待遇ト素質トガ低下ストセバ、今日配置サレ居ルガ如キ教職員ノ配置ハ不可能ナルベシト考フ。第七、昭和七年秋五郡教員會ニ於テ、出席ノ一教員ヨリ市長ノ内申權廢止ノ希望提出アリタルモ、同會ハ之ヲ採用セズ、從テ議決ニ至ラザリシト聞キ及ベリト。此ノ答辯ニ對シ、野波君更ニ、全國多數ノ市町村長ハ小學校教員任用ニ關スル内申權ヲ有セズト雖モ、國民教育ニ對スル熱意ハ何レモ皆甚ダ熾盛ナリ、然ルニ帝都ニ於ケル國民教育ノ元締タル教育局長ハ、教員任用内申權ノ喪失ニ因リ、客觀的ニ見テ國民教育ニ對スル積極的熱意ハ喪失スベシト云ヘリ、此ハ驚キ入りタル答辯ト云ハザルヲ得ズ、本員ハ教育局長ヨリ左様ノ答辯ヲ聞キ不滿ノ至リニ堪ヘズ。又學校ノ設備等ニ就テモ、内申權ノ喪失ニ因リ勢ヒ誠意ハ稀薄トナルベシト云ヘルガ如キハ、何事ゾ、斯テハ伊藤氏ハ帝都一萬八千ヲ算フル教員ノ師表タルベキ教育局長ノ資格ヲ有セザルモノト云ハザルベカラズ。教員ノ資質向上ニ關スル施設、任用申請ノ人事行政等ニ就テモ、教育局長ハ何等支障ナカリシト答辯セルモ、現在其資質向上ニ關スル設備ニ對シ、本市ハ頗ル困惑シ居ルニアラズヤ、人事行政ニ就テモ、本市ハ内申權ヲ有スルモ免黜權ヲ有セザルガ故ニ、現ニ池袋第六小學校並ニ豊島區内ノ小學校ニ起レル醜聞事件ニ對シテ、本市ハ之レガ處分ヲ爲ス能ハザ

リシニアラズヤ。伊藤局長ハ「市政」ト題スル小冊子ノ一月號ニ於テ、教育ノ二大問題ト題シ、現下教育界ノ問題ハ、教員給ノ移管ト内申權ノ廢止トノ二問題ナリト云ヒ、且ツ教員ノ俸給ノ低下ヲ第一ニ云々シ居レリ、勿論教育局長ガ教職員ノ俸給ノ低下ヲ憂フルハ不可ナシト雖モ、重點ヲ俸給ノミニ置クハ、未ダ以テ教職員ノ心事ヲ充分ニ解スルモノト云フ能ハズ、然リ而シテ教育局長ハ東京市ノ教育疑獄事件ニ關シ、東京市ニハ何事モナカリシトテ得意氣ニ廣言シ居レルガ、昭和二年秋、教育局長以下東京市ノ教育關係高級吏員ハ殆ド全部警視廳ニ召喚セラレタルニアラズヤ、幸ヒ何レモ不起訴トナリタリト雖モ、起訴ヲ免レタリトノ理由ヲ以テ、本市ノ教育關係者ハ、果シテ得意タリ得ルヤ否ヤ。人事行政ニ關シ、尙ホ二三事實ニ就テ教育局長ニ質サント欲ス、羽田第二小學校長仲田多聞氏及ビ同校ノ某訓導ハ、東京府視學ガ視察ノ結果、兒童ニ準備教育ヲ行ヒタリトノ理由ニテ、之ヲ他ニ轉任セシメタルニ拘ラズ、本郷誠之小學校ト併ビ稱セラル、青山青南小學校ノ某訓導ガ、自宅ニ於テ四十餘名ノ兒童ニ準備教育ヲ行ヒツ、アルモ、之レニ對シテハ何等ノ處置ヲモ爲サズ、又荒川區原小學校ノ某訓導ガ自己ノ教ヘ子五六人ヲ休校セシメテ、勸業債券ヲ買ハシメタリト云フ、局長ハ是等ノ事實ヲ聞知シ居レリヤ否ヤ。更ニ先般新規採用ノ東京府立師範學校卒業生ノ昇給期ニ昇給セシメズ、教育關係ノ某有力者ノ嚴談ニ會ヒ、急遽其半數ヲ昇給セシメ、純真ナル青年教師ニ異常ノ刺戟ヲ與ヘタリト聞ク、果シテ事實ナリヤ、而シテ其半數ヲ昇給セシメザリシハ如何ナル理由ナリヤ。更ニ赤坂區仲ノ町小學校長橋本健太郎氏ハ、温厚篤實、教育者トシテ最適ノ人物トシテ、好評ヲ博シ居タルニ拘ラズ、昨年突如他ヘ轉任セシメ、其後任ニ某視學ヲ据エタルガ、此ノ視學ハ俸給以外ニ餘分ノ收入ヲ希望シタルガ故ニ、此ノ異動ヲ行ヒタルナリト聞ク、事實果シテ如何ト質シ。伊藤教育局長ハ、教育疑獄事件ニ關シ當職ノ云々シタルハ、事件ガ東京府關係ニシテ、東京市關係ノモノニアラズ、此ノ點ニ就テハ、教員給及ビ教員任用内申權ガ東京府ニ移管サル、モ、東京

市ニ在ルモ同一ナリト述べタルマデニシテ、昭和二年度ニ於テ絶對ニ左様ノ事ナカリシトノ意味ニアラズ。青南小學校ノ準備教育問題ニ就テハ、同校長ニ就テ調査シタル結果、四十名ト云フガ如キ多數ニ準備教育ヲ行ヒタル事實ハナキモ、極メテ程度ノ輕微ナル準備教育ヲ行ヒタル事實ヲ知リタルガ故ニ、昨年十一月以來左様ノ事ナキヤウ嚴重ニ之ヲ監督シ居レリトノ事ナリキ。荒川區ノ勸業債券購入問題ニシテ果シテ事實ナリトセバ、甚ダ遺憾ナリ、仍テ充分調査ノ上、適當ノ處置ヲ爲スベシ。東京府師範學校卒業教師ノ昇給ハ、當職ノ親心ヨリ行ヒタルモノニシテ、決シテ第三者ノ運動ニ因リタルニアラズ、唯豫算ノ關係上全部ニ及ブ能ハザリシヲ遺憾トス。赤坂ノ橋本校長ノ轉任竝ニ其後任ニ視學ヲ据エタルハ、適材ヲ適所ニ配置シタルマデナリ。池袋某小學校ノ件ニ就テハ目下調査中ニシテ、調査終了後適當ナル處置ヲ爲サント欲スト答ヘタリ。次ニ淺沼稻次郎君ハ、第一、昭和十二年一月十四日東京市電氣局長後藤梯次氏ノ名ニテ、吾々市會議員ニ對シ、一小冊子ノ送付アリタルガ、同冊子中ニ電氣局長ハ交通統制ニ關スル審議委員ノ資格ニ於テ、別冊私案、市電、地下鐵、青「バス」共同經營ノ説明ヲ提出致シ候、取敢ヘズ御高覽ニ供シ候ト、市電統制案ニ就テノ意見ヲ發表シ居レリ、電氣局長ガ審議會ノ委員トシテ此ノ如キ意見ヲ發表スルハ、手續上ニ於テ聊穩當ヲ缺ケリト考ヘラル、ガ、市長ノ所見如何。第二、市電更生問題ニ就テ考察スル時、必然的ニ交通統制問題ニ及バザルベカラズ、問題ノ交通統制ハ、本員等ノ所見ニ據レハ、自治體タル東京市ヲ中心トシ、市ノ内外ニ在ル交通機關全部ヲ市ノ公營ト爲スベキモノト考フ、然ルニ電氣局長ノ提案ニ據レバ、市營ヲ民營ニ移サントスルモノ、如ク、時代逆行ノ感アリ、但シ此ハ意見ノ相違トスルモ、統制スベキ對象物ヲ市電ト地下鐵、青「バス」、高速度トノ三者、即チ根津系統ニ屬スル三會社ニ限リタルハ如何ナル理由ナリヤ、電氣局長ヨリ詳細ナル説明アラン事ヲ望ム。第三、最近諸物價昂騰セル爲、東京府ニ於テハ來年度豫算ニ下級警察官ノ増俸額五萬圓ヲ計上シ、本市教育局ニ於テ

モ一萬六千ノ教員ニ對シ、約貳拾萬圓ノ増俸額ヲ豫算ニ計上セルニ拘ラズ、他ノ本市下級吏員竝ニ一般従業員ニ就テハ、物價騰貴ニ對スル生活問題ニ關シ毫モ考慮サレ居ラザルハ如何ナル理由ナリヤト質シタルニ對シ。牛塚市長ハ、交通統制問題ハ緊切ナル重要問題ニシテ、而モ解決至難ノ問題タリ、故ニ交通統制ニ關スル審議會ノ一委員トシテ、後藤君ガ私案ヲ提示サレタルハ、寧ロ望マシキ事ニテ、手續上其他ノ點ニ就テ毫モ不都合ナカルベシト信ズト答ヘ。後藤電氣局長ハ、交通統制ハ東京市ヲ中心トシ、市ガ核心ト成リテ統制セザルベカラズトノ意見ニハ、小職モ同感ニテ、私案ニモ其意ヲ示シ居レリト考フ、統制スベキ對象物トシテ圓「タク」アリ、省線アリ、而シテ市電、地下鐵、青「バス」、高速度鐵道等ガ對立的ニ競争シ居ルガ故ニ、是等ヲ總テ統制セザルベカラズトハ何人モ考フル所ナルガ、圓「タク」ハ法律ノ力、又ハ行政權ト云ヘル國家ノ權力ノ發動ナキ限リハ、統制ノ效果ヲ期待スル能ハズ、省線ハ諸君モ熟知ノ如ク國ノ施設ナルガ故ニ、是レ亦直ニ統制圈内ニ入ル、能ハズ、仍テ以上ノ二者ハ他日ノ機會ヲ待テ統制スル事トシテ除外シタリ。高速度鐵道ハ未ダ開業シ居ラザルモ、竣功開業後ハ地下鐵ト合併サルベキ運命ニ在リ、以上ノ理由ニ據リテ今日直ニ實行シ得ベキ市電、地下鐵、青「バス」、高速度ノ四者ヲ舉示シタルガ、此ハ交通統制ノ第一歩ニシテ、而モ所謂市電ノ赤字解消ニモ利アルベシト考ヘタルニ因ル。幸ヒ小職ノ私案ガ審議會ニ附議サレ、又議員諸君ノ理解ヲ得テ市會ノ議決ヲ經ナバ、東京市ノ交通統制ハ茲ニ一段ノ進境ヲ見得ベシト固ク信ジテ疑ハズト答ヘ。平山財務局長ハ、政府ハ國民生活ノ安定ヲ圖ルベキ事ヲ重要政策ノ一ニ掲ゲ居レルガ、各方面ノ種々ナル影響ニテ物價ハ漸次騰貴シツ、アリ、然ルニ國ノ來年度豫算ニ於テモ増俸ノ點ハ考慮シアラザルガ故ニ、今日物價騰貴ノ限度ニ就テ見透ヲ爲ス能ハズ、從テ本市ニ於テモ之レニ對應シテ下級職員ノ俸給ヲ如何ニ取計フベキカハ、慎重ニ考慮スベキ要アリト考ヘ、來年度豫算ニハ計上セザリシモ、豫算編製ノ際増俸ニ就テハ相應考慮シタリ。尙ホ缺員等ハ能

フ限リ補充ヲ見合セ彼此按配シテ善處セント欲スト答フ。淺沼君更ニ、市長ハ後藤電氣局長ガ審議會ノ委員トシテ小冊子ヲ發行シテ、自己ノ意見ヲ發表シタルハ不穩當ニアラズト辯明セリ、然レ共後藤氏ハ電氣局長ノ現職ニ在リ、而シテ氏ガ電氣局長ノ立場ニ在リテ審議會ヲ設ケタルモノニアラズヤ、然ラバ後藤氏ハ自己ノ意見ヲ發表スルニ先ダチ、之ヲ審議會ニ提出シテ討議決定シ、市長ノ決裁ヲ經テ市會ニ提案スベキガ局長ノ執ルベ至當ノ措置ト考フ、然ルニ局長ガ事茲ニ出デザリシニ拘ラズ、市長ハ局長ノ措置ヲ不穩當ナラズト云ヘルガ、斯テハ吏員ノ統制上問題タルベシト考ヘラル、牛塚市長ノ任期既ニ幾許モナシト雖モ、職務上ノ事柄ニ就テハ今少シク慎重ナル態度ヲ持セラレシ事ヲ望ム。次ニ電氣局長ハ省線及ビ圓「タク」ハ統制不可能ナルモ、地下鐵、青「バス」等ハ統制可能ナリト云ヘリ、果シテ然ラバ根津系以外ノ資本ニテ經營シ居ル東横其他ノ「バス」ヲ除外シタルハ如何ナル理由ナリヤ、而シテ根津系ノ會社ノミニ限リタルハ、可能性ノ見透シニ依リタルモノナリヤ、將又既ニ交渉済ノモノナリヤ。財務局長ノ答辯ハ大體ニ於テ首肯シ得ルモ、自治體ニ於ケル給與問題ハ必ズシモ國ト同一歩調ヲ採ル必要ナカルベシト考フ。然リ而シテ來年度ノ豫算ニハ、土木局道路管理課ニ於テ人夫賃一割ヲ増額シ居ルニ拘ラズ、下水課其他水道局等ニ於テ増額シアラザルハ如何ナル理由ナリヤ。人夫賃増額問題ニ關聯シテ、尙ホ一言財務局長ニ問ハント欲ス、從來登錄労働者ノ賃銀壹圓參拾五錢ナリシモノヲ、物價騰貴ノ今日壹圓參拾錢ニ減額シタルハ、是レ亦如何ナル理由ナリヤ。尙ホ新聞紙ノ報ズル所ニ據レバ、大久保助役ハ法規又ハ條例等ヲ新ニ設ケテ、市ノ従業員ガ市會議員選舉ニ立候補スルヲ取締ラントスル意嚮ヲ有セリト、果シテ然ルヤ否ヤト質シタルニ對シ。後藤電氣局長ハ、市電ト東横トヲ聯絡セシムレバ、利用者側ニハ便利ナルベキモ、市電ノ赤字補填策トシテハ差シタル利益ナク、京濱トノ聯絡モ亦然リ、小職ガ私案ヲ作製シタルハ、市電ノ赤字ヲ解消シ、同時ニ交通統制ニ多少ナリトモ利スル所アラシメント欲スルヲ主眼トシタルモノ

ナル事ヲ諒セラレタシト答へ。平山財務局長ハ、豫算額ハ確實ニ記憶シ居ラズ、且ツ人夫賃ハ壹圓拾錢ト、壹圓トノ二種ナカルベシト考フルモ、尙ホ調査ノ上答辯スベシ。登録労働者ノ賃銀五錢ノ減額ハ、共濟會ノ費用ヲ他ノ方面ニテ負擔スル事トナリタル結果ニシテ、實質ハ減額トナリ居ラズト考フト答へ、助役大久保留次郎君ハ、衆議院議員又ハ府會、區會等ノ選舉トハ其性質ヲ異ニシ、直接市ノ意思決定機關ノ要員トナルベキ市會議員ノ選舉ニ對スル從業員ノ立候補ハ、慎重ノ上ニモ慎重ニ考慮ノ上決定セント欲ス。淺沼君ノ質問ハ主トシテ從業員ノミニ就テノ問題ナルモ、理事者トシテハ市ノ職員全體ノ問題トシテ考ヘザルベカラズ、仍テ此ノ問題ヲ如何ニ取扱フ考ヘナリヤニ就キ、六大都市ニ對シテモ目下照會中ナリ、右ノ回答ヲ得タル上、淺沼君ノ意見ヲモ參照シテ、充分研究セント欲スト答へ。淺沼君三たび立テ、財務局長ニハ些末ノ問題ナルヤモ知ルベカラズト雖モ、人夫賃ハ正シク壹圓ト壹圓拾錢ノ二種アリ、登録労働者モ實質的ニ五錢減額サレ居レリ、仍テ豫算關係ノ書類ヲ調査セラレン事ヲ望ム。尙ホ本員ハ大久保助役ト議論ヲ闘ハサント欲スルニアラズ、只市制第十八條ノ規定ニ據レバ、市ノ有給吏員、教員其他ノ職員ニシテ在職中ノ者ハ、其市ノ市會議員ト相兼スル事ヲ得ズトアリ、市吏員服務規律第一條ニハ、市吏員ハ本市ニ對シ忠實勤勉ヲ旨トシ、秩序ヲ守リ、各其職務ヲ盡スベシト規定シ、備員ニ對スル規定ナシ、尤モ備員ノ服務規程ハ吏員ノ服務規程ヲ準用スル事トナリ居レルガ、市制ト云ヒ、服務規律ト云ヒ、何レモ備員問題ハ別トスルモ、市吏員ガ立候補スル事ハ何等差支ヘナク、只當選シタル場合ハ兼任スル能ハザルガ故ニ、必然的ニ辭任セザルベカラズト思惟ス、仍テ本員ハ市理事者ガ新ニ法規若クハ條例等ヲ設ケテ、市吏員又ハ市備員等ノ立候補ヲ取締ラントスル考ヘテ有スルヤ否ヤニ就キ、明確ナル答辯ヲ得バ則チ可ナリ、理事者ノ所見如何ト質シタルニ對シ。大久保助役ハ、當職ハ新ニ法規又ハ條例等ヲ設ケテ、市吏員ノ立候補ヲ制限セント欲スル考ヘハ有セズ、只方針トシテ研究シ居ルニ過ズト答へ、仲澤

芳明君ノ動議ニ據リ質疑應答ヲ打切レリ。

越エテ三月二十九日市會議員改選後ノ初會議ニ於テ、川田友之君ハ市理事者ニ問ウテ曰ク、第一ハ、人事行政及ビ下級吏員、備員等ノ優遇問題ニ就テナルガ、過去四箇年間ニ於ケル市理事者ノ人事行政ヲ通觀スルニ、其銓衡甚ダ疎略ナリシガ如ク考ヘラル、ハ遺憾ナリ。人事問題ニ就テノ一例ナルガ、英國人ハ假令バ貿易會社ヲ創立スルニ際リテハ、先ヅ第一ニ「ゼネラル・マネージャー」即チ總支配人ヲ求メ、而シテ後資本ヲ集メ、其次ニ倉庫ヲ建設スル順序ヲ執レルガ、日本人ハ先ヅ資本ヲ集メ、次ニ建設物ヲ設ケ、最後ニ支配人ヲ選定ス、是レ人事問題ヲ輕視スル日本人ノ弊風ナリ、殊ニ東京市政ニ於テハ、遺線リ人事、當テ嵌メ人事、「ボス」人事アリ、感情人事アリ、運動人事アリ、爲ニ市政ノ機能運行ヲ妨ゲ、能率ニ多大ノ影響ヲ及ボシ、全市民ハ不知不識ノ間ニ多大ノ損失ヲ招ケリ。最近露骨ナル「ボス」運動人事、外部ヨリノ拔擢人事等ハ稍々緩和サレ、巧ニ按配セラレタルガ如キモ、岸本現養育院理事ハ昭和七年秋市郡併合ノ際本市ニ入りテ、澁谷區長ニ任セラレ、爾來四箇年間ニ於テ、「ボス」ノ擁護ニ頼リ三回累進シ、本年一月養育院理事ニ榮進セリ。同君ハ區長在任中、「ボス」擁護ノ情實人事ヲ行ヒ、一般區民ヨリ歟ノ如ク嫌ハレ居タリシナリ、斯ル人物ガ僅カ四箇年ノ間ニ三回モ累進シ、區長ヨリ本市ノ理事ニ榮進セシムルガ如キハ、最近ニ於ケル代表的ナル惡人事ト考ヘラル。而モ同君ハ澁谷區ニ對シ、區長在任中ノ慰勞金壹萬圓ヲ要求セリト聞ク、小學校兒童ノ授業料月額貳拾錢ヲ拾錢ニ値下ゲスベシトハ、二十萬區民ノ要望ナルニ拘ラズ、之レガ財源ナキ爲、斯ル零細ナル事柄スラ實行スル能ハザル現在ノ澁谷區ニ於テハ、區長ニ壹萬圓ノ慰勞金ヲ支出スルガ如キハ到底不可能ナリ、市長ハ斯ル事情ヲ知ルヤ否ヤ。尙ホ物價騰貴ノ今日、下級吏員其他ノ勤勞者ハ、三度ノ食事も満足ニ攝ル能ハザル實情ニ在リ、若シ夫レ之ヲ此ノマ、放任シ置カンカ、由々シキ問題ヲ惹起スル事ナキヲ保シ難シ。又豫算會議ノ際市會ハ停年

制ニ關シ希望條件ヲ附シタルガ、現行停年制ハ幾多ノ人材ヲ失ヒタリ、此ハ東京市政ノ爲惜ムベキ事ト思惟ス、市長ハ市會ノ希望條件ニ就キ、吾々ヲシテ満足セシムルヤウ考慮シ居レリヤ否ヤ。第二、本員ガ一月二十九日ノ市會ニ於テ、桃栗三年、市廳舎四年ノ警句ヲ吐キテ、月島市廳舎建設問題及豫算不提出問題ニ就テ市長ニ質シタルニ基因スルヤ否ヤハ知ラザルモ、市長ハ其後栗原老人及ビ澁谷ノ朝倉大人ノ二巨頭ト會合シ、其翌日市廳舎建設費豫算八百六拾萬圓ヲ計上シテ市會ニ提案シ、市會ハ之ヲ委員付託ト爲シタルガ、委員ガ調査審議中市會議員ノ任期終了シ、該案ハ自然消滅ニ歸シタルハ遺憾ナリ、仍テ市長ハ更メテ新市會ニ市廳舎建設ニ關スル議案ヲ提出スル意思アリヤ否ヤ。第三、萬國博覽會入場割増金附前賣券ニ就キ、政府ハ單行法トシテ今議會ニ提案ノ暇ナク、來議會ニ提案スベシトノ事ナリ、又此ノ「プレミアム」附前賣券ハ内務省警保局ノ一事務官ニ輕ク取扱ハシメ居リ、前賣期間ハ一箇年ヲ限度トシ、「プレミアム」ハ三十倍ヲ限度トストノ條件ヨリ一步モ讓ラズト警保局ニテ主張シ居ル模様ナルガ、斯テハ諸準備ヲ期日マデニ完成セシムル能ハザルベシ、殊ニ對外關係ノ宣傳開始、永久館ノ基礎工事、諸外國ヘノ出品勸誘竝ニ視察員派遣等ハ、一刻モ速ニ行ハザルベカラズ、政府ノ補助金五拾萬圓トスルモ、本市ハ幾許ノ補助金ヲ支出スル考ヘナリヤ、市長ハ本事業ヲ支障ナク遂行シ得ル見込ミアリヤ否ヤ。「オリソビツク」會場ハ、一月ノ市會ニ於テ議決シタル建議通り神宮外苑ニ決定シタルハ同慶ニ堪ヘザルモ、其準備ハ何日頃著手スル考ヘナリヤ、「ロサンゼルス」又ハ「ベルリン」ニ於ケル「オリソビツク」大會ハ、開會半歲前ニ於テ既ニ一切ノ準備ヲ完了セリ、我ガ東京「オリソビツク」大會ノ準備ハ果シテ何日頃完了スル見込ミナリヤ。第四、嘗テ衆議院ニ於テ議員ノ歳費値上問題ノ起リシ際、政黨ノ領袖連全部ハ之レニ反對シタリト聞ク、又市會議員ノ歳費値上問題ニハ、所謂市會ノ「ボス」ハ之レニ反對セリ、其理由ハ、市會議員ノ歳費ヲ値上ゲシテ彼等ノ生活ヲ安易ナラシムレバ、選舉ノ際陣中見舞等ヲ要求セザルベク、斯テハ親

分乾兒ノ關係稀薄トサリ、其間ノ統制上ニ困難ヲ來スガ故ナリト。衆議院議員ノ歳費値上ニ政黨ノ領袖連ガ反對シタルモ、斯ル理由ニ因ル。本員ハ歳費ヲ受クルモ受ケザルモ、何等痛痒ヲ感ズル者ニアラザルガ、市長ガ市會議員ノ歳費ヲ値上ゲシタルハ如何ナル理由ナリヤ、敢テ市長ノ値上必要論ヲ聽カント欲ス。第五、二月ノ豫算市會ニ於テ、尿尿汲取手數料輕減問題ニ關シ議論沸騰シタルガ、泰山鳴動シテ金壹錢ノ値下ヲ實現シタリ、其結果財務局ニ於テ參拾參萬圓ノ缺損ヲ生ズト云ヘリ。元來尿尿處分ヲ自給自足ニテ行ハントスル所ニ無理アリ、容量主義ハ社會政策ニ反ス、仍テ豫算委員會ハ容量主義ヲ廢シ、之ヲ等級別、戸口割ニスベシトノ希望附帶決議ヲ爲シタルガ、保健局長ハ豫算施行ニ際シ、委員會ノ此ノ附帶決議ニ對シテ善處スル考ヘテ有セリヤ否ヤ。第六、一月ノ市會ニ於テ吾々ハ、市理事者ヨリ提案アリタル中小商工業者ノ無擔保保證貸付制度信用保證協會加入ニ關スル議案ヲ議決シタリ、右ニ付五百萬圓ノ補償ガ確立サル、事トナラバ、少クモ壹億圓ノ資金ハ帝都ノ中小商工業者ニ融通サル、事トナル筈ナルガ、該案議決後ノ經過及ビ實施上ニ關スル產業局長ノ所見ヲ聽カント欲ス。第七、昨春吾々ハ、參千貳百萬圓ヲ以テ小學校ノ二部教授撤廢及ビ校舎増改築ヲ爲サントスル第四次五箇年計畫案ニ對シ、年限ヲ三箇年ニ短縮セント欲シタルモ、財源ノ關係上已ムラ得ズ四箇年ニ同意シタルガ、該案ガ議決サレタル後ニ於テ、市理事者ハ起債ノ申請、文部大臣ヘノ申達等ニ如何ナル措置ヲ爲シタリヤ、又四箇年ニテ二部教授ヲ全部撤廢シ得ルヤ否ヤ、此ハ教育局長ヨリ明快ナル答辯アラン事ヲ望ムト。此ノ質問ニ對シ牛塚市長先ヅ答ヘテ曰ク、人事問題ハ市政ノ運営上當職モ重要視シ、常ニ最モ慎重ニ事ニ當リ居レリ、適材ヲ適所ニ置ク事ヲ主眼トシ居ル事ハ數々當議場ニ於テ言明シタル所ニシテ、「ボス」人事ハ當職モ川田君同様之ヲ排撃セザルベカラズト心得居レリ。下級者ノ生活竝ニ是等ニ對スル給與問題ニ就テハ、特ニ懇切ニ考慮スルヤウ關係部局ニモ傳ヘ置ケリ。停年制ハ、既ニ之ヲ實施シ居レル帝國大學其他ノ實績ニ徴シ、良好

ノ制度ト考ヘラル、ガ故ニ、此ハ是非共長ク實施セント欲ス、但シ實施ノ細目ニ就キ意見又ハ希望等アラバ、其意見又ハ希望ニ就テ考慮モシ、研究ヲモ爲スベシ。市廳舎建設問題ニ關シテハ、今日取急ギ提案スル意思ヲ有セズ、市廳舎建設ノ如キ重要問題ニ就テハ、市會ノ意嚮ヲ充分ニ確メテ措置スベキモノト考フ、世ニハ動モスレバ市會ノ意思ニ反スルモ、市井ノ所謂識者ノ言ニ聽キテ事ヲ處置スベキガ至當ナリト云ヘルガ如キ議論ヲ爲ス者アリト雖モ、當職ハ自治ノ本義ニ鑑ミ左様ノ措置ヲ爲スヲ欲セズ、蓋シ成立勿々ノ新市會ノ意嚮ハ、當職ニハ未ダ充分確認シ得ラレザルガ故ナリ。萬國博覽會ハ萬國博覽會協會ヲ主催者トシ、之レニ要スル財源ハ政府ノ補助金ヲ以テ充當シ、政府ノ補助金ニテ不足ナル場合ハ、切符ノ前賣ヲ以テ補填スル事ニ政府ノ方針ハ決定シ居レリ、而シテ現商工大臣ハ博覽會開催ノ財源ニ就キ能フ限リノ補助金ヲ支出スベク、不足額ニ對シテハ、前内閣決定通り博覽會ヲ開催シ得ル程度ニ切符ノ前賣ヲ許ス以外、他ニ途ナカルベシト率直ニ言明セリ。吾々ハ此ノ商工大臣ノ言明ニ信賴シテ可ナルベシト考フ。尙ホ東京商工會議所會頭其他財界ノ有力者多數ガ、來月早々「イギリス」其他ノ諸外國へ經濟視察トシテ出發ノ豫定ナルヲ以テ、本日當職ハ商工會議所會頭ニ會見シ、萬國博覽會ニ關スル直接又ハ間接ノ宣傳方法ニ就キテ依頼シタリ。萬國博覽會開催ニ關シテハ、主催都市タル東京市ハ至大ノ關係ヲ有スルガ故ニ、有力ナル諸君ノ後援ニ賴リ是非共其實現ヲ期セント欲ス。「オリソビツク」ハ、國際「オリソビツク」委員會ニ於テ既ニ東京市ト決定シ、東京ニ於ケル運動團體ヲ始メ、主催都市タル東京市及ビ之ヲ擁護スル政府、此ノ三者一體トナリテ組織委員會ヲ設置シ、目下頻ニ實施ノ準備中ナリ、而シテ政府ガ議會ニ提出シタル約五百萬圓ノ補助金支出豫算案モ近ク成立ヲ見ルベク、此ノ豫算ニシテ成立セバ、之ヲ基礎トシテ四月ヨリ準備ノ活動ニ著手シ得ベシト考フ。兎ニ角此ノ「オリソビツク」ノ開催モ本市ニハ重大ナル關係ヲ有スルガ故ニ、必ず成功セシムル意氣込ニテ吾々モ努力スベク、市會ノ有力者タル諸君ノ

努力ヲモ請ハント欲ス。歳費ニ就テハ、増額スベキカ將又スベカラザルカニ就キ理事者トシテ慎重ナル検討ヲ加ヘタル後、當職ハ遂ニ増額スベシト斷定シテ市會ニ提案シ、既ニ其可決ヲ見タリ、而シテ今日之ヲ増額又ハ變更スベキカ否カ就テハ、理事者トシテ之ヲ問題視シ居ラズト。次デ保健局長宮川宗徳君ハ、尿尿處分問題ニ就テハ、市會ノ希望ニ副フベク努力シ居レリ。塵芥ノ處分ニ就テモ尿尿處分同様、新舊兩市共ニ改善ヲ要スル事項尠カラザルヲ以テ、銳意之レガ改善ノ實ヲ舉ゲント欲スト答へ、産業局長荒木孟君ハ、市會ノ協賛ヲ經タル金融保證協會ノ設立ハ、市府共同補償ニ賴リテ成立スルモノニテ、東京府參事會ニ於テモ、三月十九日之レニ關スル必要事項ノ決定ヲ見タリ。仍テ三月二十三日銀行方面ノ代表者、信用組合、商工組合、輸出組合、其他各代表者ノ參集ヲ求メ、協會設立ニ關シテ懇談ヲ爲シタリ。今後尙ホ一二回ノ懇談ヲ重ネザルベカラザル必要アルベシト考フルモ、遅クモ四月中旬頃迄ニハ設立者ノ顔觸ヲ揃へ、社團法人ノ認可申請ヲ爲サント欲ス。以上種々ナル手續上今日實施期日ヲ明言スル能ハザルガ、法人ノ認可ヲ得次第速ニ開業シ得ルヤウ準備中ナリト答へ。教育局長伊藤昌庸君ハ、毎年二萬四千ノ就學兒童ノ増加ハ、之ヲ學級ニ計算セバ四百三十學級ナルガ、此ノ増加ヲ目標トシタル第四次小學校増改築計畫ニシテ完成セバ、二部教授ハ確ニ撤廢シ得ベシト考フ。而シテ市會ノ決定アリタルト同時ニ、起債認可申請其他ノ手續ヲ運ビ、關係各省ニモ數次出頭シテ督促シタル結果、十一年度分ハ過般内務省ノ手ヲ離レテ、大藏省へ書類ノ廻送モアリタルガ故ニ、近日中ニ認可アルベシト考フト答へ。財務局長平山泰君ハ、本市ノ人件費ヲ簡單ニ一言セバ、年俸者ノ給與約貳百萬圓、月俸者約六百萬圓、雇員約五百萬圓、傭人約千五百萬圓、小學校教員其他本市直轄學校ノ教職員給約千六百萬圓、外ニ自由勞働者ニモ年々約五百萬圓ノ人件費ヲ支出シ居レリ、以上ノ合計四千九百萬圓、大凡五千萬圓程度ノ支出ナリ。右ノ中年俸者ノ貳百萬圓ヲ控除シタル以外ニ一二割ノ増給ヲ行フトスルモ容易ナラザル額ニ達ス、サレバト

テ物價騰貴ノ今日、薄給者ヲ此儘ニ爲シ置ク能ハズトハ考ヘ居ルモ、物價騰貴ノ影響ハ物件費ニモ及ビ、此ノ物件費ハ節約ノ餘地ナク、既定豫算中ニ於テ之ヲ案配スル事ハ到底不可能ナリト考ヘラル、ガ故ニ、是レ亦新ナル財源ヲ考ヘザルベカラズ、人件費ハ一時的ト恒久的トニ依リテ其取扱ヲ異ニシ、假ニ一時的の支出ト爲スモ、其財源ヲ何レニ求ムベキカ、甚ダ困難ナル問題ナリ、然リ而シテ近ク市會ノ協賛ヲ請ハザルベカラザル「オリンピック」及ビ萬國博覽會ニ對スル費用等ヲ考フル時、本市財政問題ノ愈々困難ナルヲ思ハシム。從テ薄給者ノ増給問題ハ、過刻市長ヨリ答辯アリシ如ク、眞面目ニ、親切ニ考慮スベキ問題タル事ヲ充分承知シ居ルガ故ニ、之レガ對策ニ就テハ日夜苦慮シ居レリ、然レ共如何ナル措置ヲ採ルベカヲ今日此ノ席上ニ於テ明言スル能ハザルヲ遺憾トスト答ヘタリ。次デ淺沼稻次郎君ハ、市政ノ革新ニ關シ吾々ハ幾多ノ政策ヲ有ス、然レ共現市長ノ任期ハ來月終了シテ、市長ノ更迭アルベシ、仍テ吾々ノ有スル革新政策ニ就テハ新市長ニ對シテ質ス事トシ、緊急ヲ要スル二三ノ問題ニ就キ現市長ニ質シ置カント欲ス。其第一ハ、結城大藏大臣ハ參拾億ノ龐大豫算ヲ貳拾八億ニ減ズル事ニ據リテ、人爲的ニ物價騰貴ノ傾向ヲ阻止セント努メタルモ、物價ハ依然トシテ騰貴ノ傾向ニアリ、此ノ現象ハ如何トモ爲ス能ハザル趨勢ナリ、然ルニ昭和十二年度ノ我が東京市ノ豫算ハ、毫モ物價ノ騰貴ヲ見込マズシテ編製シタルモノナルヲ以テ、之レガ實施ニ當リテハ、物品ノ購入其他種々ナル點ニ於テ、必然的ニ實行不可能ノ状態ニ陥ルベシト考フ。斯ル場合市當局ハ如何ナル態度ヲ以テ、物價騰貴ト十二年度ノ豫算執行トヲ合致セシムル意思ナリヤ。第二、物價騰貴ニ因リ本市ハ小學校教員給約貳拾萬圓ヲ増額シ、東京府モ警視廳巡查手當ニ五萬圓ノ増額ヲ行ヒ、府市共ニ一部のニハ増給ノ傾向ヲ示セルガ、全般のニ之ヲ行ハザルヲ以テ、過般ノ市會ニ於テ吾々ガ此ノ點ニ就テ質問シタル際、財務局長ハ考慮スベシト答ヘタルガ、四月一日ヨリ執行セラル、社會局ノ豫算面ニ現ハレタル事實ヲ見ルニ、登録労働者ノ賃銀ヲ五錢、技術労働者ハ

貳拾錢程度ノ値上ヲ行ヒタルニ過ギズ。電氣局ノ従業員ノ如キハ、爭議以前ノ收入ニ比シ、現在ハ總テ參拾圓程ノ減收ナリ。登録労働者ノ賃銀値上ガ物價ノ自然騰貴ニ關聯スルモノナラバ、電氣局ノ従業員ハ勿論、土木局ノ従業員ニ對シテモ値上グスベキニアラズヤ。川田君ノ質問ニ對スル只今ノ財務局長ノ答辯ニハ、吾々ハ満足スル能ハズ、仍テ市長竝ニ財務局長ニ對シ、今少シク徹底シタル答辯アラン事ヲ望ム。右ニ關聯シテ一言附加セント欲ス、東京交通労働組合、東京市従業員組合、東京地方自由労働者組合、登録労働者生活改善協議會、水道局従業員、市吏員有志等ヨリ提出ノ嘆願書ガ本日本員等ノ手許ニ到達シタルガ、市長ノ手許ヘモ同様ノ嘆願書ガ提出サレタリト聞クモ、念ノ爲メ之ヲ朗讀スベシ。

『嘆願書、一、新年度ヨリ市備員、下級吏員、登録労働者ノ賃銀ヲ願クハ二割引上セラレタシ、但シ二割引上グルモ日給一圓五十錢ニ充タザル者ハ一圓五十錢トサレタシ、理由、未曾有ノ龐大豫算ニ依ル軍需「インフレ」對外爲替關係等ニ基因シテ昨秋以來物價ハ頓ニ急騰ノ一途ヲ辿リ、今春ニ至ルヤ此ノ騰勢ニ更ニ拍車ヲ加ヘラレ底止スル所ヲ知ラズ、爲ニサナキダニ窮乏裡ニアリシ市備員下級吏員、登録労働者ノ生活ハ三割乃至四割ノ低下トナリ、如何ニシテモ耐ヘ難キ窮乏ニ追ヒ込マレツ、アリ、斯クテハ六百萬市民ノ生活ニ瞬時モ缺クベカラザル各種市營事業ノ運営ニモ影響スル所少ナカラザルヲ憂フルモノナリ、籲ツテ他ヲ願ミルニ最近各種私營會社、工場ニ於テモ物價騰貴ニ因ル従業員ノ生活困窮化ニ對處スル爲メ自發的ニ賃銀ノ引上ヲナシタル所多ク、統計ニ見ルモ賃銀ハ物價ノ跡ヲ追ウテ上向線ヲ描キツ、アリ、斯ル中ニアツテ公共團體タル市ニ於テハ率先賃銀引上ゲテ圖ルガ至當カト思料ス、我等市従業員トシテ市營事業ノ圓滑ナル運営ト其ノ發展ヲ心カラ念願シ、全市従業員ノ生活ヲ物價騰貴ニ因ル破滅ノ危殆ヨリ救ハレントヲ茲ニ伏シテ懇願ス、右嘆願候也、昭和十二年三月二十九日、東

京市長牛塚虎太郎殿

右ノ嘆願書ニ對シ、牛塚市長ハ其事情ヲ斟酌シテ大ニ考慮スベシト答ヘタリト聞ク。從來民衆ノ燃ユルガ如キ意嚮又ハ要求ニ對シ、理事者竝ニ當局者ハ之ヲ阻止セントスル場合往々ニシテ考慮又ハ調査研究等ノ言辭ヲ使用ス、市長ノ嘆願書ニ對スル考慮ノ意思ハ那邊ニ在リヤ。當議場ヲ通ジテ三萬ノ從業員、否、六百萬市民ノ爲ニ其態度ヲ公表セラレン事ヲ切望ス。第三、市長ハ昭和十年三月十六日東京市訓令甲第十六號トシテ、土木局ニ對シテ如キ備員規程ノ改正ヲ通達セリ、即チ「東京市備員規程中左ノ通り改正ス、昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス、昭和十年三月十六日東京市長牛塚虎太郎。土木局備員規定ノ第十一條第一項第十號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ、第十一號「年齢五十五歳ニ達シタルトキ」第四十五條、第十一條第一項第十一號ノ規程ニ依ル解備ハ昭和十四年三月三十一日迄之ヲ猶豫スルコトヲ得」ト。此ノ規程ハ雇員ニモ發セラレ、雇員規程第四條第二項ニ追加シテ、停年制ヲ雇員ニモ適用スル事トセリ。斯テ土木局竝ニ他ノ局課ニ對シテモ、五十五歳以上ニ達シタル人々ノ退職希望者ヲ募集シタルガ、應ズル者ナク、最近五十五歳未滿ニ年齢ヲ低下シテ、退職希望者ヲ募集シ居レリト聞ク、兎ニ角今回退職スル人々ニ對シテハ特別手當ヲ支給シ、退職後ニ於テモ老後何等不安ナカラシムル措置ヲ講ズルヤ否ヤ、是レ亦明答ヲ煩ハサント欲ス。第四、川田君ガ牛塚市長ノ人事行政ヲ「ボス」人事行政ナリト評シタルニ對シ、牛塚氏ハ牛塚人事行政ナリト答ヘタルガ、兎ニ角牛塚氏ガ四年間ニ亘ル人事行政ハ、徹頭徹尾失敗ナリ。第一牛塚市長就任當初ニ於ケル助役決定ニ就テノ醜態、第二ハ落合助役ニ詰腹ヲ切ラシメテ大久保、中野兩氏ヲ擁立シタル事、其他市吏員中有能ノ士尠カラザルニ拘ラズ、之ヲ拔擢セズシテ、外部ヨリ警察官タリシ人々ヲ入市セシメタルガ如キハ、「ボス」トノ結託ニ因ル人事ナリトノ川田君ノ批評ハ適正ナリト思惟ス、尙牛塚氏ノ提燈ヲ持テリトノ功ニ依リ一新聞記者ヲ拔擢任用シタルガ如キモ、牛塚人事

ノ失敗ト斷言セザルヲ得ズ、任期剩ス所既ニ幾許モナキ牛塚市長ガ、退職ニ際シテ所謂置土産人事ヲ行フガ如キ事アリテハ遺憾ニ堪ヘズ、仍テ明朗ナル人事行政ヲ行フヤ否ヤニ就キ、是レ亦一應質シ置カント欲ス。第五、中央卸賣市場長事務取扱桑原君ガ今回收監サレ、事件ハ頗ル擴大スベシト聞ク、市政ニ關與スル吾々ノ任期中ニ於テ、一吏僚ト雖モ收監サレシトアリテハ遺憾至極ナリ、若シ此ノ事件ガ更ニ擴大セシカ、東京市政上是レ以上ノ不名譽ハナカルベシト考フ、本件ニ對スル市長ノ見識シハ果シテ如何、尙ホ市長ハ此ノ事件ニ責任ヲ感ゼザルベカラズト考ヘラル、ガ、市長竝ニ主管助役ノ所見ヲ聽カント欲スト質シ。牛塚市長ハ、豫算案審議ノ際市會ニ於テ種々議論モアリタルガ、既ニ豫算案ニシテ成立シタル以上ハ、能フ限り豫算ノ目的トスル事業遂行ニ努力シ、執行上如何トモ爲ス能ハザル場合ハ、更メテ市會ノ協賛ヲ經、變更其他ノ方法ヲ講ゼザルベカラズト思惟ス。下級者ノ給與問題ニ就テハ、經濟界ノ情勢ト下級者ノ生活ノ實體トヲ考慮シ、能フ限り親切ニ適當ナル方法ヲ講ズル考ヘナルモ、先刻財務局長ヨリ川田氏ノ質問ニ對シテ述ベタル如ク、何分ニモ莫大ノ金額ニ關聯スル問題ナルヲ以テ、輕率ニ之ヲ取扱フ能ハズ、勢ヒ慎重ナラザルヲ得ザルヲ諒承サレン事ヲ望ム。停年制ニ關シテハ、制度其ノモノノ本質ハ事務ノ能率ヲ擧ゲ、市ノ爲、市民ノ爲ニ盡サントスルニ在リテ、其趣意ヨリ云ハ、停年制ハ徹頭徹尾贊意ヲ表セザルヲ得ズ、只之レガ運用上ノ問題ニ就テハ、各方面ニ於テ意見又ハ希望等アラバ、之ヲ取入レテ其改善ヲ圖ラント欲ス。人事問題ハ見ル人ノ立場ニ因リテ各々其所見ヲ異ニスベク、當職ノ行ヒタル人事ハ、當職ニ於テハ失敗ニアラズト確信シ居レリ。尙ホ適材ヲ適所ニ置ク事ガ市ノ爲、市民ノ爲ナル以上、外部ヨリ入市セシムル事ハ當然ノ措置ト考フ。中央市場ノ職員ニ關スル問題ハ、當職モ遺憾ニ感ズ、此ハ目下司直ノ手ニ依リテ調査中ナルガ故ニ、公明ナル國家機關ノ調査ニ信賴シ、默シテ其調査ヲ待ツベキガ至當ノ措置ト考フト答ヘ。淺沼君更ニ、市理事者ハ各局課ニ對シテ實行豫算ノ編製ヲ命ジタ

リト聞ク、市會ノ協賛ヲ經、過日漸ク決定シタル豫算ニ對シ、市理事者ガ恣ニ實行豫算ヲ編製スルガ如キハ、市會ノ權限ヲ犯ス結果トナラズヤ、市會ノ權限侵犯問題ハ暫ク措クモ、市長ハ如何ナル方針ニテ實行豫算ヲ編製スル考ヘナリヤ。尙ホ市長ハ豫算ノ目的達成ニシテ不可能ナル場合ハ、更メテ市會ノ協賛ヲ求ムル方法ヲ講ズベシト云ヘリ、本年度豫算ハ決定前ニ於テ、吾々同僚ガ數々目的達成ハ不可能ナルベシト警告シタルニアラズヤ、故ニ本年度豫算ハ市長ニ於テモ決定以前ニ於テ、既ニ其目的達成ノ不可能ナルヲ熟知ノ答ナリト考フルガ如何。次ニ吾々及ビ吾々同僚ノ陳情等ニ對シ、當局ハ常ニ「考慮」又ハ「調査研究」ト云ヒ、或ハ「御期待ニ副フベク努ムベシ」ト云ヘルガ、嘗テ其實現ヲ見タル事ナシ、過般下級者等ノ陳情ニ對シテモ考慮スベシト答ヘタリトノ事ナルガ、此ノ考慮ニハ如何ナル内容ヲ含ミ居レリヤ、當議場ヲ通ジテ市長ノ言明ヲ聽カント欲ス。尙ホ人事問題ハ見ル人ノ立場ニ因リテ其所見ヲ異ニシ、牛塚氏自身ハ失敗ニアラズト確信スト云ヘルガ、牛塚氏ノ人事ヲ成功ナリトハ東京市民中一人モ考ヘ居ラザルベシ、要スルニ牛塚人事ハ牛塚氏中心人事ニシテ、牛塚氏ハ四年間自己ノ任期ヲ完ウセンガ爲ニ、多數ノ吏員ト幾多ノ同僚トヲ犠牲ニシタルハ疑フ能ハザル事實ニシテ、此ノ點深ク反省セラレン事ヲ牛塚氏ニ切望スルト共ニ、一ヶ月後ニ市役所ヲ去ルニ臨ミ、牛塚人事ヲ行ハザルヤウ希望シテ已マズト述ベ。牛塚市長ハ、實行豫算編製等ニ就テハ、當職未ダ之ヲ耳ニシ居ラザルガ、當職ノ所感ヲ一言セバ、實行豫算ヲ編製シテ議決豫算ノ目的ヲ實行スル能ハズトアラバ、重大問題ナリ、然リ而シテ議決豫算ノ金額ノ範圍内ニ於テ編製シタル實行豫算ニテ、議決豫算ノ目的ガ達成セラレナバ、是レ亦重大問題ナリト考フ。下級者ノ給與ニ關シテハ、當職モ當議場ヲ通ジテ市民ニ言明セント欲スルモ、何分ニモ鉅額ノ金圓ヲ要スル問題ナルガ故ニ、即刻ニハ言明スル能ハズ、想フニ輕々シク言明スルハ親切ナル措置ニアラズト考フ。尙ホ市ノ人事ニシテ市長中心ナラザル人事ヲ行ハ、其ハ惡人事ト云フベク、牛塚ガ東京市長タル以上

ハ、牛塚ノ考ヘヲ以テ人事ヲ行フハ至當ナリト考フト答ヘ。淺沼君ハ、市理事者ニ質サント欲スル事件ハ尙ホ尠カラザルモ、本日ハ以上ニテ本員ノ質問ヲ打切ルベシト述ベタリ。引續キ加藤勸十君ハ、元來改選後ノ新市會ニ於テハ、本市財政ノ根本的建直シ問題其他ノ重要問題ニ就テ質問セザルベカラズト考フルモ、牛塚市長ノ任期剩ス所纔ニ一箇月ニ過ギズ、仍テ前陳ノ重要問題ハ、新市長ヲ迎ヘタル市會ニ讓ル事トシ、現市當局ノ責任ト考ヘラル、當面ノ二三重要ナル點ニ限定シテ質問セント欲ス。尙ホ本員ノ質問ハ、川田、淺沼兩君ノ質問ト其性質ヲ同クスルモ、其觀點ノ角度ヲ異ニス。第一、東京市政ハ市理事者並ニ先輩市會議員諸君ノ懸命ナル努力ニモ拘ラズ、一般市民大衆ヨリ明朝ヲ缺ケルガ如キ疑惑ヲ以テ見ラレツ、アリ、此ノ疑惑ヲ解消セシムル事ハ、市理事者並ニ市會議員全員ノ共同責任ナリト考フ、此ノ意味ニ於テ市會議員ノ選舉等モ、明朝ナラシメザルベカラザルニ、過般行ハレタル市會議員改選ノ際、市當局ノ執レル態度ハ極メテ曖昧ナリキ。其實例ノ一ニ選舉公報發行中止問題アリ、此ノ選舉公報發行ノ企圖ハ、市當局ガ市民大衆ニ對シテ選舉ニ關スル便宜ヲ與ヘントスル意圖ニ出デタルモノニシテ、選舉ヲ明朗化セシムル上ニ最適ノ試ミト考ヘラレタル事柄ナリ、而モ市當局ガ内務省、檢事局、警視廳方面トモ打合セテ遂ゲ、之レニ要スル豫算モ計上シ、用紙モ製紙會社ニ對シテ注文ヲ發シタルニ拘ラズ、當時市會ニ於ケル各派幹部ノ反對ニ遭ヒテ中止シタルナリト聞ク。此ノ中止問題ニ關シ、選舉肅正實行委員會ニ參加セル婦人團體ノ代表ガ、市長ニ對シテ其不信ヲ詰リタルニ、市長ハ之レニ答ヘテ、自身ハ之ヲ行フ考ヘナルモ市會議員ノ反對アリ、且ツ部下ガ牛塚ノ命ヲ用ヒザルガ爲ナリト云ヘリト。然ルニ其後委員ニ送致セル挨拶狀ニハ、事務上ノ都合ナリト云ヘリ、何ゾ其言ノ矛盾セル。然レ其本員ハ此處ニ市長ノ其食言ヲ責メント欲スル者ニアラズ、市長ニ質サント欲スルハ、市長ガ行ハント欲シタル事柄ニ對シ、何故他ヨリ牽制ヲ受ケタリヤ、又何故其牽制ニ動カサレタリヤト云フ點ナリ。尙ホ選舉肅正ニ關シ懸賞募

集シテ得タル一等當選ノ「愛市ノ候補愛市ノ一票」ト云ヘル標語ノ立看板ヲ途中ニ於テ、二等當選ノ「ヨキ市ヨキ人ヨキ選舉」ト云ヘル標語ニ塗り變ヘタルハ如何ナル理由ナリヤ。「ボスター」ハ三萬枚ヲ印刷シ、相當多額ノ印刷費ヲ支拂ヒタルニ拘ラズ、其大部分ヲ關ヨリ關ニ葬リ去レリ。市ノ財政ハ窮乏シ、勤儉節約ヲ獎勵シ居レル折柄、縱ヒ其金額ハ千數百圓ニ過ギズト雖モ、折角三萬枚印刷シタル「ボスター」ヲ反古トシテ之ヲ棄テ、顧ミザルハ何事ゾ、市長ガ斯ル事柄ヲ爲サバカラザリシ當時ノ實情ヲ、市會ヲ通ジテ市民大衆ニ對シ責任アル言明アラン事ヲ望ム。第二、牛塚市長ハ人事問題ニ關スル川田、淺沼兩君ノ質問ニ對シ、市長ハ市長中心ノ人事ヲ行フニアラズンバ、正シキ人事ト云フ能ハズト強調セリ。牛塚人事ガ果シテ市長ノ識見、市長ノ權威、市長ノ力量ニ依リテ行ハレタリトセバ幸ヒナリ、然レ共奈何セン、牛塚市長ノ強調スル言辭ハ、表面上單ナル形式ニ過ギズシテ、事實ハ他ノ勢力ニ因ル牽制又ハ請託ニアラズヤ。昭和十年市行政監察ニ關スル通牒及上申書中ノ第十頁ニ「市吏員及學校職員ノ人事ニ關シテハ、從來外部ノ不當勢力ノ請託又ハ掣肘ニ依リ左右セラレタルモノト認メラル、モノ少カラズ、隨テ市政ノ統制ヲ缺キ、綱紀ヲ紊亂致シ甚ダ遺憾ナルヲ以テ、人事行政ノ根本ヲ刷新スルニ付、格段ノ戒心ヲ加フルノ要アルモノト認ム」ト内務當局ハ指摘シ居レルガ、此ノ末尾ノ「戒心ヲ加フルノ要アルモノト認ム」ト云ヘルニ對シ、牛塚氏ハ事實如何ナル手段ヲ講ジタリヤ、此點ヲ明瞭ナラシメザル限り、千萬言ヲ費スモ、牛塚人事ハ單ニ形式ノミニシテ、眞ノ牛塚人事ニアラズト斷言セザルヲ得ザルヲ悲ム。第三、昭和十年二月ノ市會ニ於テ、市會議員ノ費用辨償額ヲ一舉壹千圓増額シタルガ、當時東京市財政ノ實情ヲ見ルニ、昭和九年度ニ於テ市電從業員ニ對シテハ、其收入四割乃至六割ノ減額ヲ強要シテ、一大爭議ヲ惹起シ、爭議ノ結果減額ハ二割トナリタルモ、貸銀二割ヲ減額サレタル從業員ノ生活ハ、現在悲慘ナル狀態ニ在リ、加之、備人稅ヲ制定シ、且ツ千貳百圓以下ノ少額勤勞所得者ニ對スル特別所得稅ヲ設定シテ、財

源ノ補充ヲ行フガ如キ窮狀ナリシニアラズヤ、然ルニ市會議員ニ對シテハ、一舉ニ壹千圓ノ費用辨償ヲ増額スルガ如キハ、不合理千萬ニアラズヤ。費用辨償ヲ不必要ト爲ス者ハ全額ヲ寄附スベシト論ズル者アリ、或ハ多額ト思惟スル者ハ其分ヲ返還スベシト説ク者アルモ、本員ハ之ヲ一先ツ増額以前ノ狀態ニ還元シ、改メテ増減ノ何レガ合理的ナルヤ、其根據ヲ明示サレン事ヲ望ム、本問題ハ牛塚行政ノ一トシテ行ハレタル事柄ナルガ故ニ、近ク任期終了シテ退カントスル牛塚氏ハ、明確ナル最後ノ判定ヲ與フベキ責任アリト思惟ス。第四、一般下級市吏員並ニ雇傭員諸君ノ生活改善、待遇向上問題ニ關スル川田、淺沼兩君ノ質問ニ對シ、牛塚市長ハ至極尤モラシク慎重ナル研究、親切ナル考慮ヲ爲スベシト答辯セルガ、市長ノ此ノ答辯ハ當面ヲ糊塗スル一時遁レノ粉飾ニアラズヤ、若シ夫レ牛塚氏ノ所謂親切ガ、近ク行ハル、定期昇給ノ時期ヲ繰上グルガ如キ程度ナリセバ、不親切ノ骨頂ト云ハザルベカラズ、苟モ親切ヲ標榜スル以上ハ、一般下級市吏員並ニ雇傭員ガ生活ヲ維持シ得ルヤウ待遇セザルベカラズ、然ルニ現在ノ東京市條例ニ據レバ、十級俸下參拾圓、十級俸上參拾五圓ナリ、物價騰貴ノ今日如何ナル獨身者ト雖モ、參拾圓乃至參拾五圓ニテハ到底生活ヲ維持スル能ハザルハ、何人モ熟知スル所ニアラズヤ、市電從業員ノ生活狀態ガ如何ニ悲慘ナルカノ一例ヲ述ベシニ、電氣局ノ從業員諸君ハ日用必需品ヲ共濟組合ヨリ購求シ居レルガ、家族疾病其他不時ノ支出等アリタル場合、假令バ現在參圓五拾錢ノ米一袋ヲ翌月拂ニテ共濟組合ヨリ購入シ、同僚又ハ知人ヲ介シテ之ヲ參圓ニ賣却シ、僅々參圓ニ對スル一箇月ノ金利五拾錢ヲ支拂ヒ、斯テ辛ウジテ生活シツ、アル實情ナリ、然ルニ市電當局ハ勿論、市理事者ハ此ノ實情ニ目ヲ瞑リ居ルハ何故ナリヤ。第五、軍事費豫算編製ニ伴フ財源補充ノ爲、今回政府ハ參億數千萬圓ノ大増稅ヲ行ヒタルガ、此ノ増稅中間接稅、消費稅ハ勿論、資本案ニ課セラルベキ直接稅ノ如キモ、其大部分ハ何等カノ名目ニテ一般大衆ニ轉嫁サル、例ヘバ生産部面ニ於テハ勞働者ノ賃銀、俸給者ノ月給、手當、賞與等ノ

減額、消費部面ニ於テハ物品ノ定價ノ引上等ナリ。東京市ニ於テハ一般市吏員並ニ雇傭員ニ對シ收入減額等ノ轉嫁ハ直接行ハザルベキモ、物價騰貴ノ形式ニ因ル轉嫁ハ免ル、能ハズ、故ニ物價騰貴ノ趨勢ニ應ジテ、下級吏員並ニ從業員諸君ノ生活改善ヲ考慮スベキハ、東京市ノ行政機能全體ヲ完全ニ充足セシムル必要上、市理事者トシテ當然ノ措置ナリト考フ、市長ノ所見如何ト質シタルニ對シ。牛塚市長ハ、選舉公報發行問題ハ選舉肅正部ノ計畫ニシテ、當職ノ發案ニアラズ、當初選舉肅正部ヨリ選舉公報發行計畫ノ申出デアリタル際、實行ハ困難ナルベキモ、行フ意志アラバ行ヒ見ルモ可ナルベシト答ヘ、各方面ノ識者ヲ網羅シタル會ニモ諮問シタルガ、愈々實行期ニ迫リ、實行ノ地位ニ在ル人々ヨリ實行ハ至難ナリトノ申出デアリテ中止シタルナリ。「ボスター」ニ就テハ、標語ノ懸賞募集ヲ爲シタル事ハ承知シ居ルモ、之レガ取扱ヒ等ニ關スル詳細ナル點ハ知悉シ居ラザルガ故ニ、監查局長ヲシテ答辯セシメント欲ス。人事ニ就テハ、東京市ノ利益ノ爲ニ最善ノ努力ヲ爲シ居レリ。若シ夫レ質問ノ主意ガ市ノ人事ヲ市長ガ自由ニ行フヲ不可ト爲ス批評ナラバ、市長ノ欲セザル人物ヲ市長ハ使用スベキモノニアラズト信ジ居レリト答ヘント欲ス。市會議員ノ歳費ニ就テハ、今日變更又ハ他ニ新ナル提案ヲ爲ス意思ヲ有セズ、尙ホ數年前ニ決定シタル事柄ニ對シ、今日ニ及ビテ何故左様ノ事ヲ爲シタリヤトノ質問ニ對スル答辯ニハ時間ヲ要ス、要スルニ理事者ハ増額ヲ至當ナリト考ヘテ提案シ、市會ハ大多數ヲ以テ之ヲ可決シ、今日既ニ東京市ノ市是ト成リタルモノニテ、夫レ以外他ニ何等ノ意義ヲ有セズ。増稅ガ一般民衆ニ轉嫁サルトノ議論ニ對シテハ、答辯ノ限リニアラザルモ、物價騰貴ノ現狀ニ於テハ、下級低額受給者ノ生活ハ困難ナルベク、之レガ給與ヲ按配セント欲スル考ヘテ有スル事ハ當職人後ニ落チズト雖モ、何分ニモ莫大ナル資金ヲ要スル問題ナルヲ以テ、慎重考慮セザルベカラズ、當職ノ此ノ慎重考慮ヲ一時ノ氣休メナルベシト質問者ガ先入主ニ考ヘ居レリトセバ、質疑應答ヲ幾度ビ重ヌルモ所詮ハ得ル所ナカルベシト答ヘ。監查局長前田

賢次君ハ、衆議院議員選舉ノ場合ニ於ケル選舉公報ハ、特別法ノ制定アルガ故ニ、甚ダ好都合ナルモ、市會議員選舉ノ場合ニハ、選舉公報ニ關スル特別法ノ制定ナキ爲、一般選舉法ノ拘束ヲ受ケザルベカラザルト同時ニ、出版法ノ拘束ヲ受ケザルベカラズシテ、動モスレバ選舉法違反、出版法違反等ノ問題ヲ惹起シ易ク、斯ル危険ヲ冒シテ、萬一何等カノ支障ヲ生ジタル場合ハ、折角ノ企圖タル選舉肅正運動ニ關スル將來ノ信用ニモ關スル事ト考ヘ、選舉肅正實行委員會ヲ始メ、關係各官廳並ニ一般各方面ノ賛成ヲ得タル企圖ニシテ、之レガ中止ハ遺憾ニ堪ヘザリシモ、中止ノ已ムナキニ至リシナリ。「ボスター」ニ記ス標語ハ、一二等ニ當選シタル三種ヲ掲グル事トシ、最初ニ一等當選ノ「愛市ノ候補愛市ノ一票」ヲ掲ゲタルガ、此ハ當初小職等ノ考ヘザリシ事ナリシモ、愛市聯盟ニ關係アルガ如キ誤解ヲ生ズル虞レアリトノ批評アリテ、二等當選ノ標語ニ變更シタリ、「ボスター」ハ全部ニテ一萬五千枚ヲ作製シタルガ、掲出ヲ取止メタルハ約二千枚ナリト答ヘ。加藤君更ニ、市長並ニ監查局長ノ答辯ニハ満足スル能ハズ、愛市聯盟ト市政革新同盟トノ運動ハ、互ヒニ關聯アリヤ否ヤハ本員ノ知ル所ニアラザルモ、六人ノ前市長ガ發起トナリテ結成シタル愛市聯盟ガ眞ニ愛市ノ觀念ニ基キ、市民大衆ニ對シテ選舉ニ關スル注意ヲ喚起セントスル運動夫レ自體ハ、極メテ賞讃ニ値スル清カナル運動ニアラズヤ、此ノ清カナル運動ヲ行フ愛市聯盟ノ所爲ト、東京市ノ掲グル標語トノ間ニ關聯アリテ何ノ不可カアル、如何ナル誤解ノ生ズル危険アリヤ、此ノ點ニ關シ答辯スル能ハズンバ、必ズシモ答辯ヲ求メザルモ、答辯ヲ爲シ得ルナラバ聽カント欲ス。其他本員ノ質問ニ對スル市長ノ答辯振コソハ、四箇年間東京市政ヲシテ何トナク暗キ感ヲ一般市民ニ抱カシムルニ至リシ大ナル原因ヲ爲セルモノト云フベク、市長ハ深ク反省セラレン事ヲ望ム。下級吏員並ニ雇傭員全般ニ對スル給與改善問題ニ就キ、本員ハ市長ニ對シ、本日此ノ席上ニ於テ具體案ヲ示スベシト要求スル者ニアラズ、唯急激ナル物價ノ騰貴ニ苦ミツ、アル下級受給者ノ生活ニ就キ、市長ガ眞ニ同情ヲ

有スルナラバ、其給與改善ニ關スル案ヲ凡ソ何日頃市會ニ提出スル考ヘナリヤヲ聽カント欲スルニ過ギズト質シタルニ對シ。牛塚市長ハ、成案ヲ得次第能フ限リ速ニ提案セント欲スト答ヘ。前田監査局長ハ、愛市聯盟ト市政革新同盟トノ内部事情、及ビ其間ノ關係等ニ就テモ、小職等ハ之ヲ熟知シ居リテ一等當選ノ標語ヲ「ボスター」ニ掲ゲタルモノナルガ、市民中ニ之ヲ誤解シ居ル者アリ、又誤解ヲ生ジ易シトノ批評ヲ各方面ヨリ聞キ、萬一左様ノ誤解ヲ一般市民ニ抱カシムル事アリテハ、折角ノ選舉肅正運動ノ目的ヲ達成スル能ハズト考ヘテ撤廢シタルナリト答フ。加藤君三度ビ立テ、牛塚市長ノ答辯ハ尙ホ不満足ナルモ、是レ以上菫蒨問答ヲ幾度重ヌルモ銓ナキガ故ニ、遺憾ノ意ヲ表明シテ本員ノ質問ヲ打切ルベシト述ベタリ。

四月五日ノ會議ニ於テ、鈴木茂三郎君モ市理事者ニ問ウテ曰ク、第一、去ル三月二十九日ノ會議ニ於テ、加藤勸十、淺沼稻次郎兩氏ガ市當局ニ對シテ、市吏員並ニ從業員等ノ給與額値上ニ關スル質問ヲ爲シタル際、市長並ニ他ノ當局答辯ハ、親切ナル考慮ト慎重ナル研究ヲ爲スベシトノ事ナリキ。爾來今日迄ニ七日間ヲ經過セリ、此ノ間如何ニ慎重ナル研究ト親切ナル考慮トヲ爲シタリヤ、若シ未ダ決定案ヲ得ズトナラバ、今日マデ調査又ハ考慮シタル經過ニ關スル説明アラン事ヲ望ム。第二、新聞紙ノ傳フル所ニ據レバ、市當局ハ凡ソ一割程度ノ給與値上ヲ行フ意嚮ナリト、果シテ然ルヤ否ヤ、吾々ガ今日ノ物價騰貴ノ基準ヲ金ノ輸出再禁止前、即チ昭和六年十二月以前ニ置ケリ、從テ生活基準モ其處ニ置クベキモノト考フ、然リ而シテ三菱經濟研究所ノ調査ニ據レバ、昭和六年以後總指數ニ於テ既ニ八割五分五厘ノ騰貴ヲ示セリ。國內商品ハ約四割、貿易商品ハ九割五分八厘ノ騰貴ニシテ、又昨年ト今年トノ物價比較ヲ見ルニ、國內商品ハ本年二月ト昨年二月ト比ハ一割、貿易商品ハ二割五分、其他ノ食料品、被服類等ハ更ニ高率ノ騰貴ナリ。以上ハ何レモ卸賣相場ニシテ、生計調査ニ關シテハ現在ノ日本ニ於テハ今日未ダ正シキ資料ナキモ、偶々

朝日新聞紙上ニ於テ發表シタル生計費指數記事ニ、現行ノ官吏俸給令ハ金輸出再禁止前ノモノニシテ、一般銀行會社ノ俸給ノ基準モ總テ金輸出再禁止前ノモノナルガ故ニ、最近ニ於ケル生計費ノ昂騰ハ、一般ノ俸給等ガ實質的ニ約二割ノ切下ゲトナリタル事ヲ意味ス、斯ル生計費ノ暴騰ハ實質的賃銀指數ノ低下ト共ニ社會的ニ其影響極メテ注目スベキモノアリト指摘シ、同時ニ斯ル物價ノ騰貴ニ對シ、給與ハ二割ノ値上ヲ爲スヲ當然トストノ結論ヲ見出し居レリ。物價ノ昂騰既ニ然リ、而シテ本市ノ業務ニ從事シ居ル諸君ノ生活狀態ト待遇トニ關シ、市當局ヨリ得タル二三ノ資料ニ據レバ極メテ劣惡ナリ、即チ百圓以下ノ總人員ハ三萬九千三百六十五人、而モ此ノ中月給五拾圓以下ノ者一萬六千六百十八名ノ多數ヲ算ス、外ニ登錄労働者一萬八千名ナルガ、是等低額ノ受給者ニ對シ、一割程度ノ俸給又ハ賃銀ヲ増額シタレバトテ、今日ノ物價高ニ對シテハ生活ノ安定ヲ得ル能ハズ、從テ此ノ如キハ到底親切ナル考慮トハ思惟スル能ハズ、然ルニ當局ガ目下考慮シツ、アル昇給率ハ、果シテ新聞紙所報ノ如ク一割程度ナリヤ否ヤ。第三、平山財務局長ハ過日ノ本會議ニ於テ、今日ノ物價騰貴ニ對スル市從業員ノ手當ヲ臨時的ノモノト爲スベキカ、將又然ラザルモノト爲スベキカニ就キ考慮スベキ必要アルガ如キ答辯ヲ爲セルガ、此ハ市從業員諸君ノ當面ノ生活問題ニ對シテ、重大ナル意義ヲ有スル事ト考フ、若シ夫レ平山局長ニシテ物價ハ今後低落スベシトノ豫想ノ下ニ、俸給又ハ賃銀ノ値上ヲ臨時的性質ノモノタラシムベシト考ヘナバ、市從業員諸君ノ生活上ニ極メテ重大ナル危機ヲ齎スベシ。本日報知新聞紙上ニ掲グル結城藏相車中談ニ據レバ、今日ノ物價ハ國際的性質ヲ有スルガ故ニ、其騰勢ヲ抑制スルハ頗ル困難ナリト云ヘリ、平山局長ノ所謂臨時的トハ抑々如何ナル意味ナリヤ。第四、市理事者ハ登錄労働者ノ賃銀ヲ五錢値上ゲシタリト稱スルモ、此ハ物價騰貴ニ對スル値上ニアラズシテ、労働時間延長ニ對スル値上ニアラズヤ、果シテ然ラバ、此ハ値上ト云フ能ハズ、想フニ市理事者ハ現場ノ實情ニ暗キガ如ク察セラル、ガ如何。要スルニ東京交通勞

働、東京市從業員組合、登録労働者等、本市ノ從業員諸君ニ依リテ組織セラレタル對市賃銀値上闘争同盟ハ、物價騰貴ニ對スル生活問題ニ關シ、市當局ノ處理如何ニ因リテハ重大ナル社會問題ニマデ展開セシムルモ、其目的ヲ貫徹セントノ決意牢固タリト聞ク、仍テ當局ハ本問題ニ對シ、眞ニ親切ナル考慮ト慎重ナル研究ヲ遂ゲ、一日モ速ニ具體案ヲ市會ニ提出セラレン事ヲ切望シテ、本員ノ質問ヲ終ラント欲スト述ベ。牛塚市長ハ、市吏員ノ待遇改善ハ時節重要問題ナリト考フルガ故ニ、眞ニ親切ナル考慮ヲ爲シ、其程度、方法、時期等ニ就キ慎重調査研究ノ上、能フ限り東京市ノ施設トシテ満足ナル成案ヲ得テ、諸君ノ協賛ヲ求メント欲ス。尙ホ決定案ヲ得ザル場合ハ、調査研究ノ經過ヲ報告セヨトノ要求ナルモ、公事ニ對スル業務ニシテ未ダ結論ニ到達セザル途中ニ之ヲ公表スル時ハ、議論ノ末ニ趨リテ實效ヲ收メ得ラレザル虞アルガ故ニ、之ヲ差控ヘント欲ス。新聞記事ヲ基礎トシテノ質問モアリタルガ、議論ハ差シタル效果ヲ收メ得ラレズト考フルヲ以テ、理事者トシテノ結論ヲ得ルマデハ是レ亦答辯ヲ避ケント欲スト答ヘ。社會局長澤邊與君ハ、失業登録労働者ノ賃銀ハ曩ニ値上ゲアリタルモ、尙ホ不充分ナルヲ以テ、更ニ生活ノ安定ヲ期スル爲、新ニ賃銀ノ引上ゲヲ爲ス意思アリヤ否ヤトノ質問ニ對シテ答辯セント欲ス。總テ社會事業ハ、社會ノ情勢ニ順應シテ行フベキモノナルガ故ニ、社會ノ情勢ガ更ニ變化シ、賃銀ノ値上ヲ必要トスルニ至ラバ、其時機ニ於テ値上ヲ行フ考ヘナリト答フ。鈴木君更ニ、市長ノ所謂成案ヲ得次第市會ノ協賛ヲ求ムベシトノ意ハ、聽テ成案ヲ得ナバ、追加豫算ヲ提出スベシトノ意ナリト解シテ可ナリヤ。尙ホ本員ハ登録労働者ノ賃銀ガ値上ゲサレタリトハ述ベ居ラズ、唯一定ノ豫算ノ範圍内ニ於テ當局ガ遺線ヲ爲シ居レルヲ以テ、一方假令バ技術工ノ收入ガ良好トナラバ、其分ハ他ノ一般土木人夫ノ賃銀ニ於テ低下セン。然ルニ理事者ハ彼等ノ賃銀ヲ値上ゲシタルガ如ク誤認シ居ルガ故ニ、理事者ハ現場ノ實情ニ暗シト述ベタルナリ、本員ハ尙ホ質問セント欲スル事柄尠カラザルモ、他ニ質問者アルヲ以テ、本

員ノ質問ハ茲ニ打切ルベシト述ブ。次デ佐伯健君ハ、過日ノ市會ニ於テ同志並ニ同僚諸君ノ爲シタル質問ニ對スル市理事者ノ答辯ハ、頗ル不誠意ナリキ、斯ル不誠意ニシテ形式的ナル市會ガ過去數十年來繰返サレタルニアラズヤト考フル時、吾々ハ一市民トシテ遺憾ノ意ヲ表セザルヲ得ズ、想フニ形式的ナル市會ヲ繰返シ居ル事ハ、六百萬市民ニ對シ決シテ忠實ナルモノト云フ能ハザルベシ。今夕本員ガ市理事者ニ對シテ質問サント欲スルハ、鈴木、加藤諸氏ノ質問ト同一ノ事柄ナルガ、去ル昭和六年ニ於テ、本市ガ三萬ノ市從業員ノ生活状態ヲ調査シテ得タル資料ニ據レバ、一族五人平均ニテ、一箇月九拾八圓四拾五錢ノ生計費ヲ要スル事ヲ明示セリ。然ルニ昭和六年以降諸物價ハ昂騰ノ一途ヲ辿リ、之ヲ假ニ二割ト見ルモ、其生計費ハ百貳拾圓ヲ要ス、是レ現實ノ生活費ニシテ、今日百貳拾圓ノ收入ヲ得ル能ハズンバ、其生活ヲ維持スル能ハザルナリ、一方本市ノ下級吏員ト稱スル人々、即チ中學ヲ卒業シテ入市シ來ル人ノ日給ハ、八拾錢乃至壹圓、職務ニ熟シタル者ト雖モ、歸宅後新聞ヲ見ル氣力サヘ失フ程終日労働シツ、アル現場從業員ノ日給ハ、壹圓五拾錢乃至壹圓六拾錢ニシテ、物價ガ今日程昂騰セザリシ昭和六年ニ、本市ガ調査シタル生計費ノ半バニモ充タザルニアラズヤ、若シ夫レ市理事者ガ今後モ飽マデ從業員ノ實際生活ヲ考慮セズシテ、單ナル理事者ノ立場ヨリ從業員ノ生計費ヲ増減セントセバ、恐ルベキ危険ヲ伴フベシト考フ、仍テ理事者ハ從業員ヲ加入セシメタル從業員ノ生計研究委員會トモ稱スベキモノヲ創設スル意思ナキヤ否ヤ。尙ホ鈴木氏ガ先程數字のニ指摘シタルガ如ク、本市ニ從事スル職員ノ九割ガ所謂下級從業員ニシテ、是等ノ人々ノ生活ヲ安定セシムルニアラズンバ、本市ノ事業ハ斷ジテ圓滑ニ運行セシムル能ハズ、市理事者ハ新聞紙所報ノ如キ一割引上ゲノ基準ヲ何レニ求メタリヤ、本問題ノ解決ヲ遷延セシメンカ、市民ノ爲由々シキ重大問題ノ惹起スベキヲ憂フ、仍テ四萬人ノ下級吏員ト二十萬家族ノ爲、形式的、抽象的ナラザル、具體的ニシテ誠意アル答辯アラン事ヲ望ムト質シタルニ對シ、牛塚市長ハ、佐伯

氏質問ノ趣旨ハ再三繰返ヘサレタル所ナルヲ以テ、重ねテ之ニ答フルノ必要ナルベシト考フ。生計調査ニ關シテハ、在來ノ調査資料ト現状トニ基キ、之ヲ如何ニ處理スベキカニ就キ苦心シツ、アルガ、今日ノ場合生計調査委員會ヲ設置スル必要ナルベシト思惟ス。昇給率ニ就テハ、未ダ確定案ヲ得タルニアラザルヲ以テ、今日答辯ヲ差控ヘント欲ス。要スルニ何事モ要求アリ次第直ニ其要求ニ應ズル事ハ、決シテ親切トハ考ヘラレズ、市全體ノ爲充分親切ニ調査研究ノ上、市會ニ提案スベシト答ヘ。佐伯君更ニ、過日從業者諸君ヨリ市長ニ提出シタル嘆願書ニ對シ、本日も市長ヨリ回答アルベキヲ期待シ居レルガ、市長ノ回答ニシテ本員ノ質問ニ對スル唯今ノ如キ答辯ト同様ナランカ、其結果ハ從業員ノ心情ヲ害シ、延イテハ市政ヲ惡化セシムベキ事ヲ市理事者ハ充分考慮セラレン事ヲ望ム、形式ニ因レズ誠心誠意事ニ當ラバ、本市ノ事業ハ今少シク立派ニ遂行シ得ベシト考フ、然ルニ市長竝ニ理事者ニハ誠意ノ片鱗ダモ認ムル能ハザルガ如ク考ヘラル、ガ、今少シク誠意アル具體的ノ答辯アラン事ヲ望ムト質シタルガ、理事者ヨリ答辯ナク、佐伯君ハ三度ビ立テ、昭和九年ニ起リタルガ如キ不祥事ガ今後惹起スル事アラバ、其ハ市長竝ニ理事者ノ不誠意ナル態度ニ基因スルモノナルヲ銘記セラレン事ヲ希望シ、本員ノ質問ハ茲ニ打切ルベシト述ベタリ。

越エテ六月二十六日ノ會議ニ於テ、細田綱吉君モ質問ヲ試ミテ曰ク、第一、大久保現助役ハ「ボス」ノ推薦スル後任市長ニ對シテ、自己ノ留任運動ヲ爲セリト新聞紙ハ報道セリ、事實果シテ如何。第二、後任市長決定後、大久保助役ニ對シテ市長ヨリ留任ノ勸告アリタル場合、大久保氏ハ留任ノ意志アリヤ否ヤ。第三、東京市政ヲ禍セル所謂「ボス」ノ勢力ハ、市民ノ鋭キ監視ノ下ニ漸次凋落ノ運命ヲ迎リツ、アルガ、牛塚市長退任後在任五十有餘日ヲ經過セル今日、尙ホ其決定ヲ見ザルハ、東京市ニ市長銓衡ノ能力ナシトテ、都長官選ニ拍車ヲ懸クルガ如キ結果ヲ招來スル事ナ

キヤヲ市民ハ憂ヒツ、アリ。然ルニ大久保助役ハ市長選舉ニ關聯シテ明躍、暗躍ヲ爲シ居レリト聞ク、果シテ然ラバ大久保助役ノ行動ハ市民ノ憂フル都長官選ヲ促シ居ルモノト考ヘラル、ガ、助役ノ所見如何。次ニ一言松永議長ニ質サント欲ス、新聞紙ノ報ズル所ニ據レバ、議長ハ議長室ニ於テ某團體ノ人々ニ對シ、土岐氏ハ官僚ノ惑星タル平沼樞密院議長ノ推薦シタル人物ナリト語リタリト、果シテ然ルヤ否ヤ、若シ事實ナラバ、土岐推薦ノ真相ハ果シテ如何。市長ノ銓衡ヲ紛糾セシメ、是レガ決定ヲ遷延セシメタルハ、「ボス」介在ノ結果ナル事ハ何人モ熟知ノ事柄ナルガ、松永議長ニシテ眞ニ市政革新ノ熱意アラバ、「ボス」ノ妨害行爲ヲ市民ニ懇ヘ、市民ト共ニ「ボス」排撃ニ努力スベキニアラズヤト考ヘラル、ガ如何。最後ニ、本日ノ議事日程中市吏員ノ生活ニ密接ナル關係ヲ有スル議案尠カラズ、斯ル緊急ヲ要スル議案アリシニ拘ラズ、今日マデ市會ヲ開カザリシハ如何ナル理由ナリヤト。大久保助役先ツ答ヘテ曰ク、當職ニ關スル質問ノ如キ事實ハ全然之レ無シ、從テ當職ノ所見等ニ就テハ、如何ヤウニ答辯セバ可ナリヤ、答辯ノ辭ニ窮スト。次イデ松永議長ハ、過日某團體ノ代表者五名ガ議長室ニ來訪アリテ、「ボス」ノ支持スル土岐氏ヲ市長ニ推薦セントスルハ不可ナリ、仍テ此ノ如キ人物ハ市長ニ推薦スベカラズト勸告セリ、然ルニ新聞紙等ノ傳フル所ニ據レバ、市長トシテ相當手腕力量アル人物ナリトモ云ヒ、又平沼氏等モ推薦シ居ル人物ナリトノ噂モ聞ケリ、故ニ當職トシテハ其何レヲ信ジテ可ナルヤヲ俄ニ斷ズル能ハザリシヲ以テ、某團體ノ代表者ニ對シテ、勸告ノ要旨ハ承リ置クベシト答ヘテ會見ヲ終レリ、宇垣大將ニ就テモ毀譽褒貶區々ニシテ、其真相ヲ確實ニ把握スル能ハズ、要スルニ「ボス」トノ醜關係アル人物ニシテ、市政ヲ蠱毒スルガ如キ事實アラバ、是レガ排斥ニハ當職ハ人後ニ落ツル者ニアラズト答フ。細田君再ビ立テ、助役竝ニ議長ノ答辯ニハ満足スル能ハザルモ、本員ノ質問ハ此ノ程度ニテ打切ルベシ、但シ助役ニ對シ尙ホ一言質サント欲ス、新市長決定就任後、大久保氏ニ對シテ助役留任ノ交渉アラバ、大久保氏ハ留任ノ意志

アリヤ否ヤ、暗キ存在タル大久保氏ノ助役留任ハ市民ノ欲スル所ニアラザルモ、其心境ヲ確メ置カント欲スト質シタルニ對シ、**大久保助役**ハ、其ハ、其場合ニ望ミテ考慮セント欲スト答ヘタリ。引續キ**中村高一君**ハ、小河内貯水池問題ハ市參事會ニ於テ既ニ第二次土地買收モ決定シタルガ、村民ハ大會ヲ開キテ之レニ反對シ、場合ニ依リテハ該土地ヲ死守セントスル悲壯ナル決意ヲ爲セリト新聞紙ハ報道セリ、而シテ市理事者中ニハ硬軟兩様ノ意見アリト聞ク、村民ガ縱ヒ如何ナル強硬ナル反對意見ヲ有スルモ、理事者ハ彼等ニ對シテ同情アル態度ヲ以テ臨マレン事ヲ希望ス。借テ本員ガ先ヅ市理事者ニ質サント欲スルハ、本市ガ堰堤ヲ築造セント欲スル地域ニ於テ、最近小河内村長ヲ始メ其他ノ者ガ其地域ヲ買收シ、飽迄東京市ノ買收ニ反對ノ行動ヲ執リツ、アリト聞ク、果シテ然ルヤ否ヤ。其買收程度ハ幾許ナリヤ。然リ而シテ多年住ミ慣レタル土地ヲ湖底ニ沈メテ去リ行カザルベカラザル村民ノ精神上ノ苦痛ニ對シ、市理事者ハ如何ナル考ヲ有セリヤトノ二點ナリ。蓋シ三多摩人ハ相當血ノ氣ノ多キ人々ナルガ故ニ、市理事者ガ土地收用法等ニ據リテ買收ヲ強行セントセバ、或ハ由々シキ問題ヲ惹起スル事ナキヲ保スル能ハザルヲ憂フレバナリ。次ハ人事問題ナルガ、東京市役所ヘハ「ボス」ノ後援ナクンバ容易ニ入市スル能ハザルハ勿論、入市後モ立身出世ハ不可能ナリトノ不平ヲ市吏員ノ口ヨリ聞ク事一再ナラズ、然リ而シテ東京市政上ノ「ボス」トシテ隠レナキ人ノ弟ト稱スル人物ガ、入市後幾許モナクシテ課長ニ榮進シタル事實アリトモ聞ク、若シ夫レ市理事者ガ「ボス」ノ力等ニ動かササル、ガ如キ事アラバ、洵ニ悲シムベキ事ト考フ、仍テ理事者ハ人事ニ關シ、斷ジテ「ボス」ノ力ニ由テ動かサル、者ニアラズトノ毅然タル答辯アラン事ヲ望ム。尙ホ過般市會議員總改選ノ際、而モ市長ノ任期將ニ終了セントスル際、全市百數十名ノ小學校長ヲ一時ニ異動セシメタルハ如何ナル理由ナリヤ、此ノ異動ニ對シ、帝都教育會、東京府立師範學校同窓會、東京市小學校教員會、東京市小學校長會ト稱スル本市教育界ニ於ケル有力團體ハ、何レモ舉テ反對ノ聲明書ヲ發

表セリ、仍テ吾々教育ニ關係ナキ者モ或種ノ疑念ヲ抱カザルヲ得ザルニ至リ、爲ニ教育當局ニ對シテ敢テ此ノ質問ヲ爲ス所以ナリト質シ。**大久保助役**ハ、小河内土地買收問題ハ事重大ナルガ故ニ、工事遲延ノ非難ヲ蒙リツ、モ、尙ホ慎重ニ慎重ヲ重ネ居ル次第ニテ、充分同情ヲ以テ善處セント欲ス。人事問題ニ就テハ、幾萬ヲ算フル市吏員全部ニ満足ヲ與ヘ兼ヌル事アルヤモ知ルベカラズト雖モ、公正ナル人事ヲ行フヤウ心懸ケ居レリト答ヘ、教育局長**伊藤昌庸君**ハ、本年三月ニ行ヒタル小學校長ノ異動數ハ百四十四名ヲ算スルモ、全市ノ小學校長數ハ六百名近キ多數ニ達ス。而シテ異動ヲ行ヒタル趣旨ハ、第一、全區職員配置ノ改善、第二、沈滞セル空氣ヲ一掃シテ生氣ヲ有セシメント欲シタル事、第三、優秀ナル教員ノ拔擢等ニ在リ、尙三月ニ之ヲ行ヒタルハ、教育當局ノ立場トシテハ第三學期ノ終リニテ、異動ヲ行フニ好時期ナリシニ因ル。四團體ノ聲明書ハ吾々ノ手許ヘ公式ニハ送達サレ居ラズ、仍テ此ハ總會等ヲ開キタル結果ニ據ル各團體ノ意志ヲ代表シタモノナリヤ否ヤニ就キ調査中ナルガ、左様ノ手續ハ執リ居ラザルモノノ如シ、而モ其内容ハ將來ノ希望ヲ述べタルニ過ギズシテ、當局ノ執リタル措置ニ反對シ居ルモノニアラズト答ヘタリ。次ニ**糟谷磯平君**ハ、第一、東京市債ハ現在拾億近キ鉅額ヲ算ス、此ノ内低利資金融通時代ニ借換ヲ爲シタルハ僅僅貳億圓近キ額ニシテ、殘餘ノ八億圓内外ハ、日歩利ノ高率ナルモノニシテ、其利率ハ大阪、名古屋、神戸等ノ市債ニ比シ遙ニ高率ナリ、東京市以上ニ財政困難ナル橫濱市スラ、東京市ニ比シテ低利ノ資金ヲ使用シ居レリ。東京市ノ貸地ハ五十三萬餘坪ニシテ、其價格ハ壹億圓近キ金額ニ上ル、此ノ土地ノ借地人ハ三千人ニシテ、内五百人近キ人々ハ建物ヲ建設シテ之ヲ他ニ轉貸シ、由テ以テ年額參千圓ヲ利得シ居リ、而モ彼等ハ壹錢壹厘ノ税金ヲモ本市ニ支拂ハザルナリ。昭和六年市有地貸付條例改正以來、地代ノ自然增收ハ僅ニ拾五萬圓ニ過ギズシテ、而モ徵稅費トシテ本市ガ支拂ヒタル金額ハ約四拾萬圓ノ増額ナリ、徵收スル金額ニ比シ支出スル金額ガ超過シ居リテハ、東京市ハ財政的ニ

到底立行クベキ筈ナシ。自轉車稅等ノ少額滯納者ニハ、直ニ強制執行ノ上自轉車ノ競賣等ヲ行ヒ居ルニ拘ラズ、地代ノ滯納者ニハ、僅ニ金參拾錢ノ督促料ヲ附加スルニ過ギズ、加之、場所ニ依リテハ五十坪ノ地代ヲ支拂ヒテ、千坪、二千坪ヲ無賃ニテ使用シ居ル者スラアリ、日比谷公園内ニ於ケル借地人ノ如キハ其近キ一例ナリ、本市財政當局ハ是等ヲ整理シテ、財政ヲ立直ス考ヘナキヤ否ヤ。第二、最近方面委員六百名ヲ増員セルガ、此ノ方面委員中ニハ、選舉ノ際有權者ヘ無料診療券ノ配布ヲ爲セル者アリ、又不幸アル家庭ヘ弔慰金ノ贈呈等ヲ行ヒ、以テ巧ニ選舉違反ニ間ハレザルヤウ表面ヲ裝ヘル者アリ、或ハ方面委員ノ業務ハ番頭ニ一任シ、自己ハ其實務ニ携ラズシテ、而モ方面事業記念日ニハ必ズ表彰サレ居ル人々アリ、其數本員ノ知ル限リニ於テ六七名アリ、此ノ中ニハ畏多キ方面ヨリ表彰サレ居ル人物モアリ、方面委員改革ノ爲、本員ハ之ヲ默視スル能ハザルヲ以テ、表彰サレタル方面委員ノ氏名ヲ書面ニ認メ、之ヲ議長ノ手許ヘ提出セラレン事ヲ社會局長ニ望ム。第三、家賃貳拾五圓ヲ支拂フ家屋ニ生活シツ、**「カード」**階級ト稱シテ市ヨリ補助ヲ受ケ居ル者尠カラズ、甚シキハ間貸ヲ爲シ家賃トシテ自己ガ支拂フ以上ノ收入ヲ得居レルニ拘ラズ、救助ヲ受ケ居ル者スラアリ、又登録労働者中ニハ既得權ト稱シ、夏期地方ニ赴キテ耕作ニ從事シ、冬期ハ東京ニ來リ、登録労働者トシテ職ヲ得、斯テ眞ノ失業者ノ職ヲ奪ヒ居ル者アリ、市理事者ハ是等モ改革整理スル意思ナキヤ否ヤ。第四、小河内水道ノ取入口附近ノ人家ハ何レモ**「バラック」**ニシテ、殊ニ便所ノ設備ハ甚ダ不完全ナリ、從テ汚水ハ勿論、尿尿等ガ上水ニ流入スル虞アリ、市當局ハ何故取入口ヲ他ノ適當ナル位置ニ選定セザリシヤ。第五、本市名譽職ノ地位ニ在ル某夫人ガ、過般執行サレタル市會議員選舉ノ際、選舉違反ノ行爲アリトテ警察署ヘ召喚サレントスルヤ、之レガ回避策トシテ、病人ニアラザル同夫人ヲ病人ナリト稱シテ、廣尾病院ニ入院セシメタル事實アリ、此ハ明ニ入院規程ヲ無視セル行爲ト云ハザルベカラズ、市當局ハ何故之ヲ取締ラザルヤ。尙ホ市立病院ノ賄ノ

粗惡ナルハ公知ノ事實ナリ、然ルニ監督ノ任ニ在ル者ガ其改善ヲ行ハントスル意思ナキモノ、如シ、甚シキハ某名譽職員ガ他人名儀ニテ、江東病院ニ於テ蒲團ノ損料貸ヲ爲シ居ル事實アリ、市理事者ハ何故之ヲ取締ラザルヤ。第六、乗合自動車會社ヨリ道路占用料ヲ徵收スベシトノ建議案ガ過日ノ市會ヘ提出サレントシタルガ、會社ノ猛烈ナル反對運動ノ爲沙汰止ミトナレリ、然レ共乗合自動車會社ハ本市ノ道路ニ莫大ナル損害ヲ與ヘツ、八百萬圓程度ノ利益ヲ擧ゲ居レリ、仍テ本市ハ之レニ對シテ道路占用料ヲ徵收スベキ必要アリト考ヘラル、ガ、財務局長ノ所見如何。第七、市會議員ノ歳費問題ニ就キ廉不廉ヲ論ズル者アルモ、本員ハ歳費ノ廉不廉ハ問題ニアラズシテ、議員ノ出缺ガ問題ナリト考フ。市會ニハ殆ド出席セズシテ、精勤者ト同一歳費ヲ得居ル人アリ、此ノ如キハ甚ダ穩ナラズト考フ。仍テ市會開會數三分ノ一以上缺席シタル人ハ、自發的ニ歳費ヲ辭退スルモ可ナリ、理事者モ亦三分ノ一以上ノ缺席者ニハ、如何ナル理由アルモ歳費ヲ支拂ハズトノ條例等ヲ制定スル意思ナキヤ否ヤ。要スルニ本員ハ今日マデ**「ボス」**ノ如何ナル者ナリヤヲ知ラザルガ、以上七項ニ互リテ本員ガ述べタル事實ニ就キテ改革ヲ行フ事ガ市政革新ノ先決問題ナリト考フ、本日ハ未ダ新市長ノ決定ヲ見ザルガ故ニ、全部ニ對スル答辯ハ後日ニテ可ナルモ、多摩川上流ニ於ケル**「バラック」**問題、糞尿問題、病院貸蒲團問題等ニ就テハ、本日此ノ席上ニ於テ答辯アラン事ヲ望ムト述べ。水道局長**原全路君**ハ、市民ノ飲料水タル多摩川上水ノ汚染防止ニ就テハ、萬全ヲ期シ居レルガ、小河内貯水池ニ就テモ、工事ノ進捗ニ從ヒ、多數ノ人ノ入込ミ來ル事ハ豫想セラレ、上水ノ汚染セラル、虞アル事ハ質問者ノ意見ノ如クナルヲ以テ、左様ノ虞ナキヤウ充分ナル施設ヲ爲サント欲スト答ヘ。財務局長**平山泰君**ハ、市有地賃貸料問題ニ就テハ從來種種ノ非難アリシヲ以テ、調査委員會條例ヲ設ケ、市會議員竝ニ市民中ヨリ此ノ方面ニ知識經驗ヲ有スル人々ヲ選定シ、是等ノ人々ニ毎月一回土地ノ評價ヲ請ウテ、借地料ヲ決定スル事トナセリ。然レドモ實際ノ運用上、或ハ尙ホ遺

憾ノ點アルベシト考ヘ居レリ。昨日モ市有地ニ關スル調査委員會ヲ開キタルガ、今後モ委員長始メ委員諸賢ニ充分ノ檢討ヲ請フ事トシタルガ故ニ、將來ハ遺憾ノ點モ漸次減少スベシト考フ。乗合自動車會社ニ對スル道路占用料トハ、道路損傷負擔金ノ事ナルベシ、此ハ重大問題ニシテ、負擔金徵收ニ關シテハ未ダ内務省ノ許可ヲ得ル運ビニ至ラザルガ、將來ノ問題トシテ充分考慮セント欲ス。市會議員ノ費用辨償問題ニ就テモ種々議論アリ、是レ亦將來充分注意セント欲スト答ヘ。保健局長宮川宗徳君ハ、病院ノ使用料條例勵行ニ就テハ、從來モ相當努力シ來リタルガ、糟谷氏注意ノ點ハ充分調査ノ上、今後一層徹底セシメント欲ス。賄ニ就テモ相當改善ヲ加ヘ來リタル考ヘナルガ、此ノ點モ今後一層改善ニ努力スル考ヘナリ。貨蒲團供給其他ノ事柄ニ就テモ、調査ノ上是正スベキ點アラバ、之ヲ是正セント欲スト答ヘ。糟谷君更ニ、市有地賃貸料調査委員會ハ毎月一回集合協議シツ、アリト云フト雖モ、請託評價ヲ爲セル事實尠カラズ、本日其實例ヲ此ノ席上ニ於テ詳述スル邊ナキハ遺憾ナルガ、市理事者ハ此ノ委員會ヲ將來改革スル意思アリヤ否ヤ。保健局長ノ答辯ハ本員ノ質問ノ趣意ニ副ハザル點アリ、病院ヨリ病人ニ給スル粥ハ、治癒シ得ベキ病氣モ治癒セシメ得ラレズシテ、死ヲ招カシム。保健局長ハ此ノ席上ニ於テ、病人ニハ充分榮養ヲ與フベシト誓ヒ得ルヤ否ヤ、尙ホ病院ノ賄ハ市ノ直管ト爲スベキガ至當ナリト考ヘラル、ガ、之ヲ爲サバルハ如何ナル事情アリテノ事ナリヤト質シタルモ、此ノ質問ニ對シテハ理事者ヨリ答辯ナカリキ。

十月二十八日ノ會議ニ於テ高梨二男君モ市理事者ニ問ウテ曰ク、第一、今次ノ日支事變ハ大和民族ノ興亡ヲ賭セル重大事件ニシテ、出征將士ノ勞苦ハ吾々ノ想像以上言語ニ絶スルモノアリ、從テ是等出征將士ヲシテ後顧ノ憂ナカラシムベク、銃後ノ救援ハ、吾々國民ノ第一ニ行ハザルベカラザル任務ナリ、東京市ニハ東京出征將士後援會ト稱スルモノアリ、此ハ昨年五月北滿警備將士ノ慰問ニ重點ヲ置キテ成立シタル團體ニシテ、其後日支事變ノ擴大ト共ニ、會名

ヲ前陳ノ如ク改稱シ、一般市民ヨリ約五拾萬圓ノ寄附ヲ仰ギ、由テ以テ銃後諸般ノ救護ヲ爲サントスル其趣意ハ、吾吾ノ双手ヲ擧ゲテ贊成スル所ナリト雖モ、救援方法ニ關シ不合理ノ點アルハ甚ダ遺憾ナリ、出征將士中ノ三割ハ、家族ノ生計困難ナル人々ナルガ、是等ノ人々ニ對シテハ軍事扶助法ノ制定アリト雖モ、此ノ軍事扶助法ニ據レバ、事實ノ如何ニ拘ラズ戶籍上不完全ノ點アル場合ハ、其家族ガ如何ニ困窮シ居ルモ、救援ノ恩典ニ浴スル能ハザル不備アリ、即チ生計困難ナル出征軍人ノ六割ハ、軍事扶助法ニ據リテ扶助サレ居ルモ、他ノ四割ハ、戶籍上其他ノ關係ニテ、應召者ハ他ノ戰友ト勞苦ヲ共ニシ、辛酸ヲ同ウシツ、アルニ拘ラズ、其家族ハ救援ノ恩典ニ浴セザルナリ、而モ東京出征將士後援會ハ、軍事扶助法ニ據リテ扶助サレ居ル家族ニハ、家族保護金ト稱スル名目ニテ金拾圓宛贈呈シ居ルモ、然ラザル家族ニハ贈呈シ居ラズ、元來東京出征將士後援會ハ法律ニ據リテ組織サレタル團體ニアラズ、故ニ軍事扶助法ノ不備ヲ補ヒ、生計困難ナル出征軍人家族ニ對シテハ、平等ニ家族保護金ヲ支出スベキガ當然ノ措置ニアラズヤ、然ルニ東京出征將士後援會ハ事茲ニ出デズ、何故支出セズヤト追究セバ金額ナキガ故ナリト云ヘリ、此ノ後援會ニハ東京府ト東京市トヨリ一箇年壹千圓宛ノ補助アル筈ナルガ、是レガ増額ヲ計ルモ可ナルベク、又更ニ一般市民ニ事情ヲ愬ヘテ寄附ヲ勸奨スルモ可ナルニアラズヤ、市理事者ハ此ノ生計困難ナル出征軍人ノ家族ニ對シ、平等ニ甲乙ナク扶助スベキ何等カノ方法ヲ考慮シ居レリヤ。今次ノ日支事變ハ上海攻略戰ヲ以テ終局スルモノニアラズ、支那軍ガ今日マデニ四十二萬ノ死傷者ヲ出シテ尙ホ頑強ニ抵抗シ居ル背後ニハ、英露ノ援助アル事ヲ知ラザルベカラズ、從テ吾々ハ今次ノ事變ニ對シ、今後二年、三年ノ長年月ニ亘リ、銃後ノ護ヲ一層強化セシメザルベカラズト考フルト共ニ、生計困難ナル出征軍人遺家族ニ對シテモ、扶助ニ頼リテ生計ヲ維持スルガ如キ依頼心ヲ助長セシメズ、獨立自營セシムルヤウ適當ナル方法ヲ講ズベキナリ、此ノ事ニ關シテハ是非共各區ニ於テ、一區一箇所以上ノ授産場等ノ如

キ施設ヲ爲スベキ必要アリト考フ、市理事者ハ此ノ出征軍人遺家族ノ獨立生活助成策ニ對シ、之レガ實現ヲ期スル勇氣アリヤ否ヤ。尙ホ出征兵士ノ家族救援事業ハ、全國中東京市ガ最モ擴大サレ且ツ充實シ居ルガ如キモ、之レガ統一ナキハ遺憾ナリ。過般本市ヨリ頒布サレタル「パンフレット」ニ見ル如ク、商工業者ニシテ其中心人物ガ出征シタル爲ニ生活困難トナリタル者ハ、産業界ノ商工相談所ニ赴クベシ、農業ニ従事セル者ハ農漁課農務係へ、水産業者ハ同課水産係へ來ルベシトアリテ、毫モ統一ナシ、出征兵士家族救援ニ關スル事務ハ市ノ何レノ係ニテ之ヲ取扱ヒ居ルヤヲ考フルニ、教育局ノ如ク考ヘラル、點アルモ、性質上社會局ナルガ如クモ考ヘラル、然レ共水道ニ關スル事柄ハ社會局ニテハ用ヲ辨ゼザルナリ。事變ハ今後尙ホ長期ヲ覺悟シ、銃後ノ完璧ヲ期スル上、是非共東京市關係救援事業ノ統制機關ヲ設置スベキ必要アリト考フ、市理事者ノ所見如何。第二、東京市一般勞働者失業應急事業費總額ハ、從來壹千五百拾五萬貳千參百參拾參圓ナリシガ、今次ノ支那事變ニテ五百八拾萬圓ヲ半減サレ、國庫補助金ハ百六萬五千圓ナリシガ、五拾貳萬圓ニ減額サレタリト聞ク、然リ而シテ此ノ失業救済費中、從來一箇年間ノ勞力費ハ貳百八拾六萬八千參百四拾五圓ナリシガ、百四拾五萬五千九百圓トナリテ、百四拾萬圓ノ減額ヲ示セリ。現在東京市ニ於ケル登録勞働者數二萬人ニシテ、紹介所ニ赴ク者ハ一萬二三千人、而モ此ノ中實際就勞スル者ハ七千人程度ナリト聞ク。一日七千人ノ就勞者トシテ、百四拾萬圓ノ減額ハ百日間ノ就勞減トナリ、現在一箇年間ヲ通ジテ百八十日ノ就勞ナリシ本市ノ登録勞働者ハ、今後僅々八十日ノ就勞ヲ爲シ得ルニ過ギズ、勿論今日一般國民ハ大ナル犠牲ヲ覺悟シ居レリ、然レドモ悲惨ナル生活ヲ爲セル登録勞働者ガ辛ウジテ得ル二椀ノ食、其一椀ヲ奪ハザルベカラザル程、今日我が國ノ經濟狀態ハ行詰リ居レリヤ、内務省、大藏省等ノ更僚ガ一日二椀ノ食ニテ今日餓ヲ忍ビ居レリトセバ、失業救済事業費ノ此ノ削減ニ對シ、吾々ハ涙ヲ揮テ之レニ賛成セザル能ハズト雖モ、彼等ハ自己ノ生活ニ就テハ殆ド何等ノ切詰ヲ

モ行ハズシテ、失業勞働者ノ生活ヲ極度ニ困憊セシメントス、此ノ如キハ國民精神總動員ノ上ヨリ考フルモ、吾々ハ斷乎之レニ反對セザル可ラズ、仍テ敢テ問フ、市理事者ハ内務省、大藏省等ノ勝手氣儘ナル削減ニ對シテ、如何ナル對策ヲ講ジタリヤ、而シテ市理事者ハ昭和十二年度ノ失業救済事業ヲ今後如何ニシテ執行スル考ヘナリヤ。第三、東京市ニ於ケル社會事業ハ、社會事業要覽等ニ據レバ、方面事務所ノ設置モアリ、方面委員モ二千數百名ノ多數ヲ算シ、外見上甚ダ整備シ居ルガ如クナルモ、此ノ方面委員ガ總テ社會事業ノ性質ヲ眞ニ理解シ居レリヤ否ヤ、小橋市長ハ就任ノ挨拶中ニ、市民ハ家族、市ハ一家ト云ヘリ、本市六百萬市民中保護ヲ要スベキモノ六十七萬七千人ヲ算ス、此ノ要保護者ニ對シ、彼等ヲシテ眞ニ自力更生セシムベク、市民ハ家族、市ハ一家トノ趣旨ニ副フ熱意ヲ市理事者ハ有セリヤ、過般園兒十名ヲ燒死セシメタル淺草同情園ノ慘事ハ、獨リ園主酒卷テルト云ヘル者ノ責任ニアラズシテ、設備不完全ナル同園ニ四十數名ヲ委託セル本市ニモ重大責任アリト考フ、蓋シ設備不完全ナル同園へ要保護兒童ヲ委託シタルハ、或ハ費用ノ關係モアルベシ、一九三二年ニ於ケル「ロンドン」市ノ社會事業費ハ總豫算額ノ三十「パーセント」、一九三五年ニ於ケル「ベルリン」ノ社會事業費ハ三十二「パーセント」、一九三三年「パリ」ノ社會事業費ハ二十九「パーセント」ナルニ、昭和十二年即チ一九三七年ニ於ケル東京市ノ社會事業費ハ壹千七百萬圓ニシテ、總豫算額參億六千萬圓ニ對スル比率ハ、僅々〇・〇四七七ニ過ギズ、斯テハ當局ノミヲ無責任トシテ責ムル能ハズ、吾々モ亦其責任ノ一端ヲ擔ハザルベカラズ。兎ニ角文化ノ發達ニ從ヒ、社會施設モ之レニ伴フヤウ擴張ヲ圖ラザルベカラズト考フ、市理事者ノ所見如何。第四、東京市ニ於ケル一箇年間ノ結核死亡者ハ、推計一萬二千人ニシテ、結核患者ハ其十倍ナリト云ヘリ、勿論此ノ結核患者數ハ學者ノ推定ニシテ、實數ハ二十萬ナリヤ將タ三十萬ナリヤハ、之ヲ確實ニ知ル能ハザル實狀ナルガ、小學兒童七十萬人中、結核患者ハ九萬數千人ヲ算ヘ、昭和十二年度ニ於テ二萬五百人ノ徵兵

適齡者ニ對シテ陸軍當局ガ體格検査ヲ行ヒタル結果、千二百十八名ノ結核患者ヲ算ヘタリト云フ。殊ニ戰時體制下ニ於テ、工場労働者中ノ結核病患者ハ頗ル増加セリト聞ク、兎ニ角一箇年約一萬二三千名ノ結核死亡者ニ對シ、野方療養所其他公私ノ施設全部ヲ含メテ、結核患者ノ「ベッド」ハ約三千五百ヲ算スルニ過ギズ、斯レハ如何ニ結核撲滅ノ「ホスター」ヲ幾萬ノ箇所ニ貼附スルモ、結核ハ斷ジテ撲滅セシムル能ハズ、東京市結核豫防事業要覽ヲ見ルニ、調査ノ行届キタル點ニハ謝意ヲ表スルモ、調査ノミニテ具體的對策ヲ講ズルニアラズンバ、是レ亦結核ヲ防遏スル能ハズ、本年ノ春季ナリシト覺ユ、結核患者七百八分ノ「ベッド」増設計畫案ガ市會ノ協賛ヲ經タル筈ナルガ、此ハ其後幾許ノ程度マデ進行シタリヤ、要スルニ本員ノ質問ハ、戰時體制下ニ於テ銃後ノ護ヲ更ニ強化セシムル上ニ於テモ、市理事者ニ對シテ能フ限リノ力ヲ致サレン事ヲ希望スルモノナルヲ一言附加シ置カント欲スト。此ノ質問ニ對シ、社會局長澤逸與君先ヅ答ヘテ曰ク、軍事扶助法ノ適用ヲ受ケザル者ニ對シテハ、軍事扶助地方委員會ノ扶助ヲ受クベク、尙ホ不足ノ場合ハ、方面救助規程ニ據ル救助金ヲ配付スル事トナリ居リ、現ニ各區役所ニ其豫算ノ増配ヲ爲セルガ、軍事扶助法ノ適用ヲ受ケザル者ハ極メテ少數ニテ、百人中一人程度ノ割合ナリ、兎ニ角社會局ニ於テハ本問題ニ關スル豫算増配等ノ徹底ニ努メ、扶助ニ萬遺算ナキヲ期セント欲ス。銃後強化ノ爲ノ授産事業ハ、市理事者ニ於テモ擴大ノ必要アリト考ヘ居レリ。救護事業統一機關ノ設定ニ就テハ、目下立案中ナリ。失業應急事業費ハ目下内務省ニ於テ種々査定中ニシテ、未ダ何等ノ通知ニ接セザルガ、縦ヒ半減サ、ル事アルモ、現在失業登録者ノ多數ハ民間事業ニ備ハレ居リテ、本市ニ來ル者ハ從來ノ半數ニ減ジ居ル状態ナルガ故ニ、労働者ニ對シテ大ナル不便ハ感ゼシメザルベシト思惟ス。本市ノ社會事業ハ今後一層實績ヲ擧グルヤウ努力セント欲スト。次ニ保健局長宮川宗徳君ハ、市會ノ協賛ヲ經タル敷地千二百坪、七百人ヲ收容スベキ療養所ノ建設費昭和十一年度豫算案ハ、既ニ監督官廳ノ起債認可ヲ得、目下

敷地ノ選定中ナルガ、之レガ決定アリ次第土地ヲ買收シテ建築ニ著手スベシ、建物ハ木造ニシテ、凡ソ半箇年程度ノ日子ニテ竣成ノ見込ナリ、尙ホ十二年度豫算ニ於テ、二箇年繼續事業トシテ五百名ヲ收容スベキ少年専用ノ療養所二箇所建設ノ豫定ナルガ、此ノ分ノ起債書類ハ、目下内務省ヨリ大藏省ニ廻送中ニテ、是レ亦遠カラズ認可アルベク、認可アリ次第速ニ建設ニ著手スベシト答フ。高梨君更ニ、軍事扶助法ノ適用ヲ受ケザル者ハ極メテ少數ナリトアラバ、出動將士後援會ヨリ支出スベキ家族救護金ノ給與ハ困難ナリトノ理由トハナラズ、從テ市當局ハ之ヲ給與スル意志アリヤ否ヤ。失業應急事業費ハ半減サル、モ、失業労働者ハ民間事業ニ備ハレ居ルガ故ニ、彼等ニハ不便ヲ感ゼシメズトノ確信ガ市理事者ニアラバ則チ可ナリ、若シ夫レ今後失業労働者ガ今日以上ニ生活困難ヲ訴フル事アラバ、其ハ市理事者ノ責任ナル事ヲ銘記セラレン事ヲ望ム。保健局長ノ答辯ハ、七百人ヲ收容スベキ結核療養所ハ木造建ナルガ故ニ、明年六月頃竣成シテ患者ヲ收容シ得ベク、少年療養所ノ竣成ハ明年全一箇年ヲ要ストノ意ナリト解シテ可ナリヤト質シタルニ對シ、社會局長ヨリハ何等ノ答辯ナク、宮川保健局長ハ、七百名ヲ收容スベキ分ハ敷地ノ決定次第工事ニ著手スル豫定ナルガ故ニ、此ハ竣成速ナルベキモ、少年療養所ハ二箇年繼續事業ノ豫定ナルガ故ニ、明年全一箇年ノ日子ヲ要スル見込ミナリト答ヘタリ。次デ阿部茂夫君ハ、本市ノ所有地ハ賣却スル方針ナリヤ、將タ貸與ノ方針ナリヤ、而シテ貸付ヲ爲シタル土地ニ對シテノ成績ハ如何ト質シタルニ對シ、平山財務局長ハ、本市所有ノ土地ニハ、一般市有地ト港灣部ニ於テ管理シ居ル土地トアリ、而シテ大體公用ニ使用シ居ラザル土地ハ、賣却スベキハ賣却シ、貸付クベキハ貸付クル方針ニテ、起債ノ償還財源等ニ充當セル分ハ、能フ限リ速ニ賣却シ、貸與ノ分ニ就テハ、貸與規程ニ據リテ誤ナキヤウ充分管理セント欲スト答フルヤ。阿部君更ニ、財務局長唯今ノ答辯ニ本員ハ満足スル能ハズ、元來東京市ノ土地問題ニ關シテハ、根本的對策ヲ確立シ置カザルベカラズト本員ハ考ヘ居レリ。明十三年

度ノ豫算編製ニ際リ、内務省ヨリ發セラレタル依命通牒ノ内容ニ據ルモ、本市ノ豫算編製ハ單ニ社會局ノミナラズ、一般方面ニ於テ相當ノ打撃アルベシト推察サル。所謂非常時體制下ニ於ケル戰時經濟ノ餘波ヲ受ケ、本市ノ財政モ亦頗ル困難ナル状態ニ在ルベク、此ノ困難ヲ或ル程度ニ緩和シ、能フ限り東京市ノ事業ヲ中止又ハ極度ノ縮小ヲ爲サバ、ルヤウ市理事者ニ希望スルハ、獨リ議員トシテノ本員一人ノ希望ニアラズシテ、全市民共通ノ希望タルベシト思料ス。仍テ此ノ市民ノ希望ニ副ハント欲セバ、其財源ハ起債ニ頼ルベキカ、増税ニ頼ルベキカ、使用料ノ増額カ、將又東京市ノ所有物賣却カノ四者以外他ニ方法ナカルベシ。本員ハ今夕所有物賣却以外他ノ三者ニ關シテハ、論及スルヲ避ケント欲ス。由來所有物ヲ賣却シテ財源ヲ求ムルハ常道ニアラズト考ヘラル、モ、所謂背ニ腹ハ換ヘラレザル場合ニ遭遇セバ、權道ヲ行フモ亦已ムヲ得ザルベシ。本市所有ノ賣却シ得ベキ土地ハ約七十萬坪、貸與スベキ土地ト既ニ貸與シ居ル土地トノ合計ハ凡ソ五十萬坪程度ナリト本員ハ考フ、兎ニ角豫算編製時又ハ豫算審議ノ際、理事者ハ埋立地ノ賣却ヲ財源ニ計上シタル事一再ナラザルモ、事實埋立地ハ賣却シ居ラズ、埋立地其他本市所有ノ土地ハ、恰モ理事者ガ豫算編製ノ際ニ於ケル手品ノ種トシテ大切ニ爲シ居ルモノ、如シ、市理事者ハ土地賣却ノ手段方法等ニ就テ考慮シタル事アリヤ、貸地ニ就テモ未ダ貸與セザル土地十四五萬坪アルベシト考フ、是等ノ土地ノ貸與方法竝ニ過去ニ貸與シタル土地ノ成績ニ關シ、吾々ノ理解シ満足シ得ル程度ノ答辯アラン事ヲ望ムト質シ。平山局長ハ、質問ノ要旨ハ、明年度豫算編製方針竝ニ起債ノ抑制ニ關スル内務、大藏兩省次官ノ通牒ニ因リ、非常ナル制限ヲ受ケ、場合ニ依リテハ起債ノ認可モナカルベキガ故ニ、新財源ヲ考慮シ置ク必要アリ、從テ土地ノ賣却等ニ就テモ考慮スベキ必要アリト云ヘルガ如ク解セラル、ガ、政府ヨリノ通牒ハ、現下戰時體制時ナルガ故ニ物資ト金圓ト努力トニ就テハ之ヲ統制セザルベカラズ、日本ノ財政方針ハ一切戰時ノ方向ニ集中スベク、地方ニ於テ假ニ餘力アリトスルモ、國家ノ大目

的遂行ノ爲ニハ何レモ同一歩調ヲ執ラザルベカラズト云ヘル趣旨ナリト當職等ハ解シ居レリ、故ニ當職等ハ國ノ目的ガ眞ニ其點ニアラバ、縱ヒ東京市ニ餘裕アリトスルモ國ト同一歩調ヲ執ラザルベカラズト雖モ、萬一國ノ方針ニシテ弛緩スル事アランカ、吾々ハ内務大藏兩省ヨリ如何ニ嚴重ナル通牒アルモ、東京市獨自ノ豫算ヲ編製セザルベカラズト考フ。本市所有ノ廣大ナル土地ニ對シ、根本の方策ヲ確立セザルベカラズトハ當職モ同感ニシテ、將來充分ニ善處セント欲スト答ヘ。阿部君三度ビ立テ、本員ノ質問ノ要旨ハ、明年度豫算ノ辻褄ダニ合ハシ可ナリト云ヘルガ如キヲ前提トシタルモノニアラズシテ、東京市所有ノ土地問題ニ關シ、市理事者ハ如何ナル根本的對策ヲ有スルヤヲ聽カント欲シタルナリ、想フニ本市理事者ノ市有地ニ對スル方策ハ極メテ杜撰ニシテ、同時ニ集約的ニ考ヘ居ラザルガ如シ、其最モ甚シキ實例ハ、芝高濱町ニ於テ天照園關係ノ内鮮人合計三百五十九人ガ四百七十二坪ヲ不法ニ占據シ居リ、深川區濱園町ニ於テ是レ亦内鮮人六百二十九人ガ千十三坪ヲ、同ジク濱園町ニ於テ別ニ内鮮人二百三十三名ガ二百八十六坪、深川區汐崎町ニ於テモ天照園關係ノ内地人二百五十三名ガ四百九坪ヲ占據シ居レリ、以上ノ總計ハ二千坪程度ノ土地ニ過ギズト雖モ、斯ル不法占據ヲ市理事者ハ永久ニ放任シ置クモ可ナリト考ヘ居レリヤ。更ニ甚シキハ「ゴルフ」練習場問題ナルガ、此ノ「ゴルフ」練習場所在地タル高濱町ハ附近目抜ノ土地ナリ、此ノ土地一萬四千七百八十坪ヲ僅々五百圓ノ手附金ト一坪八厘ノ地代ニテ貸與シ居レリ、而モ借地人ハ加藤タケト云ヘル婦人ナリ、此ノ婦人ハ待合業ヲ經營シ居レリト聞ク、婦人ト待合ト「ゴルフ」ト、此ノ關係ハ東京市ニ如何ナル因縁アリヤ、本件ハ昨今起リタル問題ニアラズ、貸付ヲ爲シタルハ昭和九年ニシテ、高濱町附近ノ土地ハ時價坪四五拾圓ヲ稱フ、然ルニ此ノ土地ノ借地料坪八厘ナリ、本市中此ノ「ゴルフ」練習場以外、何レノ所ニ坪八厘ニテ借地シ得ル土地アリヤ、本市三十五區ニ於ケル學校敷地ノ借地料スラ、最低ハ其十倍ノ八錢ナリ、殊ニ此ノ「ゴルフ」練習場ハ一時貸ナルガ故ニ、東京市ガ之

ヲ撤收セント欲セバ何時ニテモ撤收シ得ル筈ニテ、本年三月東京市ハ加藤タケニ其返還ヲ要求シタルニ對シ、加藤タケヨリ「目下移轉先物色中ニ有之候間、暫時御猶豫爲シ下サレ度候」ト回答セルガ、一萬四千餘坪ニ互ル廣大ナル一筆ノ土地ニシテ、坪八厘ト云フ土地ハ、東京市内ハ勿論、附近何處ニ物色スルモ、結局移轉先ナシトノ結論ヲ得タリシニ因ルナランカ、本市ガ返還ヲ要求シテ既ニ半歳ニ及ベル今日、練習場ニハ依然トシテ「ゴルフ」ノ球ハ飛ビ居レリ。即チ加藤タケハ平然營業ヲ繼續シテ利潤ヲ得ツ、アルニ拘ラズ、本市ハ指ヲ唾ヘテ之ヲ眺メ居ル實狀ニアラズヤ、斯テ市理事者ハ何ノ面目アリテ市民ニ見エントハスル。尙ホ昭和七年社會局關係ノ手ヲ經、埋立地千十三坪ヲ借受ケテ農園ヲ營メル者ガ、一萬二千坪ヲ不法占據シ居ル事實アリ、斯ノ如キハ匪賊ト雖モ爲サル行爲ナルベシト考フ。社會政策的見地ヨリスル救濟事業ト東京市ノ土地不法占據トハ區別シテ考ヘザルベカラズ、如何ニ住ムニ家ナキ浮浪者、落伍者ナリト雖モ、彼等ニ不法占據ヲ許サバ東京市ノ自治ハ到底行フ能ハザルベシ、市理事者ノ所見果シテ如何。埋立地開發問題ハ當議場ニ於テモ數々問題トナリタルガ、埋立五號地ノ内三萬坪ハ、今回石川島造船所ニ賣却スル契約成立シタリト聞ク、若シ夫レ石川島造船所ガ同所ニ移轉シ來ラバ、其隣接地附近ヲ市理事者ハ今後如何ニ之ヲ利用セントスル考ヘナリヤ。元來前牛塚市長ハ埋立地ニ工場等ヲ建設スル事ニハ賛成シ難シ、蓋シ煤煙ガ宮城方面ニ流動スル事アリテハ畏多キガ故ナリト稱シ、衰龍ノ袖ニ隠レテ埋立地ニ對スル施設方針ノ確立ヲ曖昧ニシ、以テ曠日彌久今日ニ至リ、石川島造船所ニ其一部ノ土地ヲ賣却スルガ如キハ、賣却其事ニ吾々ハ反對スル者ニアラザルモ、市理事者ニ一定ノ方針ナキヲ悲ム。東京市ハ市長助役ノ東京市ニアラズシテ、市民ノ東京市ナリ、從テ市有地ノ處理ニ就テハ確乎不動ノ對策ヲ有セザルベカラズ、少クモ一貫シタル見透ナカルベカラズ、然ラズンハ「ルンペン」ノ生活同様、其日暮ト云ハザルベカラズ、然リ而シテ石川島造船所ハ八百五十萬圓ノ投資ヲ有スル濫澤系ノ會社ナリト記憶ス。昭和

十年度ノ利潤ハ約二割八分ニシテ、八分二厘ノ配當ヲ爲シ居レリ、此ノ會社ニ對シ百五十萬圓ノ賣却代金支拂ヲ今年貳拾五萬圓、明年參拾五萬圓、殘額ノ一萬坪分ニ對シテハ、十五箇年賦ノ便法ヲ許セリ、石川島造船所ニ對シテ既ニ斯ル便法ヲ許ス以上ハ、他ノ何人ニモ同一ノ便法ヲ許ス考ヘナリヤト質シ。澤社會局長ハ、芝浦、深川其他ニ於テ浮浪者ヲ收容セル天照園其他ノ團體ガ從來爲シツ、アリシ借地行爲ハ、當職モ決シテ可ナリトハ考ヘ居ラズ、從テ昨年來其關係方面ト交渉中ニシテ、近ク適當ナル處置ヲ爲シ得ベシト考フト答ヘ。港灣部長鈴木榮一郎君ハ、「ゴルフ」練習場トシテ貸與シタル土地ハ、本年二月當市會ニ於テ賣却スル事ニ議決アルト同時ニ、本市ハ借地人ニ對シテ撤退方ヲ要求シタルニ對シ、借地人ヨリ暫時ノ猶豫ヲ請フ旨ノ回答アリタルハ事實ナリ、何分一萬四千坪ノ土地ニ相當ナル施設ヲ爲シタルモノナルガ故ニ、移轉ニ際シ暫時ノ猶豫ヲ請フ事モ亦已ムヲ得ザル事ト考ヘ、今暫ク先方ノ措置ヲ靜觀セント欲ス。埋立地ノ賣却方法ハ、即金ト年賦トヲ適當ニ土地ノ狀況ニ應ジ、市會ノ協賛ヲ經テ施行セント欲スト答ヘ。阿部君ハ四度立ツテ、日本員ノ質問ハ此ノ程度ニテ打切り、明日尙ホ續行セント欲ストテ質問ヲ留保セリ。斯テ翌十月二十九日ノ會議ニ於テ、阿部君ハ前日ニ引續キ市理事者ニ問ウテ曰ク、東京市ノ埋立地ハ近キ將來ニ於テ約三十萬坪ヲ増加シ、一兩年後ニハ約百萬坪ヲ算スルニ至ルベク、從テ之レガ開發如何ハ本市ニ重大關係ヲ有ス、三邊助役ハ就任日尙ホ淺キガ故ニ、本市ノ事情ハ未ダ知悉セザルヤモ知ル可ラズト雖モ、埋立地開發問題ニ關シテハ、如何ナル所見ヲ有セリヤ。芝浦ノ「ゴルフ」練習場ノ撤廢問題モ、有耶無耶ノ間ニ日時ヲ遷延セシムベキニアラズ、返還ヲ要求シテ既ニ六箇月ヲ經タリ、此ノ上日時ヲ遷延セシムレバ種々解決困難ナル問題ノ派生アルベシ。眞偽ハ保證ノ限リニアラザルモ、傳フル所ニ據レバ、借地人ハ坪ニ對シ五圓ノ地上權ヲ得ラレナバ、何時ニテモ明渡シニ應ズベシト言ヒ居レリト。尙ホ他ノ確實ナル報道ニ據レバ、借地人ハ「ゴルフ」場ノ施設ニ關シ種々ナル工作ヲ爲シタルガ故

ニ、買受人ヨリ坪ニ對シテ拾五圓ノ地上權ヲ得ザルベカラズト言ヒ居レリトノ事ナリ、五百圓ノ「デボジット」ヲ入レ、貳百圓ニテ借受ケタル土地ガ、五箇年ヲ經ザル間ニ坪拾五圓ノ地上權トセバ、莫大ナル利潤ヲ得ベシ、然ルニ東京市ハ是レニ由リテ何ヲカ得タル。港灣部ガ最近坪六拾貳圓ニテ土地ノ賣出ヲ爲セル廣告文中、附近ニ「ゴルフ」練習場モアリト記セリ。此ノ廣告文ニシテ僞リナシトセバ、市會ガ明渡要求ノ議決ヲ爲シタリトハ云ヘ、其實行ハ前途遠遠ナリトモ推察サル、事甚ダ些末ナリト雖モ、宣傳等ニ使用スル文字ニハ充分注意セラレン事ヲ望ム。「ゴルフ」場ヲ借入レタル原因竝ニ理由等ニ就テハ、東京市會ト東京市政トノ名譽ノ爲之ヲ述ブルヲ欲セザルモ、問題ノ背後ニハ、昨日ハ瓦斯ヲ吸ヒ、今日ハ砂利ヲ食ヒ、明日ハ電氣ヲ食ハントスル者アリトノ噂アリ、斯ル不快極ル道聽途説ヲ抹殺スベク、市理事者ノ努力ヲ請ハント欲スルガ故ニ、市理事者ノ「ゴルフ」場ニ對スル態度、昨日日本員ガ陳ベタル土地ノ不法占據ニ對スル處置竝ニ埋立地開發ニ關スル具體的方法、假令バ之ヲ工業指定場ト爲スカ、或ハ歡樂境ト爲スカ、將又防空防衛等國策上ノ立場ヨリ考フベキ必要ナキカ等ニ關スル見透ニ就キ、更ニ市理事者ノ説明ヲ煩ハサント欲スト。助役三邊長治君答ヘテ曰ク、市有地ノ管理處分、殊ニ埋立地ノ開發ニ就テハ一定ノ方針、一定ノ方策ニ據リテ、適切ナル處置ヲ講ゼザルベカラズト云ヘル阿部氏ノ意見ニハ同感ナリ、當職モ就任以來埋立地ノ地域決定ニ就キ篤ト考慮ノ上、既ニ處理案ヲ決定シテ內務省方面ヘ進達シタルガ故ニ、近ク都市計畫委員會ノ決定ヲ見ルニ至ルベク、此ノ地域決定モ埋立地開發ノ一端タリ得ベシト考フ。具體的問題ニ就テハ、主務廳ニ於テモ目下案ヲ練リ居レルガ、能フ限リ速ニ穩健ニシテ適正ナル措置ヲ講ゼント欲スト。次ニ原虎一君ハ、本年四月二十三日ニ勃發シタル市電從業員ノ勞働爭議ハ、物價ノ異常ナル騰貴ニ因ル從業員ノ切實ナル要求ニ基因シタル問題ナルガ、電氣局當事者ト從業員代表トガ僅カニ二回形式的ノ會見ヲ爲シタルノミニテ、交渉ハ決裂シ、遂ニ爭議ニ入りタルハ遺憾ナリ。但シ營業

四日間、壹萬貳千圓程ノ損害ニテ事件ガ解決シタルハ、不幸中ノ幸ナリキ。其後電氣局長ヨリ發セラレタル挨拶狀ノ最後ニ「自今一層舉局一致公營事業本來ノ使命達成ノ爲、邁進致シ度存念ニ御座候」トアリ、勞働問題ハ頗ル重大性ヲ有ス、電氣局長ハ勞働問題ニ關シ如何ナル方策ヲ有シ、又如何ナル方針ニテ之ヲ處理セントスル考ヘナリヤト質シ。電氣局長後藤悳次君ハ、昭和九年ノ所謂更改給ト云フ一大變革ヲ契機トシ、市電從業員ニ與ヘタル精神的「シヨック」ノ影響ハ甚大ニシテ、爾來一層惡化シタルガ如ク考ヘラル、ガ、市民ノ公共的機關ヲシテ充分ニ其機能ヲ發揮セシムルニハ、如何ナル方法ニ據ルベキカ、此ノ問題ノ解決ハ、關係者全員ノ一致協力ニアリト考フ、仍テ有ユル機會ニ於テ協力主義ヲ強調シ、之ヲ種々ナル現實問題ニ適應シテ施設ヲ行フ事トシタリ。但シ今日マデノ所、此ノ協力主義ガ實際ニ實現化セザリシモ、非常時局ニ直面スルヤ、其重大化ニ伴ヒ漸次實現化シ來リタルガ故ニ、此ノ機ヲ逸セズ之ガ徹底化ニ努ムル事トセリ。即チ從業員ノ待遇問題、福利ノ施設等ニ關スル隔意ナキ意見ヲ交換シ、以テ所謂上下ノ意思疏通ヲ圖ル爲、一昨年組織シタル懇談會ノ名稱ヲ協力委員會ト改稱スル等、銳意協力主義ノ實現ニ努力シツ、アリ、勿論協力主義ヲ眞ニ正シク實現セシメント欲セバ、先ヅ身ヲ以テ其範ヲ示サルベカラズト考フ、仍テ他人ヲ責メズ、自肅自戒ノ方針ヲ採レルガ、不徳ニシテ未ダ範ヲ示スニ至ラザルモ、從業員諸君ハ最近誠意アル協力ヲ惜マザル機運ニ向ヒツ、アリ、從テ電氣局從來ノ勞働問題、即チ市民ニ迷惑ヲ與フルガ如キ頗ル不愉快ナル問題モ漸次解消シ、近ク市民ノ交通機關タル使命ヲ全ウシ得ベシト考ヘ居レリト答ヘ。原君更ニ、電氣局長ノ苦心ハ諒トスルモ、其ハ電氣局長ガ局内ノ業務ヲ圓滿ニ行ハントスル程度ノ考慮ニ過ギザルガ如ク察セラレ、本市全體ニ及ブ勞働政策ノ見ルベキモノナキヲ遺憾トス。本市ニハ電氣從業員以外、水道局ニ三千五百人、土木局竝ニ保健局ニ各三千二百人、財務局ニ九百六十五人、港灣部ニ六百六十四人ノ從業員ヲ有ス。其他各局ニ於ケル下級吏員ヲ合計セバ、勞働階級ト目

セラル、モノハ三萬五千人ノ多數ヲ算フ、是等ノ労働者ガ市ノ事業ニ對シ衷心ヨリ協力スルヤ否ヤニ依リテ、市ノ事業ノ盛衰ヲ左右シ得ベシ、然ルニ現在本市ニ於ケル労働政策ハ各局區々ナリ、此ノ如キハ時代ニ副ハザルモ亦甚シト云ハザルベカラズ。電氣局ニ家族慰安會ト稱スルモノアリ、此ノ如キ催ヲ行フ際、従業員ノ家族ニ對シ、唯單ニ土産物ヲ彼等ニ與フルガ如キ事ノミニ終始セズ、電氣局ノ現状ヲ家族ノ人々ニ知ラシムルト共ニ、彼等ヲ指導シ、善用スル教育機關ニ利用スル事ハ、労働政策上頗ル有效ナルガ故ニ、電氣局ハ今後益々斯ル家族慰安會ノ如キモノヲ大ニ活用セラレン事ヲ望ム。然ルニ他方水道局ニ於テモ、土木局ニ於テモ、同ジ東京市ノ従業員ナルニ拘ラズ、福利的施設ニ就キ何等ノ考慮モ拂ハレザルハ、時代ヲ知ラザル者ト云ハザルベカラズ、「ヒットラー」ト云ヒ、「ムツソリー」ト云ヒ、彼等ハ何レモ労働者ノ協力ヲ俟タズンバ、其國ノ産業ノ發展ハ到底望ム能ハズト云ヘリ、資本主義國タル米國ニ於テスラ「ルーズヴェルト」ハ労働政策ヲ採用シ居ルニアラズヤ、労働問題ノ如何ニ重要ナル問題ナルカハ、以上ニ據リテモ推知シ得ベク、東京市ハ一日モ速ニ統制アル労働行政ヲ確立セザルベカラザルヲ痛感ス、三邊助役ノ所見如何。電氣局長ハ協力委員會ヲ設クル考ヘテ有セリトノ事ナルガ、従業員ヲシテ眞ニ本市ノ事業ニ協力セシメント欲セバ、電氣局長ノ指定セル委員以外、従業員ガ彼等ノ任意ニ選定シタル委員ヲモ參加セシメザルベカラズ、然ラズンバ圓滿ナル協力ヲ望ムハ到底不可能ナリ、仍テ電氣局長ハ協力委員會ヲ設置スルニ先ダチ、先ヅ労働團體ヲ認ムル意志アリヤ否ヤ。電氣局ハ勿論、水道、土木、港灣等各事業ニ従事スル労働者ニ自治的ノ團體ヲ作ラシメ、彼等ノ選舉シタル代表者ヲ協力委員會ニ參加セシムル事トセバ、本市ノ事業ハ圓滿ニ進捗セシメ得ルノミナラズ、本市事業ノ公共性ヲ彼等ニ充分認識セシメ、其事業ノ發展ト共ニ、従業員自身ノ生活ヲモ向上セシメ行カントスル向上心ノ修養ニモ資セシメ得ベシト思惟ス。若シ夫レ市理事者ガ従業員ニ對シ、壓迫的態度ヲ以テ臨マンカ、如何ニ聲ヲ大ニシテ協力

ヲ叫ブモ、決シテ其ノ協力ハ望ミ得ベカラズ、小河内ニ於ケル水道擴張工事ニハ、五千人程ノ労働者ヲ使用シ居レルガ、工事終了後彼等ニ對スル措置ヲ愆ラバ、五千人ノ労働者ガ東京市役所ニ押寄セ來ルヤモ知ルベカラズ、斯ク考フル時、本市ノ労働行政ハ頗ル重要性ヲ有スト言ハザルベカラザルト同時ニ、其根本對策ヲ樹立セザルベカラザル時期ハ刻々ニ迫リツ、アルヲ痛感ス。言フ迄モナク今日ノ時局ニ於テハ、各階級ニ亘リ、相剋摩擦ヲ解消シテ一致協力ノ實ヲ擧ゲザル可ラズ、此ノ時ニ際リ東京市ガ指導的ナル労働政策ヲ樹立シタリトアラバ、社會ニ寄與スル所甚大ナルモノアリト云ハザル可ラズ、仍テ眞摯ナル精神ヲ堅持シテ進マントスル労働組合ニ對スル市理事者ノ根本方針、言ヲ換ヘテ云ハバ、労働行政確立ニ對スル市理事者ノ意見ヲ聽カント欲スト質シタルニ對シ、助役三邊長治君ハ、本市ノ事業ニ従事シツ、アル人々ニシテ從來動スレバ鬭争的態度ヲ執リ來レル者モ、最近協力主義ニテ進マントスル氣運ニ向ヒタルハ、吾々ノ衷心ヨリ慶賀シ居ル所ナリ、單リ電氣局ノミナラズ、市役所内部ニ於ケル他ノ部局ニ於テモ、何レモ協力主義ニテ進マザルベカラザルハ當然ナリト考フ、唯福利施設等ニ就テ各部局ニ差異アルハ、從來種々ナル沿革、又ハ其局ノ財政、或ハ事業ノ性質等ニ基因スト思惟ス。將來統制アル労働行政ノ確立ヲ必要トスル事ハ、當職モ同感ナリ、其目的達成ノ爲、市役所ノ行政機構ヲ改革セントスル場合ニ於テハ、適當ナル方策ヲ講ゼント欲スト答ヘタリ。次デ三上英雄君ハ、第一、我國ハ暴戾ナル隣國蔣介石政權膺懲ノ軍ヲ進メ、今ヤ舉國一致本事變ニ對シ、最終ノ效果ヲ擧グベク努力シツ、アリ、而シテ小橋市長ガ本年七月十九日東京市民ニ對シテ發シタル告諭ノ一節ニ「我等輩穀ノ下ニ在ル東京市民ハ此ノ重大ナル時局ニ際シ、深ク事態ノ推移ヲ認識シ、輕舉妄動ヲ戒メ、毅然タル態度ヲ持シ、益々盡忠報國ノ精神ヲ發揚シナケレバナラヌノデアリマス」ト云ヒ、最後ニ「希クハ市民各位深ク政府ノ方針ヲ心ニ銘セラレ、舉市一體トナリ、我が國是ノ遂行ニ全幅ノ協力ヲ致スト共ニ、萬一ノ場合ニ於ケル準備ニ遺憾ナキヲ

期シ、以テ帝國ノ隆昌ト、東洋平和ノ確立トニ貢獻セラレムコトヲ切望スル次第アリマス」ト云ヘリ。又本月十二日國民精神總動員ノ舉アリタル際、市民ニ對シテ發シタル告諭中ニモ「此ノ際六百萬市民ガ更ニ進デ國民精神總動員ノ實踐ニ參加シ、盡忠報國ノ至誠ヲ致スコトハ鞏固ノ下ニアル市民ノ一大責務デアリマス、希クハ各位夫々其職分ニ應ジテ、率先本運動ノ實行ニ邁進セラレ、名實共ニ國民精神總動員ノ成果ヲ舉ゲ、國運伸張ノ爲勵精セラレムコトヲ切望致シマス」ト述べ居レリ。然ルニ我ガ東京市ノ事務ヲ見ルニ、極メテ重要ナル諸問題ハ山積シ、其處理ノ遅々トシテ進マザルハ遺憾ナリ。例ヘバ人事問題ニ就テハ適當ナル刷新ノ實行、市廳舎建設問題、「オリンピック」及ビ博覽會ノ開催問題、復興建築助成會社其他電車事業等、理事者ガ善處セザルベカラザル重要事務ニシテ堆積シ居ルモノ、殆ド枚擧ニ遑アラザルナリ。小橋市長ガ不幸ニシテ病魔ノ爲ニ臥床シ居ルハ、個人トシテハ同情ノ念ニ堪ヘズ、一日モ速ニ快癒セラレシコトヲ祈願スル事切ナリト雖モ、私情ヲ以テ公義ヲ制スベカラズ、今日ノ重大時局ニ際シ市長ガ市民ニ對シテ發シタル告諭ト、其職責ノ重大ナルトニ鑑ミ、東京市政ノ變理ニ就キ、小橋市長ハ如何ナル信念ト熱意トヲ有セリヤ、此ノ點三邊助役ヨリ市長ニ傳達アリ、適當ナル機會ニ於テ、市民ニ安心ヲ得セシムルヤウ市長ヨリノ答辯ヲ聽カント欲ス。而シテ市長代理タル三邊助役ニ對シテモ、東京市政變理ニ關スル信念ト熱意トヲ聽カント欲ス。第二、高橋技術長ガ水道局長ニ陞任シタルハ適材ヲ適處ニ置キタルモノト云フベク、又小野所長ヲ昇格セシメ、水道局ノ羈絆ヨリ脱シテ市長直屬ノ地位ニ就カシメタルハ、個人トシテ慶祝スベキナランモ、將來本市水道事業ノ運營ト進歩トニ就テ何等カノ支障ヲ生ゼシムル憂ヘナキヤ否ヤ、殊ニ今後第三次擴張事業ヲ行ハントスル場合、更ニ所長ヲ昇格セシメテ水道局長ノ統轄外ニ脱出セシムル先例トモナラバ、本市水道事業ノ監督其他運營等ニ關シテ統制ヲ缺ク端ヲ開ク事ナシトセズヤト、一部市民ハ憂ヘ居レリ、仍テ其事情ト理由トヲ市會ヲ通ジテ明確ニ市民ニ傳ヘ

ラレン事ヲ望ム。第三、人事問題ニ就テ尙ホ二三質サント欲スルモ、時間ノ關係上本日ハ増田杉並區長ニ關スル件ノミニ就テ、三邊助役ノ責任アル答辯ヲ煩ハサント欲ス、元來本員ハ増田區長ニ對シテハ何等恩怨ナキモノナルガ、本年三月市會議員選舉二日前ニ於テ増田區長ガ顧問ト爲リ居ル愛國婦人會、產婆會、熊本縣人會等ニ對シテ、一種ノ怪文書ヲ發送セリ、其内容ハ本日此處ニ詳述スル違ナキモ、増田區長ガ關與シ居ル私立中學校ノ分ニ關スル文書ノ一部分ヲ朗讀スベシ、「私ハ杉並區ノ小學校卒業生、中學校ノ存在等ヲ考ヘ、適當ナ地ヘ移轉サシタラ好都合デハナカラウカト信ジ、兼テ區内ノ道路、教育、水道等、區内皆様ノ福利増進ノ爲ナラ骨身ヲ惜マズオ世話ヲナサルト聞イテ居リマシタ本區選出ノ府會議員、市會議員ノ〇〇サン、本區選出ノ府會議員、市會議員ノ某サン」氏名ハ特ニ秘スベシ、「ニ御援助ヲ願ヒマシタ、本校移轉ニ關係致シマシタ者全部デ引繼イデ、兩三年後ニハ財團法人ニ改組シテ立派ナ中學校ニシテ貫ヒタイトノコトデ、已ムヲ得ズ何々サン、何々サント不肖私ニ、學校カラハ二名ノ人ガ選バレテ、合計五人デ設立者ヲ引受ケ、微力ナレドモ區内父兄ノ爲ニ全力ヲ盡シテ此ノ新學期カラ御期待ニ副フヤウニ奮闘致スヤウニナリマシタ、就キマシテハ洵ニ厚顔シイ御願ヒデアリマスガ、御知合ノ方々ニ御吹聴下サイマシテ、御子弟ヲ御入學下サル様御勸誘下サレ度ク、日頃ノ御好意ニ甘ヘ折入ツテ御願申上ゲマス」ト是レ其原文ノ一部分ナルガ、其内容ヲ考察スルニ、三箇ノ三大責任問題ヲ生ズベシト考フ、即チ其一ハ、所謂特定人ノ爲ニ選舉運動トナルベキ文書ヲ發送シタリト云ヘル事、其二ハ、區長トシテノ地位ニ在ル者ガ其區内ニ於ケル私立中學ノ設立經營者トナリタル事、其三ハ、區長ガ設立者トナリタル學校ヘノ入學勸誘狀ヲ區内ノ人々ニ發送シタル事はレナリ。選舉法ハ選舉期日告示前ニ於テ選舉運動ヲ爲スヲ禁ジ居レリ、殊ニ選舉事務ニ關係アル吏員ガ其區域内ニ於テ選舉運動ヲ爲サバ重ク處罰スルハ、大審院ノ判例又ハ法規學說等ヲ援用スルニ及バザルベシ、然リ而シテ杉並區内ニハ他ニ尙ホ二三ノ中學ア

リ、然ルニ區長ノ地位ニ在ル人ガ、特定ノ中學ニ入學セシムルヤウ勸誘セバ、其父兄等ニ如何ナル影響ヲ與フベキカ、必ズヤ父兄ヲシテ中正ナル考察ヲ案サシムル結果ヲ招クベシト考フ、増田氏ハ其書面ヲ個人トシテ發送シタリト辯明スト雖モ、何人モ區長タル増田穆ガ發送シタリト解釋スルハ當然ナリ、要スルニ前陳増田區長ノ行爲ハ、法律ニ違反シ、且ツ吏員トシテノ綱紀ヲ紊シタルモノト斷言セザルヲ得ズ。尙ホ増田穆名儀ニテ「プール」開設ノ出願アリ、資本金拾萬圓ニテ株式会社ヲ組織シ、以テ此ノ「プール」ヲ經營スル計畫ニテ、拾萬圓ノ資金中、壹萬圓ハ増田區長ノ主宰スル水泳協會ト某請負師トノ名儀ニテ報酬ヲ受クル事ト爲セリト聞ク、尙ホ此ノ會社ノ發起人中ニハ、區役所出入ノ所謂御用商人ト稱スル者二人アリ、殊ニ東京市吏員ニシテ、月給八拾幾圓ヲ受ケ居ル者ガ二百株ヲ引受ケテ、發起人ノ一人ニ參加シ居レリ。元來杉並區ハ參拾錢ノ小學兒童ノ授業料サヘ問題トナリ居ル區政ノ實情ナルニ、此ノ「プール」ノ水泳料ハ參拾錢ナリ、參拾錢ノ水泳料ヲ徵收シテ、社會公共ノ爲ノ計畫ナリト云フニ至リテハ、其心臓ノ強サニ驚カザルヲ得ズ、想フニ此ノ「プール」ノ出願者ガ増田穆ノ名儀ナリシガ故ニ、警視廳方面ニ於テハ營利ヲ目的トセザル杉並區ノ公營ナルベシトノ錯誤ニ因リテ許可シタルモノナラズヤト懸念サル。更ニ杉並區家政女學校ニ教員ノ不當齷首問題アリ、此ハ昨年六月増田區長ト同縣ノ出身者タル大森青年學校ノ夜學教員タル某ト、高等師範出身タル杉並家政女學校ノ某教員トヲ入換ヘントシタルガ、此ノ事ヲ聞知シタル家政女學校教員ハ、夜學教員ニ左遷サルルヲ快トセズ、且ツ種々ナル壓迫ニ耐ヘ兼ネテ、三月二十七日ニ辭表ヲ提出シタル事實ニ就キ、其善後措置ヲ伊藤教育局長ニ諮リタル結果、暫ク何事モナカリシガ、本年六月十一日ニ至リ、家政女學校教員ハ突如休職ヲ命セラレタリ、而モ辭令ノ日附ハ五月三十一日ニシテ、其間十一日家政女學校教員ニアラザル者ガ、家政女學校ニ於テ教鞭ヲ執レルガ如キ不體裁ヲ演シタルノミナラズ、明治三十六年ニ公布サレタル公立學校職員俸給令第十五條ニ「休職者

ニハ其ノ休職中俸給三分ノ一ヲ給ス、但シ教員養成ヲ目的トスル官府縣立ノ學校ニ入學スル場合ニ於テ休職ヲ命セラレタル者ニ付テハ之ヲ給セス、又ハ三分ノ一以下ヲ給スルコトヲ得」トノ規定アルニ拘ラズ、此ノ教員ニハ休職ヲ命ズトノ辭令ト共ニ、休職給ヲ支給セズトノ辭令ヲ交付セリ、而シテ勅令違反ノ非難起ルヤ、區長ハ周章狼狽シタルヤ否ヤハ本員ノ知ル所ニアラザルモ、小橋市長ヲシテ昭和十二年七月八日附杉並區長ニ宛テ「曩ニ送付セシ所、右辭令面ニ誤記ノ廉有之」トノ書面ヲ發送セシムルガ如キ不始末ヲ演ジ、而モ増田區長ハ恬トシテ顧ザルナリ。此ノ増田區長ヲ批評シタル某新聞紙ノ記事ハ、簡ニシテ最モ當ヲ得居ルガ故ニ之ヲ朗讀スベシ。「此ノ辭令ガ勅令違反ノ問題デアルコトニ關シテハ一言ノ謝罪モセズ、釋明モセザルノミナラズ、此ノ種ノ違反ハ小學校教員ノ免職ノ時ニ用フル常套手段デアアル、自分ハ前例ニ從ヒタルノミデアリ、是ガ勅令違反デアツテモ今後ドシク之ヲ行フ旨ヲ豪語シ、大見得ヲ切ツタニハ、其ノ無學ト大膽ト沒常識ト非國家的思想ニ滿場ヲ呆レサセタ、此ノ一事デ吾人ハ増田ノ腦ノ異常ナルヲ發見シタ、狂人デナイダラウカト疑ハシムルニ十分デアアル、腦ノ健康ニ異變ガナイナラ、洵ニ聞捨テニハナラナイ重大性ヲ有スル答辯デアアル、身苟モ公吏デアアル以上、當然衆ニ率先シテ國法ヲ遵奉シ、官紀ニ服守スベキ者タルニ拘ラズ、斯ノ如キ反國家的ナ無道ノ放言ヲナスニ至リテハ、臣子ノ分ヲ亂ルモノデアツテ、反逆デアリ、亂臣賊子デ皇國民トシテ聞捨テニナラヌ云々」ト。無軌道ナル増田區長ノ行動ニ對スル世評概ネ此ノ如シ、本夏高圓寺館ニ於テ増田區長ノ彈劾演說會ノ開催アリシ際、一千有餘名ノ聽衆中ニ一人、辯士ヲ惡罵シテ警察官ニ館外ヘ拉致サレタル者アリ、右ハ調査ノ結果、杉並區役所庶務課勤務ノ石井某ト云ヘル者ナル事ヲ知レリ、此ハ或ハ區長ノ關與セザル事ナルベシト雖モ、區長ノ關與セル私立杉並中學校ハ經營困難ニテ、電燈料ノ支拂ニモ窮シ、同校經營者ノ一人タル某區會議員ガ防護團ノ費用中ヨリ其電燈料ヲ支出セリ、此ノ事偶々區會ノ問題トナリタルガ、増田區長ハ何等差支ヘナシ

ト區會ノ席上ニ於テ答辯セリ。又或ル會合ノ席上ニ於テ、杉並區長ト澁谷區長トハ決シテ誠首サル、憂ヘナシト増田區長ハ豪語シタリト聞ク、此ノ豪語ハ果シテ何ヲ意味スルヤハ本員之ヲ知ラズト雖モ、先般警視廳管下ニ於ケル某警察署長ガ、某工場協會員ト親睦ヲ圖リタル事アリ、此ノ一事ガ官紀弛緩ノ因ヲ爲ストノ理由ニテ其職ヲ退カシメラレ、又二三箇月前友人タル辯護士ヨリ借財ヲ爲シタリト云ヘル事ガ非難ノ理由トナリ、職ヲ辭シタル檢事モアリキ。本員ガ本日此ノ席上ニ於テ述べタル増田區長ノ非違ハ僅ニ其一例ニ過ギズ。苟モ市民生活ニ緊切ノ關係ヲ有スル業務ニ携ハル市吏員ニシテ吏道ニ反スル行爲ヲ敢テスル者アラバ、三邊助役ハ本月十四日國民精神總動員ニ關シ、「ラヂオ」ニ依リテ市民ニ講演ヲ爲シタル際陳ベタルガ如ク、「斷ジテ行ヘバ鬼神モ之ヲ避ク」トノ氣魄ヲ以テ、増田區長ニ對シ善處セラレムコトヲ望ム、若シ三邊助役ノ措置ニシテ其氣魄ニ反スルガ如キ事アラバ、本員ハ斷ジテ之ヲ默過スル能ハズト述ブ。此ノ時倉持忠助君ハ議事進行ニ關シ發言ヲ求メテ曰ク、市會議員ニシテ元衆議院議員タリシ其人ノ命維レ遵ハザリシトノ感情ヨリ、市會ガ重要ナル審議ヲ爲サントスル貴重ナル時間ヲ二時間モ空費サル、ハ、本員等ノ甚ダ困惑スル所ナリ、殊ニ「プール」ノ開設ハ、區長ガ應援シ居ルガ故ニ警察署ガ許可シタルモノナルベシト三上君ハ云ヘリ、此ノ如キ想像ハ一種ノ「デマ」ニシテ、「デマ」ノ流布ハ取消サレン事ヲ望ム。過般東京市電氣局ガ有力ナル某「バス」會社ヨリ「バス」ヲ買收セントシタル際、二人ノ市政「ボス」ガ中間ニ介在シテ利ヲ得ントシツ、アリトノ「デマ」アリ、爲ニ之ヲ買收スル能ハズシテ、本市電氣局ハ立行カザル事トナリ、結局交通統制ヲ理由ニ、貳百萬圓ノ統制會社ニ全部ノ營業權ヲ一任セザルベカラザル状態トナレリ。又關東水力ヲ買收セントシタル際ニモ、「デマ」ノ爲ニ之ヲ買收スル能ハズ、他ノ有力會社ニ買收セラレテ、本市ハ多年要望ノ電源ヲ得ル能ハザリキ。小河内ノ「ダム」問題ニ就テモ種々ナル「デマ」ハ亂レ飛ベリ。要スルニ本市ハ此ノ「デマ」ノ爲ニ、市是タル眞ノ根本方針ヲ決定スル能ハズシテ

失敗ヲ重ネタル事、枚舉ニ遑アラズト云フモ過言ニアラザルナリ。三上君ノ大雄辯ニ對シ甚ダ失禮ナル申分ナルガ、杉並區會ニ於ケル區長問題ト云フ小「デマ」ノ爲ニ、貴重ナル市會ノ審議時間ヲ空費サル、ハ、本員一人ノミノ困惑ニアラザルガ故ニ、第一問以外ノ質問ヲ取消サレン事ヲ望ム、若シ一時間ニ互ル其質問ノ全部ヲ取消サレナバ、三上君ハ偉人タリ得ベシト思惟スト。糟谷磯平君モ議事進行ニ關シ發言ヲ求メテ曰ク、三上氏ノ質問ニ據レバ、氏ハ關係公文書全部ヲ通覽シタルモノ、如シ、元來公文書ハ關係者以外ハ一言一句モ見ル能ハザル管ナルニ、三上氏ガ之ヲ見タリトアラバ、是レ以上ノ綱紀紊亂ハナカルベシト考フ、三上氏ハ何人ノ手ヲ經テ其公文書ヲ見タリヤ。尙ホ家政女學校ノ教員ガ三月ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ辭職願ヲ提出シ、而シテ六月十一日休職トナル迄教鞭ヲ執リ居タリシトノ事ナルガ、病氣ニシテ其職ニ堪ヘズト云ヘル者ガ、引續キ教鞭ヲ執リ居タリトアラバ、醫師ハ偽造ノ診斷書ヲ作製シタルモノカ、然ラズンバ教師ガ醫師ヲシテ嘘偽ノ診斷書ヲ作製セシメタルモノト云ハザルベカラズ、若シ教師ガ醫師ヲシテ嘘偽ノ診斷書ヲ作製セシメタルモノトセバ、左様ノ教師ヲ休職ト爲スハ當然ノ措置ニアラズヤト。次デ三邊助役ハ三上君ノ質問ニ答ヘテ曰ク、小橋市長ノ告諭ハ、要スルニ舉市一致シテ市政ノ伸展ヲ圖リ、盡忠報國ノ實ヲ舉ゲント欲スト云フニ歸著ス、此ハ當職モ同感ナリ。市長ハ去月防護團員査閲ノ際病ヲ得テ入院シタルガ、目下ハ退院シテ轉地療養ヲ爲シ居レリ、經過ハ頗ル順調ナリ。職務上ノ事ニ就テハ、小職等ハ必要ニ應ジ轉地先ニ赴キテ市長ト打合セ、充分市長ノ方針ヲ受ケテ、業務ノ進行ニ努力シ居レリ。小河内水道擴張事務所ノ取扱フ事業ノ分量ハ相當大ナルガ故ニ、之レニ獨立性ヲ與フル事ガ業務ノ進行上適當ト考ヘテ、市長直屬ト爲シタル次第ナルガ、重要事項ニ就キ市長ガ決裁ヲ爲ス場合ニハ、水道局ノ補佐ノ下ニ行フヲ以テ、水道局ト此ノ事務所トノ聯絡ハ充分行ハレ得ベシト考フ、今後モ他ノ擴張事業ニ就キ、擴張事業ノ所在地又ハ事業ノ分量等ニ因リ、適當ナル考慮ヲ爲スベキ必要アリト思

惟ス。人事問題ニ就テハ、今後必要ナル調査ヲ爲サント欲スト。三上君更ニ、本員ノ質問ノ第一ニ對スル市長代理ノ答辯ハ、質問ノ中心ヲ逸シタル憾アルモ、此ハ暫ク日時ト事情トノ推移ヲ靜觀セント欲ス。第二ノ小河内問題ニ就テハ、今後圓滿ナル市政ノ運行ニ充分留意アラシム事ヲ希望ス。第三ノ増田區長問題ハ、事實ニ基キタル質問ナルガ故ニ本員ハ取消ス意志ヲ有セズ。又糟谷氏ニハ答辯ノ要ヲ認メズ、唯三邊助役ノ答辯ニ信賴シ、市民ニシテ區民タル人ヲシテ満足セシムベキ公正ナル處置ヲ熱望シテ、本員ノ質問ヲ打切ルベシト述ベタリ。引續キ高野納康君ハ、第一、市長ノ病狀ニ就テハ先程三上君ヨリ質問アリタルガ、第一助役ニシテ眞ニ市政ニ忠實ナラバ、市長ノ病狀ニ就テハ議員ヨリノ質問ヲ俟タズ、自ら進デ其容體竝ニ其後ノ經過等ヲ議場ニ報告シテ、市會ノ諒解ヲ得ベキガ至當ノ措置ト考フ、然ルニ事茲ニ出デザリシハ甚ダ遺憾ナリ。元來本員等ガ小橋市長ノ出馬ニ反對シタルハ、小橋氏ガ老齡ナル上ニ、八年間モ隱遁シ居タリシガ故ナリ、然レドモ既ニ比較多數ヲ以テ當選シタル上ハ、充分其職責ヲ盡サレンコトヲ希望ス、市長ハ何日頃登壇執務シ得ラル、ヤ、市長ガ病氣缺席ノ爲ニ市ノ事務ハ滯シ居ラザルヤ否ヤ。第二、東京出動將士後援會ノ募金割當額ハ、東京市四拾貳萬圓、東京府貳萬圓、商工會議所六萬圓ナリト聞ク、東京市ガ四拾貳萬圓ノ割當ヲ受ケタルハ如何ナル關係ニ因ルモノナリヤ。第三、社會局ニ於テハ、方面委員ノ銓衡方法ヲ如何ナル基準ニ據リテ行ヒ居レリヤ、又近ク六百名ノ増員ヲ行フ由ナルガ、是レ亦如何ナル方法ニ據ラントスルヤ、現在ノ委員銓衡ノ結果ハ如何。第四、前回ノ市會ニ於テ、出動將士救援資金トシテ拾七萬數千圓ノ豫算ヲ議決シタル結果、銃後ノ家ト稱スルモノガ出來シタルガ、荒川區尾久町三丁目二千四百四十番地ニ在ル銃後ノ家ハ、敷金竝ニ賃貸價格ハ幾許ナリヤ。第五、小河内水源問題ハ、各方面ニ於テ既ニ論ジ盡サレ居ルニ拘ラズ、市當局ノ意見ガ吾々市會議員ニ傳ヘラレザルハ遺憾ナリ。市當局ハ既ニ事業ニ著手シ居レリヤ、又當初ノ計畫通り實行スル考ヘナリヤ、設計ニ誤算ア

リシ事ヲ設計者ガ認メ居レリヤ否ヤ。第六、今次事變ノ結果政府ハ地方ノ起債ヲ認可セザル方針ナリト聞ク、果シテ然ラバ、大部分ノ事業ヲ起債ニ頼リテ行ヒツ、アル本市ノ事業、竝ニ本年度及ビ來年度本市豫算ニ對シ、此ノ政府ノ方針ガ如何ナル影響ヲ及ボスヤ、此ハ本員ノ質問ヲ俟タズ、理事者ガ進デ當議場ニ於テ説明スベキガ、眞ニ市政ニ忠實ナル理事者ノ措置ナリト考フルガ如何。第七、本市ノ諸施設中、小學校ノ施設程不公平ノモノナカルベシト本員ハ考ヘ居レリ、假令バ日本橋、京橋、麴町區等ニ在ル小學校ハ、何レモ堂々ナル鐵筋「コンクリート」建ノ校舍ニシテ、内部ノ設備モ完成シ、且ツ一教室ニ收容スル兒童ハ三、四十人、若クハ其レ以下ノ數ナルニ、新區ノ小學校ハ「バラック」建ニテ、而モ一室ニ五六十名ノ兒童ヲ押込メ居ル悲惨ナル實情ニ在リ、惟フニ教育費ガ區費支辨ノ結果、同一東京市民ノ子弟ナルニ拘ラズ、貧弱ナル區ニ於テハ、到底其負擔ニ堪ヘズ、爲ニ前陳ノ如キ不公平ニシテ悲惨ナル結果ヲ招來セルナリ。而シテ教育費ト不可分關係ニ在ル家屋稅附加稅ハ、本市三十五區ノ平均ハ、本稅壹圓ニ對シテ貳圓貳拾參錢參厘ナルニ、三十五區中貧困者ノ最モ多ク居住スル葛飾區ハ、本稅壹圓ニ對シテ參圓七拾錢ナリ、然ルニ三十五區中最モ富有ノ區ナリト稱セラル、日本橋區ハ、本稅壹圓ニ對シテ僅々五拾錢ニ過ギズ、尙ホ京橋區ハ賃貸價格七拾圓以下ノ家屋ニ對シ本稅壹圓ニ付八拾貳錢、淺草區ハ賃貸價格六拾七圓以下ニ對シ壹圓ニ付壹圓六拾壹錢、下谷區ハ賃貸價格九圓參拾八錢以下ノ家屋ニ對シ壹圓ニ付壹圓六拾五錢ナリ、京橋以下三區ノ不均一課稅ノ割合ヲ見ルモ、甚ダ矛盾シ居レリ。以上ノ結果ヨリ考フルモ、將又東京市長ガ率先シテ教育費ノ全額國庫支辨ヲ強調セル關係ヨリスルモ、更ニ政府ノ方針、教育ノ機會均等ト云ヘル點ヨリ考フルモ、又稅制整理、稅ノ公平ナル負擔等ノ關係ヨリスルモ、小學教育ノ費用ヲ市經濟ヨリ支辨スル事トシ、同時ニ區ニ屬シタル家屋稅附加稅ヲ市ニ於テ統一セラレン事ヲ希望ス、教育局長及ビ關係理事者ノ所見如何ト質シ。伊藤教育局長ハ、出動將士後援會ノ寄附標準ハ、人口ニ據

レリ。東京市ノ分ハ百二十萬戸、一戸五拾錢ヲ標準トシテ、五拾萬圓ヲ募集セント欲ス。教育費ハ各學區ニ於テ負擔スル事トナリ居リ、學區ノ負擔力ニ差アル爲、不均衡ハ已ムヲ得ザル結果ナルガ、能フ限リ權衡ヲ得ルヤウ努メント欲ス、但シ教職員等ノ人件費及ビ學校建設費等ノ費用ハ、市ニ於テ統一シ居レリト答ヘ。澤社會局長ハ、方面委員ノ銓衡ハ、方面委員會ノ命ズル所ニ從ヒ、方面委員銓衡委員ト稱スルモノヲ設ケ、此ノ銓衡委員ガ銓衡スル事トナリ居レルガ、其地方ニ名望アリ、財産ト時間トニ餘裕アリ、且ツ其土地ノ事情ニモ精通シ居リ、社會事業ニ理解アル人物ヲ選ブ方針ナリ、從來ノ銓衡未ダ必ズシモ圓滿ナリシト云フ能ハザル遺憾ノ點アルガ故ニ、大ニ改善セント欲ス。荒川區ノ銓後ノ家ハ、敷金ナク、家賃ハ貳百拾六圓ナリシト記憶スト答ヘ。第三助役原全路君ハ、小河内貯水池ノ擴張計畫ハ、舊市部水道ノ充實ヲ圖ラント欲スルニ在リ、十數年間ノ水量統計ヲ基礎トシテ此ノ計畫ノ規模ヲ定メ、由テ以テ市域擴張後ニ於ケル躍進シツ、アル東京全市ノ水道需要増加ニ對應スル事トシタリ、然ルニ該計畫後昭和七、八、九、十ノ四箇年ニ互リ、多摩川ニ於テ從來ノ統計ニ現レザリシ非常ナル渇水狀態ガ繼續セリ、斯ノ如キ自然現象ノ結果ガ豫定計畫ニ支障ヲ來サシメズヤトハ、當然起ルベキ疑問ナリ。仍テ種々檢討ヲ重ネタル結果、大體ニ於テ支障ナシトスル見解ト、支障アルベシトスル見解ト、斯ク二箇ノ見解ヲ生ゼリ、何分ニモ我國ニ於ケル水量ノ統計ハ、十五六年ノ短期間ノモノニテ、最長ト雖モ二十年間ヲ出デズ、五十年、百年ノ長期間ニ互ル統計ナク、斯ル短期間ノ統計ヲ基礎トシ、變轉極リナキ自然現象ニ對シテ主觀的判斷ヲ下ス場合、種々ナル意見ノ生ズルハ洵ニ已ムヲ得ザル事ト考フ、兎ニ角市民ニハ一日モ缺クベカラザル最モ重要ナル水ノ供給ニ關スル事柄ナルガ故ニ、種々ナル見解ノ中、給水上安全ナリト思料サル、見解ニ從フ事トセリ。而シテ最惡ナル場合ヲ考フルニ、貯水池ノ效力ハ豫定箇所ヨリ約五萬立方メートル低下セシメテ運用スルヲ適當ト認メタリ、兎ニ角計畫當初ヨリ關係シ居タル當職トシテハ、

自然現象ノ結果トハ云ヘ、最惡ノ場合ニ於ケル水量ニ見込違ヲ爲シタルハ、洵ニ遺憾ニシテ、恐縮ノ至リニ堪ヘズ。仍テ之レガ善後處置ニ就テハ尙ホ一層ノ検討ヲ行ヒ、遺憾ナキヲ期セント欲ス。只幸ヒニシテ本市ノ水道ハ、市域擴張全部ガ一體トナリタル結果ト、之レニ伴ヒ種々ナル狀況ノ變化トニ因リ、相當多大ノ供給餘力ヲ生ジ居ルガ故ニ、運用ノ如何ニ依リテハ充分效果ヲ發揮シ得ベク、又水質良好ニシテ地勢高ク、動力ヲ要セズシテ供給シ得ル多摩川ノ水ヲ能フ限リ利用スル事ハ、結局ニ於テ經濟的ナリト考フ。一面本市ノ水道需要量ハ、年々非常ナル増加ヲ爲シ、現在實施シ居レル江戸川ノ應急擴張工事ハ、竣成スルモ今後二三年間ノ需要ニ應ジ得ルニ過ギズ。仍テ其レ以上ノ擴張計畫ハ目下尙ホ調査中ニシテ、是等ハ何日頃ヨリ供給シ得ベキカ今日言明スル能ハザルモ、問題ノ小河内貯水池ニ依ル擴張計畫ハ、需要ノ増加ニ對應スル爲ニハ、絕對ニ必要ナリト考ヘ、此ノ事業ハ豫定通り進行セシムベク、著々工事ヲ進メツ、アリト答ヘ。三邊第一助役ハ、小橋市長ノ容體ハ手術後ノ經過頗ル良好ニテ、十八日ニ退院シ、退院ト同時ニ轉地シタルガ、其後ノ經過モ極メテ順調ニシテ、退院數日後當職ガ訪問シタル際、數時間ノ對談ニモ何等疲勞ノ様子ナク、顔色モ殆ド平素ト異リナク見受ケラレタルガ、何日頃登壇サレ得ルヤハ、當職トシテ豫見スル能ハズ、唯來月中旬頃ニハ登壇シ得ルニアラズヤト思惟ス。他面ニ於テ市長ノ病氣以來職員ハ却テ緊張シテ事ニ當リ、市長ノ方針ニ從テ事務ヲ處理シ居レリ。又重要ナル案件等ニ就テハ、當方ヨリ市長ノ許ヘ出向キテ打合セ、或ハ電話等ニハ指揮ヲ受ケ居リ、現在ノ所市ノ事務ハ何等澁滞シ居ラズト考フト答ヘ。平山財務局長ハ、一國ガ戰時體制ニ入りタル場合、一般國民ノ需要ヲ抑制セザルベカラザルハ、當然ノ原則ト考フ、從テ一個人ノ生活上ニモ、公共團體ノ生活上ニモ、種々ナル制限ト統制トニ服セザルベカラザルハ言ヲ俟タズ。然リ而シテ舉國一致事ニ當ラシムルニハ、國民ノ生活ヲシテ安定セシメザルベカラザル必要アリ、政府ガ今日東京市ヘ送致シ來レル通牒ニ依リ其意ヲ解

釋スルニ、東京市ニ於テ營ミ居ル諸事業中、社會局、保健局、上水道、小學教育等、國民生活上缺クベカラザル事業ニ對シテハ、起債ノ抑制ハ受ケ居ラザルガ如シ、併シナガラ文化的施設トモ云フベキ其效果ガ國民生活ニ直接現ハレザル道路、下水道、港灣等ノ事業ニ對シテハ、相當制限ヲ受クルヤウ考ヘラル、モ、此ハ時々刻々變化スル戰線ノ情況ト共ニ變化スベク、從テ幾許ノ抑制ヲ受クベキカハ、今日詳細ニ之ヲ豫知スル能ハズ、能フ限リ許サレタル範圍ニ於テ善處セント欲スト答フ。高野君更ニ、事情複雑ニシテ事業モ多岐多端ナル東京市ニ市長トシテ就任早々、二箇月モ缺勤シタル場合、本員等ノ常識ヲ以テセバ、辭職スベキガ至當ナリト考フ。殊ニ三邊助役答辯ノ如ク市長不在ニテモ市ノ事務ハ澁滞シ居ラズトセバ、市長ハ不必要ニアラズヤ、然レドモ本員ハ市長不在ノ爲、市ノ事務ハ澁滞シ居レリト考フ、仍テ小橋市長ノ缺勤ニシテ此ノ上更ニ永引ク事アラバ、第一助役ヲ市長代理ト爲シ、市長代理ノ意思判斷ニ由テ事務ヲ處理セラレン事ヲ望ム、是レ本員ノ希望ナリ。出動將士後援會ヘノ寄附ニ就テハ、本邦ニ於ケル資産家ノ集合スル商工會議所ガ僅々四萬圓ニ過ギザルニ、市民ニ對シテハ貧者モ富者モ同一標準額ノ寄附割當ヲ何人ガ引受ケタリヤ、將來スル打合會等ニ本市ヲ代表シテ出席スル場合ハ、市民ニ貧富ノ差アル事ヲ充分考慮セラレン事ヲ望ム、是レ本員ノ理事者ニ對スル注意ナリ。方面委員中ニハ、方面委員ト稱スル自己ノ職責ニ對スル認識不足者尠カラズ、此ノ委員ノ銓衡方針トシテ、財産的ニ餘裕アル事ヲ條件ノ一トナスモ不可ナシト雖モ、財産的ニ餘裕ナキ所謂貧乏人ナリトテ、人格高潔ナル人物ナラバ可ナルニアラズヤ、尠クモ社會政策ニ關スル書籍ノ一頁位ハ研究シ、方面委員事業ノ如何ナルモノナルカヲ理解シ、其職責ヲ充分認識シタル人物ヲ任命セラレン事ヲ望ム。過日出征兵士家族救援委員會ノ席上ニ於テ、談偶々方面委員ノ事ニ及ビタル際、方面委員ノ推薦ニ關シテハ何レモ政黨的ニ動キ居リ、一種ノ選舉地盤トナリ居レリトハ、其席上ニ於ケル全員ノ批判ナリキ。兎ニ角將來方面委員ニシテ選舉運動ニ關與セン

トスル場合ハ、方面委員ヲ辭任セシムベキガ適正ノ措置ナラズト思惟ス、否、本員ハ寧ロ方面委員ノ如キヲ設クルヨリハ、昔日ノ如ク警察官ヲシテ要救護者ヲ調査セシムル方、親切ニシテ却テ迅速ニ行ハルベキヲ茲ニ特ニ市理事者ニ注意シ置クベシ。小河内問題ニ就テハ、自然現象ノ爲ニ誤算ヲ生ジタリト原助役ハ辯明スト雖モ、誤算ハ則チ誤算ニシテ、而モ一方ノ責任者ハ誤差ヲ發見シ、他ノ責任者ハ之ヲ知ラザリシナリ。元來本市ノ總テノ事業ガ常ニ其業績ノ擧ラザルハ、市吏員諸君ガ高級ニ榮進スルニ從ヒ、自己ノ職責ニ對シテ責任ヲ負ハザルニ在リ。水道局長ガ第三助役ニ坐リタルガ如キハ、甚ダ其當ヲ得ザル措置ナリト考フ。以上ハ本員ノ意見ト希望ナルガ故ニ、市理事者ノ答辯ヲ要セズ、唯起債ニ關スル財務局長ノ答辯ハ甚ダ明瞭ヲ缺ケルガ、教育費市費支辨ハ家屋稅附加稅トモ關聯シタル問題ナルガ故ニ、財務局長ヨリモ何等カノ説明アルベキ筈ナルニ、其事ナカリシハ何故ナリヤ、本員ハ教育局長ニ對シテハ、教育ノ機會均等ノ趣旨ヨリ極力豫算ノ要求ヲ爲サン事ヲ希望スルト共ニ、市理事者ニ對シ、教育費ノ市費支辨竝ニ之レト不可分關係ニアル區ノ家屋稅附加稅ヲ市ニ於テ統一サレン事ヲ望ム、理事者ハ之ヲ斷乎トシテ行フ意志アリヤ否ヤト質シタルニ對シ。平山財務局長ハ、小學校ノ事務ニ就テハ學區ノ設ケアルガ故ニ、學區ニ於テ行ハル問題ハ生ゼザル事ナルモ、事實問題トシテハ不可能ナリ、建設費ハ市ニテ補助シ居レリ、既ニ建設費ヲ補助スル以上、設備其他ノ費用モ市費支辨ト爲スモ不可ナキニアラズヤトハ、一理アル議論ナリト考フルモ、此ハ頗ル重大問題ニシテ今日俄ニ之ヲ解決セントスルハ困難ナリ。併シナガラ之ヲ此ノ儘放任シ置ク能ハザルガ故ニ、東京市全體ノ上ヨリ可否善惡ヲ考慮シテ善處セント欲ス。兎ニ角此ハ質問者ノ意見ノ如ク漸次水平運動ヲ起サルベカラザル問題ナルベシトハ考ヘ居レリト答ヘ。高野君三度立テ、若シ東京市會ノ意思ガ本員ノ主張通リトセバ、市理事者ハ直ニ實行スル意思アリヤ否ヤト質シ。平山財務局長ハ、市會一致ノ希望アリタル場合ニハ、當職等ハ勿論其決議ヲ尊重スベシト答ヘ

タリ。次ニ山口久太郎君ハ三邊助役ニ問ウテ曰ク、小橋市長病氣缺勤後、三邊氏ハ市制第九十六條第一項ニ據ル助役トシテ勤務シ居ルモノナリヤ、將又同條第二項ニ據ル助役トシテ勤務シ居ルモノナリヤト。此ノ質問ニ對シ三邊助役ハ、當職ハ市制第九十六條第一項ニ據ル助役トシテ勤務シ居ルモノト解釋ス、是レ本市從來ノ慣習ナリト考フト答フルヤ。山口君ハ、當議場ニ於ケル三邊助役ノ答辯ハ、市制第九十六條第一項ニ據ル助役トハ考フル能ハズ、又事實三邊助役ハ市長代理ヲ勤メ居ルニアラズヤ。然ルニ二箇月程モ入院シ、今日尙ホ引續キ療養中ニテ出席不可能ナル事明瞭ナル市長ノ名ニ於テ、市參事會ヲ召集スルガ如キハ、違法ニアラズヤ、市制第六十四條ニ據レバ、市會等ニ於テ助役ノ市長代理ヲ認メザル場合、助役ガ現職ニ在ルモ尙ホ且ツ職務管掌ヲ命ズル事アリ、既ニ宇都宮市ニ於テ其先例アリタリ。尤モ本市ニハ三名ノ助役アリテ夫レレ分掌事務ヲ有スルガ故ニ、第一助役ガ市長代理トシテ全責任ヲ負フ能ハズトナラバ、何故分掌規程ノ改正ヲ市會ニ提案セザルヤ。過般新聞紙ノ傳フル所ニ據レバ、市政上最モ肝要ナル公債ニ關シ、小原公債課長一人ガ大ニ努力シテ、遂ニ貳千萬圓ヲ救済シタリト。果シテ然ラバ本市ニハ市長モ助役モ全然不必要ト考ヘラル、兎ニ角此ノ公債ノ取扱ヲ小原課長ノ努力ノミニ一任シタルハ如何ナル理由ナリヤ。尙多數ノ出征軍人ガ東京ヲ通過スル場合、市長ニ事故アラバ、助役又ハ局長ガ本市ヲ代表シテ歡迎ヲ爲スベキニアラズヤ、然ルニ吾々ハ嘗テ一回モ驛頭ニ其姿ヲ見タル事ナク、又傷病將士ノ出迎、殊ニ遺骨歸還ノ際ニハ、宮家ノ代理ヲ始メ高位高官ノ燒香モアルニ拘ラズ、市長代理トシテ來ル者ハ、吾々ガ見テ之レガ市長代理ナリヤト疑念ヲ抱ク始末ナリ、此ノ如キハ國民精神總動員ヲ叫ベル趣旨ニ反スルニアラズヤ、然リ而シテ出征軍人遺家族ノ救済事務ト、一般ノ救済事務トヲ同一ニ取扱ヒ居レルモ遺憾ナリ。市理事者ハ區役所ニ對シテ何等カノ通牒ヲ發シタル事アリヤ、又現在區役所ニ於ケル是等ノ事務取扱情況ヲ實見シタル事アリヤ否ヤト質シ、三邊助役ハ、市長代理問題ニ關スル法律

上ノ解釋ニ就テハ種々意見アルベシト考フルモ、當職ハ本市ノ慣例ヲ尊重スル事ガ最モ妥當ナリト考ヘ、是レニ從ヒ居レリ。公債ニ就テハ課長モ努力スベク、局長モ助役モ夫レレ必要ニ應ジ、從來モ能フ限リノ努力ヲ爲セルガ、將來モ其方針ナリ。出動將士ノ見送り、傷病將士ノ出迎へ等ニ就テハ、山口氏ヨリ過般注意ヲ受ケ、爾來從前ノ方法ヲ改メタリト答ヘ。澤社會局長ハ、軍事扶助ニ關スル事務ト、一般救護事務トハ共ニ社會課ニテ取扱ヒ居ルモ、軍事扶助ニ關スル事務ハ特ニ鄭重ニシ、一般救護事務ト同一氣分ニテ取扱フベカラズトハ、豫テ區ノ社會課ヘモ通達シ置キタルガ故ニ、取扱者ハ同一人物ナルモ、其氣分ハ同一ナラザル答ナリト答フ。山口君更ニ、市長事故アリタル場合ニ於ケル助役ノ行動ニ關シ、三邊助役ハ東京市ノ慣例ニ違ヘリト云フト雖モ、本員ハ未ダ嘗テ其慣例アルヲ聞カズ、兎ニ角今後三邊助役ハ、三邊助役ノ名ニ於テ市長ヲ代理スル意思アリヤ否ヤト質シ。三邊助役ハ、過刻答辯シタル通り現在モ考ヘ居レリト答ヘ。山口君ハ四度立テ、三邊氏ガ現ニ市長代理トシテ事務ヲ執行シ居ル以上、三邊助役ノ名ニ於テスベキガ至當ナラズヤト質セリ、然ルニ三邊助役ハ之レニ對シテ何等答辯ヲ爲サルヤ、瀧澤七郎君議事進行ニ就テ發言ヲ求メテ曰ク、山口君ノ唯今ノ質問ニ對スル三邊助役ノ答辯ハ、議事進行上最モ必要ナル事柄ナルニ付、明確ナル答辯ヲ與ヘラレン事ヲ望ムト。玆ニ於テ三邊助役ハ、當職ガ東京市從來ノ慣例ト述ベタルハ、市制ノ條文ヲ離レタル慣例ト云ヘル意味ニアラズ、從來市長ガ罹病缺勤ノ實例尠カラザルモ、未ダ嘗テ助役名ニテ事務ヲ處理シ居ラズ、此ハ從來東京市ガ市制ノ條文ヲ當職ガ答辯シタルガ如ク解釋シ居タルモノト考フルナリト答フ。山口君尙ホモ、市長ハ現ニ九月十一日以來出動シ居ラザルニアラズヤ、市長ハ明日ニテモ出動スベキ見込アリヤ、若シ然ラザル場合ハ市制第九十六條第二項ニ據リ、代理助役ノ名ニ於テ事務ヲ執行スベキガ至當ト考フルガ如何ト質セリ。此ノ時黒田保次君モ議事進行ニ關シテ發言ヲ求メテ曰ク、唯今山口君ガ質問サレタル趣意ハ、過般來本員モ考ヘ居タル事ニテ、

市會開會ノ效力ニモ關係ヲ有スル重大問題ナルガ故ニ、之レガ協議ノ爲暫ク休會セラレン事ヲ望ムト。此ノ動議ニ對シ、「賛成々々」ト呼ブ者アリ、「進行々々」ト叫ブ者アリタルガ、松永議長ハ議事ノ都合ニ依リ散會スベシト宣セリ、時ニ午後九時六分ナリキ。(附記、本卷第三章第四拾壹節參照)

翌十月三十日ノ會議ニ於テ、小橋善夫君ハ市理事者ニ問ウテ曰ク、小橋氏ハ六月二十八日市長ニ就任以來、六十八歳ノ老體ニテ献身的ニ市政ニ執筆シタル結果ナルヤモ知ルベカラズト雖モ、遂ニ病ヲ得、九月十一日以來今日マデ市長席ニ小橋氏ヲ見ル能ハザル事既ニ二箇月ニ垂タリ、勿論本員ハ個人トシテ小橋氏ニ滿腔ノ同情ヲ表スル者ナルモ、公人トシテハ別ニ考ヘザルベカラズ、三助役中何人カ、市長ニ對シ、市民ノ福利公益ヲ思念シ、現在ノ非常時局ニ對處スル爲、市政ノ運用上ニ何等カノ責任ヲ痛感サレタシトノ進言ヲ爲シタル事アリヤ否ヤ、此ハ即答ヲ促サントハ欲セザルモ、是レ本員ノ質問ノ第一ナリ。第二、三助役ハ各々其ノ所管事務ニ關シ、市民ノ付託ニ副フ市政ノ運用ニ當リツ、アリヤ、又市長ノ不在中、市政ノ統一上竝ニ事務ノ執筆上、果シテ市民ノ輿望ヲ擔フ信念ト確信トヲ有セリヤ否ヤ。第三、我が出征皇軍ノ勞苦ニ對シ、過日當市會ハ滿場一致ノ決議ヲ以テ慰問使ヲ派遣スル事トシタルガ、三助役何レモ言ヲ左右ニ託シテ實行ノ熱意ヲ示サザルハ、吾々議員ノ憤懣ニ堪ヘザル所ナリ。然リ而シテ小橋市長ノ就任後ニ於ケル人事行政ニ就テハ、世上兎角ノ風評アリ、殊ニ某局長ノ人選ニ就テハ、恰モ裏長屋ノ老婆ガ自己ノ娘ノ婿ヲ探スガ如ク、此處彼處ニテ幾度カノ謝絶ニ遭ヒ、尙ホ且ツ彼方此方ニ叩頭シ廻レリト聞ク、其無定見、不見識、洵ニ言語道斷、沙汰ノ限リト言ハザルベカラズ。又今次事變ニ應召セル兵士ノ遺家族救援ニ就テハ、市理事者ハ率先シテ事ニ當ラザルベカラザルニ拘ラズ、先般軍事救援事業ニ關スル同僚高梨君ノ質問ニ對シ、三邊助役ノ爲セル答辯ハ形式的ニシテ、所謂御座ナリノ答辯ニ過ギザリキ。以上ノ事實ニ徴シ、三助役共何レモ一定ノ見識ヲ有シテ市

政運用ノ任ニ當リ居レルヤ否ヤヲ疑ハザルヲ得ズ、若シ三助役ニシテ果シテ定見ヲ有シ、市民ノ利福ノ爲ニ渾身ノ努力ヲ惜マズトノ確信アラバ、率直ニ、赤裸々ニ、其意見ヲ披瀝セラレン事ヲ望ム。第四、東京市ニ職ヲ奉ジ居リテ應召シタル者既ニ千七百二十二名ノ多數ヲ算ス、然レドモ國民精神總動員下ノ時局ニ鑑ミ、政府ヲ始メ本市ニ於テモ人員ノ補缺ヲ爲サズ、銃後ニ在ル市吏員諸君モ戰線ニ立テル者ト同様、盡忠報國ノ精神ニテ、日夜孜々トシテ事務ニ精勵シツ、アリ、此ノ市吏員諸君ノ心情ト其實狀トニ鑑ミ、去ル昭和九年十月十一日一片ノ助役通牒ヲ以テ施行スル事トシタル五十五歳ノ停年制ヲ廢シ、從前ノ市吏員分限規程通り滿六十歳ノ規定ヲ復活セシムル意思ナキヤ否ヤ。第五、過日本員ハ「ニューヨーク」市生レノ米國婦人ニシテ、日本ニ十箇年間滞在シ居ル一藝術家ニ會見シタルガ、其際同婦人ハ、祖國ノ母ヨリ來信ナリト本員ニ示セリ、其書翰ノ要旨ハ、日本ハ弱者虐メヲ爲ス侵略國ナリ、支那ニ同情ヲ有スル「アメリカ」生レノ嬢ガ、此ノ上日本ニ滞在シ居ラバ殺害サルベキガ故ニ、速ニ歸國スベシト云フニ在リ、之レト同一ノ事柄ヲ他ヨリモ聞知シタルガ、此ハ今次ノ事變ニ際シ、支那ガ巧妙ナル宣傳ヲ歐米各國ニ試ミテ奏效シタル結果ニシテ、今ヤ歐米各國ニ於テハ、日本ハ弱者ヲ虐遇スル侵略國ナリトシ、排日ノ聲澎湃トシテ各地ニ起リツ、アリト聞ク。支那事變ハ當初ノ豫想以上ニ擴大シ、今後ノ事ハ何人モ豫見スル能ハザル情態ニ在リ、仍テ此ノ際鞏固ノ下ニ在ル東京市長ハ、帝國ノ文化經濟總テノ中心タル我が東京市民ヲ代表シ、歐米列國ノ市長ニ對シ、今回ノ支那事變ハ日本ガ正義ノ爲ニ起レル聖戰ニシテ、日本ハ決シテ侵略主義ノ國ニアラズト云フ「メッセージ」ヲ發スル事ハ、洵ニ時宜ヲ得タル措置ト考ヘラル、ガ、三助役ノ所見如何ト。第一助役三邊長治君先ヅ答ヘテ曰ク、當職ノ所管事務中都制問題ト云ヒ、行政機構ノ改革、交通統制、財政ト事業トノ統制等、重要問題尠カラズ、是等ノ全部ヲ今日直ニ解決セント欲スルハ、微力ナル當職ノ能スル所ニアラザルモ、所管事務ニ就テハ就任以來渾身ノ努力ヲ爲シ

ツ、アル考ヘナリ。皇軍慰問ニ就テハ、市會ノ議決ヲ尊重シテ、是レ亦能フ限リノ努力ヲ爲シ居レリ。停年制ニ就テハ種々ナル見解アルベシト雖モ、既ニ實施中ノ今日之ヲ變更スルハ、重大考慮ヲ要スル事ト思惟ス。今日ノ時局ニ就キ、歐米各國ノ市長ニ對シテ東京市長ヨリ「メッセージ」ヲ發送スル事ハ同感ニシテ、適宜之ヲ行フヤウ市長ニ進言セント欲スト。第二助役篠原英太郎君ハ、東京市政ハ其範圍廣大ニシテ、其内容モ頗ル複雑多岐ナリ、當職ノ所管事務ハ、社會事業、保健衛生、産業方面ニシテ、何レモ幾多ノ重要問題山積ス、是等山積セル重要問題ニ對シ、當職ノ力及バザル所甚ダ多キモノアルハ、衷心ヨリ恐縮ニ堪ヘズト考フルモ、驚鈍ニ鞭チテ、東京市政ノ伸展、六百萬市民ノ福利増進ノ爲、能フ限リ盡瘁セント欲ス。停年制ニ就テハ、三邊助役ノ答辯ニテ諒承セラレン事ヲ望ム。要スルニ市吏員ニ對シテハ、如何ニセバ市吏員ガ一體トナリ、明朗ナル氣分ニテ、喜デ職務ニ忠誠ヲ致スヤト云ヘル事ガ要點ナリト考フ、仍テ是等ノ問題ニ就テハ篤ト研究シ、諸君ノ指導ヲ仰グベキ事柄ハ充分指導ヲ仰ガント欲スト答ヘ。第三助役原全路君ハ、當職ノ所管ハ、土木、水道、港灣、市廳舎建設等ノ事務ナルガ、何レモ市民ノ福利増進ニ重大關係ヲ有ス。現在ノ非常時局下ニ於テ、政府ノ國策ニ鑑ミ、驚鈍ニ鞭チテ、極力既定方針ノ遂行、將來ノ計畫等ニ努力セント欲ス。停年制ニ就テハ、兩助役ト全然意見ヲ同クスト答フ。小椋君更ニ、第一助役ハ何故自己ノ信念ヲ赤裸々ニ、率直ニ披瀝セザルヤ、唯單ニ銳意努力スベシトノ答辯ニテハ本員満足スル能ハズ。停年制ハ事重大ニシテ、容易ニ決セラレザル問題ナル事ハ本員モ承知シ居レリ、然レドモ重大ナル今日ノ時局ニ際シ、眞ニ市吏員ヲ愛シ、市政ノ將來ヲ考慮セバ、此際斷乎トシテ改善スベキニアラズヤ、東京市會ハ近ク市政ノ大革新ヲ行フベク、既ニ各派ヲ通ジテ相當ノ機關モ構成シタリ、三邊助役ニシテ市政ニ對スル定見ヲ有セリトセバ、之レト提携シテ、其陣頭ニ立タレン事ヲ警告ス。第三助役ハ市吏員ヲ代表シタル助役ナルニ拘ラズ、停年制ニ就テハ毫モ熱意ヲ示サズ、兩助役

ト同一意見ナリト輕ク答ヘタルハ狡猾ナリ、本員ハ第三助役ニ對シ、市吏員ノ爲ニ自己ノ信念ヲ赤裸々ニ披瀝シ、以テ市吏員ノ代表者タル本領ヲ發揮セラレン事ヲ希望シテ質問ヲ打切ルベシト述ベタリ。次ニ瀧澤七郎君ハ、大震災後約十五箇年ノ間ニ、本所、深川兩區ノ地盤約三尺程低下シタル爲、昨年來高潮防止トテ、河川ノ沿岸ニ高ク土手ヲ築ケリ、土手ノ築造ハ不可ナシト雖モ、高潮時逆流シテ下水道ヨリ浸水シ來リ、附近ニ氾濫スルモ、之ヲ汲出スベキ「ポンプ」ノ設備ナキハ甚ダ遺憾ナリ。此ノ「ポンプ」ハ何日頃設備スル考ヘナリヤ、是レ本員ノ質問ノ第一ナリ。第二、江東兩區ノ地盤ノ低下ハ震災後ニ於テ初メテ知り得タルニアラズ、然ルニ復興局設置以來、同局ニ於テ復興計畫ヲ行ヒタル際、地盤ノ低下ヲ知リツ、江東兩區ニ於ケル橋梁ヲ悉ク鐵筋「コンクリート」ニ改メ、而シテ文明ノ橋梁ナリト誇レリ、然ルニ地盤ノ低下ト共ニ此ノ橋梁モ低下シ、船舶ノ通航スル能ハザル箇所アリト聞ク、斯テハ東京灣ノ設備完了スルモ、其利用價值ハ著シク減殺サルベシ、市當局ノ所見如何。第三、橋梁ノ低下スル他方ニ於テ、費用ノ關係ニテ河川ノ改修ヲ怠リ居ル爲、河底ニ泥土堆積シテ、船舶ノ航行ヲ阻碍シ居レルガ、市當局ハ河川ノ浚深ニ對シ、如何ナル計畫ヲ有セリヤ。第四、東京市ノ道路ハ、内務省、東京府、東京市等ガ相共ニ之ヲ行フ計畫アルモ、河川ノ改修ニ就テハ何等ノ計畫ナキモノ、如ク、頗ル疎漫ナリ、本所、深川兩區ヲ始メ、京橋、日本橋、神田ノ諸區ニ於テモ、埋立ツベキ河川尠カラズ、是等陸地ト爲シテ利用スベキニアラズヤ、又新ニ河幅ヲ擴張セザルベカラザル所モアルベク、江戸川、葛飾方面ノ最近工場地帯トシテ股賑ニ向ヒツ、アル地區モ、道路計畫ト共ニ河川計畫ヲ確定サレンコトヲ希望ス、土木局長ハ右ニ對シ何等カノ計畫ヲ有セリヤ。第五、牛塚前市長ハ山下電氣局長ノ考案ヲ採用シテ、電氣局ノ更生案ヲ作製セリ、此ハ牛塚前市長一代ノ傑作トモ云フベキカ、兎ニ角昭和十一年度電氣局豫算ハ既ニ決算モ終了シタル筈ナリ、仍テ簡單ニテ可ナルガ、此ノ更生案ノ電氣局ニ與ヘタル影響ヲ示サレタシ。第六、水道

局ニ於テ築堤ニ要スル「セメント」ヲ自給自足センガ爲、機械ヲ購入シタリト聞ク、果シテ然ルヤ否ヤ。又先般水道事業調査委員會ニ提示シタル書類中ニ、村山、山口兩貯水池ニ對シテ應急施設ヲ行ハ、相當ノ水量ヲ得ベシト云ヘルガ、果シテ然ルヤ否ヤト質シ。土木局長衣斐清香君ハ、高潮防止ノ爲ニ護岸ノ嵩上ヲ爲サバ、下水ヨリ河水ノ逆流ナキ筈ナルニ、之レアリトセバ、其ハ下水ヨリ浸水スルニアラズシテ、護岸ノ石積ノ間隙ヨリ浸入シ來ルナリ、即チ護岸工事が完全ナラザリシ結果ナリト思惟ス、現ニ高潮防禦工事ヲ行ヒタル箇所ニ於テ、之ヲ發見シ、目下速急ニ修理シツ、アリ、之レガ全部完了セバ、懸念スベキ憂ナカルベシト信ズ。江東方面ハ往時ヨリ十年ニ一尺低下スト云ヒ居レルモ、其ハ誇張ノ言ナリ、勿論低濕ノ地ナルガ故ニ、場所ニ依リテハ、十年ニ一尺ノ低下ヲ爲ス所アルヤモ知ルベカラズ、然レ共全地域ガ十年ニ一尺ゾ、低下シ居レリトハ考ヘラレズ、震災後復興事業ヲ行フ際、道路、宅地等總テ平均約三尺ノ盛土ヲ行ヒタルモ、鐵筋「コンクリート」ノ學校ヲ始メ、多數重量アル工作物ノ建設、其他種々ナル情勢、環境ノ變化等ニ因リ、地質ニモ影響ヲ及ボセルナランガ、永久ニ加速度的ニ今日ノ如ク地盤ノ低下ハナカルベク、或ル時期ニ達セバ飽和状態トナルベシト思料ス。橋梁ノ低下シタルモノアルハ事實ナルガ、此ハ高潮防止工事完了後、隅田川本流ト河川トノ連絡箇所ニ水門ヲ設ケ、最高潮時、又ハ洪水、輕度ノ海嘯等ヲ防禦スル計畫ニテ、是等ト關聯シテ水位ノ調節ニ因リ、或ル程度橋梁ノ低下アルモ船舶ノ航行ハ爲シ得ベシト考フ、然レドモ以上ノ計畫ニテ尙ホ船舶ガ航行スル能ハザル場合ハ、改築ノ外ナシ、改築ニハ相當ノ費用ヲ要シ、此ノ際直ニ著手スル能ハズト考フ。浚深ハ護岸ノ關係モアリテ、岸壁近クハ深ク掘鑿スル能ハズ、中央ノ濬筋ヲ掘鑿ス、理想的浚深ハ財政上ノ關係ニテ困難ナルモ、必要程度ノ豫算ハ既ニ市會ノ協賛ヲ經アリ、此ノ範圍内ニ於テ或ル程度ノ緩和ハ可能ナリト考フ、此ノ事業モ河川ノ運用上重大關係アルガ故ニ、將來モ充分注意セント欲ス。河川改修計畫ハ、道路ト同様都市計

畫事業トシテ行フモノナルガ、土木事業ハ一般産業其他ノ伸展ニ伴ヒ、必要ノ最モ激シキ方面ヨリ順次著手シ居リ、陸上ノ交通、即チ道路方面ニ先鞭ヲ附ケラレ、河川ハ其ノ後ト云フ事トナリ、洵ニ遺憾ナリ、仍テ水陸ノ交通關係ニ就キ更ニ調査ノ上、其運用、計畫、事業ノ進行等ニ就キ滞リナキヤウ、今後一層努力セント欲スト答ヘ。電氣局長後藤悌次君ハ、電氣局事業ノ更生ニ就キ山下案ノ内容タル第一ノ人件費ノ節約ハ、電車、自動車、電燈ノ全部ヲ合セテ、年額約五百拾萬圓ノ豫定ナリシモ、強制調停其他種々ナル事情ノ爲、當初ノ計畫通り實行スル能ハズ、昭和十一年度ニ於テ約參百九拾五萬圓ノ緊縮節減ヲ爲シ得タリ。低利債ノ借替ハ、五分乃至五分五厘ノ市債七千五百萬圓程度ヲ四分三厘ノ低利ニ借替ヘテ、年額約八拾貳萬圓ヲ節約スル計畫ナリシニ、其實績ハ約壹億五百萬圓ノ市債ヲ四分一厘ト四分三厘又ハ四分五厘トニ借替ヘ、約百五萬圓ノ節約ヲ爲シ得テ、當初ノ計畫ニ比シ年額約貳拾四萬圓近キ節約額ノ増加ヲ爲セリ。長期債ノ借替ヘハ、二十年又ハ二十五年ノ償還期ヲ五十年程ニ延期シテ、年額約參百貳拾萬圓ヲ浮バシムル當初ノ計畫ナリシモ、此ノ長期債ノ全額ヲ一時ニ借替フル事ハ、財界ノ實情トシテ全然不可能ナリシガ故ニ、年々ノ償還元金ヲ一時全部借替ヘ、之ヲ次年度ヘ次々ニ繰越ス事ニ變更セリ、此ノ變更計畫ノ大體ハ、約八百五拾九萬圓ノ元利支拂ヲ五百參拾九萬圓程度ト爲ス方針ナリシモ、實際ハ七百參拾萬圓程ノ支拂額アリテ、當初ノ計畫ニ比シ、貳百萬圓弱ノ相違ヲ來ス結果トナレリ。尤モ一時ニ全部ノ借替ヘテ爲ス計畫ヲ年々ノ借替ヘニ改メタルモノナルガ故ニ、正確ナル數字上ノ比較ハ困難ナルガ、全體ノ計畫トシテハ、大體當初ノ計畫通り實行シ居レリト云ヒ得ベシ、但シ電力自給問題ハ、小河内貯水池計畫ニ附隨シ居ル關係上、此ノ貯水池計畫ガ確立シ、水量ノ的確ナル數字上ノ決定ト使用方法ニ就テノ誤リナキ決定トヲ得タル上ニテ、發電計畫ノ再檢討ヲ爲サント欲ス。要スルニ山下更生案ハ、大體ニ於テ豫期ノ成績ヲ舉グ居レリト云ヒ得ベク、電力自給問題モ今日ノ所計畫ノ進捗ハ阻碍サレ居ルモ、遠カ

ラザル將來ニ於テ豫期ノ成績ヲ擧ゲ得ベシト思惟スト答ヘ。第三助役原全路君ハ、水道局ニ於テ「セメント」製造機械ハ購入シ居ラズ、本市現在ノ水道設備ハ、原水上ニ相當給水ノ餘力ヲ存シ、又市域擴張ニ因リ水道統合ノ結果、多摩川ニ賴ル自然流下ノ供給ト、多摩川以外ノ「ポンプ」ニ賴ル供給トノ兩水道中、動力ニ賴ル水道ニモ相當餘力ヲ存ス、此ノ餘力ヲ非常用給水ニ充當スベキ必要アルガ故ニ、送配水設備ニ充分ナル改良ヲ加ヘント欲ス。蓋シ此ノ應急施設ヲ行ヒ得バ、水道利用上ニ弾力性ヲ有セシメ、相當供給量ヲ増加セシメ得ベケレバナリト答フ。瀧澤君更ニ、河川改修計畫ハ道路計畫ト歩調ヲ共ニシテ遅レザルヤウ、又港灣部トモ相協力シテ適當ニ處置サレン事ヲ土木局長ニ望ム。電氣事業ニ就キテハ、山下案ガ適當ナル運用ニ依リテ成功シ、牛塚前市長モ定メテ満足シ居ルナランガ、今後尙ホ一層努力セラレン事ヲ電氣局長ニ望ム。原助役ニ對シテハ更ニ一言質サマルベカラズ、元來本員ガ水道事業ニ關シテ興味ヲ有シタルハ、大正十五年村山山口兩貯水池築造計畫ノアリタル際、本員ガ其豫算委員長ニ推サレテ以來ノ事ナリ、村山、山口兩貯水池築造ノ際、水道料金二割八分ノ値上ヲ爲シタルガ、新ナル貯水池築造ニ際シ、料金ノ値上ヲ爲サマルヤウ努ムベキガ、理事事者トシテ市民ニ忠實ナル所以ナリト考フ。仍テ本員ハ經濟上ヨリ見テ、小河内貯水池ノ築造計畫ハ再検討ヲ爲スベキ必要ヲ認メ、本員ガ爲シタル調査ノ結果ニ基キ、水道局長ニ對シテ再検討質問書ヲ提出シタルニ、水道局長ハ瀧澤ノ調査ニハ誤謬アルモ、水道局ノ設計ニハ毫モ誤謬ナシト云ヘル答辯書ヲ本員ノ手許ヘ送致セリ、然レドモ本員ハ其水量ニ疑義ヲ有ス、水源林ノ造營ニ就テモ、本員ノ調査ニ據レバ全然其方法ヲ誤リ、三十年間ニ參百萬圓ノ鉅額ヲ浪費シタル結果トナレリ。牛塚前市長ガ一生一代ノ傑作トモ稱スベキ電氣局更生案ノ人件費節約、低利債借替等何レモ成功シタルニ拘ラズ、最後ノ水力發電問題ハ今日尙ホ混沌タル状態ニテ、電氣局ノ惱ノ種トナリ居レリ。當時ノ水道局長タリシ原氏ハ、小河内出張所長ト共ニ、牛塚前市長ヲ數年間瞞著シ居タリト

斷言シテ憚ラズ、然ルニ新市長ハ原氏ヲ本市ノ模範吏員トシテ、水道局長ヨリ助役ニ榮進セシメタリ。本員ガ原氏ノ助役榮進ニ反對シタルハ、其職務ニ對シテ無責任ナリシガ故ナリ、原氏ガ水道局長當時、水道局ノ名ヲ以テ提示サレタル書類中ニモ矛盾セル個所甚ダ尠カラズ、例ヘバ給水設備標準能力内譯表中、羽村系統ノ現在ノ設備ヲ四十八萬噸トシ、應急擴張完成後ノ能力モ四十八萬噸トセリ、何タル矛盾ゾ。小河内現在ノ設備ヲ以テ、昭和十年ニ於テ既ニ七十萬噸ノ水ヲ供給シ得タルニアラズヤ、而シテ之ヲ非常給水ナリト稱シ、翌十一年ニハ七十八萬五千噸ヲ取水シ、是レ亦非常給水ナリト稱シ、更ニ今年ハ八十三萬五千噸ノ取水ヲ爲シテ、前年同様非常給水ナリト稱セリ。既ニ以上ノ如キ取水ヲ爲シ得ルニ拘ラズ、四十八萬噸以上取水スル能ハズトノ統計ヲ提示シタルハ如何ナル理由ナリヤ、吾々ヲ盲目者ト考ヘタリシヤ。原氏ノ計畫ヲ實施スルモ、本員ノ見ル所ニ據レバ十三萬噸乃至二十萬噸ニ過ギザルベシ、本市現在ノ水道ハ、壹億參千萬圓ノ投資ニ對シテ、壹千六百萬圓ノ賣上ヲ有シ、一應當四錢八厘、湯屋ヘハ參錢八厘ニテ壹錢ノ損失ヲ蒙リ居レルガ、此ノ計數ヲ以テセバ、二十萬噸ハ貳百參拾萬圓ニ過ギズ。然ルニ問題ノ小河内ニ對スル投資額概算ハ七千萬圓ニシテ、而モ工事中ノ利息ハ千八百萬圓ナリ、而シテ之レガ三十箇年ノ均等償還額一箇年五百萬圓ヲ算ス。小河内貯水池計畫ヲ今日ノマ、強行スル事トセバ、將來東京市民ハ約二割六分水道料金値上ノ負擔ヲ爲サマルベカラズ。要スルニ問題ハ兩三年ニテ終了スル事業ニアラズシテ、其完成ハ十箇年ヲ要スル事業ナルガ故ニ、今日再検討ノ爲五六箇年遅延スル事アルモ、工事全體ニ及ボス影響ハ極メテ輕微ナリト考フ、右ニ關シ敢テ三邊第一助役ノ所見ヲ聽カント欲ス。市吏員中公金ヲ費消スル者アリト聞ク事一再ナラズ、而モ當時ノ上司ハ他ニ轉ジ、新任ノ上司ガ市ニ損失ヲ與ヘザルヤウ處置セルニ拘ラズ、却テ市ヨリ虐遇サレ居ル者ナシト云フ能ハズ、此ノ點ニ就キ充分考慮セラレン事ヲ助役ニ一言シ置クベシ。尙ホ市長ニ對シテハ、本員モ市長ガ一日モ速ニ平癒ノ上出勤セラレ

ン事ヲ祈願シ居ル一人ナルガ、主治醫トモ篤ト相談ノ上、天壽ヲ完ウスルヤウ考慮セラル、事モ本員ガ衷心ヨリノ希望ナリト述べ。原第三助役ハ、水道事業ニ關シテ瀧澤氏ヨリ手痛キ質問ヲ受ケタルガ、水道局長トシテノ原ニ對シ、非常ナル誤解アルガ如ク考ヘラル、ハ遺憾ナリ、現在ノ設備ニ於テ四十八萬噸以上ノ餘力アルモ、其設備ヲ公式ニ發表スル場合ハ、既ニ許可ヲ得居ル四十八萬噸ノ水量ヲ常ニ謳ヒ居レリ、此ハ決シテ餘力ヲ隱蔽センガ故ニ嘘偽ノ記載ヲ爲シタルニ非ズ。又小河内ノ效果ニ就キ、瀧澤氏ハ十三萬噸乃至二十萬噸ヲ出デザルベシトノ見解ナルモ、此ハ意見ノ相違ニシテ、當職ハ小河内建設ニ因ル擴張事業ハ不經濟トハ考ヘズ、而シテ此ノ事業ノ爲ニ水道料金ノ値上ヲ必要トセザルヲ確信スト答ヘ。三邊第一助役ハ、小河内問題ニ就キ再調査ノ爲委員會ヲ設置スベキヤ否ヤハ、主管部局ノ意見ヲ徵シ、部局ニ於テ其必要アリトセバ、設置スル事トナルヤモ知レズト答ヘ、瀧澤君ハ時間ニ餘裕ナシトテ、質問ヲ次回ニ留保セリ。

斯テ十一月五日ノ會議ニ於テ、瀧澤君ハ前回ニ引續キ市理事者ニ問ウテ曰ク、前回ノ會議ニ於テ原助役ハ本員ノ質問ニ對シ、計畫當時ニ於ケル羽村ノ水量ハ四十八萬八千四百四十二噸、應急擴張完成後ノ能力モ四十八萬八千四百四十二噸ト記載シタルハ、計畫當時ノ設計書ニ四十八萬噸ノ數字ヲ謳ヒ居ルガ故ニ、常ニ此ノ數字ヲ掲ゲ居ルナリト答辯セリ、是レ本員ガ甚ダ不思議ニ堪ヘズト考フル點ナリ。擴張工事ノ計畫ハ昭和七年ニ市會ガ議決シ居ルモ、此ノ計畫ハ當局ニ於テ恐ク數年前ニ於テ爲セルモノナルベシ、昭和四年ノ總配水量ハ一億四千百萬噸ニシテ、一日ノ最大量四十八萬七千二百二十五噸ナリシガ故ニ、之ヲ基準トシテ四十八萬噸ノ數字ヲ掲ゲタルモノナルベシ。而シテ小河内ノ貯水池ヲ四十二萬噸ト計算シ、合計九十萬噸餘ノ水量ヲ得ベシトスル、此ノ九十萬噸ガ問題ノ要旨ナリ。昭和四年ニハ一日ノ最大量四十八萬七千噸ニ過ギザリシガ、翌五年ニハ總配水量一億四千八百萬噸ニシテ、一日ノ最大量五十三萬六千

噸、六年ニハ總配水量一億五千三百萬噸、一日ノ最大量五十三萬噸、七年ニハ總配水量一億六千三百萬噸、一日ノ最大量五十六萬四千噸、八年ニハ總配水量一億八千萬噸、一日ノ最大量六十二萬噸、九年ニハ總配水量一億九千萬噸、一日ノ最大量六十四萬八千噸、十年ニハ二億六百萬噸、一日ノ最大量七十萬噸、十一年ニハ二億二千二百萬噸、一日ノ最大量七十八萬三千噸、本年度ノ最大配水量ハ八十三萬五千噸ヲ算シ、計畫當時ハ四十八萬噸ナリシモ、年々歲々前陳ノ如ク給水量ハ増加シ居レリ。電氣局ノ書類ニテハ非常給水ト稱シ居ルモ、事實ハ常時ナル事水道當局ノ既ニ熟知スル所ナリ、殊ニ七、八、九年ハ稀ニ見ル早魃ナリシニ拘ラズ、何等設備上ノ費用ヲ要セズシテ、五十六萬噸以上六十四萬噸ノ給水ヲ爲シ得、年々増加給水ヲ爲シツ、アリシニアラズヤ、仍テ早魃時ニ備フル爲ノ築堤事業ハ、茲ニ再検討ヲ爲スベキ必要アリト思惟ス、當局ノ所見如何、是レ質問ノ第一ナリ。第二、小河内ニハ四十二萬六千噸ノ水ヲ貯溜セシムル計畫ナリシモ、種々調査ノ結果、瀧澤ノ云フガ如ク水量ニ不足ヲ來スベシト考ヘタリシ結果ナリヤ否ヤハ本員之ヲ知ラザルモ、急遽五萬噸ヲ引下ゲ、三十七萬噸ニ設計ヲ變更シタルガ、此ハ市長ニ報告シテ其同意ヲ得タリシモノナリヤ否ヤ。然リ而シテ四十二萬六千噸ノ設備ヲ三十七萬噸ニ變更シタルニ拘ラズ、貳千數百萬圓ノ豫算額ヲ更正セザルハ如何ナル理由ナリヤ。本員ハ尙ホ質サント欲スル事柄尠カラザルモ、本夕ハ以上ノ二點ニテ質問ヲ打切ルベシ。唯前回ノ會議ニ於テ三邊助役ハ本員ノ質問ニ對シテ、主管部局長ノ意見ヲ徵シ、主管部局長ガ再調査ヲ必要ナリトセバ再調査委員會ヲ設置スベシト答ヘタルガ、此ハ所謂走り使ヒヲ爲ス奴僕ノ言ニシテ、市長代理タル助役ノ答辯トシテハ満足スル能ハザルノミナラズ、助役ノ口ニスベキ言辭ニアラズト考フ、仍テ再調査ノ意思アリヤ否ヤ、又設計ヲ五萬噸引下ゲタルニ對シ、更正豫算ヲ提出セザルモ可ナリト考ヘ居レリヤ否ヤ、是レ亦三邊助役ヨリ明確ナル答辯アラン事ヲ望ムト。原第三助役先ヅ答ヘテ曰ク、計畫以上ノ水量ヲ供給シ得タル原因ニ就テハ、第一、

假令バ四十八萬噸ノ給水ヲ計畫スル場合、水源ヨリ需要者マデノ長距離間、種々ナル過程ニ於テ二割五分ノ自然消耗ヲ計算シテ、六十萬噸ノ水量ヲ標準トス、然ルニ其後ニ於ケル設備ノ改善、運用方法ノ熟達等ニ因リ、最近五箇年間ニ於ケル平均ハ五分程度ニテ、非常ナル原水ノ節約ヲ爲シ得タルト、第二、市域擴張ノ結果、從來灌溉用ニ一日約三十萬噸乃至五十萬噸ヲ下ラザリシ使用量ガ、二十二三萬噸ニ減少シタルコト、第三、現在ノ設備ニテモ尙ホ十五六萬噸ノ増加供給ヲ爲シ得ベキ三箇ノ理由アリ。以上ノ次第ニテ供給計畫ノ規模ニ比シ、實際ハ遙ニ超過シタル供給ヲ爲シ得ル惠マレタル事情ニアリ、此ハ小河内貯水池出來後ニ於テモ同様、供給規模ニ比シ多量ノ給水ヲ爲シ得ベキハ、將來ニ期待サルベシト思惟ス。供給規模五萬噸引下問題ハ、水道局長竝ニ建設事務所長ニ於テ尙ホ充分攻究スベキ必要アリト考フ、貯水池以外ニ於テ相當量ノ原水節約ハ可能ナルガ故ニ、是等ノ關係モ充分考慮ノ上、愈々供給規模五萬噸引下ニ決定セバ、無論更生豫算提出ノ手續ヲ執ラント欲スト。次テ三邊第一助役ハ、再調査ニ就テハ、前回ノ會議ニ於テ答辯シタル如ク、主管部局ノ意見ヲ徵シテ善處セント欲ス。更正豫算ニ就テハ、當職モ原助役ト同様ノ考ヘナリト答ヘ。瀧澤君更ニ、原助役ノ答辯ハ毫モ本員ノ質問ノ要旨ニ觸レ居ラザルノミナラズ、其答辯ニ據レバ、小河内ノ貯水池工事ハ結局不必要ナリトノ結論ニ到達シ、本員ノ意思トハ正反對ノ結果ヲ招來ス。兎ニ角現在從前ノ設計ノ儘、即チ築堤費等壹錢壹厘モ新ナル費用ヲ要セズシテ、本市ハ最初ニ希望シタル水量ヲ現實ニ使用シ居レリ、原助役ハ此ノ事實ヲ如何ニ見居レリヤ。又東京市政上必要ナル諸施設ハ、事實ニ即シテ或ハ設置シ、或ハ廢止スベク、此ハ時代ノ趨勢上當然ノ措置ナリ、然ルニ事實ニ即セザル設計ヲ再調査シ、又ハ之レガ變更ヲ爲サントスルニ際リ、下僚ノ意見ヲ徵スルニアラズンバ、何等ノ措置ヲモ講ズル能ハズトハ何事ナリヤ、三邊氏ハ斯テモ助役ノ職責ヲ果シ得ト考ヘ居レリヤ。尙ホ五萬噸引下ヲ原助役ハ聲明セルガ、此ノ聲明ハ市長ノ同意ヲ得タルモノナリヤ否ヤト本員ノ

質問ニ對シ、水道局長ニ諮リタル上ニテ決定スベシト答辯セルハ何事ナリヤ、要スルニ本員ハ市理事者ヲ非難攻撃セシメシメテ質問スルニアラズ、市會議員トシテ市政ニ對シ、幾分タリトモ貢獻スル所アラントスル信念ニ因ルモノナルヲ諒セラレン事ヲ望ムト述ベテ質問ヲ打切レリ。次ニ黒井直良君ハ、第一、山口、村山、中川等ノ貯水池、又ハ各所ニ在ル淨水場ニ萬一傳染病ノ微菌投下、或ハ堰堤ノ破壊等アリタル場合、市理事者ハ勿論其對策ヲ研究考慮シ居レリト考ヘラル、ガ如何。第二、地上高ク聳エ居ル瓦斯「タンク」ノ地下埋設貯藏方法ヲ研究スベク、市理事者ハ瓦斯會社ニ何等カノ交渉ヲ爲シタル事アリヤ。第三、復興建築助成會社ニ對スル善後措置ニ就キ、市理事者ハ如何ナル方策ヲ有セリヤ。第四、本年度豫算案審議ノ際、本員ハ同僚大澤梅次郎君ト共ニ映畫教育ニ關シ、小國民ノ智能啓發ニ資セシムベク、豫算委員ノ諒解ヲ得テ豫算案ヲ更正シ、壹萬八千五百圓ノ金額ヲ計上シタル筈ナルガ、此ノ映畫問題ニ關スル其後ノ成行果シテ如何。第五、人事行政ニ關スル同僚高木惣市君ノ質問ニ對シ、三邊助役ハ廳内ヨリノ拔擢若クハ轉任ヲ原則トスルモ、場合ニ依リテハ云々ト答辯セリ、道途傳フル所ニ據レバ、市理事者ハ今回教育局長ノ後任ニ某縣知事ヲ羅シ來ル考ヘナリト、局長一人ノ輸入ハ多數市吏員ノ榮進ヲ妨クベシ、市理事者ハ如何ナル理由ニ據リテ原則ヲ破リ、教育局長ヲ何處ヨリ羅シ來ラントスル考ヘナリヤ。第六、地租委讓問題ニ就キ本員ハ故淺川保平君ト共ニ、機會アル毎ニ財務局長ニ對シ種々進言シタルガ、本市ノ希望貫徹ノ能否ハ暫ク措キ、地租ノ賃貸價格更正期十年ヲ短縮シテ三年トセバ、國家ノ財政ニ於テ貳千五百萬圓、東京市ハ壹千萬圓ノ新財源ヲ得、五箇年トスルモ、政府ハ壹千五百萬圓、東京市ハ五百萬圓ノ增收ヲ得ベシ。然リ而シテ賃貸價格ノ期間更正ニ就テハ可能性アリト考ヘラル、ガ故ニ大ニ努力スベシト、約一ヶ月以前常設委員會ニ於テ、財務局長ガ吾々ニ約シタル言ナリ、此ノ約束ニ關シ財務局長ハ其後幾何ノ程度マデ檢討攻究シタリヤ。第七、月島、洲崎等ノ埋立地ニ對シテ工場地帯ノ指定ヲ受

ケザルハ何故ナリヤ。現在八億ノ負債ヲ有スル本市トシテハ、月島、洲崎等ニ於ケル廣漠タル埋立地ヲ工場地帯トシテ指定ヲ受ケ、之ヲ時價ニテ處分スベキガ至當ノ措置ニアラズヤ、然ルニ市理事者ハ未ダ嘗テ其手續ヲ爲シタリト云フヲ聞カザルハ、本員ノ諒解ニ苦ム所ナリ、抑々理事者ハ其手續ヲ蹈ミタル事アリヤ否ヤ。第八、本市ノ起債ニ對シテハ、内務、大藏兩省共ニ約四十パーセント以上ノ削減ヲ爲セリ、此ハ時局柄已ムヲ得ザル事ト考ヘラル、ガ、此ノ際市理事者ハ本市財政ヲ實際上確立セシムル好機トシテ、外債ノ元利支拂ヲ暫ク延期スル意思ナキヤ否ヤト質シ。第二助役藤原英太郎君ハ、從來ノ防空演習ハ其重點ヲ燈火管制ト防護團員ノ訓練トニ置キ、市民生活上重要ナル水道ノ水源タル貯水池、若クハ瓦斯「タンク」等ニ對シテ、毒藥ノ投入又ハ爆發等アリタル場合ノ防護法ニ就テハ、遺憾ナガラ敵機襲來ノ場合、單ニ其所在ヲ發見サレザルヤウ「カムフラージ」スル事ニ重點ヲ置ケルニ過ギズ。空襲ニ對スル都市防護ニ就テハ、瓦斯、貯水池等ノ重要問題以外、燒夷彈ニ對スル防火、市民ノ避難等種々重要問題アリ、是等ハ今後ノ研究施設ニ俟タザルベカラズト考ヘ、軍部方面ヲ始メ、警視廳、主務省等ノ指導ヲ受ケ居レリ。今回市會ヘ追加豫算ヲ提出シタルモ、斯ル事柄ニ對處スル第一歩ヲ印シタルナリ、尙ホ先般ノ防空演習ニ於テ、特設防護團ヲ設置シ得ル途モ設ケラレタリ、仍テ瓦斯會社ノ如キ公共的關係ヲ有シ、且ツ相當大ナル組織ヲ有スル會社等ハ、其工場主ニ於テ特設防護團ヲ經營シ行クヤウ交渉セリ、以上ノ諸問題ハ、將來ノ問題トシテ重要性ヲ感ジ居レリ。復興助成會社問題ニ關シテハ、前任者ニ於テ慎重討議シ、市役所部内ニ於テハ或ル程度ノ成案ヲ得タルガ、廳議トシテ未ダ決定シ居ラズト聞ク、本問題ハ能フ限リ速ニ解決スベキ必要アリト考ヘ、適正ナル成案ヲ得ベク、産業局ヲ中心トシテ目下慎重ニ熱心ニ研究中ナリ。映畫教育ニ就テハ、壹萬八千六百圓ノ費用ヲ教育上最モ適當ニ運用スル爲、全市ヲ十六「ブロック」ニ分チ、其「ブロック」毎ニ、直接國民教育ニ經驗アル小學校長ヲ委員トシテ、映畫ノ適否、教育上ノ效

果、運用上ノ方法等ニ關スル審議討究ヲ煩ス事トセリ。元來映畫教育ハ最新ノ試ミナルガ故ニ、弊害ナキ應用ヲ爲シ、教育上良果ヲ得ンガ爲ニハ、今後ニ於テモ前陳ノ委員ヲ活用シ、當局トシテモ充分考究ノ上、萬遺憾ナキヲ期セント欲スト答ヘ。三邊第一助役ハ、本市ノ教育事業ヲ刷新振興セシムベキハ、小橋市長ノ一大使命ナリト市長モ考ヘ居ル事項ノ一ナリ、其結果本市教育行政主宰者ノ更迭ヲ斷行スベキ必要アリトノ結論ヲ得タリ、而シテ人格、識見、閱歷等間然スル所ナキ人物ヲ遺憾ナガラ外部ヨリ起用スルノ已ムナキニ至リシナリト答ヘ。財務局長平山泰君ハ、土地賃貸價格改訂年限ハ、今日十箇年ト規定シアルガ、此ハ變遷極リナキ東京市ノ實情ニ即セザル規定ナリト云ヘル黒井氏ノ意見ハ、洵ニ名論ナリト思惟ス。元來本問題ハ年々改訂スベキガ理想ナルモ、年々ノ改訂ニハ相當多額ノ費用ヲ要ス、從テ支出スベキ費用ト、増加スベキ收入トヲ比較考究スベキ必要アリ、斯ル考究ヲ遂ゲタル上、他ノ大都市トモ熟議シテ政府ニ陳情セント欲ス。蓋シ地租ニ關スル賃貸價格ノ決定ハ本年ニシテ、其實施期ハ明年度ナルガ故ニ、玆ニ一兩年本問題ヲ慎重ニ研究スルモ決シテ遲延ヲ來サザルベシト考フレバナリ。外債ノ元利支拂延期ハ、爲替ノ維持ト云ヘル點ヨリ觀テ、一應理アリト考ヘラル、モ、佛貨公債問題ハ、急轉シテ近ク解決スルヤモ知レズ、若シ佛貨公債問題ニシテ解決セバ、幾分ノ現金拂ヲ要スベク、右ニ關シテ昨日外務、内務、大藏三省關係當局ノ來廳ヲ請ウテ熟議シタルガ、其際三省關係當局ノ意見ハ、時局柄對外信用維持上、約束ノ現金ハ送ラザルベカラズトノ事ナリキ、勿論此ハ主管各大臣ノ意見ニアラズト雖モ、當職モ我が國ノ信用維持上、豫定ノ支拂ハ爲サザルベカラザル必要アルベシト思惟スト答ヘ。監查局長前田賢次君ハ、埋立地其他ノ地域設定ニ就テハ、港灣計畫其他産業獎勵等ノ方面ヨリ觀察シテ、一日モ速ニスベキ必要ヲ感ジ居ルモ、本市ノ南方ニ多クノ工場ガ建設サルレバ、煤煙ノ飛散モ繁カルベク、從テ市民ノ保健上ニ影響ストノ矛盾ヲ感ジ、警視廳並ニ内務省當局トモ數々協議シタル結果、兩當局ニ於テ煤

煙防止ニ關スル方法ヲ講ズベシトノ意嚮アルヲ知り、之ヲ條件トシテ都市計畫地方委員會ノ諮問ニ對シ市長ヨリ回答アリタルガ故ニ、近ク地域ノ設定ヲ見得ベシト思惟スト答フ。黒井君更ニ、本員ガ特ニ前水道局長タリシ原助役ニ對シテ答辯ヲ希望シタル質問ノ要旨ハ、防空演習ノ際ニ於ケル水道ノ施設ニ就キ原助役ノ所見如何ト云ヘル意味ニアラズ、國際間ニ於テ一朝干戈ヲ交フル事アル場合、敵ハ有リト凡ユル手段方法ヲ講ズベク、若シ夫レ山口貯水池ノ堰堤ニシテ破壊セラル、事アラバ、六郷川兩岸ノ田畑家屋ハ勿論、人畜ニ由々シキ大問題ヲ惹起スベク、更ニ其影響小河内其他ニ及ハ、其被害ヤ更ニ甚大ナルモノアリ、斯ル場合、防火ニ、飲料ニ、炊事ニ如何ナル措置ヲ爲サントスルカ、水道當局ハ如上ノ如キ場合ノ對策ニ就キ、何等カノ研究ヲ爲シタリヤ、地下水ノ準備ト水源地並ニ淨水場ノ保護トニ關シ、原助役ノ所見ヲ聽カント欲シタルナリ。復興建築助成會社ニ對スル主管助役ノ答辯モ甚ダ遺憾ナリ、元來同會社ノ設立ハ大正十三年ニシテ、東京横濱兩特別區中、東京市ハ百六十八萬六千坪ニ對シ、防火、耐震ノ建物ヲ築造セシムベク、政府ハ壹千萬圓ノ低利資金ヲ融通スル事トシ、本市ハ防火耐震家屋築造促進ノ爲、會社ニ損失アリタル場合八分ノ配當補償ヲ爲ス事トセリ。爾來星移リ物變リ、金融界ハ一般ニ低金利トナリタルニ、同會社ノ株主ニハ八分ノ配當ヲ爲サルベカラズ、其營業費拾五萬圓中拾參萬圓ハ人件費ニシテ、之ヲ四十名ノ社員ニ割當ツレバ、一人ニ對シ參千貳百數拾圓ノ高級ヲ支拂ヒ居ル計算ナリ。而モ昭和十年下半年以降毫モ新建築物ナク、五百人ノ現在債務者中、十「パーセント」ハ總テ競賣處分ヲ受ケ居リ、是等ノ損失ハ一箇年尠クモ貳拾六萬圓乃至參拾萬圓ニ達ス。東京市民ノ八十「パーセント」ハ中産階級以下ノ人々ニシテ、是等中産階級以下ヨリノ收入ニ頼リテ、東京市ハ成立シ居レリ、國ト雖モ亦然リ。此ノ大衆ヨリ會社ヲ見ル時ハ、會社ハ大衆ヨリ六分一厘ノ高利ヲ貪リ居ルニ拘ラズ、大衆ハ會社ニ對シテ更ニ八分ノ補償ヲ爲サル可ラズ、斯ル矛盾モ甚シキ契約ハ、未曾有ノ大震災直後ナリシガ故ニ成立シ

タルモノナルガ、契約ノ現存スル以上已ムヲ得ズトシテ、此ノ矛盾ヲ此ノマ、放任シ置クハ爲政家ノ爲スベキ事ニアラズ、殊ニ會社ハ今日マデ配當ヲ爲シ得ベカラザリシニ拘ラズ、八分ノ配當ヲ繼續シ、愈々如何トモ爲ス能ハザルニ至リ、東京市ニ對シテ八分ノ配當補償ノ外、損害ノ補償ヲ要求シ來レリ、此ノ要求ハ果シテ妥當ナリヤ。既ニ停滯貸五百萬圓ヲ算ス、此ノ四割五分ノ物件ハ質流レ、又ハ低當流レトナリ、之レガ處理ノミニテモ會社ハ行詰リ居レリ、幸ヒ東京市ガ之ヲ直營スル事トセバ、三分二厘ノ政府ノ金利ニ一分三厘ヲ加ヘタル四分五厘トスルモ、貳千八百萬圓ノ總債權ニ對シ、一箇年參拾四萬圓ノ收入アルガ故ニ、年限ヲ延長セバ、會社ノ停滯貸ノ處理、又ハ今後ニ於ケル損失ヲ補填シ得ベク、又債務者モ會社ノ六分一厘ニ比シ、四分五厘ハ一分六厘ノ低利トナルガ故ニ、償還ハ從前ニ比シ圓滑ニ行ハルベシ、然ルニ現在ノ儘ナラバ、恐ク一箇年參拾四萬圓、三十年後ニハ壹千四百萬圓ノ損失ヲ招クハ、火ヲ觀ヨリモ瞭ナリ、巷間傳フル所ニ據レバ、内務、大藏兩省ニ於テハ、債務者側ノ立場ヨリ市ノ直營ニ好感ヲ有シ居レリト。然ルニ他面ニ於テ會社存續論モアリト聞ク、若シ市理事者ガ會社存續論ヲ聞ク事アラバ、斷ジテ左祖スル事ナク、充分考慮檢討セラレン事ヲ望ム。尙ホ六十萬ノ兒童ト一萬數千ノ教員ト有スル大東京市ノ教育局長ニハ、教育ニ關スル専門的ノ智識ト經驗ト有スル人物ヲ要ス、然ルニ其智識ト經驗トニ就テハ、教育局ノ一課長、一主任ニモ劣ル福島縣知事ヲ羅シ來リテ物議ヲ醸シタル先例アリ、東京市ノ教育局ハ姥捨山ニアラズ、東京市役所内ニハ多士濟々タリ、現職知事ノ如キヲ羅シ來ラントスルハ、市長並ニ助役ニ於テ充分考慮セラレン事ヲ望ム。工場地帯問題ニ關シ、南風ノ際宮中方面ニ煤煙飛散スト云フト雖モ、本市ノ中央ヨリセバ、品川、大森等ハ南方ナルモ、月島、洲崎等ハ南方ナラザルニアラズヤ、斯ル辯明ハ工場指定地決定遷延ノ理由トハナラズ。地租ニ關スル地價更正期間ノ短縮ハ、其實施ヲ早カラシムレバ早カラシムル程、國家トシテモ利益ヲ得ル問題ナリ、「明日アリト思フ心ノア

夕櫻、夜半ニ嵐ノ吹カヌモノカハト、京都ヨリ一里半距テタル日野ノ里ヨリ、善事ハ想ヒ出シタル時ニ決行セザルベカラズトテ、京都栗田口ニ來リテ得度シタルハ、親鸞聖人八歳ノ時ノ夜ナリキ。財務局長ハ禿頭ナレバトテ和尙ニ見立テタルニアラザルモ、市政上是ナリト信ズル事柄ハ斷ジテ行フベク、若シ行フ能ハザル理由アラバ、其理由ヲ正堂堂々言明セラレン事ヲ望ムト述べ。篠原助役ハ、水ハ市民生活上頗ル重要ナルハ勿論、消火上ノ見地ヨリスルモ重要問題ナリ、水道ノ普及ヲ圖リタル際既存ノ井戸ヲ埋立テタルハ、今日ヨリ考フレバ洵ニ遺憾ナルガ、財政上ノ關係ニテ今日多數ノ井戸ヲ一時ニ掘鑿スル能ハザルモ、相當ノ計畫ヲ樹テ、質問ノ趣旨ニ副ヒ得ルヤウ施設ヲ講ゼント欲ス。復興助役會社ニ關スル黒井氏ノ意見ニハ、小職等モ共鳴スル點尠カラズ、唯茲ニ一言セザルベカラザルハ、本問題ニ關シ政府筋ヨリハ何等ノ指示ヲモ受ケ居ラザルガ、政府、東京市、會社、建築業者等四方面ニ頗ル重大ナル利害關係ヲ有スル問題ニテ、殊ニ會社ノ實情ハ相當行詰リ居ルヤニ觀察サル、點アリ、仍テ各方面ニ對シテ最善ナリト考ヘラル、良案ヲ得ベク小職等ハ銳意努力シ居ルモノナル事ヲ諒承セラレン事ヲ望ムト答ヘタリ。次ニ安平鹿一君ハ、市長ト云ヒ、三邊助役ト云ヒ、其他ノ理事者モ、口ヲ開ケバ常ニ市會ト協力シ、市會ト協調ヲ保タント欲スト云ヘルニ拘ラズ、其舌ノ根ノ未ダ乾カザル間ニ、自己ノ言ヲ裏切りタル行動ヲ敢テシテ憚ラザルハ、市會ヲ無視シ、蔑視セル證左ナリト本員ハ斷言ス。今回教育局長ノ後任問題ニ關シ、市會ハ内部拔擢ヲ希望セルニ拘ラズ、三邊助役ハ三萬六千ノ市吏員中適當ナル人物ナシトテ、東京市政ニ不案内ナル官僚ノ古手ヲ拉シ來ラントス、三萬六千ノ市吏員中適當ノ人物ナシトハ、三邊氏個人トシテノ斷定ナリヤ、將又助役トシテノ斷定ナリヤ、又内部拔擢ニ就テ何等カノ努力ヲ爲シタリヤ。市吏員ガ終日孜々トシテ其職務ニ精勵シツ、アルハ、懸テハ掛長トナリ、課長トナリ、更ニ局長トモナリ得ベシトスル將來ヲ樂ミ居ルガ故ナル事ヲ三邊助役モ一考セラレン事ヲ望ム、兎ニ角三邊助役ハ市政ノ圓滿ナル

運用ノ爲、眞ニ市會ト協調スル意思アリヤ否ヤ、又小橋市長ガ過般當議場ニ於テ言明シタル内部拔擢ヲ今後實際ニ行フベシト言明シ得ルヤ否ヤト質シ。三邊助役ハ、市會ヲ中心トシテ市政ノ運営ヲ爲サルベカラズトハ小橋市長ノ常ニ唱ヘ居ル所、吾々モ全ク市長ト同様ニ考ヘ居レリ、教育局長ノ後任ニ就テハ、市役所ノ内部ニ於テ適當ナル人選ニ努力シタルガ、遺憾ナガラ外部ヨリ起用セザルベカラザル事情ニ立至リタリ、將來ハ云フ迄モナク内部ヨリ拔擢スル事トセント欲スト答ヘ。安平君更ニ、三邊助役ノ答辯ハ所謂「お座なり」ニシテ毫モ誠意ノ認ムベキナシ、吾々ハ斯ル不親切ナル答辯ニ満足スル能ハズ、若シ夫レ今後三萬六千ノ吏員ガ鬱積セル不平ヲ爆發セシメ、事態重大化スル事アラバ、其責任ハ今回教育局長ヲ外部ヨリ羅致シタル市理事者ニ在ル事ヲ一言シテ、本員ノ質問ヲ打切ルベシト述べタリ。引繼キ爲藤五郎君ハ、東京市政ニ關スル小橋市長ノ抱負經綸ニ就キ、本員ハ一般質問ヲ爲サント欲シ、豫テ質問通告書ヲ提出シ置キタルガ、不幸ニシテ市長ハ病氣ノ爲療養中ナルガ故ニ、本員ノ質問ハ今日マデ保留セリ、然ルニ今日ハ是非一言質問セザルベカラザル事態ニ當面シタルヲ悲ム。先般市長ハ三邊、篠原、堀田ノ三氏ヲ助役ニ推薦セントシタルガ、市會ハ官僚ノ輸入ニ全面的反對ノ氣勢アリシニ鑑ミ、其中一人ヲ變更セリ、然レドモ吾々ハ之レニ満足スル能ハザリキ。但シ三邊、篠原兩氏ノ人物ノ善惡ハ別トシ、官僚ノ古手ナルガ故ニ、吾々ハ頗ル之ヲ遺憾トシタルモ、此ノ上全面的ニ反對セバ、小橋市長ハ恐ク進退ヲ決スベシト考ヘ、市政ノ滯滞ヲ虞レ、東京市政ノ爲ニ涙ヲ揮テ消極的ニ賛成シタリ。當時本員ノ質問ニ對スル小橋市長ノ答辯ヲ明確ニシ置ク必要アルガ故ニ、其速記録ヲ朗讀スベシ『私ガ想像致シマスト、今日ノ市民ノ輿論ハ、助役ヲ決定スル時、若クハ人事ノ異動ニ於テハ、市會ノ勢力ニ掣肘サレルナト云フ輿論ガアル、是レハ一ツノ正シイ輿論デアルト考ヘマスガ、市長モ其ノ意味ニ於テ、最初ニ三助役ヲ決定ニナツタト思フケレドモ、併ナガラ市會ノ勢力ノ掣肘ヲ受ケナイト云フコトハ、必シモ内務省アタリノ官

僚ノチャキ／＼ヲ持ツテ來ナクテモ、方法ガアルト私ハ思フノデアル、或ハ學者モ宜シカラウ、或ハ財界ノ相當ナ人モ宜カラウ、或ハ非常ニ苦勞シタ人モ宜カラウ、然ルニ最初ニ内定サレタ三助役ハ、本當ニ官僚ノ奔流ニ棹サシタ人デアリマシテ、其ノ位ト云ヒ、官等ト云ヒ、未ダ曾テ東京市ノ助役ニ此ノ位立派ナ人ヲ揃ヘタコトハナイト思フ、内務次官、文部次官、局長、知事ト云フタヤウナ、位ト恩給ト經歷ニ於テハ申分ナイ人ヲ御揃ヘニナツテ居ル、併シ私共ノ排斥スルノハ、利權ニ依ル「ボス」ノ勢力ヲ驅逐スルト同時ニ、吾々ハ又官僚群ノ掣肘ニ依ル所ノ勢力ヲ驅逐シナケレバナラス、先般ノ選舉ニ於テ所謂反「ボス」ト云フ空氣ガ結成サレテ、小橋市長ハ出現サレタノデアリマスガ、吾吾ハ此ノ利權ニ依ル「ボス」ト云フ前門ノ虎ヲ逐ウテ、代リニ今度ハ官僚ト云フ後門カラ狼ヲ迎ヘタ形ニナツテ居ル」ト云ヘル本員ノ此ノ質問ニ對シ、小橋市長ハ「從來私ハ其ノ廳内ノ人物ヲ尊重シ、場合ニ依リマシテハ下級ノ人ヲ詮索シテ、人物ヲ引上グルコトヲ以テ其ノ方針トシテ居リマスガ故ニ、今後ト雖モ東京市ニ對スル人事ニ付キマシテハ、原則ト致シマシテ市吏員中カラ人材ヲ拔擢シ、又市吏員中ノ下級ニ居ツテ能ク働イテ居ル人ヲ出來ルダケ發見シテ、其ノ人材ヲ引立テタイト云フ考ヘテ持ツテ居リマスガ故ニ、外カラ餘リ物ヲ持ツテ來ルコトハ斷ジテアリマセヌ」ト答辯セリ。然ルニ此ノ答辯ノ舌ノ根未ダ乾カザルニ、教育局長ヲ誡首シテ、現職ノ官僚、而モ相當老朽ノ人物ヲ羅シ來ラントスルハ、明ニ市會ニ對シ、少クモ助役銓衡ノ際市長ニ對シテ多少ノ好意ヲ有シタル吾々ヲ欺瞞スルニアラズンバ、吾々ニ挑戰スル行爲ト云ハザルベカラズ。吾々ハ三邊氏又ハ篠原氏ト云ヘル人物ノ内容ヲ云々スルニアラズシテ、官僚タル其殻ヲ厭フナリ、三邊助役ガ教育局長ノ後任ハ人物ト云ヒ、才幹ト云ヒ、申分ナシト云フト雖モ、官僚人ハ高位高官ノ官歴ダニアラバ則チ有能ノ士ト考ヘ、今日内務省邊ニテハ、政黨人、議員等ハ悉ク人間ノ屑ト考ヘ居ルガ如キモ、吾々ノ見ル所ヲ以テセバ、官僚ハ人間中ノ最無能者ト考ヘラル、ナリ。試験ニ及第シテ官職ニ

就キ、屬僚ノ提出スル書類ヘ認印ヲ無事ニ押捺シ居ラバ、縣知事程度ニハ容易ニ進ミ得ベシ。然レドモ自治體ハ官界ト其趣ヲ異ニシ、殊ニ東京市政ハ頗ル複雑多岐ニシテ、眼ニ見エズ、耳ニ聞エザル所ヲ察スル叡智アルニアラズンバ、到底變理スル能ハズ、兎ニ角舌ノ根ノ未ダ乾カザルニ自己ノ言ヲ翻シタル教育局長ノ更迭ニ關シ、本員ハ箇條書ニテ質問スルガ故ニ、市理事者モ箇條書ニテ答辯セラレン事ヲ望ム。

第一、伊藤教育局長ノ更迭ハ本市ノ教育刷新ヲ圖ランガ爲ナリト市理事者ハ辯明セルガ、一人ノ局長ヲ更迭セシムル事ニ依リテ、東京市ノ教育行政ハ刷新シ得ベシト考ヘ居レリヤ。局長ガ無能ナリシガ故ニ教育行政ノ刷新ヲ行フ能ハザリシトテ、局長ヲ誡首シ、局長ハ又課長ヲ誡首シ、課長ハ掛長ヲ誡首スル事アラバ、教育行政ニ關スル眞ノ責任ハ果シテ何人ガ負ハントスルヤ。想フニ助役、局長、課長、掛長等教育行政者ガ一體トナリテ、茲ニ初メテ教育行政ノ刷新モ行ヒ得ベシ、仍テ伊藤局長ノ更迭ニ就テハ他ニ理由アルベシ、何故伊藤局長ヲ更迭セシメタリヤ。第二、元來伊藤氏モ嘗テ知事タリシ事アル官僚ノ古手ナリ、本員ハ理事者ニ對シテ、曩ニ懲リテ膺ヲ吹ケトハ勸メザルモ、今回ハ能フ限り現職ノ知事タル官僚ノ古手ヲ避クベキガ至當ノ措置ト考フ、兎ニ角伊藤局長ハ辭職ヲ強要セラレテ辭表ヲ提出シタルガ、今日尙ホ退職ノ發令ナシト聞ク、果シテ然ラバ如何ナル事情ト理由トニ據リテ今日尙ホ發令セザルヤ。第三、近衛内閣ハ國民精神總動員ヲ叫ビ、其本部ヲ文部省ニ置ケルニ拘ラズ、其ノ中心タルベキ文部大臣ヲ誡首スル事、恰モ大根ヲ切ルガ如クナリキ。市理事者ハ此ノ政府ノ措置ニ倣ヒタルニハアラザルベキモ、政府指令ノ下ニ、本市ガ明治節ニ國民精神總動員ヲ行ヒタル際、二重橋ニ幾萬ノ市民ハ集合シタルガ、其中樞人物タルベキ教育局長ハ單ニ名儀ノミニテ、事實ハ其際既ニ誡首セラレテ列席シ居ラザリシナリ、何故斯ル時期ニ誡首シタリヤ。第四、教育局長ノ後任ニハ畑山福岡縣知事ヲ擬シ居レリト聞ク、果シ

テ事實ナリヤ否ヤ、尙ホ初メ宮城縣知事ニ交渉シタルガ、拒絕セラレタルナリト聞ク、其實否果シテ如何。第五、三邊助役ハ教育ノ刷新ヲ企圖スト云ヘルガ、凡ソ刷新ヲ圖ラント欲セバ、目標ナカルベカラズ、現在東京市ノ教育行政上刷新セザルベカラザル目標ハ何レノ點ニ在リヤ、願クハ其目標ヲ聞カント欲スルト共ニ、其目標刷新ノ爲ニ、何故教育行政ニ不知案内ナル現職ノ福岡縣知事ヲ羅シ來ラントスルヤ、田舎廻ノ旅役者ヲシテ東京ノ歌舞伎ニ於テ技ヲ演ゼシメ、果シテ眞ノ劇ヲ演ジ得ルヤ否ヤ。第六、畑山知事ハ小橋市長ノ意中ノ人物トシテ、市長ノ指令ヲ受ケテ教育局長ノ後任ニ銓衡シタルモノナリヤ、將又助役ガ市長ヨリ一任セラレテ、之ヲ選定シタルモノナリヤ。第七、第一第二兩助役共、自己ガ如何ナル立場ニ於テ選定セラレ、又如何ナル經緯ニ因リテ就任シタルカラ考慮シタル事アリヤ、助役決定當時ニ於ケル市會ノ速記録ヲ閱讀シ、市會ノ空氣ヲ察シタル事アリヤ。第八、市會ガ全面的ニ反對スルニ拘ラズ、市理事者ハ飽マデ畑山知事ヲ教育局長ニ据エントスル考ヘナリヤ。第九、本市ノ現理事者ハ局長其他本市ノ重要ナル椅子ニ在ル人物ヲ漸次濟崩シ的ニ讖首スル意嚮ナリト聞ク、果シテ然ルヤ否ヤ。第十、市理事者ハ廳内拔擢ヲ原則トシ、部外羅致ハ例外トスト云ヘリ、原則ト例外トノ採用ニ就キ社會一般ノ通念ニ據レバ、十中ノ八九ハ原則ヲ採リ、例外ハ一二ニ過ギズ、然ルニ市理事者ハ十中ノ九ヲ例外ニ採リ、原則ハ僅ニ其一ノミニテ、本末ヲ顛倒セルガ、將來ノ人事行政ニハ斷乎原則ヲ遵守スベシト言明シ得ルヤ否ヤ。

右ハ將來ノ市政上重要ナル「ポイント」ナルガ故ニ、市理事者ヨリ明確ナル答辯アラン事ヲ望ムト質シ。三邊助役之レニ答ヘテ曰ク、教育局長ノ更迭理由ハ、小橋市長就任以來仔細ニ東京市政ノ狀況ヲ見タル結果、大東京ノ教育刷新振興ニ就キ頗ル熱意ヲ有スルニ至リ、之レガ刷新振興ヲ行フニハ、其行政上最モ重要ナル地位ニ在ル教育局長ノ更迭ヲ

斷行スル外ナシト決意シタルニ因ル。發令ノ遲延シタルハ後任者トノ關係ニテ、國民精神總動員中ニ教育局長ノ不在ナリシハ、發令ノ遲延シタル爲ナリ。教育刷新ノ目標如何トノ質問ナルガ、體育、智育、德育等各方面ニ互リ一大刷新ヲ要スベク、或ハ青年學校問題等、教育上東京市トシテ力ヲ入レザルベカラザル重要問題尠カラズ、是等ヲ總括シテ教學ノ刷新ト稱シ居レリ。第六ノ質問ハ、全ク市長意中ノ人物ナリ。助役決定ノ際ニ於ケル市會ノ速記録ハ閱讀セリ。局長其他ニ對シ濟崩的人事異動ヲ行ハントハ、目下ノ所考慮シタル事ナシ。市役所内部ノ人々ヲ拔擢スル事ニ就テハ、將來例外ヲ原則ト爲サントスルガ如キ考ヘハ毛頭有セズト。爲藤君更ニ、本市助役就任前文部次官タリシ三邊氏ハ、教育行政ニ關シ深キ觀察アル答辯ヲ吾々ニ與フベシト期待シ居タリシニ、教育刷新ノ目標ハ、智育、德育、體育、青年學校云々ト云ヘリ。此ノ如キハ師範學校ノ一年生、否、小學校ノ一年生サヘモ云ヒ得ル言ナリ、東京市ニハ東京市ニ即シタル教育上ノ刷新目標ナカルベカラズ、即チ二部教授ノ撤廢、試驗地獄ノ救濟、教員ノ補充等、何レモ東京市教育行政上ノ大問題ニアラズヤ。然ルニ古今東西ヲ通ジ、何時如何ナル時ト場所トニ於テモ掲ゲ得ル教育問題ヲ掲ゲ來リテ、其刷新ヲ教育行政ニ全然關係ナキ畑山知事ヲシテ行ハシメントス、斯ノ如キハ結局何事モ爲ス能ハザルベシ。想フニ伊藤局長ヲ讖首シタルハ、教育ノ刷新ニアラズシテ、感情上ノ問題カ、然ラズンバ他ニ何等カノ事情潜在スルモノト本員ハ斷言セザルヲ得ズ。要スルニ東京市ノ教育行政ニ關スル三邊助役ト本員トノ觀點ハ、根本的ニ全然相違シ居ルヲ發見シタルガ故ニ、此ノ點ニ就テハ此ノ上助役ノ答辯ヲ求メザルモ、濟崩人事ハ目下ノ所考慮シ居ラザルモ、將來ハ行フベシトノ意ナリヤ、將タ將來モ行ハズトノ意ナリヤ。東京市ノ教育局長ニハ、教育ニ全然關係ナキ田舎廻リノ縣知事ヲ羅シ來ル以外、六百萬ノ東京市民中其人ナシト考ヘ居レリヤ。現ニ此ノ議場ニ出席シ居ル大島氏ハ嘗テ本市ノ教育局長タリシニアラズヤ、恐ラク六百萬市民中ニ教育行政ノ衝ニ當リ得ル器材ナシトハ云フ能

ハザルベシ。兎ニ角本員ハ幾萬ヲ算スル市吏員ニ對シ、榮達ノ途ヲ開クト共ニ、安ジテ其職務ニ精勵セシムルヤウ、彼等ニ光明ヲ與ヘラレン事ヲ希望スルモノナルガ、三邊助役ハ左様ニ考ヘズ、能フ限り市吏員ヲ拔擢セザラントスル考ヘナリヤト質シ。三邊助役ハ、將來ハ能フ限り内部ヨリ有能ノ人物ヲ拔擢スル考ヘナリト答ヘ、質疑應答ヲ打切レリ。

十二月二十四日ノ會議ニ於テ、爲藤五郎君ハ更ニ市理事者ニ問ウテ曰ク、東京市現在ノ人口ハ六百七十萬ニ垂トシ、而モ年々十萬乃至二十萬ヅ、ノ増加ヲ示セリ、此ハ東京市民ノ爲ニ眞ニ幸福ナリヤ否ヤ、若シ東京市ノ人口増加ガ幸福ナリトセバ、地方ノ農村若クハ地方ノ都市ヲ離レテ上京シ來ル人々モ亦幸福ナルベシト雖モ、其結果、地方ノ農村、地方ノ都會ガ荒廢スルガ如キ事アラバ、東京市トシテハ大ニ考ヘザルベカラズ、此ノ意味ニ於テ、東京市長ハ片タル知事ノ古手ニテハ、到底其任ニ堪ヘズ、吾々ガ大東京市長ニ對シ市政上種々ノ要望ヲ爲スハ、獨リ東京市民ノ不幸ノミニ止ラズ、日本全國ノ首都トシテ、視野ヲ日本全國ニ放ツテ政治ヲ行ハザルベカラザルガ故ナリ。小橋市長ハ此ノ人口問題ニ關シテ如何ナル成案ヲ有セリヤ。警視廳ニ於テ巡查募集ノ際、又市電氣局ガ電車ノ車掌運轉士等ヲ募集スル際、地方ノ人々ヲ招致セリ、本市一萬數千ノ小學校教員ノ五割以上ハ、是レ亦地方ノ人々ナリ。一方大資本家ハ漸次小資本家ニ沒落シテ、小市民階級、中小商工業者トナリ、他面ニ於テ勞働者、又ハ低額俸給生活者ニシテ多少ノ貯ヘテ有スル者ハ、老後保身ノ爲是レ亦小賣業ヲ開始シ、斯テ結局共食ヲ爲シ、其結果ハ多數ノ失業者ヲ生ズ、今日東京市ハ「ルンペン」ノ温床タル感アリ。然リ而シテ無制限ニ人口増加ノ一路ヲ辿ル結果ハ、水道問題ヲ始メ、本市ガ施設經營スル諸事業ニモ甚大ナル關係ヲ來ス、仍テ苟モ大東京ノ市政ヲ料理セントスル人ハ、人口問題ニハ深甚ナル關心ヲ有セザルベカラズ、北海道ノ開拓、滿蒙方面ヘノ移民等モ人口問題ニ關聯シテ、當然考ヘラル、ナ

ランガ、以上ノ點ニ關シ、市長ハ何等カノ計畫ト抱負ト有セバ敢テ聽カント欲ス、是レ本員ノ質問ノ第一ナリ。第二、往昔太田道灌ハ「武藏野ハ月ノ照ルベキ屋根モナク、草ヨリ出デテ草ニコソ入ル」ト歌ヒタルガ、今日ハ全然反對ニテ、月ハ屋根ヨリ出デ、屋根ニ入ル實狀ナリ。而シテ東京市當局ガ發表シタル調査表ニ據レバ、小學兒童ノ疾病患者中ノ三十「パーセント」ハ結核關係ノ患者ニシテ、小學校教員中ノ三十「パーセント」ハ、廣キ意味ニ於ケル結核保菌者ナリト云ヘリ。以上ハ検査可能ナル一部調査ノ結果ナルガ、全市民ヲ検査セバ、結核關係ノ患者又ハ結核保菌者ハ、其數ノ餘リニ大ナルニ一驚ヲ喫スルヤモ知ルベカラズ。一步屋外ニ出ヅレバ、「ネオン・サイン」ノ刺戟アリ、自動車、電車、「ラヂオ」等ノ騒音アリ、加フルニ煤煙ト塵埃トハ濛々トシテ全市ヲ覆ヘリ、左右何レヲ見ルモ清流ナク、青山ナク、煤煙ト塵埃中ニハ各種ノ微菌ハ充滿シ居レルナリ。此ノ空氣ヲ二六時中呼吸シツ、アル東京市民ノ生活ヲ考フル時、吾々ハ戰慄セザル能ハズ、勿論保健局ニ於テハ今日種々ナル施設ヲ行ヒ居ルモ、更ニ百尺竿頭一步ヲ進メ、積極的ニ施設ヲ行ハレン事ヲ望ム。以上ハ體質上ノ問題ナルガ、頭腦上ノ問題ニ就テハ、地方ノ學校ハ何レモ校門ヲ開放シ居レルニ、東京ノ學校ハ何レモ校門ヲ堅ク鎖シ、殊ニ中等學校ニ於テハ可憐ナル子女ヲ試驗地獄ニ苛ミテ、其能力ノ伸展ヲ妨ゲ居レリ。今日政治界、學界、實業界、其他凡ユル方面ニ於ケル名士ハ何レモ地方出身者ニシテ、江戸兒ニアラズ、過去ノ人材モ東京ニ永住シ、二代、三代ヲ經過セバ必ず沒落ス、斯ル現狀ナルガ故ニ、苟モ東京ニ乘込ミ來リテ教育事業ヲ主宰セントセバ、都市教育ニ對スル成案ヲ有セザルベカラズ、新教育局長ハ如何ナル抱負ヲ有セリヤ。第三、過去ニ於ケル歴代市長中、消極政策ヲ行ヒタル模範市長トモ云フベキハ奥田義人氏ナリ、氏ノ市長在職ハ短期間ナリシモ、頗ル成績ヲ擧ゲタリ、尤モ此ノ成績ハ消極的ニシテ、節約整理ニアリキ。氏ニシテ今少シク存命セシメナバ、或ハ積極的ニ行動シタリシヤモ知ルベカラズト雖モ、其存命中市長トシテ爲シタル行動ハ、洵

ニ模範的消極政策ノ實行ナリキ。然リ而シテ積極的政策ヲ實現シタルハ後藤新平氏ナリ、小橋氏ハ市長就任以來今日迄、市政ニ關シテ如何ナル抱負經綸ヲ有スルヤヲ聽クヲ得ザリシガ、新市長ノ有スル市政ノ方針ハ、消極政策ナリヤ、將タ積極政策ナリヤ、吾々ガ市政ニ參與スル上ニ於テ一應參考トシテ、小橋市長ノ方針ヲ聽カント欲ス。第四ニ問ハント欲スルハ、東京市政ヲ圓滿ニ運營スルニハ人カ制度カトノ問題ナリ、最近破天荒トモ云フベキ人事ヲ行ヒタル結果、東京市會ノ雲行ハ頗ル險惡トナリ、一路小橋内閣打倒ニ邁進セントスル空氣モ搖曳シタルガ、須臾ニシテ其空氣ハ緩和セラレタリト聞ク、此ハ洵ニ慶スベキガ如クナルモ、其間ニ種々ナル「デマ」モ飛ベリ。人事ノ異動問題ニ關シテ市會ノ空氣ガ險惡トナリ、又險惡化シタル空氣ガ安定シタリトアラバ、其間ニ何等カノ事情アリト考ヘラルガ如何。過般法廷ニ於テ暴露シタル事實ナリトテ或ル人ノ語ルヲ聞クニ、市會内ニ於ケル某有力者ノ推薦ニテ市吏員ニ採用サルレバ、其報酬トシテ三分ノ給料ハ推薦シタル某有力者ノ「ポケット」ニ入ルナリト。又東京市吏員中ニハ老齡ノ爲警視廳ヲ辭任シタル人々六七十名アリ、而モ是等ノ人々ハ、區長、課長、掛長ト云ヘル相當重要地位ヲ占メ居レリト聞ク、老齡ノ爲其任務ノ遂行モ覺東ナシト警視廳ヲ退キタル人々ヲ本市ニ羅致シ來リ、斯テ東京市政ノ運用ハ可能ナリト考ヘラル、ヤ否ヤ。他面機構若クハ制度ニ就テハ、最近企畫局ノ新設アリタルモ、其陣容ハ必ズシモ強化シ居レリトハ考ヘラレズ、即チ各局ノ上位ニ在リテ各局ノ割據ヲ矯メ、東京市政全般ニ互リテ綜合的ニ按排計畫スベキ大陣容トハ考ヘラレザルナリ。元來此ノ企畫局ニ對シ市長ハ如何ナル成案ヲ有シ、又如何ナル權能ヲ此ノ企畫局ニ與ヘタリヤ、而シテ後藤新局長ハ如何ナル抱負ヲ有セリヤ、後藤局長ノ抱負ヲモ聽クヲ得バ幸甚ナリ。尙ホ今日本市ニ於テハ改廢ヲ要スル制度機構渺カラズト考フ、一例ヲ舉グレバ、本市ヨリ市會等へ廻送サル、多數ノ書類ハ、大部分監査局發行ナルガ、何レモ微ニ入り細ニ互リ、間然スル所ナシト雖モ、微ニ入り細ニ互レル其勞力ハ莫大ニシ

テ、調査其他ニ要スル費用モ亦鉅額ニ達ス、然ルニ其結果ハ如何、市理事者ハ其結果ガ活用サレ居レリト考フルヤ。本市ノ事務ハ本廳竝ニ三十五區ヲ通ジテ、其人員ハ半數ニテ可ナリト説ク者アリ、本員ハ其説ニ左袒スル者ニアラザルモ、市長ハ今日此ノ吏員ヲ他ニ活用スベキ餘地ナシト考ヘ居レリヤ、微細ニ互ル調査ヲ爲ス事ト、統計ヲ作製スル事ノミニ專念セズ、其結果ノ實現スルヤウ計畫上ニ於テ爲スベキ餘地渺カラズト考ヘラル、ガ如何。第五、本員ハ東京市政ノ根本的改革ハ都制ノ實現以外他ニ良策ナシト信ズ、然ルニ幸カ不幸カ東京市ノ第一助役トシテ迎ヘタル三邊助役ハ、過去ニ於テ都長ハ官選ナラザル可ラズト堂々聲明セリ、第二助役ノ篠原氏ハ、都制案ニ關シテ如何ナル意見ヲ有スルヤ書面ニ依ル聲明等ハ未ダ之ヲ見ズト雖モ、河原田内相ノ下ニ内務次官タリシ當時ニ於ケル選舉取締ハ、官僚色頗ル濃厚ナリキ。小橋市長ハ官僚ノ巢窟タル内務省ヲ離ル、事多年ナルガ故ニ、多少變色シ居ルモ、三邊、篠原兩氏ハ助役トシテ就任日尙ホ淺シ、勿論兩氏ガ助役トシテ就任シタル以上、官僚ノ色彩ヲ鮮明ナラシメザルベシト考フルモ、都制案ニ對シテ如何ナル考ヘヲ有セリト市長ハ思惟スルヤ。本員ハ府會ニ席ヲ置ク事十箇年、其間警視總監ノ更迭十一回、東京府知事ノ更迭モ十回以上ヲ算ス。東京市ノ機構ガ東京都ニ擴大シ、都長ヲ官選ト爲ス場合、知事ニハ少シク官祿重ク、大臣ニハ尙早ノ帶ニ短ク、裨ニ長シト云フガ如キ人物ヲ据エ、内閣ノ更迭毎ニ都長ヲ轉々異動セシメラレンカ、東京市ノ被ル迷惑ト損失トハ絶大ナリト云ハザル可ラズ。東京市ト東京府トノ關係ヲ考フルニ、東京市ハ東京府ト云ヘル植木鉢ニ植エタル巨大ナル盆栽ニ譬ヘ得ベシ。此ノ盆栽ガ更ニ生長シタル時、都長ヲ官選トスル都制案ヲ實施スルハ、恰モ鉢ヲ救ハンガ爲ニ其樹ヲ伐リ捨ツルニ等シ、仍テ市長竝ニ高級助役ハ都制案ニ關シテ深甚ノ關心ヲ有セザル可ラズ、兎ニ角市理事者ハ東京市政ヲ料理スルニ際リ、自治ノ本義ニ照シテ行ハントスルヤ、將又官僚式ニテ行ハントスルヤ。以上五項目ノ質問ヲ爲ス序ニ、本員ノ有スル疑義ニ對シ市理事者ヨリ教ヲ乞ハント欲ス

ル一事アリ、其ハ月島ニ市廳舎ヲ建設スベシトスル議案ニ就テナルガ、今日ノ府縣制ニ據レバ、府縣ガ自ラ學校建設ノ場合、建設ニ要スル豫算ハ府縣會ノ議決ヲ要スルモ、其敷地ガ府縣ノ所有ニ屬スルモノナラバ、府縣會又ハ府縣參事會等ノ議決ヲ要セザル筈ナリ、學校ト市廳舎トノ差アリトハ云へ、市制ハ此ノ府縣制ヲ準用スルモノトセバ、市廳舎建設ニ要スル壹千萬圓ノ豫算ハ市會ノ議決ヲ要スルモ、東京市ノ所有地タル月島ニ東京市廳舎ヲ建設セントスル事ハ、東京市理事者ノ自由ニシテ、毫モ市會ノ議決ヲ要セズ、從テ先年市會ガ爲シタル月島ニ市廳舎ヲ建設スベシトノ議決ハ、不必要ノ議決ト云ハザルベカラズ、既ニ不必要、即チ無用ノ議決ナリトセバ、何等效力ナキ議決ナラズヤト考フ、希望條件ナラバ別問題ナリ、即チ希望條件ナラバ政治道德上ニ於テ問題アラシモ、理事者ニ對シ何等拘束ヲ有セズ。然ルニ市會ガ過去ニ於テ爲シタル月島ニ市廳舎ヲ建設スベシトスル議決ハ、拘束力ヲ有シ、市會ガ其議決ヲ變更セザル限り、市理事者ハ月島以外ニ市廳舎ヲ建設スル能ハズト考ヘ居レリヤ否ヤト。市長小橋一太君之レニ答ヘテ曰ク、人口問題ハ洵ニ困難ナル問題ナルガ、東京市ノ發展ノ爲東京市ニ於テ必要ナル事業ヲ行フ爲ニ、必要ナル人口ノ來市ハ已ムラ得ザルモ、唯濫リニ東京ノ空氣ニ憧レテ集リ來ルコトハ避ケザル可カラズ。東京市政變理ニ關シ當職ノ懷抱スル政策ハ、消極主義ナリヤ將又積極主義ナリヤトノ質問ナルガ、市政ノ運用ハ時勢ノ要求ニ應ジ、市民ノ聲ニ應ジテ爲スベキモノト考フ。市民ノ福利ノ爲、時勢ニ應ジ適切ナル市政ヲ行ハバ、消極積極何レニシテモ可ナルベシト考ヘラル、ガ、今日ノ時勢ニ處スルニハ、能フ限り冗費ヲ節約スル方針ヲ執ラント欲ス、勿論東京市ノ發展ノ爲必要ナル事柄ハ飽迄行ハザル可ラズ、要スル東京市民ノ福利ノ爲、其時ニ應ジテ必要ナル施設ヲ爲ス考ヘナル事ヲ諒承サレン事ヲ望ム。第三ノ質問タル制度ハ適切ニ之ヲ改正セザル可ラズ、唯如何ニ制度ガ最善ナレバトテ、其人ヲ得ザレバ何ノ用ヲモ爲サザルベシ、仍テ當職ハ人事ニ重キヲ置キ、現在ノ市吏員中ヨリ有能者ヲ拔擢シテ、適當ナル椅子

ニ配置スルト同時ニ、市ノ行政ニ必要ナル人物ヲ外部ヨリモ入市セシメ、以テ市政ノ改善刷新ニ資スル所アラシメント欲ス。都制ニ就テハ既ニ當職ノ數々聲言シタル所ナルガ、市民ノ意思ヲ尊重シ、市會ノ意志ニ依リテ市理事者ハ動クベキモノナリト考フ、從テ都長ノ如キモ、市理事者ハ一般市民ノ意思、即チ市會ノ意思ニ依リテ決スベキモノト考フルガ故ニ、官選必ズシモ是ナリトハ考ヘズ、公選必ズシモ不可ナリトモ考ヘ居ラズ。市廳舎ノ位置ヲ月島ニ決定シタル件ニ關シテハ、府會ト市會トハ其權限ノ範圍ニ相違アリ、府會ハ其議決スベキ範圍ハ制限サレ居リ、其制限ノ範圍内ニ於テ議決セザルベカラザルガ、市會ハ市ノ行政全般ニ互リテ議決ヲ爲シ得ル權限ヲ有ス、故ニ市廳舎ノ位置決定ハ、其權限ニ屬スルモノト信ズ、細目ハ三邊助役ヨリ答辯セシムベシト答ヘ。第一助役三邊長治君ハ、今回企畫局ノ新設ニ就テハ二箇ノ觀點ヨリセリ、其一ハ、東京市ノ行政組織ハ年ト共ニ頗ル尨大トナリ、其結果動モスレバ各局間ニ聯絡ヲ缺ク憾アリ、又市全般ノ綜合的計畫機能ニ不充分ノ點アルガ故ニ、各局間ニ於テ計畫シタル重要事項ニ關シ充分ナル聯絡ヲ圖ルト共ニ、市政全般ヨリ見タル綜合的計畫ノ樹立ニ便セント欲シタルト、他ノ一ハ、豫算ノ編製ト重要計畫トノ關係緊密ナラズ、即チ豫算ノ編製ニ際シ、限ラレタル機關ガ市ノ重要ナル計畫ヲ豫算ニ入ルベキヤ否ヤヲ短期間ニ決定セザルベカラザルガ如キ事情アリ、仍テ能フ限り市ノ豫算編製機關ト市ノ重要計畫トノ關係ヲ密接ニシ、以テ前陳種々ナル遺憾ノ點ナカラシメント欲シタルニ在リ。其分課ハ、庶務課、企畫課、都市計畫課、財務課、統計課等ニシテ、一面ニ於テ計畫ヲ樹立シ、他面ニ於テ豫算ヲ編製スル組織ナリ、此ハ政府ガ計畫シテ實現セシメ得ザリシヲ斷行シタルモノニシテ、極メテ有力ナル機關ナリ。而シテ企畫局ニハ、企畫會議トモ稱スベキカ、企畫局ノ重要事項ハ必ズ助役會議、必要ニ應ジテハ或ハ部局長會議ヲ經テ決定スル事トセント欲ス。都制案ニ就テハ、當職モ市長ト所見ヲ一ニス、官僚時代、忠實ナル官僚ナラバ必ズ當時當職ガ述べタルト同一ノ意見ヲ述ベシト思料

ス、兎ニ角都制案ノ實行ハ、今日東京市政ノ種々ナル問題解決上、殊ニ財政問題ヲ解決スルニハ最も根本的ナル方策ノ一ナリト考フト答ヘ。教育局長畑山四男美君ハ、都會ノ住民ニ結核患者、神經衰弱患者多ク、教育方面ニ於テハ試驗地獄ノ聲ノ強ク叫バレ居ルハ事實ナリ、何レモ頗ル重大問題ニシテ、東京市トシテハ國家ノ制度ノ下ニ能フ限リノ措置ヲ爲ス外ナシト考フ。私見トシテハ、豫算ガ許スナラバ學校ノ敷地ノ如キモ一校一萬坪以上トナシ、各區何レニ於テモ數箇ノ運動場ヲ設クル外、多數ノ綠地帯ヲ設ケント欲ス、試驗地獄ノ緩和ニ就テハ、現在ノ學校制度上之レガ根本的解決ハ頗ル困難ナリ、東京市ハ現在中等學校五十五校ヲ經營シ居レルガ、本市ガ如何ニ多數ノ中等學校ヲ有スルモ、入學希望者ハ府立ヲ選ブ傾向アリ、又中等學校ハ府縣立ニテ經營スル事ガ現在法規ノ立前ナルヲ以テ、是等ノ關係上試驗地獄ヲ緩和スル根本問題ハ、府立ノ中等學校ヲ増設スル外ナカルベシト考フ。過日府知事ニ會見シタル際、以上ノ私見ヲ具申シタル事アリキ。其他ノ緩和策ニ就テハ今後モ研究ノ上、解決ニ努力セント欲スト答ヘ。保健局長林忠美君ハ、本邦殊ニ都市ニ於テ肺結核患者ノ多キハ洵ニ深憂ノ至リニ堪ヘズ、先般市會ノ議決ヲ經タル第二療養所ハ、目下工事進行中ニシテ、少年療養所二箇所ハ、監督官廳ニ對シテ建設ノ申請中ナリ、此ハ質問者モ云ヘルガ如ク如何ニモ消極的方法ニシテ、保健局トシテハ尙ホ積極的ニ考ヘザルベカラズト思惟シ居レリ。過般本市ニ「チブス」赤痢等ガ頗ル流行シ、之レガ豫防撲滅等ノ施設ニ多額ノ費用ヲ要シ、豫算ヲ超過シタルガ如キハ、大都市ノ市民トシテ耻ヅベク、吾々ノ最も遺憾トスル所ナリキ。斯ル流行病ノ防遏ハ、單ニ保健局ノミナラズ、土木局所管ノ下水道ノ完成トモ相俟タザル可ラザルガ故ニ、其方面ノ完成ト同時ニ、市民ノ保健衛生ニ關スル施設ノ完備ニ邁進セント欲ス。尙ホ保健局トシテハ、單ニ流行病ノ豫防、疾患ノ治療方面ノミナラズ、都市ノ空氣、市民ノ食物、榮養等ノ點ニ就テ、調査モシ、試験モシ、一般市民ニ對シテ其事柄ノ必要ニシテ大切ナル所以ヲ周知セシムベク考慮シ居レリト答フ。

爲藤君更ニ、本員ノ爲シタル五項ノ質問一項ノ疑義トハ、何レモ何等彈劾的意義ヲ有セズ、而シテ何レモ洵ニ穩ニ質シタルニ拘ラズ、市長以下各市理事者ハ頗ル警戒シ、戰々兢々過チナカラシ事ヲ是レ努メタルガ如キ答辯ナリシハ、本員ノ甚ダ満足スル能ハザル所ナリ。殊ニ本市ノ人口問題ニ對スル市長ノ答辯ハ、恰モ人アリテ今何處ヘカ行カントスル際、電車ト自動車ト其何レニ頼リテ行クヲ可トスベキカト質シタルニ對シ、電車ヲ可ナリト考ヘナバ電車ニテ行クベク、自動車ヲ可ナリトセバ自動車ニテ行クベシト云ヘルト同様ニテ、質問者ハ甚ダ迷ハザルヲ得ズ。又政策ニ關シテモ、市長ハ積極ニモアラズ、消極ニモアラズト云ヘルガ、部下ノ保健局長ハ積極的施設ヲ爲サント欲スト云ヒ、教育局長モ學校ノ敷地ニハ、一萬坪ヲ欲ストノ積極的抱負ヲ披瀝セリ、殊ニ本員ハ積極政策ト消極政策トノ是非善惡ニ關スル市長ノ所見ヲ質シタルニアラズ、然ルニ市長ハ積極ニモアラズ、消極ニモアラズトテ、結局禪問答ニ終ラシメタルハ遺憾ナリ。三邊助役ガ官僚時代ニハ官僚タルベク、東京市ニ來ラバ、所謂郷ニ入りテハ郷ニ從フベシト云ヘル答辯ヲ聞キテ意ヲ安ゼリ。只市廳舍建設ニ關スル市會ノ議決ハ、市制上如何ナル根據ニ遵ヘリヤ、法律の見解ニ就キ市長ハ三邊助役ヲシテ詳細答辯セシムベシト云ヘルガ、未ダ其答辯ナシ、希クハ其根據ニ就キ三邊助役ノ答辯ヲ煩ハサン事ヲ。假ニ過去ノ議決ガ法律上根據アリテ爲シタルモノナリトスルモ、四箇年間其マ、放任シ置キ、今日尙ホ其實現ヲ見ザルハ、其議決ニ何等カノ無理アリシニアラズヤ、加之、過去ノ議決ヲ四箇年間放任シ置キ、尙ホ今日市會及ビ市理事者ハ其拘束ヲ受ケザルベカラズトセバ、市會及ビ市理事者ハ將來何事ヲモ爲ス能ハザル懼レナシトセズ、市理事者ノ所見果シテ如何。元來市廳舍ハ有機體タル東京市ノ中心ヨリ隔ツベキモノニアラズト考フ、兎ニ角市廳舍建設問題ハ多年ノ懸案ニシテ、而モ市民ニ疑惑ヲ抱カシメタル案件ナルガ故ニ、過去ノ議決ガ法律上果シテ有效ナリヤ否ヤ、若シ有效ナリトセバ、之レニ對シテ如何ナル方法ヲ講ズベキカ、市理事者ハ本問題ニ關シ現在如何

ナル成案ヲ有セリヤ。教育局長ハ本員ノ質問ニ對シテ、入學難ノ緩和策、敷地ノ廣サ、運動場ノ設置等ヲ云々セルモ、本員ガ教育局長ニ質シタルハ、大都會ニ於ケル都市教育ハ、農村教育、田園教育トハ自ラ其趣ヲ異ニス、仍テ都市教育ニ對シ教育局長ハ如何ナル經綸ヲ有セリヤヲ聽カント欲シタルナリ。前伊藤局長ハ知事ノ經歷ヲ有シタル人ニシテ、教育局長トシテハ何事ヲモ爲サマリキ、新教育局長ハ大縣ノ知事ナルガ故ニ有能ナルベシトテ、本市ヘ羅シ來リタルモ、唯今ノ答辯ヲ聽キテ、此ノ人事ノ異動ハ好結果ヲ得ザリシヲ知リ、本市將來ノ教育上頗ル懸念ニ堪ヘズト述ベ。小橋市長ハ、人口問題ハ獨リ東京市ノミノ問題ニアラズシテ、全國的ノ問題ナリ、日本ノ大局上ヨリ見ル時ハ、輕薄ニ傾キ易キ都會地ヘ、堅實ナル農村ノ人々ノ集リ來ルヲ避ケント欲ス。衛生上ヨリ考フルモ、農村ノ人々ノ都會ニ集リ來ルハ好マシカラズ、但シ大東京發展ノ爲ニ必要ナル事業ニ携ハル人々ノ集リ來ルハ已ムヲ得ザルベシ、唯遊民ノ集リ來ルヲ避ケント欲ス、勿論之ヲ避ケル方法ハ困難ナルベシ。市廳舍問題ニ就テハ、市會ノ議決ニシテ存在スル以上、市會ノ議決ハ尊重セザルベカラズ、然レドモ市會議員諸君ヲ始メ、各方面ノ意見ヲ聽クニ、現在決定サレ居ル市廳舍ノ位置ハ適當ナラザルガ如シ、當職モ市廳舍ハ能フ限り都市ノ中心、即チ樞要地ニ置カント欲スル希望ヲ有スルモ、今後尙ホ充分調査ノ上、市會ノ諒解ヲ得テ決定セント欲スト答ヘ。爲藤君三度ビ立チテ、市廳舍問題ニ關スル市理事者ノ大體方針ハ諒解シ得タルモ、市制上ノ根據ニ就キ本員ガ再質問ヲ爲シタルニ對シ、未ダ答辯ナキガ、此ハ書面ナリ又ハ他ノ機會ニ於テ答辯セラレン事ヲ望ムト述ベテ質問ヲ打切レリ。次ニ林武一君ハ、第一、本市產業局ガ本市產業開發ノ爲、南洋ニ、南支ニ、將又北支ニ粉骨碎身スト雖モ、東京港ガ現在ノマ、ニテハ、其目的達成ハ到底不可能ナリ、今回ノ支那事變ニ際リ、北支ノ治安回復スルヤ、本市ノ產業局ハ逸早ク業者ヲ彼ノ地ニ派遣シテ見本市ヲ開催シ、豫期以上ノ成果ヲ舉ゲ居ルモ、如何セン東京ヨリ支那又ハ南洋向ケノ船舶ハ東京港ヨリ直航スル

能ハザルガ故ニ、本市ノ開催シタル見本市ノ效果ガ其マ、東京市ニ齎サレズ、却テ大阪、神戸、名古屋等ニ奪ハル、結果ヲ招來スベキハ、火ヲ嗜ルヨリモ瞭ナリ。現ニ比較的品質粗惡ナリトノ評アル大阪品ガ、北支ニ、南洋ニ、其販路ヲ擴大シ、新興舞臺ニ踊ル中京名古屋ノ製品ハ、是レ亦海外ニ向ケ盛ニ移輸出サレ居レリ。又異ル觀點ニ立チ、東京市六百萬市民ノ消費物資方面ニ就テ見ル時、極端ナル一例ナルガ、米國ヨリ橫濱迄ノ運賃ト、橫濱ヨリ東京迄ノ解運賃トヲ比較スルニ、東京橫濱間ノ解運賃ハ、米國橫濱間ノ運賃ニ比シテ遙ニ高率ナリト聞ク、以上ノ諸點ニ就テ考フルモ、東京港ノ開港問題ハ一日モ速ニ解決セザル可ラズト思惟ス、若シ夫レ其間種々ノ支障アリトセバ、關稅法第九十八條ノ特例ノ適用範圍ヲ擴大シ、南洋航路ノ開發ト、日本國內ニ船籍ヲ有スル船舶ヲシテ東京港ヨリ北支ヘ直航セシムル事トニ關シ、市理事者ノ努力ヲ希望シテ歇マズ、此ノ程度ノ範圍擴大ヲ圖ル事ハ、今日市理事者ガ六百萬市民ニ對シテ爲スベキ最モ忠實ナル事柄ナリト考フルガ、市長ノ所見如何。第二、今日東京港ニ於ケル一切ノ營造物ハ東京市ノ所有ニシテ、東京港ニ於ケル監督權ハ水上警察ニ在リ、仍テ東京港ニ出入スル船舶業者ハ二重監督ノ製肘ヲ受ケザルベカラズシテ、常ニ種々ナル不便ト被リ居レリ、想フニ都制案ガ實現セザル限り、此ノ二重監督ノ解除セラル、ハ困難ナルベシト考ヘラル、モ、港灣部ヨリ水上警察ニ對シ、何等カノ便法ヲ斡旋セラレン事ヲ望ム。尙ホ今日東京港ニ船舶ヲ繫留スル場合、潮ノ満干ヲ考ヘザル可ラズ、然ルニ港務所ニ於テハ潮ノ満干等ヲ考慮セズ、恰モ海軍ニ於テ觀艦式ヲ行フガ如ク、唯徒ニ船舶ヲ順序ヨク羅列スル事ノミニ腐心シツ、アリト聞ク、船舶操縦ノ技術的問題ハ船員ニ一任シテ可ナルニアラズヤ、然ルニ港務所ガ船舶ノ繫留ニマデ容喙スル必要何處ニカアル。第三、教育局長ハ普通一般ニ關スル教育行政ニハ、相應ノ抱負、經綸ヲ有スルナランモ、特殊教育、就中肢體不自由ノ兒童ニ對スル教育行政ニ關シテハ、如何ナル識見、抱負ヲ有セリヤ、今日東京市内ニハ約八千名ノ肢體不自由兒童アリ、

然ルニ是等ヲ教育スベキ施設トシテ本市ニハ僅ニ光明學校一校アルノミ。而モ其收容人員ハ九十名ニ過ギズ、去ル二月八日即チ前期市會ニ於テ、先輩ノ議員諸君ハ、是等肢體不自由ノ兒童ヲシテ一人ニテモ多ク就學セシメント欲シタルト、學校卒業後適當ノ職業ニ從事セシムベク職業輔導ノ必要上、中等學校ノ設置ト光明學校ノ學級増加トノ建議ヲ爲シタルガ、伊藤前教育局長ハ豫算ヲ必要トスル關係上、財務局長ノ鼻息ノミヲ窺ヒ、遂ニ本問題ニハ何等手ヲ觸レザリキ。元來光明學校ハ昭和七年ニ開校シタルモノナルガ、同年十一月十八日畏クモ高松宮竝同妃兩殿下ノ台臨ヲ辱ウシ、昨年十二月二十一日辱クモ高松宮妃殿下ニハ歳末御用御多端ノ折柄ニモ拘ラズ、學校職員ヲ高輪御殿ニ招カセラレテ、學校ノ方針、兒童ノ將來等ニ就キ種々御下問アリ、高貴ノ方々スラ光明學校ニ對シテ種々御配慮アルニ拘ラズ、伊藤前教育局長ハ其任期中、光明學校ノ參觀スラ一回モ爲サバリシガ如シ、新教育局長ハ是等光明學校ノ在學生竝ニ同校ニ入學ヲ希望シテ入學スル能ハザル多クノ肢體不自由兒童ニ對シ如何ナル考ヘテ有セリヤト質シ。小橋市長ハ、林君ノ第一ノ質問ハ、東京港ヲ開港ト爲ス事ニ努力スル外ナキガ故ニ、從來開港ニ反對アリシ點ノ排除ニ付、能フ限りノ力ヲ致サント欲スト答ヘ。港灣部長鈴木榮一郎君ハ、河川法、道路法ニ比シ、港灣ニ關スル法規ハ現在甚ダ不完全ナル爲、水上警察、税關、本市等、各官公署ニ屬スル事柄ガ頗ル複雑シ居リ、從テ其間ニ重複アリ、或ハ矛盾スルガ如キ事柄モ尠カラザルハ事實ナリ、此ハ獨リ東京港ノミニアラズシテ、全國的ニ困惑シ居ル問題ナルガ故ニ、各方面ヨリ政府ニ對シテ港灣法ノ制定方ヲ迫リ居ル實情ナリ。本市トシテハ從來モ水上警察、税關等ト聯絡協調ヲ保チテ、當業者ニ迷惑ヲ及ボサバ、ルヤウ努力シ來レルガ、今後一層聯絡協調ヲ密ニシテ、當業者ノ不便ヲ減少セシムルヤウ努力スベシ。繫船ニ就テハ、港務所ニモ専門ノ技術者ヲ置キ、甲船ト乙船トノ間ニ行違ヒ等ノ無キヤウ注意シ居レルガ、將來ハ一層係員ヲ督勵シテ、支障ナキヤウ努力メント欲スト答ヘ。畑山教育局長ハ、光明學校ノ改築豫算ハ既

ニ決定シタルガ故ニ、目下改築準備中ナルガ、未ダ敷地買収モ決定シ居ラザル實情ナリ。此ノ改築終了次第、中等程度ノ施設ニ就テモ充分考慮シ、其實現ヲ期スベク努力メント欲スト答フ。林君更ニ、巷間傳フル所ニ據レバ、港務所ト水上警察トノ間ニ軋轢アリト。大阪ニ於テモ、税關ト港務所トノ間ニ軋轢アリト聞ク、斯ル軋轢ニ因リテ最も大ナル影響ヲ被ルハ民間ノ業者ナリ、兎ニ角形式的ナル繫船手續ノ爲ニ、當業者ガ高價ナル重油ヲ焚キツ、遠方ニ在ル信號所マデ赴カザルモ、水上派出所ニ於テ手續ノ完了ヲ期スルニ如カズ、港灣部長ハ右ニ關シテ盡力ヲ爲ス意思アリヤ否ヤト質シ。鈴木港灣部長ハ、港務所ト水上警察署トノ間ニ於テハ今日圓滿ニ職務ヲ遂行シ居レリ、尙ホ繫船所ト信號所トノ間ノ往復ヲ省略シテ、水上派出所ニ於テ其事務ヲ取扱フヤウニトノ林氏ノ希望ニ就テハ、警視廳及ビ水上警察等ニ交渉シ、希望ニ副ヒ得ルヤウ努力セント欲スト答ヘタリ。次ニ花村四郎君ハ、質問ニ先ダチ本員ハ市理事者ニ一言セント欲ス、昭和十二年度ノ豫算審議ノ際、東京市關係ノ薄給者、即チ傭員、雇員、從業員、人夫、登錄労働者等ノ増給ニ關シ、吾々ガ物價指數ヲ市理事者ニ提示シテ其實現ヲ熱望スルヤ、不完全ナガラモ市理事者ハ吾々ノ要望ヲ容レタルガ、其後物價ハ昂騰ヲ迎ル一方ナルニ、市理事者ハ事業ノ繰延又ハ經費節約ノ見地ヨリ、彼等薄給者ニ對スル給與ヲ減額セリ。斯テ戰時經濟下ニ於テ、彼等薄給者ノ生活ニ脅威ヲ與フルガ如キハ洵ニ遺憾ニ堪ヘズ、昭和十三年度ノ豫算ニハ、此ノ點ニ就キ充分考慮セラレン事ヲ望ム。偕テ本員ノ質問ナルガ、國際「オリンピック」大會ハ諸君モ熟知ノ如ク、全世界ノ人々ヲシテ肉躍リ血湧カシムル一大盛典ナルト同時ニ、人類發展史上ニ於ケル一大盛事ナリ、從テ第十二回國際「オリンピック」ヲ我が東京市ヘ招致シ得タルハ、我が東京市政史上ニ輝カシキ一頁ヲ加フルト同時ニ、躍進日本ノ「スポーツ」ヲ世界ニ紹介シ、我が建國ノ精神ヲ發揚シ、榮光アル國威ヲ海外ニ宣揚スベキ絶好ノ機會ナリト本員ハ信ジテ疑ハズ、市長ガ就任挨拶中ニモ、東京市ノ最も重大ナル事柄ハ、皇紀二千六百年ニ於ケル

萬國博覽會ト此ノ「オリンピック」大會トヲ完成スルニ在リト云ヘリ、然ルニ此ノ大會招致ガ東京市ニ決定シテ既ニ一年有半ノ歲月ヲ經過セルニ拘ラズ、組織委員會ハ今日マデニ何事ヲカ爲セル、組織委員會ノ重要ナル椅子ヲ占メ居ル市長、助役ハ、今日マデ何事ヲ爲セリヤ、「カイロ」會議ニ臨ム準備行動タル机上ノ記録ヲ整備シツ、アル以外、殆ド何等著手シ居ラザルハ浩嘆ノ至リニ堪ヘズ、斯テ市理事者ハ稀有ノ此ノ重大使命ヲ完ウシ得ベシト考ヘ居レリヤ。「ヒットラー」獨逸總統ハ、「オリンピック」東京市招致ニ對シテ絶大ナル盡力ヲ恪マザリシト同時ニ、東京市大會ニ對シ、獨逸ヨリ一萬人ノ勞働者ト數千名ノ「ヒットラー・ユーゲンツ」ヲ送ルベシト言明シ、而モ明年四月ニハ、第十一回「オリンピック」ノ「ベルリン」組織委員ニシテ體育長官タル「オステン」博士ヲ遙々日本ニ差遣シテ、東京大會ノ準備程度ヲ調査セシムルト共ニ、「ドイツ」トノ聯絡ヲ執ラシムベシト云ヘルニアラズヤ。萬國博覽會ハ既ニ著々其準備ヲ進メツ、アルニ、此ノ國際「オリンピック」ニ關シ、荏苒日時ヲ空費シ居ルハ、蓋シ組織委員ガ「オリンピック」ニ關スル總テノ事柄ハ、悉ク組織委員會ニ於テ爲シ得ベシトノ錯覺ニ陥リ居ルニ因ルモノナランカ、若シ果シテ然リトセバ、「オリンピック」東京大會ニ花ヲ咲カセ、實ヲ結バシムルハ到底不可能ナリ、本員ハ市當局ガ必ズ之ヲ完成セシムベシトノ熱意ヲ以テ事ニ當ラレン事ヲ希望スル者ナルガ、市長ノ所見如何、是レ本員ノ質問ノ第一ナリ。第二、昭和十二年度豫算中、社會局經濟ノ一部ニ東京市方面生業資金貸付ニ關スル一項アリ、其内容ハ、本市内ニ住居ヲ有スル者ニシテ勤勉實直、且ツ勞務ニ堪フル能力アルモ、生業ノ資金ヲ有セズシテ惱ミ居ル者ニ對シ、商業資金、又ハ職業用ノ機械、器具、原料等ノ購入資金ヲ貸付ケントスルニアリ、社會的施設トシテ洵ニ好箇ノ事柄ナルニ、金額ハ僅ニ參千圓ニ過ギザリシガ故ニ、當時吾々ハ其増額ヲ希望シタルガ、財政ノ關係上、增加ハ今日不可能ナリトノ事ニテ、已ムヲ得ズ有ルハ無キニ優ルト考ヘテ協賛ヲ與ヘタリ、然ルニ本案ニ關スル其後ノ業績如何ト見ル

ニ、九月現在ノ調査ニ據レバ、貸付金額驚ク勿レ僅々貳百貳拾圓ニシテ、參千圓ノ一割ニモ達セズ。聞ク所ニ據レバ市民中此ノ資金ノ貸付ヲ得ンガ爲、方面館又ハ職業紹介所等ニ集リ來ル者尠カラザルモ、容易ニ貸付ヲ行ハザルノミナラズ、市理事者ハ此ノ貸付ヲ如何ニセバ巧ニ拒絕シ得ルヤニ付腦漿ヲ絞リ居レリト。果シテ然ラバ當初ヨリ提案セザルニ如カザリシニアラズヤ、洵ニ奇怪千萬ト云ハザルベカラズ、右ニ關シ市長竝ニ社會局長ノ所見ヲ聽カント欲スト質シ。小橋市長ハ、「オリンピック」ニ關シテハ、市當局トシテ熱心ニ夫々交渉シ居レルガ、時局ノ關係等ニ因リ政府ニ於テ多少方針ノ變更等モアリ、爲ニ組織委員會ニ於テ進行ノ遲延シタル憾アルモ、當職ハ勿論一日モ速ニ促進セシメザルベカラズト考ヘ居ルガ故ニ、組織委員會等ヲ鞭撻シ、質問ノ趣旨ニ副フヤウカヲ致サント欲スト答ヘ。社會局長澤逸與君ハ、現在方面生業資金ガ左程利用セラレ居ラザルハ事實ナリ、此ハ吾々ノ努力ノ足ラザルニモ基因スルナランガ、他ニモ理由アリ、其ハ本市ニ方面生業資金以外、更ニ別箇ノ生業資金ノ貸付アリ、此ハ三井報恩會ヨリ一定ノ資金ヲ支給サル、モノニテ、此ノ貸付金額ハ既ニ壹萬數千圓ヲ算シ、貸與人員數百人ニ達ス。今後方面生業資金モ利用サル、ヤウ方法ヲ講ジ、漸次質問者ノ希望ニ副ヒ得ルヤウ努メント欲スト答フ。花村君更ニ、「オリンピック」大會ニ關シテハ、政府ニ於テモ七拾五萬圓ノ豫算ヲ計上シ、同大會ノ向フベキ方途ヲ指示セル程ナルガ故ニ、本市ニ於テモ今後充分ノ熱意ヲ以テ事ニ當ラレン事ヲ切望シテ、此ノ問題ニ關スル質問ハ打切ルベシ。唯生業資金貸付ニ對シ、尙ホ一言質サント欲ス、東京市ニハ東京市更生事業委員ト稱スルモノアリテ、「カード」階級ニ對シ資金ノ貸付ヲ行ヒ居レリト聞ク、此ハ市條例ニ基キテ設置サレタルモノナリヤ否ヤ、又東京市更生事業委員トハ、市制第二條ニ準據シテ行動シ居ルモノナリヤ、更ニ三井報恩會ヨリ交付サル、助成金ハ、東京市ヘ交付サレタルモノナリヤ否ヤ、尙ホ其交付金ノ歸屬ハ何人ニ在リヤト質シ。澤社會局長ハ、東京市更生事業委員會ハ條例等ニ基ケルモノニアラズ、

又交付金ハ三井報恩會ノ依頼ヲ受ケテ社會局ガ取扱ヒ居ルナリト答フルヤ、**花村君**三度ビ立テ、三井報恩會ヨリ委託ヲ受ケタリトアラバ、其交付金ヲ如何ナル人格ニテ取扱ヒ居レリヤ、法人ナリヤ、將又個人ナリヤト質シ。澤社會局長ハ、社會局ガ三井報恩會ノ依頼ヲ受ケ、市民ノ爲ニ行ヒ居ルニ過ギズト答ヘ。花村君四度ビ立テ、市制第七十七條及ビ第七十八條ニ、市長、助役ハ市ノ行ヒ居ル事業ト同一ノ業務ヲ行フ能ハザル事、恰モ株式會社ニ於ケル重役ニ競業禁止規定ノ設ケアルト同一ノ制限規定ノ設ケアリ、又市吏員服務規律上ヨリ云フモ、東京市吏員ハ營業若クハ營業類似ノ業務ヲ行フ能ハザルニアラズヤ。兎ニ角如何ニ三井ヨリ依頼サレタル事柄ナリト云フト雖モ、市條例ニ基カズシテ市吏員ガ濫リニ金員ノ貸付等ヲ行フベキ筋合ノモノニアラズト考フ、而モ三井ヨリノ其助成金ハ、東京市ノ名ニ於テ交付シ居レリ、又東京市更生事業委員會ト稱スルモノモ、東京市ガ行ヒ居ルガ如ク記載シアリ、然レドモ其實質ハ東京市ガ行ヒ居ルニアラズ、財團法人ニモアラズ、何等法人格ヲ有セザル社會局一部ノ吏員ガ行ヒ居ルナリ。斯テ法規上毫モ差支ヘナシト社會局長ハ考ヘ居レリヤ、若シ法規上差支ヘナシトアラバ、今少シク誠意アル、明確ナル答辯アラン事ヲ望ムト質シ。澤社會局長、更生事業ニ關スル資金ノ交付取扱ハ、東京市ノ名ニ於テ取扱ヒ居ラズ、法律ヲ離レ、更生事業委員會ノ名ニ於テ取扱ヒ居レリ。委員會ガ他ノ委託ヲ受ケテ金員ヲ取扱ヒ居ルハ、此ノ更生事業ノミニアラズ、他ニモ類例ノモノアリテ差支ヘナシト考ヘ居レリト答ヘタリ。

更ニ十二月二十七日ノ會議ニ於テ、**花村君**ハ前回ニ引續キ市理事者ニ問ウテ曰ク、本市ノ社會事業ニ對シテハ先般良多クモ、天皇陛下ヨリ御下賜金ヲ戴キタル程ニテ、此ノ事業ノ運営ニ就テハ慎重ニ慎重ヲ期セザルベカラズ、然ルニ社會局長ノ答辯ハ、甚ダ冷淡ニテ、緊張味ヲ缺ケルハ遺憾ナリ。本員ノ質問ノ要旨ハ、自己ガ現ニ行ヒツ、アル業務ガ合法性ヲ有スルヤ否ヤニ就テノ認識ノ有無ナリ、何人ト雖モ自己ノ所持セル物品ガ、自己ノ所有ナリヤ、將又他人

ノ所有ナリヤヲ無判別ニ所持シ居ル者ナカルベク、又自己ノ行フ業務ガ合法的ナリヤ否ヤトノ認識ナクシテ、重大ナル東京市ノ社會事業ヲ圓滿ニ運営シ得ベシト考フル者モナカルベシ。他ニ類例アリト云フガ如キハ、合法性ヲ有ストノ理由トハナラズ、蓋シ事柄自體ガ既ニ合法性ヲ缺キ居ルガ故ニ、答辯スル能ハズトアラバ、本員ハ不能ノ答辯ヲ敢テ強ヒザルベシ。元來此ノ東京市更生事業ト稱スルモノ、本體如何ト云フニ、此ハ三井報恩會ガ東京市ニ對シ、良多クモ、天皇陛下ニ於カセラレテモ大御心ヲ注ガセ給フ重大ナル東京市ノ社會事業ヲ助成セントスル精神ニ出デタルモノニシテ、三井報恩會ヨリ本市ニ交付サレタル其金圓ハ、當然東京市ノ會計ニ入ルベキモノト本員ハ信ズ、然ルニ之ヲ本市ノ會計ニ入レズ、社會局ノ一隅ニ於テ局員ガ恣ニ貸付ヲ行ヒ居ルガ故ニ、其責任ノ歸屬ハ明瞭ナラズ、若シ夫レ其貸付金ノ回收不可能トナリタル場合、社會局長ハ如何ナル措置ヲ執ラントスルヤ。東京市更生事業資金ハ東京市方面生業資金ノ參千圓ニ比シ、約其十倍ノ鉅額ヲ算ス、此ノ鉅額ノ資金ガ回收不能トナルモ、其責任ノ歸屬極メテ不明確ナリ、而モ東京市會ノ議決モ、市參事會ノ議決モ經ズ、社會局ノ一隅ニ於テ、吏員ガ恣ニ貸付ヲ行ヒ居レリトハ何事ゾ、綱紀ノ紊亂ハ斯ル所ニ基因ス、是レ東京市政ヲシテ不明朗ナラシムル最大原因ナリト信ズ、仍テ之ヲ明朗化セント欲スルガ本員ノ質問ノ趣旨ニシテ、此ノ意味ニ於テ本件ハ重大問題タリ。要スルニ本員ハ事業其モノニ就テハ、決シテ反對スルモノニアラズ、唯合法的ニ、而シテ其責任ノ歸屬ヲ明確ニシ、東京市ノ事業トシテ良多クモ、天皇陛下ノ大御心ニ副ヒ奉ルヤウ飽迄慎重ニ處理スベク、市長竝ニ助役ハ充分考慮セラレン事ヲ切望シテ、本員ノ質問ヲ打切ルベシト述ベタリ。次ニ**大越半忠君**ハ、東京市及ビ市附近ニ在ル葬儀社ハ、何レモ人類ノ弱點ニ附込ミテ暴利ヲ貪リ居レリ、即チ寢棺ハ最高貳拾五圓、最低七圓、鉤屑ヲ入レタル紙袋十箇乃至十五箇ヲ棺内ニ詰込ミテ、貳圓乃至參圓五拾錢、經帷子參圓乃至五圓、祭壇使用料最高五拾參圓、最低參圓八拾錢、火葬料特等ハ參拾四圓乃至參

拾五圓、上等貳拾圓以上、坐棺ノ最低ニテ四圓ヲ要スル外、茶屋料、即チ火葬ヲ終ヘテ骨ヲ受取ル迄ノ間休憩スル座席料四圓乃至六圓、骨壺代、風呂敷代等以上ヲ合計セバ、特等ニテ火葬ヲ營ミタル場合ハ百五拾六圓拾錢ヲ要シ、最低ニテモ參拾圓五拾錢ヲ要ス。然ルニ今回本市ガ江戸川區ニ新設シタル瑞江火葬場ハ頗ル低廉ニ火葬ヲ營ミ得ルモ、火葬窯ノ設備僅ニ十六箇ヲ算シ、一部ノ人々ガ利用スルニ過ギズシテ、一般市民ヲ満足セシムル能ハザルハ遺憾ナリ。本市ニハ尙五六ヶ所ニ火葬場ヲ設クベキ必要アリト考ヘラル、ガ、市理事者ハ増設ノ意思アリヤ否ヤ、又無料休憩所ハ極メテ狹隘ニシテ、而モ火葬場前ニ有料ノ茶屋ガ軒ヲ並べ居レルガ、此ハ本市ガ市營火葬場ヲ設置シタル趣旨ニモ悖ル事ト考フ、市理事者ハ是レ亦擴張スル意思アリヤ否ヤ。尙ホ行徳街道ヨリ火葬場迄ノ間九町程、田圃路ニシテ降雨ノ際等ニハ歩行困難ナリ、仍テ同所ニ「バス」ヲ運轉セシムル意思ナキヤ否ヤ、更ニ靈柩車ハ現在二臺ニ過ギザルガ、之ヲ増加スル意思ナキヤ否ヤト質シ。保健局長林忠美君ハ、瑞江火葬場ハ民營トシテ發達シ來リタルモノナルガ、元來火葬場ノ設置ニ就テハ隣接地ノ關係其他種々困難ナル事情アリ、同火葬場ハ今日未ダ之ヲ二倍ニ擴張シ得ベキ餘裕ヲ有セズ。休憩所ハ事實狹隘ナルガ故ニ、昭和十三年度ニ於テ約四十坪擴張ノ計畫ニテ、資材設備費トシテ七千圓ヲ豫算ニ計上セリ。「バス」ノ運轉ニ就テハ、先ヅ道路ヲ修築セザルベカラズ、仍テ道路修築完了次第、能フ限り速ニ民營ノ「バス」ヲ運轉セシムルヤウ取計ハント欲ス、靈柩車ハ當分今日ノ程度ト爲シ置カント欲スト答ヘタリ。次デ小野孝行君ハ、第一、小橋氏ガ大東京市長トシテ、市民ノ輿望ヲ擔ウテ當選シタル以上、小橋市長ニハ大東京市建設ノ爲、東京市ニ新生命ヲ與フベク、積年ノ惡弊ヲ根本的ニ除去スル重大使命ヲ遂行スベキ覺悟ナカルベカラズ、然ルニ今回ノ人事異動ヲ見ルニ、有能ナル局長ヲ讖首シテ、不適任ト考ヘラル、人物ヲ其後任ニ据エ、又有能ナラズトシテ讖首シタル局長ニ對シ、萬國博覽會事務總長タルベク懲愆セリ。萬國博覽會ハ人間ノ捨場所ニアラズ、市長ハ萬博

ヲ如何ナルモノト考ヘ居レリヤ。兎ニ角市長ハ凡百ノ方面ニ於テ「ボス」人事ヲ行ヘルガ、此ハ市民ノ期待ヲ裏切リタル措置ニシテ甚ダ遺憾ナリ、仍テ人事ニ關シ背後關係ノ有無ニ就キ市長ノ明快ナル答辯ヲ煩ハサント欲ス。第二、國民精神總動員ハ、國家ヲ始メ各府縣ヨリ各市町村ニ互リテ提唱サレ居レリ、此ノ國民精神總動員ニ就テハ、東京市ニ於テモ市長始メ市吏員全體ガ先ヅ身ヲ以テ其範ヲ市民ニ示サルベカラズト考フルガ、市長ノ所見如何、又現在市長始メ市吏員ハ如何ナル方法ニテ、國民精神總動員ヲ實踐シツ、アリヤ。第三、東京市營ノ自動車料金表ヲ見ルニ、東京驛淺草橋間五錢、日本橋兩國二丁目間五錢、兩國二丁目錦糸町間拾錢、錦糸町押上間五錢トアリ、他ノ區間ハ何レモ五錢ナルニ、兩國二丁目錦糸町マデノ短區間拾錢トハ、餘リニ不統一ナル料金ナラズヤ、過般本員ハ自動車課長ニ會見シテ、其不統一ノ箇所ヲ指摘シ、是レガ訂正方ヲ申出デタルニ、斯ル不合理ノ箇所ハ尙ホ他ニ尠カラザルガ故ニ、容易ニ訂正スル能ハズト云ヘリ、既ニ不合理ヲ認め、而モ不合理ハ他ニモ尠カラズトテ、之ヲ放任シ置クガ如キハ甚ダ心得難シ、平山電氣局長ハ全線ニ互リテ、不合理ノ箇所ヲ是正スル意思ナキヤ否ヤ。第四、淀橋青果市場ハ落成後既ニ一箇年ニ垂タリ、然ルニ今日尙ホ業者等ヲ收容セズ、空家ト爲シ置クハ如何ナル理由ナリヤ。第五、本市ノ各局課ハ各所ニ散在シ、而モ產業局ガ二箇所ニモ三箇所ニモ散在シ居ルノミナラズ、產業局内ニ土木局アリ、土木局内ニ產業局ノ一部アリ、電氣局ノ一部アリト今日ノ狀態ニテハ、市民ニ不便ヲ感ゼシムルノミナラズ、職員ノ執務上ニモ差支ヘヲ生ズルニアラズヤ、市長及ビ助役ハ右ニ對シテ如何ナル所見ヲ有セリヤ。第六、結核豫防ニ關シ、本市ハ其週間ダケ鉦太鼓ノ鳴物入りニテ宣傳シ居レルガ、總テ上滑リ宣傳ナルハ遺憾ナリ。本市六百萬市民中、四百萬人ノ感染者アリ、此ノ中發病者ハ十二萬人ニシテ、死亡者ハ一箇年一萬二千人ヲ算ス、然ルニ本市ニハ現在公私ヲ合シテ病床ハ僅ニ四千五百ヲ算スルニ過ギズ、而モ結核患者ハ第三階級ニ多ク、第一階級、第二階級ハ別荘其他ニ轉地

療養シ得ルモ、第三階級、即チ「カード」階級ハ、狹隘ナル家屋内ニ一家族全部ガ混然雜居セリ、而シテ方面委員ノ手ヲ通ジテ患者ヲ療養所ニ收容セントスルモ、手續完了後早クモ三箇月、遅キハ一箇年ヲ要スルニアラズンバ收容サレズ、其間ニ死亡スル患者ハ全患者ノ半數以上ニ及ブ、此ノ如キハ本市將來ノ爲洵ニ寒心ノ至リニ堪ヘズ、市長及ビ關係局長ハ是等ノ弊害ヲ根本的ニ除去セントスル意思アリヤ否ヤ、又結核豫防ニ關スル根本的對策ヲ有スルヤ否ヤト質シ。小橋市長ハ、東京市ニ若シ弊害アリトセバ、諸君ノ援助ヲ得テ刷新セント欲ス。人事行政ニ就テハ能フ限り市吏員中ヨリ拔擢スル方針ニテ、適材ヲ適所ニ配置シ、以テ市政ノ運用ヲ圓滿ナラシメン事ヲ期セリ。宮川君ニ對シテ萬國博覽會事務總長タルベク交渉シタルハ、市ト博覽會トノ双方ニ對シ氏ガ適任ナリト考ヘタルニ因ルモノニテ、萬國博覽會ヲ市吏員ノ捨場所トハ斷ジテ考ヘ居ラズ。國民精神總動員ニ關シテハ、市吏員全部ハ市政上ノ全般ニ互リ時局ニ處スルノ覺悟ヲ示シ居レリ、又過日新設シタル市民動員部ノ部員ヲ督勵シテ、國民精神總動員ノ實ヲ舉ゲシムベク考慮シツ、アリ。本市ノ局課ガ各所ニ散在シ居ルハ、市ノ行政、市ノ事務等ノ統制上支障尠カラザルガ故ニ、一日モ速ニ聯絡統合ヲ期シ得ル市廳舎ヲ建設セント欲スルモ、時局柄市廳舎ノ新設ハ今暫ク猶豫セント欲スト答ヘ。電氣局長平山泰君ハ、競争會社トノ關係上、市營自動車ノ料金ニ不合理ノ點アリト聞知ス、仍テ將來充分檢討ヲ行ヒ、市民各位ガ満足シ得ルヤウ取計ハント欲ス。尙ホ燃料政策ノ關係上、「バス」ニモ近ク革命時代ノ到來アルニアラズヤト考フ、仍テ左様ノ場合ニ處スル對策ニ就キ現在苦心ヲ重ネ居レルガ、愈々左様ノ場合ニ遭逢セバ、貴説ヲモ參酌シテ善處セント欲スト答ヘ。林保健局長ハ、肺結核ニ關スル問題ハ國家トシテモ將又東京市トシテモ、國民、市民ノ保健上、深憂ノ至リニ堪ヘザル問題ナルガ、現在本市ノ施設トシテハ、僅々千九百二十「ベット」ヲ有スルニ過ギズ、仍ラ五箇年計畫トシテ六千「ベット」ヲ設ケント欲スルモ、此ハ本市ノ財政上ニ重大關係ヲ有スルガ故ニ、取敢ヘズ第二療

養所ヲ新設シテ七百「ベット」、少年療養所ニ二箇所ニテ五百「ベット」ヲ設ケベク、目下起債ノ申請中ナリ。肺結核ハ必ズシモ不治ノ病ニアラズ、唯早期診斷ガ肝要ナリト小職ハ考ヘ居レリ、仍テ健康相談所ノ増設其他ノ方法ニテ、能フ限り早期診斷ヲ行ヒ、以テ病膏肓ニ入ラザルニ先ダチテ療養セシムル必要アリト考ヘ、是等ノ點ニ就キ種々調査研究ノ上善處セント欲スト答ヘ。中央卸賣市場長船津新四郎君ハ、淀橋分場ガ既定計畫通り完成シタルハ本年九月下旬ナリ、同分場ニ收容スベキ豫定市場ハ、淀橋區内ニ於テ四箇所、杉並區内ニ於テ三箇所、中野區内ニテ二箇所、世田谷區内、及板橋區内ニテ各一箇所、豊島區内ニテ二箇所、合計十三市場ニシテ、此等ノ市場ヲ合同セシメテ卸賣人會社ヲ新設セント努メタルハ、淀橋分場ノ完成以前ナリ、斯テ本年七月中旬合同條件モ解決シタルガ、各市場ヲ淀橋分場ニ收容スル運ニ至ラズシテ、中途ニ破綻ヲ生ジタル爲、目下圓滿解決方ニ就キ努力中ニテ、仍テ今暫ク猶豫セラレン事ヲ希望スト答フ。小野君更ニ、本員ガ第二ノ質問ノ要旨ハ、東京市吏員諸君ガ國民精神總動員ヲ眞ニ體得シ、身ヲ以テ範ヲ市民ニ示シ居レリヤ否ヤト云フニ在リ。市會開催等ノ際、市ノ主事級ノ人々ハ議場ノ入口ニ立チテ、市會ノ終了スル迄辛抱セザルベカラザル勞苦ハ本員モ察セザルニアラズ、然レドモ市理事者ガ議會切抜策以外、現在ノ市吏員ガ眞ニ身ヲ以テ時局ノ苦難打開ニ處スベク範ヲ示シ居レリト考ヘナバ、明朝正九時ニ本廳竝ニ各區役所ヲ巡視セラレン事ヲ望ム。主事級、掛長以上ハ、何レモ九時半十時頃ニアラズンバ登廳セズ、尙ホ市長及助役ハ試ミニ午前十一時半頃ヨリ午後一時頃マデ、電氣局前ノ有樂橋附近ニ立タレン事ヲ望ム、食事ハ三十分程モ要セバ可ナリ、然ルニ市吏員諸君ハ午前十一時半頃ヨリ列ヲ爲シテ食事ニ赴キ、午後一時過ギテ再ビ列ヲ爲シテ歸リ來ル始末ナラズヤ、斯テ市民ニ對シ國民精神總動員ヲ提唱スルガ如キハ、烏滸ノ沙汰ト云ハザルベカラズ。戰ハ戰地ニ在ル將兵ノミニ限レリト考フベキニアラズ、然ルニ前陳ノ如キ市吏員ノ現狀ハ、市民ノミニ國民精神總動員ヲ強要シテ、自己ハ之ヲ行ハザ

ルニアラズヤト考ヘラル、右ニ對シ市長ノ熱意アル答辯ヲ煩ハサント欲ス。淀橋分場問題ニ關シ、市場長ハ收容者ヲ妥協セシメ、圓滿協調ヲ爲サシムルヤウ努力スト云ヘルガ、果シテ妥協シ得ルヤ否ヤ。中央市場開設ノ際、初メ二箇ノ魚市場ニ出場ヲ許可シタルニ拘ラズ、後之ヲ一箇ニ限定シテ市民ノ臺所ニ脅威ヲ與フルガ如キ、頗ル不明朗ニシテ不得策ナル措置ヲ敢テシ、今回新ニ淀橋分場ノ開設ニ際シテハ、相容レザル二箇ニ對シテ妥協セシメントス、市場長ハ果シテ之ヲ妥協セシムル自信アリヤ否ヤ、明快ナル答辯アラン事ヲ望ム。次ニ市廳舎ノ新設ハ、時局柄不可能ナルヲ本員モ熟知ス、本員ノ質問ノ要點ハ、局内ノ各課ヲ各所ニ分散セシメズ、一棟ノ下ニ一局ヲ集合セシムル必要アルニアラズヤト云フニ在リ。結核問題ニ關シ、保健局長ハ五箇年計畫ヲ云々セリ、縦ヒ五千六千ノ病床ヲ新造スルモ、年々一萬二千名以上ノ死亡アル結核患者ノ救濟ハ到底不可能ナリ、上滑リノ豫防策ヲ云々スル局長ニハ困難ナル問題ナルヤモ知ルベカラズト雖モ、本員ハ徹底的ニ結核ヲ撲滅セシムベキ根本策ヲ局長ニ考慮セラレン事ヲ希望シタルナリ。最後ニ人事問題ニ關シ尙ホ一言市長ニ質サント欲ス、市長ハ最モ公平ニシテ妥當ナル人事ヲ行ヘリト云ヘリ、市長ノ立場ヨリセバ、或ハ然ラン、然レドモ各方面ノ空氣ヲ綜合スルニ、或ル一種ノ閥人事ナルハ疑ヒナキガ如シ。元來本市ニハ情弊尠カラズ、人夫雇傭關係ニ就テ一例ヲ示サンカ、人夫ガ一日ノ勞力ニ對スル報酬トシテ東京市ヨリ壹圓五拾錢ヲ得ルモ、其中六七拾錢ハ人夫請負業者ニ上前ヲ勿ネラレ、實際ニ人夫ノ手ニ殘ルハ八九拾錢ナリト云フ。仍テ人夫請負業者ニ對シ、何故左様ナル高率ノ上前ヲ勿ヌルヤト質シタルニ、東京市ノ請負業ニ參加セントセバ、種々ノ關門料ヲ要スルガ故ナリト云ヘリ。關門料トハ何ヲカ意味ス、過日赤新聞紙上ニ指摘サレタル秘書課長採用問題アリ、又東京市政刷新ノ旗印ヲ高ク掲ゲテ議員ニ當選シタル某會派ノ領袖ハ、當選後自己ノ乾兒ヲ區長ニ推セリ、此ノ如キハ言語道斷ノ沙汰ト云ハザルベカラズ、仍テ本員ハ市長ニ對シ、斷ジテ行ハ、鬼神モ之ヲ避クトノ熱

意ヲ以テ、自己ノ所信ニ向テ邁進セラレン事ヲ希望ス、市長ノ覺悟果シテ如何ト質シ。小橋市長ハ、國民精神總動員ニ關シテハ、市吏員全部ガ各自大イニ緊張シ、身ヲ以テ市民ヲ率ユルヤウ努力セザルベカラズト云ヘルニ當職モ全ク同感ナリ、微力ナリト雖モ當職ハ最善ノ努力ヲ致サント欲ス。市廳舎問題ニ就テハ、現在ノマ、ニテ可ナリト云ヘルニアラズ、能フ限り統制ト聯絡トヲ保チ得ルヤウ、各局課ノ配置、廳舎ノ割當等ヲ適宜ニ行ヒ、質問ノ趣旨ニ副ヒ得ルヤウ努ムベシ。人事ニ就テハ決シテ他ヨリ掣肘ヲ受ケズ、自己ノ所信ヲ斷行スル考ヘナルガ故ニ意ヲ安セラレン事ヲ望ムト答ヘタリ。次ニ**荒木丈太郎君**ハ、東京市政百年ノ計ヲ樹立スル爲、小橋市長ガ企畫局ヲ設置シタルハ、洵ニ妥當ノ措置ト考ヘラル、モ、問題ハ機構ニアラズシテ人ナリ、新任ノ後藤企畫局長ガ電氣局長タリシ當時、後藤氏ノ作製シタル電氣局更生ニ關スル私案ヲ市長ハ知レリヤ否ヤ、同案ノ概要ハ、資本金四千萬元ノ地下鐵會社並ニ資本金千貳百拾萬元ノ青「バス」會社トヲ合併セシメ、此ノ五千餘萬元ノ會社ト、約參億ノ投資ヲ爲セル東京市電氣局トヨリ各々百萬圓ヲ出資セシメ、以テ資本金貳百萬圓ノ會社ヲ創設シテ、交通統制ノ共同經營ヲ爲サシメントスルニ在リ、而シテ其重役ノ比率ハ市ト會社トハ同數ナラザルベカラズト云ヘリ、是レ後藤氏ノ私案ナリ。此ノ如キ誤レル經濟主義ヲ懷抱セル後藤氏ヲシテ、大東京市百年ノ大計ヲ樹立セシムベキ企畫局長ニ任命シタルハ、果シテ其當ヲ得タル措置ト云ヒ得ルヤ否ヤ、想フニ誤レル資本主義思想ヲ有スル後藤氏ノ如キヲ企畫局長ト爲シ、由テ以テ東京市ノ大計ヲ樹立セシメント欲セバ、東京市將來ノ計畫ハ事毎ニ資本家ヲ利スルモ、斷ジテ六百萬市民ヲ利スル結果トハナラザルベシ。尙ホ後藤氏ハ電氣局長當時、更生審議會ノ委員ヲ關西方面ニ案内シ、以テ産業視察ニ頼ル管外旅行ノ禁ヲ破リ、所謂大名旅行ヲ想起セシムルガ如キ行動ヲ敢テセリ、斯ノ如キ人物ヲ選ビ、是レニ東京市ノ最重要ナル地位ヲ與ヘタル小橋市長ノ責任ハ重大ナリト考フ、市長ノ所見如何。又防衛課ハ都市計畫ト共ニ企畫局ニ置クベキガ至當ト考

ヘラル、ニ、之ヲ市民動員部ニ置ク事トシタルハ如何ナル理由ナリヤ。更ニ政府ニ於テ職業紹介所ヲ國營ニ移管スル計畫アリト聞ク、若シ夫レ職業紹介所ニシテ國營ニ移管セバ、現在本市ノ社會局ニ在ル職業課ハ廢止サルベシ、仍テ此ノ機會ニ市長ハ企畫局内ニ勞働課若クハ勞働部ヲ設ケ、東京市ニ於ケル勞働政策ヲ確立セントスル意思ナキヤ否ヤ、是レ本員ノ質問ノ第一ナリ。第二、市民ノ各家庭ト密接ナル關係ヲ有スル市民動員部ノ部長選任ニ就テハ、其人物、其素行、其本人ノ家庭等ヲ充分ニ調査シタリヤ否ヤ、大迫君ハ嘗テ神田區神保町ニ於テ饅頭屋ヲ經營シ居タリシガ故ニ、小橋市長ハ大迫君ガ大衆生活ノ實情ニ通ジ居レリト考ヘテ推舉シタルナランモ、其人物、其素行等ヲ充分調査シ、大迫君以外他ニ適任ナシト考ヘテ推薦シタルナリト市長ハ確言シ得ルヤ否ヤ。第三、本市ニハ局長ヨリ部長ニ、部長ヨリ課長ニ、課長ヨリ掛長ニ左遷サレタル例アリト聞ク、果シテ左様ノ例アリヤ、又小橋市長ハ不適任ト認メタル場合ハ左遷ヲ行フ考ヘナリヤ否ヤ。第四、保健局ヨリ清掃部ヲ獨立セシメタルハ本員モ贊意ヲ表ス、唯公園課ヲ獨立セシメザリシハ如何ナル理由ナリヤ、公園課ノ經濟ハ自給自足ニテ、市民ニ負擔ノ厄介ヲ掛ケザルノミナラズ、其課長ハ東京市勤續三十三年、課長トシテ十五六年勤續シ居レリ、市吏員ノ拔擢ト云ヘル點ヨリ考フルモ、公園課ヲ部ニ陞格シテ保健局ヨリ獨立セシムルヲ至當ト考フ。殊ニ十五區ノ東京市ガ三十五區ニ擴張シ、公園、墓地總數二百萬坪ヲ管掌シ居ル今日、市長ハ此ノ公園課ヲ公園部ト爲シ、以テ其機能ヲ充分ニ發揮セシメントスル考ヘナキヤ否ヤ。第五、市長ハ前保健局長宮川氏ニ對シ、助役ノ交渉ヲ爲シテ謝絶サレ、更ニ企畫局長ノ交渉ヲ爲シテ、是レ亦謝絶セラレタリト聞ク、是等ノ風聞ハ果シテ事實ナリヤ否ヤ。尙ホ宮川前保健局長ハ小橋氏ガ市長就任ノ際頗ル盡瘁シタル人ナルニ拘ラズ、之ヲ休職ニシタルハ如何ナル理由ナリヤ。第六、今期ノ帝國議會ニ於テ電力國營問題ガ上議サレタルガ、若シ電力事業ニシテ國營トナリタル場合、本市電氣局ニ與フル影響ニ就キ市理事者ハ如何ニ考ヘ居レリ

ヤ、又電力國營案ノ成否ニ就キ如何ナル見透シヲ有セリヤ。第七、自費支辨ニテ上海方面ヘ皇軍慰問ニ赴クト稱シテ出發シタル市會議員ニシテ聯合青年團評議員ノ一人タル某氏ハ、十一月一日及ビ同月五日ノ東京日日新聞紙上ニ、自分ハ東京市聯合青年團特派員ノ資格ニテ、爆彈三勇士ガ戰死シタル廟行鎮ノ地ニ記念碑ヲ建設セントスル目的ノ下ニ來滬シタルナリ、永久的ノ記念碑ハ今後東京市青年團員ノ醜金ヲ仰ギテ、他日建設スベク、取敢ヘズ東京市三十六萬ノ青年ノ誠意ヲ示ス意味ニテ、水筒ニ東京水道ノ水一杯ト、東京市旗トヲ持參セリト發表シ居レリ。然ルニ青年團ノ評議員會ニ於テハ、某氏ヲ聯合青年團ノ特派員トシテ上海ヘ特派スベシトノ議ニハ與リ居ラズト云ヘリ、而シテ本市ハ某氏ニ對シテ皇軍慰問囑託ノ辭令ヲ交付シ、而モ金百圓ヲ添ヘタリ。青年團ニ要スル豫算、即チ時局對策費千六百圓中、祈願祭執行費千百圓、指導研究隊擴大強化費參百圓、諸調査費貳百圓ヲ計上セルガ、此ノ貳百圓ノ調査費中ヨリ、百圓ヲ社會局教育課長ガ獨斷ニテ某氏ニ交付シタルナリ。東京市會ニ於テハ正式ノ手續ヲ履ミテ、吾々ノ代表ヲ皇軍慰問使ニ特派スベク既ニ決定シ居レリ、然ルニ市會ニテ正式ニ決定シタル慰問使ナラザル人ニ、而モ僅々貳百圓ニ過ギザル時局調査費ノ半額ヲ獨斷ニテ支出スルガ如キ吏員ガ、青年團ノ指導者ト云ヘル地位ニ在ル事ヲ市長ハ知レリヤ否ヤ、又時局柄斯ル吏員ヲ市長ハ斷乎處罰スル意思アリヤ否ヤト質シ。小橋市長ハ、人事問題ハ最モ慎重ヲ要スル事柄ト考ヘ、多クノ市吏員中ヨリ其人物、性行、其他ヲ聽キテ、適材ト考ヘタル人物ヲ適所ニ任命シタリ。企畫局長ノ推薦モ其主義ニ據リタルモノニテ、任命日尙ホ淺キガ故ニ、果シテ適材ナリヤ否ヤハ今日猝ニ斷定スル能ハズ、仍テ此ハ將來ノ成績如何ヲ見テ充分批判セラレン事ヲ望ム。市民動員部長ニ就テモ亦然リ。公園課長ハ多年本市ニ奉職セル功勞者ナルノミナラズ、全國的ニ有名ナル人物ニシテ、東京市ノ誇トスル所ナルガ、課ヲ部トシテ獨立セシムルニ就テハ、尙ホ充分研究シ考慮スベキ必要アリト考フ。宮川氏ト當職トハ緣故淺カラザル間柄ニテ、助役、

企畫局長等ノ就任問題ニモ觸レタルガ、當職トシテハ氏ガ萬國博覽會總務部長ニ就任シ、共ニ相携ヘテ市政ノ爲ニ盡瘁スル事ガ、市民ノ爲、市政運用ノ爲必要ナリト考ヘテ交渉シタルモ、宮川氏ハ此ノ交渉ニ應ゼザリシガ故ニ、涙ヲ揮テ休職ヲ命ゼリ、此ハ市政ノ圓滿ナル運用上洵ニ已ムヲ得ザリシナリ。青年團ニ關スル問題ニ就テハ、教育局長ヲシテ詳細答辯セシメント欲ス、當職トシテハ質問ノ如キ事實アラバ、其内容ヲ充分調査ノ上、適當ノ處置ヲ執ルベシ。左遷問題ニ就テハ、人材ニ因リ、左遷モシ、拔擢モスベシト答ヘ。三邊助役ハ、防衛課ニ就テハ之レガ新設當時ニモ、亦今回ノ職制改正ノ際ニモ、之ヲ都市計畫ト共ニ企畫局ニ置クベキカ、將又教育局ニ置クベキカニ就キ種々考慮シタリ、論理的ニハ荒木君ノ意見ノ如クスベキガ至當ナリトモ考ヘタルガ、防護團ノ如ク市民ト接觸スル事多ク、且ツ市民ノ活動ニ俟ツ部分頗ル多キニ著眼シテ、市民動員部ニ置ク事トシタリ。勿論此ハ決シテ完全ナリトハ吾モ考ヘ居ラズ、仍テ廳内ニ聯絡機關ヲ設ケ、以テ萬遺漏ナキヲ期スル考ヘナリ。勞働課ヲ企畫局ニ設置シテハ如何トノ質問ニ就テハ、將來篤ト考慮セント欲ス。電力國營問題ニ就テハ、本市ニ深甚ノ關係ヲ有スルガ故ニ、電氣局ニ於テモ注意ヲ怠ラザルガ、具體的影響ニ就テハ、未ダ法案等ノ成立セザル今日、明確ナル判斷ヲ爲ス能ハズ、兎ニ角其影響ニ就キ充分注意ノ上、是レ亦萬遺算ナキヲ期セント欲スト答ヘ。畑山教育局長ハ、青年團ニ關スル問題ニ就テハ、充分調査ノ上、適當ナル方法ニテ戒飭セント欲スト答フ。荒木君更ニ、後藤氏ハ企畫局長ニ就任シテ日尙ホ淺キガ故ニ、氏ガ果シテ企畫局長トシテ適任ナリヤ否ヤハ、勿論今後ノ成績ニ就テ檢討セザル可ラズト雖モ、本員ノ質問ノ要旨ハ、市長ガ後藤氏ヲ企畫局長ニ推薦シタル際、過去ニ於ケル行動乃至思想等ヲ考慮セザリシヤ否ヤト云フニ在リ、兎ニ角其推輓ニ就テハ見解ノ相違トシテ、藉スニ時日ヲ以テシ、今後其手腕ヲ見、改メテ批判スル事トスベシ。人事問題ニ關シ尙ホ一言セン、三萬ヲ算フル多數ノ市吏員ヲシテ快ク其業務ニ從事セシメント欲セバ、夫等ノ昇給榮

達等ニ就キ、其人物、手腕、力量等ヲ考慮スベキハ勿論、他トノ比較權衡ヲモ考慮シテ順序ヲ踏マザルベカラズ、然ルニ人材アラバ幾千圓ニテモ昇給セシメ、然ラザル者ハ容赦ナク左遷スト放言スルガ如キハ、無軌道的人事ト云ハズシテ何ゾヤ、斯テ三萬ノ吏員ハ小橋市長ヲ慈父ノ如ク慕ヒ、市長ノ下ニ何レモ快ク業務ニ從事スベシト市長ハ考ヘ居レリヤ、殊ニ前田監査部長ノ如キハ、市吏員中立志傳中ノ一人トシテ、三萬吏員ノ敬仰措ク能ハザル人物ナリ、此ノ人物ノ何處ニ缺點アリテ、局長ヨリ部長ニ左遷シタリヤ、假ニ職制改革ニ因ル犧牲ナリトセバ、局長待遇ト爲ス等、三萬吏員ノ爲ニ何等カ他ニ爲スベキ方法ナカリシヤ。宮川氏ノ休職問題ニ就テハ、之レニ關係アル篠原助役ガ本日出席シ居ラザルガ故ニ、本問題ハ追究セザルベシ。電力問題ニ就テハ、國營案ニシテ成立セバ兎ニ角、然ラザル場合、本市ト電力會社トノ間ニ爲シタル電力供給契約ノ改締期ハ、既ニ明春ニ迫リ居レリ。相手方ハ大ナル營利會社ナリ、之ヲ相手ニ本市ニ有利ナルベキ交渉ヲ爲サント欲セバ、豫メ充分ナル用意ヲ要ス、然ルニ前電氣局長ハ何等ノ準備モ爲サバリシト云ヘリ、斯テハ局長トシテノ職責ヲ盡セリト云フ能ハズ、市理事者ハ電力國營ノ成否ニ關シ、充分ナル對策ヲ講究シ置カレン事ヲ望ムト述ベ。小橋市長ハ、人事問題ニ關シ當職ノ言辭足ラザル點アリシガ故ニ一言セント欲ス、吏員ノ昇給、任免、拔擢等ハ順序ヲ追ヒ、内規ニ據リテ最モ慎重ニ行フハ勿論ナルガ、拔擢スベキハ拔擢シ、左遷スベキ場合アラバ、已ムヲ得ズ左遷モスベシ、然レ共濫リニ之ヲ行フベシトハ言ハザリキ。前田監査局長ヲ監査部長ト爲シタルハ、行政組織變更ノ結果ニシテ、毫モ左遷ノ意味ニハアラズト答ヘタリ。次ニ山口久太郎君ハ、小橋市長ガ永ク病氣缺勤ノ際、三邊助役ハ市制ノ命ズル所ニ遵ヒ、當然市長代理トシテ職務ヲ執行スベキニ拘ラズ、其間ニ於テモ尙ホ市制第九十六條第二項ニ據ル助役ニアラズシテ、第一項ニ據ル補助助役ナリト云ヘルハ、法規ヲ無視シタル失當ノ措置ト云ハザルベカラズ、斯テハ到底明朗ナル市政ハ行ハレザルベシ、今回職制ヲ改正シ、部局ノ新設ヲ

行ヒタルニ就テモ、何故之ヲ市會ニ諮ラザリシヤ、職制ノ改革、人事ノ異動等ハ、市政ノ運営上重大關係ヲ有ス、然リ而シテ市會ハ既ニ成立シ居リ、何日何時ニテモ開會シ得ル實情ニアラズヤ、然ルニ之ヲ市會ニ諮リ、市會ノ協賛ヲ經ル手續ヲ爲サバリシハ、市制第九十一條ニ所謂市會開會ノ暇ナカリシ場合ナリト考ヘタリシニ因ルモノナリヤ。尙ホ先般市廳舎建設ニ關スル委員會開催ノ際、本員ハ病氣ノ爲遂ニ出席スル能ハザリシガ、新聞紙ノ報ズル所ニ據レバ、市長ハ同席上ニ於テ、市廳舎ハ經濟ノ中心地タル丸ノ内方面ニ建設スルヲ可ナリト考フ、仍テ敷地ヲ其方面ニ於テ物色セント欲スト云ヘリト、果シテ然ルヤ否ヤ。若シ果シテ此ノ如キ言明ヲ爲シタリトアラバ、市制ヲ知ル理事者ノ言トシテ諒解ニ苦マザルヲ得ズ、市廳舎ノ敷地位置ハ既ニ市會ニ於テ決定シ、未ダ變更サレ居ラザルニアラズヤ、尙ホ世人ハ動モスレバ市會ガ市吏員ノ人事ニ關係スルヲ問題トスルモ、市會ハ市吏員全部ニ對シテ保障ノ權限ヲ有シ、市長ハ單ニ任免權ヲ有スルニ過ギズ、市制第四十二條ニ據ルモ、將又同第四十五條ニ據ルモ、市會ガ人事ニ關與スルハ至當ノ措置ニシテ、關與セザル事コソ誤レルナリ、市長ノ所見如何ト質シタルニ對シ。小橋市長ハ、職制ノ改正竝ニ變更ハ從來市長ノ權限トシテ實行シ來レルガ故ニ、此ノ先例ニ遵ヒタルニ因ル。市廳舎問題ニ就テハ、其位置ハ既ニ市會ニ於テ月島ト決定シ居ルガ故ニ、其位置ノ變更ニ就テハ慎重ナル態度ニテ研究セザルベカラザルモ、小職ガ個人トシテノ意見ヲ徵セラレタル際、小職ハ小職一個ノ意見トシテ、政治經濟ノ中心地ハ丸ノ内方面ナリト考ヘラルガ故ニ、帝都トシテノ廳舎ハ、此ノ政治經濟ノ中心點ニ近キ所ニ建設スルヲ至當ナラズヤト考フル旨言明シタリト答ヘ。山口君更ニ、市理事者ガ新ニ局課ヲ増設スルハ、其局課ノ權能ヲ充分ニ發揮セシメント欲スルニ在ルベシ、果シテ然ラバ相應ノ費用ヲ要スルハ當然ナリ、故ニ新設局課ニ要スル豫算ヲ編製シテ、市會ノ協賛ヲ經、而シテ後人事ヲ決定スベキガ、市會竝ニ市民ニ對シテ親切ナル措置ト考フ、本員ノ質問ノ要旨ハ此處ニ在リ、希クハ誤解セラレザ

ラン事ヲ、愆レル慣例ハ是正セザル可ラズ、尙ホ質問セント欲スル事柄ハ尠カラザルモ、時間ニ餘裕ナク、且ツ本員ガ今夕ノ質問ニ就テハ、是レ以上追究スルモ意見ノ相違トナルベキガ故ニ、質疑ハ以上ニテ打切ルベシト述べタリ。尙ホ十二月二十九日ノ會議ニ於テ、淺沼稻次郎君ハ市理事者ニ問ウテ曰ク、第一、過般市長ガ行政機構ノ改革ヲ斷行シ、人事ノ異動ヲ行ヒタルハ、東京市政上ニ何事ヲカ爲サントスル抱負アリテ行ヒタルナラン、現在東京市政上ニ根本的改革ヲ要スル幾多ノ重大問題アリ、先ヅ第一ハ「ボス」政治ノ排撃ナルガ、今回ノ人事行政竝ニ企畫局新設問題ニ就テモ、行政機構ノ改革問題ニ就テモ、聞ク所ニ據レバ、交詢社派又ハ日本俱樂部派ト稱スルモノガ云々セリト云ヘルヲ耳ニス、東京市政ハ市制ノ明文ニ遵ヒ、理事者タル執行機關ト市會タル議決機關トガ一體トナリテ運用セラレザルベカラズシテ、其間ニ第三者ノ勢力ト云フガ如キ見エザル力ノ介在ハ許サルベキニアラズ、又財政方面ニ就テ考フルニ、本市ハ毎年九千萬圓程度ノ赤字公債ヲ發行シテ事業ヲ運営シツ、アリ、此ノ赤字公債問題、即チ行詰レル東京市ノ財政ヲ如何ニ建直スベキカト云フ事モ、當面ノ重大問題ノ一ナリ、行政機構ノ改革ニ就テモ、東京市現在ノ二重監督ヲ如何ニスベキカ、都制問題ハ如何、尙ホ東京市全豫算參億圓中、東京市ガ事業ヲ經營スル事ニ賴リテ償ハレ居ル豫算ハ、壹億壹千萬圓ナルガ、元來東京市ハ行政主體トシテ考フベキカ、將又企業主體トシテ考フベキカト云フ問題ニ就テモ、行政機構ノ改革ヲ行フ場合ニハ、考慮セザルベカラザル事柄ト思惟ス、右ノ外市電更生問題、市廳舎問題、人事問題等、擧グ來ラバ枚舉ニ暇ナキ程、東京市政ノ前途ニハ幾多ノ問題アリ、右ニ對シ市長ハ如何ナル抱負經綸ヲ有セリヤ。第二、現下我が國ハ戰時體制下ニ在リ、市政上幾多ノ重大問題ヲ有スル東京市トシテ、戰時體制下ニ置カレ居ル今日、市長ハ如何ニシテ市政ヲ圓滿ニ遂行セントスル考ヘナリヤ。昭和十三年度豫算編製ニ關スル事項、竝ニ起債ニ關スル事項等ニ就テ、本市ニ對シテ送致サレタル大藏、内務兩次官ノ依命通牒ハ、本市ノ豫算編製上ニ幾

多ノ影響ヲ受ケ、新規事業ハ勿論、繼續事業ト雖モ、將來中止又ハ繰延ヲ爲サル可ラザル事態ヲモ招來スベシ、若シ斯ル場合ニ遭遇セバ、平和産業ニモ重大影響アルベク、同時ニ銃後ノ後援事業ハ、時局ガ深刻化スルニ從ヒ、愈々之ヲ強化セザルベカラズ、殊ニ戰時體制下ニ於テ、舉國一致ノ體制ヲ整フル上ニ、最モ重大ナル考慮ヲ要スル社會政策ニ就テ、市長ハ如何ナル考ヘテ有セリヤ。尙ホ今回ノ事變ハ、輸出向ノ中小工業者ニ對シテ或程度ノ影響ヲ與ヘタルノミナラズ、資源、資材等ノ不足ニテ、經營上ニ重大ナル影響ヲ與ヘ居レリ、本市産業局ハ是等中小工業者ニ對シ、當然何等カノ適正ナル對策ヲ講ジ居ルナラント考フルモ、市長ハ果シテ如何ナル所見ヲ有セリヤ。第三、一旦緩急アリタル場合、義勇公ニ奉ズルハ我ガ國三千年來ノ傳統ナリ、故ニ一度ビ召集ノ命ヲ受ケンカ、吾々ノ同胞ハ、自己ガ畢世ノ事業半バナルモ、或ハ最愛ノ妻子ヲモ、或ハ親愛ナル父母兄弟ヲモ棄テ、勇躍戰地ニ赴キ、一個ノ肉彈トナルヲ辭セザルナリ、此ノ出征者ノ心情ヲ考フル時、國民ハ一體トナリテ銃後救援ニ最大ノ努力ヲ爲サルベカラズ。本員過般戰線ニ赴キ出征將士ヲ慰問シテ、銃後ノ救援ハ吾々國民ノ義務トシテ、強化セシメザルベカラザルヲ痛感セリ。政府ニ於テモ軍事扶助費ヲ増額シテ、銃後ノ救援事業ニ努力シ、現在軍事扶助ノ足ラザル所ハ、之ヲ寄附金ニ據リテ支辨シ居レリ、市長ハ之ヲ寄附金ニ據ラズ、東京市ガ全體トシテ一個ノ財源ヲ有シ、以テ銃後ノ救援事業ヲ行フ意思ナキヤ否ヤ。第四、戰時體制下ニ於ケル國家ニ最モ相應ハシキ姿ハ、全國民一人ノ不平者ナク、一人ノ暴利ヲ貪ル者ナク、一人ノ窮迫者ナク、國全體ガ舉テ國策ニ寄與シ得ベキ建前ヲ作ルニ在リト思惟ス、斯ル意味ニ於テ國家ハ厚生省ヲ設ケ、以テ弱キ者ニ手ヲ差延ブル事トシタリ。東京市ニ於テモ此ノ戰時體制下ニ於テハ、當然社會政策トシテ何等カノ考慮アリテ然ルベシト考フ、市長ノ所見如何。尙名譽ノ戰傷ノ爲ニ歸還シタル將兵諸士ニ對スル職業ノ再教育問題ニ就キ、市長ハ如何ナル對策ヲ考慮シ居レリヤト。小橋市長之レニ答ヘテ曰ク、東京市政其他ニ

關シ、當職ガ第三者タル或勢力ノ掣肘ヲ受ケ居ラズヤトノ質問ナルガ、左様ノ事ナキヲ茲ニ斷言ス。本市ノ財政狀態ハ將來大ニ考慮セザルベカラズト思惟ス、今回職制ヲ改正シテ企畫局ヲ新設シタルハ、其根本對策ヲ攻究センガ爲ナリ、此ノ企畫局設置ノ第一目的ハ、同局ト各局トガ聯合シテ將來ノ市政運用ニ對スル財政計畫ノ確立ヲ圖ルニ在リ、尙ホ現在ノ制度上、東京市ト東京府トノ間ニ於テ二重ノ自治行政ヲ行ヒ居レルガ、之ヲ能フ限リ統制スル必要アリ、府市間ノ二重行政ヲ統制スルニハ都制ノ制定ヲ急務ト思惟ス、若シ夫レ都制ノ制定ニ依リテ二重ノ自治行政ヲ一ニ統制シ得バ、財政上ノ確立モ都制ノ運用ニ依リテ宜シキヲ得ラルベシト考フ、仍テ都長問題ハ暫ク措キ、財政上ノ立場ヨリ東京府ト東京市トノ關係ヲ調節スル事ハ最モ必要ナリト考ヘ、企畫局ヲシテ都制案ノ調査ト共ニ夫等ノ點ニ就テモ調査計畫ヲ爲サシメ居レリ。尙ホ東京市ノ各區ニ相當ノ權限ヲ與ヘテ區政ヲ擴張セシムル必要アリト考フルト共ニ、區内ノ各町内會ヲ制度化シテ、區ト町トノ間ノ聯絡ヲ圓滑ニシ、以テ東京自治制ノ關係ヲ鞏固ナラシメント欲スルハ、當職平素ノ持論ナリ、仍テ區ノ權限擴張ト町内會ノ整備トニ對シ、企畫局ヲシテ力ヲ用ヒシメント欲ス。行政機構ノ全般的改革ハ、勿論企畫局ニ於テ行フベキモノトシテ、雜然タル東京市政ノ統制ニ就テハ、最モ力ヲ入レテ調査セシムベク、東京市財政ノ癥ナリト稱セラル、電氣局問題モ、將來憂フベキモノアリト考ヘラル、ガ故ニ、交通統制ト共ニ電氣局ノ將來ニ就テモ研究セシメント欲ス。市廳舍建設問題モ、重要案件ノ一トシテ企畫局ニ於テ研究セシメ、市行政ノ綜合統制ヲ圖ラント欲ス。銃後ノ問題ニ就テモ、企畫局ヲシテ其解決ニ當ラシムル考ヘナリ。昭和十三年度以降ノ東京市財政計畫ハ、政府ノ依命通牒ニ據リ、大體ハ政府ノ方針ニ遵テ行ハザルベカラズト考フルモ、豫算ノ編製ハ必シモ依命通牒ニ遵ハザルベカラズトハ考ヘ居ラズ、殊ニ依命通牒中ニモ、人心ヲ萎靡セシメザルヤウニトノ注意モアリ、東京市ノ發展ニ障害アルガ如キ整理節約ハ行ハザル考ヘナリ、故ニ新規事業、起債事業ノ如キハ、能

フ限リ政府ノ方針ニ遵テ避ケザルベカラザルモ、萬已ムヲ得ザル事柄ハ、政府ト折衝シテ行フ考ヘナリ。社會政策ノ實行、軍事援護等ニ就テモ質問アリタルガ、今日ノ情勢下ニ於テハ、社會事業ハ大ニ擴張スベキ必要アリ、殊ニ出征シタル傷病將士ニ對シテハ、特別ニ援護其他ノ方法ヲ講ズベク、社會局ニ具體案作製方ヲ命ジ置ケリ。尙ホ今次事變ノ爲ニ東京市内ノ中小商工業者ノ被リタル影響ヲ能フ限リ是正スルハ勿論、此ノ際此ノ機會ニ於テ、中小商工業者ヲ北支方面ニ發展セシムベキ準備工作モ必要ナラズヤトノ意見アリ、産業局長ハ夫等ノ關係ニ就キ調査中ナリト。淺沼君更ニ、市長ノ唯今ノ答辯ニ據リ、東京市政ニ對スル市長ノ抱負ノ二三ヲ知り得タルガ、其抱負ニ對シ本員ハ尠カラザル異見ヲ有ス、然レドモ其方針ノ大體ハ諒トスベシ。唯最後ニ、來年度豫算編製ニ際リ社會局並ニ産業方面ニ就キ相當考慮シタリト云ヘルガ、其ハ當然ノ事ト考フ。兎ニ角本員ノ質問ニ對シ市長ガ唯今言明シタル事柄ヲ豫算面上ニ實現セシメラレン事ヲ希望シテ、本員ノ質問ヲ打切ルベシト述ベタリ。

第參節　オリンピック大會開催ニ關スル諸問題

▽第十二回オリンピック大會準備ニ關スル質疑應答　一月二十九日ノ會議ニ於テ、笠井重治君ハ市理事者ニ問ウテ曰ク、昨年七月三十一日「ベルリン」ナル「アドロンホテル」ニ於テ國際「オリンピック」大會委員會ノ開催アリ、其席上二十七票對三十六票ニテ、第十二回國際「オリンピック」大會ハ東京ニ開催サル、事ニ決定シタルハ、獨リ東京市民ノミナラズ、全國民ノ歡喜スル所ナリキ、然リ而シテ世界各國ノ人々中、千九百四十年ニハ東京ニ向テ出發スベク既ニ其準備ニ著手シタル者アリト聞ク。東京市會ガ昭和六年十月二十八日滿場一致ヲ以テ可決シタル「オリンピック」招致ニ關スル決議案ノ理由ハ、諸君モ熟知ノ如ク「從來國際「オリンピック」競技大會ハ、各國主要都市ニ於テ開催セラレ

タルモ、未ダ曾テ東京ニ於テ開催セラレタルコトナシ。復興成レル我が東京市ニ於テ、第十二回國際「オリンピック」大會ヲ開催スルコトハ、我國ノ「スポーツ」ガ世界の水準ニ到達シツ、アルニ際シ、時恰モ建國二千六百年ニ當リ之ヲ記念スルト共ニ、國民體育上裨益スル所少カラザルベク、延イテハ帝都ノ繁榮ヲ招來スルモノト確信ス」ト云フニ在リ、而シテ昭和七年七月第十回國際「オリンピック」大會ガ「ロサンゼルス」ニ於テ開カレタル際、本員並同僚桑原信助、森富太ノ兩君、外二名、合セテ五名ガ出席シタリ、吾々東京市民ガ我が帝都ニ國際「オリンピック」大會ヲ開催スベク世界ニ呼掛ケタルハ、此ノ時ヲ嚆矢トス。爾來五箇年間、或ハ「オリンピック」招致委員諸君、或ハ市會議員諸君、或ハ市長並ニ市理事者ノ盡力ニ賴リテ、昨年東京市ニ開催スル事ニ決定シタルガ、第十二回「オリンピック」大會ハ、是非「ローマ」ニ於テ開催セザルベカラズト主張シタル「ムツソリー」ニラシテ、其主張ヲ撤回セシムル事ニ盡力シタル杉村陽太郎氏ノ名ハ、東京市トシテ忘ル、能ハザルト共ニ、同氏ニ對シ本市ハ深甚ノ謝意ヲ表セザルベカラズ、既ニ第十二回「オリンピック」大會開催ガ東京ニ決定シタル以上、吾々ハ粉骨碎身、之レガ成功ニ努メザルベカラズ。本員ハ「ロサンゼルス」ニ於テ、同市ガ「オリンピック」ノ開催ニ關シ幾許ノ努力ヲ爲シ、又如何ナル設備ヲ爲シタルカヲ見タリ。第十一回國際「オリンピック」大會開催ノ際ハ、八月一日ヨリ十六日マデ各種ノ競技ヲ見、大會終了後、九月上旬マデ「ドイツ」ニ留リテ、「ドイツ」政府及ビ「ベルリン」市ガ如何ナル困難ニ打克チ、如何ナル方法ヲ以テ彼ノ大成功ヲ收メタルヤヲ仔細ニ研究シタルガ、歸朝後、東京ヲシテセメテ「ロサンゼルス」又ハ「ベルリン」ト同等程度ノ設備ヲ爲サシメント欲セバ、市長ガ從來爲シ來レル努力ニ更ニ、十倍、否數十倍ノ馬力ヲ掛ケザルベカラザルヲ痛感セリ。第十一回「オリンピック」大會ガ「ドイツ」ニ決定シタル際、初メ「ヒットラー」ハ、「ドイツ」ノ現狀ハ「ベルサイユ」條約ト云ヘル鐵鋼ニテ緊縛セラレ居レリ、故ニ之ヲ排除スベク「ドイツ」全國民ガ舉ツテ最大ノ努力ヲ爲サルベカラザルニ拘

ラズ、兒戯ニ類シタル「スポーツ」ニ熱注スルガ如キハ、以テノ外ナリト考ヘタルガ、程ナク彼レハ、「ドイツ」ハ好戰國ニテ、戰ニ備フル以外、尊敬スベキ文化ヲ有セザルモノ、如ク世界各國ヨリ誤解サレ居ル事ニ氣付キ、第十一回「オリンピック」大會ガ「ベルリン」ニ於テ開催サル、事ニ決定シタルハ、「ドイツ」ノ有スル過去ノ偉大ナル文化、「ドイツ」ノ國民性、「ドイツ」ノ國力等ヲ世界各國ニ紹介スル絶好ノ機會ナリト考ヘ直シ、萬難ヲ排シ、鉅額ノ費ヲ恪マズ、多大ノ犠牲ヲ拂テ、有ユル設備ヲ整ヘタルナリト聞ク。此點吾ガ東京市民モ大ニ參考トシテ、其成功ヲ期セザルベカラズ、會場ノ候補地選定ハ委員諸君ニ一任スルモ、吾々ガ市民ノ先頭ニ立テ爲サザルベカラザル事柄ハ他ニ尠カラザルベシ。嘗テ「バーナード・ショー」ガ東京ニ來遊シタル際、東京市ノ目拔トモ云フベキ銀座ヲ目シテ、日本ノ貧民窟ナリヤト問ヘリ、此ハ必ズシモ「ショー」翁ノ皮肉ニアラズ、吾ガ銀座ハ大厦高樓コンナケレ、「ニューヨーク」ニテ云ハ「ファイフ・アベニュー」、「ロンドン」ニテ云ハ「ストランド」、「ベルリン」ナラバ「ウンター・デン・リンデン」ニ匹敵スベキ所ナルニ、「ネオン」ノ毒々シキ魔窟ノ如キモノガ東京ノ玄關ニ在ルハ、不快ノ念ニ堪ヘズ、若シ東京市ニ於テ警察權ヲ有シ、市長ガ警視總監ヲ兼ネナバ、之ヲ撤去セシメザルベカラズト思惟ス、仍テ市長ハ警視廳ニ交渉シ、警視廳ト提携シテ、是等ノ改善ヲ行フト共ニ、山手方面ノ道路改修、水道水源地ニ於ケル貯水池ノ築造、下水道ノ完成等、是等ハ帝都ノ面目上必ズ爲サザルベカラズ、然ラズンバ到底帝都トシテ誇ル能ハズ。尙ホ「オリンピック」大會開催前ニ、東京市ノ便所ハ全部之ヲ水洗式ニ設備ヲ變更スルヤウ市長ノ努力ヲ希望セント欲ス。第十一回「オリンピック」開催ノ際、世界各國ヨリ「ベルリン」ニ集リ來ル者三十萬ヲ算シタルガ、「ドイツ」政府ハ是等ノ人々ニ對シ、「ホープマン」博物館ヲ始メ、有名ナル圖書館、機械工業館等ヲ參觀セシメタルノミナラズ、「ドイツ」全國ヘノ旅費ヲ三分ノ一ニ低減シテ、「ドイツ」ノ文化ヲ世界ニ紹介スベク努メタリ。「アメリカ」ニ有名ナル「ライブラリー・オブ・コ

ングレス」ト云ヘル圖書館ハ、七八十年以前ニ完成シ居レリ、然ルニ吾ガ東京市ニハ今日見ルベキ圖書館モナク、甚ダ遺憾ナリ。昭和十一年九月二十六日ノ市會ニ於テ、本市ノ三大事業ニ關スル決議案ヲ可決シタルガ、其ノ要旨ノ第一ハ第十二回國際「オリンピック」大會ノ準備、第二ハ萬國博覽會ノ準備、第三ハ皇紀二千六百年祝典ニ對スル準備ヲ爲スベシト云フニ在リキ。市長ハ「オリンピック」ノ準備ニ就テハ、中央委員會ノ結成ニ盡力シタル以外、如何ナル準備ヲ爲セリヤ、萬國博覽會ニ就テハ、「ニューヨーク」、「サンフランシスコ」、「パリ」等各地ニ於テモ博覽會ノ催シアリ、是等ハ何レモ夫レノ準備ヲ進メ居ルニ、吾ガ東京市ハ未ダ何等ノ準備ヲモ爲シ居ラザルハ、如何ナル理由ナリヤ、又皇紀二千六百年祝典ハ、建國以來動ギナキ二千六百年ヲ記念スルモノナルガ故ニ、吾ガ日本國民ノ偉大ナル理想ヲ將來ノ國民ニ銘記セシムル爲ニモ、永遠ニ傳フベキ事業ヲ行ハレン事ヲ望ム。市廳舎建設問題ニ就キ、同僚川田君ノ質問ニ對シ、市長ハ「マンション」ト云フベキモノト、「シテ・ホール」ト云フベキモノトハ分離セザルベカラズト云ヘリ、然レ共不肖ノ見聞ニ據レバ、迎賓館ト「シテ・ホール」ト分離シタル都市ハ甚ダ多カラズ、「ロサンゼルス」ハ、市廳内ニ迎賓館モアリ、市長室モアリ、「ニューヨーク」ハ、今ヨリ三百年前、即チ獨立戰爭當時「ジョージ・ワシントン」ガ使用シタル建物ヲ爾來二百數十年間、「ニューヨーク」市廳舎トシテ使用シ居タリシガ、今ヨリ二十年前ニ狹隘ヲ感ジテ、其隣接地ニ約四十層ノ大建築物ヲ築造セリ、仍テ舊「シテ・ホール」ハ、或ハ迎賓館トシテ使用シタルヤモ知レズ、尙ホ「ロンドン」、「ベルリン」等、何レモ市廳舎ト迎賓館トヲ分離シアラズ、日本ノ如キ富ニ恵マレザル國、殊ニ財政甚ダ裕ナラザル東京市ガ、迎賓館ト市廳舎トヲ分離シテ建設スル必要ハ絶對ニナク、唯帝都ニ相應ハシキ堂々タル市廳舎ヲ帝都ノ中心ニ建設セバ可ナリト思惟ス。更ニ吾ガ東京市ニ於テ「オリンピック」大會ヲ催ス際、吾々ノ最モ憂慮シツ、アルハ、交通機關整備問題ナリ、「ベルリン」ニ於ケル競技場ハ、市ノ中心、所謂「シユ

タット・シユミット「驛ヨリ少クモ六」キロメートル」ノ距離アリ、然レドモ高架線アリ、地下鐵アリ、或ハ「バス」アリ、電車アリテ、如何ニ多數ノ人々ト雖モ、驛ヨリ競技場マデハ容易ニ赴キ得タリ、然ルニ吾ガ東京市ニ於ケル交通機關ノ現狀ハ、「ベルリン」ニ比スベクモアラザルハ遺憾ナリ。過般東京市電氣局長ガ、市電ト地下鐵及ビ青「バス」ノ私設會社トノ合同ニ因ル交通機關ノ共同經營ヲ目論見タリト云ヘルガ、其要旨ハ出資金貳百萬圓ノ半額百萬圓ハ市ヨリ出資シ、他ノ半額百萬圓ハ、地下鐵及青「バス」側ヨリ出資スルナリト。此ハ要スルニ市電ガ投シタル貳億數千萬圓ノ資本ヲ拋棄シテ、新設ノ私營會社ニ「旨キ汁」ヲ吸ハシムル考案ナリ、永田市長時代、東京市疑獄事件ノ張本人ト譎ハレタル大神田系一派ノ人々ハ、澁谷東京驛間ト、淀橋築地間トニ敷設スベキ地下鐵ノ權利ヲ僅々五拾萬圓ニテ、東京高速度鐵道會社發起人門野重九郎ニ與ヘタリ、當時本市ノ電氣委員會ニ於テ、初メ三四名ノ反對者アリシモ、何レモ大神田派ニ籠絡セラレ、最後迄反對シタルハ本員一人ナリキ。委員會ガ讓渡案ヲ可決シタル際、本員ハ今日及ビ將來ニ互リ交通機關ノ中軸タルベキ最重要ナル地下鐵ヲ殆ド無償ニモ均シキ五拾萬圓ノ金額ニテ讓渡スルナラバ、事ノ序ニ市電ヲモ添ヘテ贈ルベシト述ベタリ、本市ノ爲洵ニ痛惜ノ至リニ堪ヘズ。要スルニ皇紀二千六百年ノ祝典ヲ行フマデニ、道路、下水等ノ土木事業並ニ小河内ノ貯水池等ヲ完成セシムベク努力セラレン事ヲ市長ニ希望スルト共ニ、市廳舎ノ建設、交通機關、教育機關等ノ整備ヲ一日モ速ニ實現セシムルヤウ、充分盡力セラレン事ヲ希望ス。尙ホ市電ト地下鐵並ニ青「バス」トノ共同經營ニ關スル其後ノ經過ニ就キ、電氣局長ノ説明ヲ煩ハサント欲スト。此ノ質問ニ對シ、翌三十日ノ繼續市會ノ劈頭ニ於テ、市長牛塚虎太郎君答ヘテ曰ク、第十二回國際「オリンピック」大會開催事業ニ關シテハ、目下組織委員會ニ於テ慎重調査研究中ナリ、此ノ委員會ニハ東京市ヨリ有力ナル委員ヲ送り、東京市ノ爲ニ最善ノ努力ヲ爲サシメ居レルガ故ニ、意ヲ安ゼラレン事ヲ望ム。萬國博覽會ニ就テハ、東京、神奈川兩縣下ノ府縣

市各商工會議所等十團體ノ發起ニ依リ、博覽會協會ト稱スルモノヲ組織シテ、萬國博覽會ヲ舉行スルニ必要ナル事項ヲ慎重講究中ナリ、既ニ過日開催シタル同協會總會ニ於テ參千五百萬圓ニ達スル豫算モ可決シ、著々準備ヲ進メツ、アリ、而シテ同協會役員等ニモ本市ノ關係者數名參加シ、萬全ノ方途ヲ講ジ、最善ノ努力ヲ爲シ居レリ、根本方針ニシテ漸次具體化シ、各自ノ分擔明瞭トナラバ、其方針ニ基キ東京市ハ東京市トシテ如何ニ行動スベキカ、又如何ナル事務ヲ行フベキカニ就キ、順序ヲ定メ工作ヲ進ムル考ヘナリト。次デ電氣局長後藤悌次君ハ、市電、地下鐵、青「バス」ノ共同經營案ハ、小職ガ市電更生審議會ノ一委員トシテ審議會ヘ提出シタル私案ナリ、提案後同會ニ於ケル審議進捗シ、近キ將來案ノ具體的決定ヲ見得ベシト思惟ス。案ノ内容ニ關スル詳細ニ就テハ、追テ適當ナル機會ニ於テ説明モシ、諸賢各位ノ研究ヲモ請ハント欲ス。小職ガ私案ヲ提出シタル根本ノ趣旨ハ他ナシ、諸賢各位モ熟知ノ如ク大東京ニ於ケル交通機關ノ現狀ニ就テハ、各方面ニ喧シク議論セラレ、内務省ニ於テモ、亦東京商工會議所等ニ於テモ、夫々具體案ヲ作製シテ、交通統制ノ促進ヲ圖リ居ル實情ナリ、從テ東京市トシテモ之レガ促進ヲ圖ラント欲スル一方、小職ガ擔任シ居ル電氣局ノ現狀ハ、經濟的難局ニ直面シ、數年來非常ナル苦心ニ苦心ヲ重ネ、辛ウジテ破局ヲ免レ居ル次第ニテ、是レ亦何等カノ打開策ヲ講ゼザルベカラザル狀態ナリ、仍テ一面ニ於テ交通統制ノ促進ヲ圖ルト共ニ、他面ニ於テ市電ノ赤字救済ニ意義アラシメント欲スル事ヲ根幹トシ、眼目トシタリ、勿論絶大ナル財力又ハ權力等ヲ有セバ、他ニ種々考慮スベキ餘地モアリ、方策モ無シトセズ、然レドモ電氣局ノ現在ニ於テ各般ノ狀況ヲ考察スルニ、小職ノ私案ニ據ル方法ハ洵ニ已ムヲ得ザル措置ナラズヤト考ヘテ、審議會ニ提案シタルナリ。尙ホ此ノ提案ノ目的ニ就テハ、單ニ市民ノ交通機關トシテ充分其使命ヲ果サシムル一事ノミヲ考ヘズ、同時ニ従業員並ニ職員其他ノ關係者ニ一人ノ犠牲者ヲモ出サシメズ、何レモ安ジテ其業務ニ從事シ得ベキ事柄ニ就テモ特ニ注意シタリ。勿論小

職ノ私案ハ、絶對唯一無二ノモノナリト云フガ如キ烏譚ガマシキ考ヘハ有セズ、要スルニ萬人ガ認メテ、夫レ以外他ニ途ナシト考ヘラル、立案ヲ得、其案ニ基キテ交通統制又ハ市電ノ更生等ヲ圖ラント欲ス。仍テ諸賢各位ニ於テ氣附ノ點アラバ、何分ノ指揮ヲ賜ハラン事ヲ此ノ機會ニ於テ惘願スト答フ。笠井君更ニ、「オリンピック」中央委員會ノ成立等ニ關スル市長ノ盡力ニ對シテ感謝ス。萬國博覽會ニ就テハ、博覽會協會ノ設ケアル事ハ承知シ居ルガ、東京市ガ背負投ゲテ喰ハザルヤウ、東京市ノ利益モ充分擁護サレン事ヲ希望ス。二千六百年記念祝典ニ關シテハ、三大事業ニ關スル市會ノ建議案中ニ謳ヒ居ルモノ、中、問題ノ市設案内所ヲ觀光課ニ昇格セシム事ハ、甚ダ必要事ト考ヘラル、ガ、若シ市長ニ於テ腹案ニテモアラバ聽カント欲ス。現在ノ電氣局長ハ就任以來、東京市ノ交通統制ニ關シテ非常ナル努力ヲ爲シ居レリ、吾々ハ其努力ヲ多トス、然ルニ一般東京市民ノミナラズ、吾々東京市政ニ關係ヲ有スル者、又東京市電氣局ノ事務ニ從事シ居ル者、何レモ皆一樣ニ東京市電氣局理事ニ對シテ、或ハ誤解ナランモ、一種ノ疑ノ眼ヲ以テ見居レリ。蓋シ歴代ノ電氣局長又ハ電氣局内ノ最高吏員ニハ、業務半バニシテ之ヲ拋棄シ、而シテ自己ハ某々會社ノ重役ニ割込マントスル人物アリシガ故ナリ、吾々ハ現局長ヲ左様ナル疑ノ眼ヲ以テ見居ル者ニアラザルモ、今回局長ノ提出シタル所謂共同經營案ト稱スルモノハ、不備不完全ノモノナラズヤト考フ。昭和十五年東京市ニ於テ「オリンピック」モ開催サレントスル際ナルガ故ニ、交通統制ハ大ニ行ハザルベカラズトスルモ、交通ノ大本山タル鐵道省ヲ除外シタル局長ノ共同經營案ハ、東京市ノ交通統制トシテハ完全ニ成立セズ、加之、地下鐵及地下鐵ノ有スル青「バス」ト、東京市ノ市電及ビ東京市ノ有スル自動車トヲ同一「レベル」ノ下ニ取扱ハントスル點ニ本員ノ疑ヒアリ。元來東京市電氣局ノ理事者ハ、常ニ逃腰ニテ市電ノ經營ヲ爲シツ、アリトハ屢々聞知スル所ナリ、斯ル信念ナキ經營方針ニテハ、市電ノ更生ハ到底不可能ナリ。想フニ局長ノ私案タル共同經營ヲ實施セバ、貳億數千萬圓ノ資

本ヲ投ジタル本市ノ交通機關ハ、日ナラズシテ私設會社ノ有ニ歸スベシ、局長ヨリ私案ノ提出アルヤ、一萬數千ノ從業員間ニ動搖ヲ來セリ、仍テ局長ニ於テモ慎重ニ考慮セラレン事ヲ希望ス。要スルニ局長ノ私案ハ、不備杜撰ノ案ナリ、若シ萬一市參事會ガ市會ヲ代行スルガ如キ事アリ、斯ル杜撰ナル案ヲ議決スルガ如キ事アラバ、東京市百年ノ禍根ヲ貽スモノナラズヤト考フ、仍テ牛塚市長ニ於テモ、亦電氣局長ニ於テモ、東京市ニ交通統制案ヲ實施セント欲セバ、尙ホ充分案ヲ練ラレン事ヲ希望シテ已マズト述べ、質問ヲ打切レリ。

▽第十二回國際オリムピック大會競技場ノ位置ニ關スル建議 左記建議ハ二月八日ノ會議ニ上程、異議ナク審査委員會報告通可決セリ。

議員提案審査委員意見報告

- 一 第十二回國際オリムピック大會競技場ノ位置ニ關スル建議(川田友之君外五十名提出)
- 委員ハ審査ノ結果原案ヲ可ナリト認メタリ

右報告候也

昭和十二年一月二十二日

委員長 中村 又一

東京市會議長 森俊成 殿

- 一 第十二回國際オリムピック大會競技場ノ位置ニ關スル建議
- 右提出候也

昭和十一年十一月十八日

昭和年間 第參章 昭和十二年 第參節 オリンピック大會開催ニ關スル諸問題

提出者

川田友之	廣瀬喜之助	萩島茂留
橋本祐幸	篠房輔	中村又一
羽田如雲	中林軍平	本田義成
内田秀五郎	平林淺次郎	有馬秀雄
本多市郎	小野利三郎	小久保時之助
島田文治	島田辰太郎	佐藤榮志
石原永明	友成四郎	糟谷磯平
川口壽	横瀬精一	鈴木正之助
野波淳	木村元吉	遠山丙市
天野賴義	板垣信春	新井京太
安藤徳雄	宇田川啓輔	杉野善作
吉田治郎	平川進市郎	松永東
森俊成	黒田保次	大橋清太郎
濱野清吾	須藤喜三郎	高崎高次郎
小池長太郎	小川紋太郎	松原傳吉
北川榮次郎	篠原虎之輔	鍋木小平次

山田竹治 鈴木堅次郎 倉持忠助

東京市會議長森俊成殿

第十二回國際オリムピック大會競技場ノ位置ニ關スル建議

要旨

第十二回國際オリムピック大會競技場明治神宮外苑ニ設置シ得ル様理事者ノ努力ヲ望ム
理由

國民ノ熱誠ト本市ノ他關係者ノ絶大ナル努力ノ結果、本年八月一日愈第十二回大會東京開催ノ決定ヲ見ルニ至リタルハ邦家ノタメ洵ニ欣快ニ堪ヘサル所ナリ
茲ニ於テ本市ハ諸般ノ準備ヲ整備シ以テ本格的施設ニ邁進セントス、然ルニ動モスレハ其ノ位置ニ關シ徒ニ功利的見解ニ捉ハル、ノ余リ神宮外苑ヲ狹隘ナリトシテ他ニ適地ヲ需メント欲スル者アルヤニ聞ク、然レトモ苟モ皇紀二千六百年記念ノ盛典ニ相應ノ行事ト認ムル以上、且又鐵道省ハ交通上ヨリ、日本委員副島伯ハ實地調査ノ體験ニ基キ而シテ各國委員ハ委員長ラツール伯ニヨツテ強調サレタル「オリムピックノ成果ヲ日本建國二千六百年記念ニ日本ノ聖地ヘ」ノ標語ヲ意義アリトシテ均シク認識シ東京大會開催ニ賛同シタルニ見ルモ外苑以外適地ナシト謂フモ過言ニ非ス、況ンヤ我カ國體ノ尊嚴ヲ闡明シ觀光外人カ常ニ希求已マサル日本精神ノ眞髓ヲ普ク理解セシムル點ニ於テモ、或ハ環境ニ交通ニ、内容本位ノ大會ト爲ス點ヨリスルモ蓋シ他ニソノ比ヲ見サル最適地タルニ於テヤ、仍テ理事者ハ眞義ヲ體得シ篤ト之ヲ調査檢討ノ上、明治神宮外苑ノ聖地ニ現競技場ヲ擴築シテ第十二回オリムピック競技場ト決定セラレムコトヲ期セラレタシ

右建議ス

▽自轉車練習場設置ニ關スル建議

左記建議モ二月八日ノ會議ニ上程、之レ亦異議ナク、審査委員會報告通可決セ

リ。

議員提案審査委員意見報告

一 自轉車練習場設置ニ關スル建議(長野高一君外四名提出
松永東君外三十名賛成)

委員ハ審査ノ結果原案ヲ可ナリト認メタリ

右報告候也

昭和十二年二月八日

委員長 中村又一

東京市會議長森俊成殿

一 自轉車練習場設置ニ關スル建議

右提出候也

昭和十二年二月八日

提出者

長野 高一 鈴木 堅次郎 森脇 源三郎

瀧澤 七郎 小野 利三郎

賛成者

松永 東 外三十名

東京市會議長森俊成殿

自轉車練習場設置ニ關スル建議

自轉車ノ競技ハ既ニ國際オリムピック大會ノ公式種目ノ一ニシテ來ルベキ東京大會ニ於テハ我國ハ當然開催地トシテ之ニ參加出場スベキモノナリト信ズ

然ルニ從來我國ニ於ケル該競技ノ發達ハ極メテ幼稚ニシテ到底他國ノ夫レニ比肩スベカラザルノ實情ニアルハ誠ニ遺憾トスル所ナリ、茲ニ於テ大會ノ方式ニ則リタル練習場ヲ設ケテ來ルベキ東京大會ニ備ヘ併セテ現在百萬ニ垂ントスル都下商工業者ノ徒弟學生竝小市民等自轉車使用者ニ對シ之レヲ日夜公開シテ體育ノ向上竝娛樂ノ機會ヲ與フルコトハ刻下ノ急務ナリト信ズ

仍テ理事者ハ如上ノ趣旨ヲ考慮セラレ月島又ハ他ノ市有埋立地ニ適當ナル地域ヲ選ビ自轉車練習場ヲ設置シ以テ之等ノ便益ニ供セラレ併セテ埋立地開發ニ資セラレムコトヲ望ム

右建議ス

昭和年間 第參章 昭和十二年 第參節 オリンピック大會開催ニ關スル諸問題

▽東京市國際オリンピック委員設置ノ動議 六月二十六日ノ會議ニ於テ、中西雄洞君ヨリ、東京市國際「オリンピック」委員、正副議長ヲ含メ、議長指名ニテ十九名設置ノ動議提出アリ、滿場異議ナク中西君ノ動議成立シ、議長ハ直ニ左ノ如ク選定セリ。

- | | | | | |
|------|------|------|-------|------|
| 矢田直三 | 瀬田麟一 | 桑原信助 | 富田富治郎 | 森富太 |
| 島村一郎 | 横井春野 | 高久清一 | 中塚榮次郎 | 倉持忠助 |
| 長野高一 | 花村四郎 | 瀧澤七郎 | 阿部茂夫 | 橋本祐幸 |
| 加藤榮助 | 菊池寛 | 林連 | 松永東 | |

委員ハ中塚榮次郎君ヲ委員長ニ、桑原信助、森富太、高久清一、瀧澤七郎、橋本祐幸ノ五君ヲ理事ニ推シ、「オリンピック」開催準備ニ關シ種々奔走盡力スル所アリタルガ、偶々同年七月突發シタル支那事變ハ、漸次擴大シ行キ、加フルニ昭和十四年九月歐洲ニ於テモ戰亂勃發シタル爲、國際「オリンピック」東京開催ハ延期スルノ已ムナキニ至リ、委員ノ任務モ自然消滅ニ歸セリ。

第四節 上水道事業

▽矢口水道株式會社ノ水道買收費豫算竝ニ同水道買收ニ關スル件 左記兩議案ハ二月四日ノ會議ニ上程、原案通即決可決セリ。

第六號

昭和十一年度東京市水道歳入出追加豫算

歳入		歳出	
一金五千百貳拾五萬八千貳百圓	既定歳入豫算高	一金八百貳拾四萬七拾圓	既定經常部豫算高
一金參拾貳萬貳千四百圓	追加歳入豫算高	一金貳千四百圓	追加經常部豫算高
合計金五千百五拾八萬六百萬圓		一金四千參百壹萬八千百參拾圓	既定臨時部豫算高
		一金參拾貳萬圓	追加臨時部豫算高
		合計金五千百五拾八萬六百萬圓	
		歳入出差引殘金ナシ	

(歳入出豫算表略ス)

説明 本案ハ矢口水道株式會社ノ水道買收費及之ガ引繼後ノ經營費ニ充ツル爲資源ヲ雜收入竝水道準備積立金處分繰入ニ需メ提

出ス

第七號

矢口水道株式會社水道買收ニ關スル件

本市ハ矢口水道株式會社ノ水道ヲ金三十二萬圓以內ヲ以テ買收スルモノトス

説明 本市蒲田區内ノ一部(舊矢口町)ヲ給水區域トスル矢口水道株式會社經營ニ係ル水道ハ其ノ使用料ノ高率ナルト現在規模ヲ以テシテハ給水ノ困難ヲ來ス虞アルトニ依リ水道條例第二條ノ本則ニ基キ昭和十二年三月一日ニ於テ本市營ニ統制スルヲ適當ト認メ前記ノ通買收スルモノトシ本案ヲ提出ス

(參照)

水道條例抄録

第二條 水道ハ市町村其公費ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ布設スルコトヲ得ス但當該市町村ニ於テ其資力ニ堪ヘサルトキハ市町村以外ノ企業者ニ水道ノ布設ヲ許可スルコトアルヘシ

▽矢口水道買收後ノ經營費追加豫算

左記議案ハ二月二十二日ノ會議ニ上程、原案通即決可決セリ。

第二百二十七號

昭和十二年度東京市水道歲入出追加豫算

歲入	既提出歲入豫算高
一金四千八百五拾七萬圓	
追加歲入豫算高	
一金六萬八千七百圓	

合計金四千八百六拾參萬八千七百圓

歲出

既提出經常部豫算高	一金八百貳拾壹萬六千圓
追加經常部豫算高	一金五萬七千七百七拾圓
既提出臨時部豫算高	一金四千參拾五萬四千圓
追加臨時部豫算高	一金壹萬九百參拾圓
合計金四千八百六拾參萬八千七百圓	
歲入出差引殘金ナシ	

(歲入出豫算表略ス)

説明 矢口水道買收後ノ經營費ヲ追加計上スルモノトシ本案ヲ提出ス

▽水道使用條例中改正ノ件

左記議案ハ二月八日ノ會議ニ上程、仲澤芳朗君ノ動議ニ據リ、第三十八號議案(昭和十二年度東京市水道歲入出豫算「註、本章第八節參照」)外七議案ヲ一括シテ、議長指名二十七名ノ委員ニ調査ヲ付託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、同月二十二日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第三十九號

東京市水道使用條例中改正ノ件

東京市水道使用條例中左ノ通改正スルモノトス

昭和年間 第參章 昭和十二年 第四節 上水道事業

第三條第三號中「三戸以上」ヲ「二戸以上」ニ改ム

第十條 量水器ノ保管ハ水道使用者及給水装置ノ所有者若ハ保管者又ハ給水請求者ノ連帶責任トス

第十一條中「使用料納付其ノ他ノ事務」ヲ「給水装置ニ關スル事務」ニ改ム

第十二條中第一號及第二號ヲ左ノ如ク改メ第三號ヲ削ル

一 給水装置所有者九十日以上所在不明ニシテ保管者ナキトキ

二 水道使用廢止ノ状態ニ在リテ將來使用ノ見込ナシト認メタルトキ

第二十一條中「新設工費」ヲ「工費」ニ改ム

第二十四條 專用栓、特別栓及私設消火栓ノ使用料ハ水道使用者ヨリ之ヲ徵收ス但シ水道使用者移轉ノ際使用者

又ハ給水装置ノ所有者若ハ保管者ヨリ届出ナク使用者所在不明トナリタルトキ其ノ他本市ニ於テ特ニ必要ト認

メタル場合ニ於テハ給水装置ノ所有者又ハ保管者ヨリ徵收スルコトヲ得

共用栓ノ使用料ハ給水装置所有者又ハ給水請求者ヨリ之ヲ徵收ス

第二十七條 使用料ハ毎月量水器ヲ點檢シタル使用水量ニ付之ヲ算定シ其ノ月末日限り徵收ス但シ放任給水ニ係

ルモノハ毎月一日現在ニ依リ之ヲ算定シ其ノ月末日限り徵收ス

工事其ノ他一時用給水及本市ニ於テ特ニ必要ト認メタルモノニ付テハ給水開始ノ際三月間相當額以內ノ使用料

概算額ヲ前納セシムルコトヲ得

前項ノ使用料概算額ハ水道ノ使用ヲ廢止シタル際之ヲ精算ス

第二十八條 水道ノ使用ヲ開始、中止又ハ廢止シタル月ノ使用料ハ日割ニ依リ計算ス月ノ中途ニ於テ量水器若ハ

給水管ノ口徑ヲ變更シタルトキ又ハ放任給水ニ係ル使用料ノ算定標準ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

給水装置ノ種別ヲ變更シタルトキ又ハ給水装置ヲ料率ノ異ル二種以上ノ用途ニ混用シタルトキハ本市ニ於テ其

ノ使用量ノ區分ヲ設定シ使用料ヲ徵收ス此ノ場合ニ於ケル基本料金ハ其ノ重キニ從フ

水道ノ使用中止又ハ廢止ノ届出ナキトキハ水道ヲ使用セサル場合ト雖基本料金ハ之ヲ徵收ス違背處分ニ依リ給

水ヲ停止シタルトキ亦同シ

第三十四條 量水器ノ作用ヲ妨害シ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ使用料ヲ連脱シタル者ニ對シテハ本市ノ認定スル使

用料ヲ徵收スルノ外其ノ連脱シタル金額ノ三倍ニ相當スル金額(其ノ金額五圓未満ナルトキハ五圓)以下ノ過料

ヲ科スルコトアルヘシ

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタル者ニ對シテハ五圓以下ノ過料ヲ科スルコトアルヘシ尙損害

アルトキハ之ヲ賠償セシム

一 恣ニ導水装置ヲ爲シ又ハ給水装置ヲ移動變更撤去若ハ加工シタルトキ

二 恣ニ水止栓ヲ開閉シタルトキ

三 量水器ヲ破損シ又ハ其ノ作用ヲ妨ケタルトキ

四 給水ヲ濫用シ又ハ恣ニ分與シタルトキ

五 共用栓ノ鑑札若ハ鍵ヲ貸與又ハ讓與シタルトキ

六 恣ニ給水装置ヲ種別ノ異リタル用途ニ使用シタルトキ

七 給水装置ノ修繕手續ヲ怠リ漏水ヲ放任シタルトキ

- 八 私設消火栓ノ封緘ヲ消火ノ目的ニ非スシテ破毀シ又ハ恣ニ消火以外ノ用途ニ使用シタルトキ
- 九 水道掛員ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ妨害シタルトキ
- 十 前各號ノ外本條例又ハ本條例ニ基キ規定シタル事項ニ違背シ又ハ虛偽ノ届出ヲ爲シ若ハ給水上支障アリト認ムル行爲ヲ爲シタルトキ

第三十六條 前二條ノ規定ニ該當スル者ニ對シテハ一月以内給水ヲ停止スルコトヲ得

使用料、手数料、工費其ノ他本條例ニ依リ納付スヘキ金額ヲ期限内ニ納付セサル者ニ對シテハ其ノ完納ニ至ル迄給水ヲ停止スルコトヲ得

停水處分ハ専用栓及特別栓併用者ニ在リテハ其ノ全部ニ對シテ之ヲ執行ス

第三十七條 水道使用者、給水装置ノ所有者、保管者又ハ給水請求者ハ各其ノ戸主、家族、同居人、雇人等ノ違背行爲ニ對シテモ其ノ責ニ任スルモノトス

第三十八條 違背處分ヲ受クルモ其ノ行爲ヲ改メサルトキハ情狀ニ依リ其ノ使用ノ承認ヲ取消シ給水管ヲ切斷スルコトアルヘシ

第三十九條 (削除)

第四十二條第一項中「材料費ノ外」ヲ削リ第二項中「請求スル者ハ其ノ工費ノ全額」ヲ「請求スル者ニ對シテハ其ノ工費」ニ改ム

附 則

従前ノ規定ニ依リ徵收シタル使用料概算額ハ本改正條例施行後五年以内ニ本市ノ定ムル順序ニ依リ之ヲ精算還付

ス

本改正條例ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

説明 現行本市水道使用條例ハ使用料ノ納付義務者、徵收期、概算納金徵收等ノ點ニ於テ市民生活ノ實情ニ即セザルモノアリト認メラルニ依リ前記ノ通改正スルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス

▽第二水道擴張費起債ニ關スル件 左記議案ハ二月八日ノ會議ニ上程、前項記載ノ議案(水道使用條例中改正ノ件)

ト同一過程ヲ經、同月二十二日原案通可決セリ。

第四十號

東京市第二水道擴張費起債ニ關スル件

- 一 起債金額 六百萬圓
- 二 起債ノ目的 第二水道擴張費ニ充當
- 三 利率 年四分三厘以内
- 四 起債ノ方法 債券發行又ハ普通貸借ノ方法ニ依リ大藏省預金部、逓信省簡易保險局又ハ銀行其ノ他ヨリ起債スルモノトス

起債ノ時期本債ヲ起スニ適當ナラザルトキハ市長ニ於テ適宜償還期限ヲ定メ利率年四分八厘以内ノ短期債ヲ起シ本債ニ代フルコトヲ得但シ此ノ場合ト雖別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ズ

前項ノ短期債ハ其ノ償還期限内ニ本公債募集金及其ノ他收入ヲ以テ之ヲ償還ス。

五 起債ノ時期

昭和十二年度但シ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス尙事業進捗ノ都合ニ依リ起債額ノ全部又ハ一部ヲ翌年度ニ繰延起債スルコトヲ得

六 償還ノ方法

別表償還年次表ノ如ク起債年度ヨリ五年度据置爾後二十五年間ニ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利ニ借替ヲ爲スコトヲ得繰上償還ハ据置期間中ト雖之ヲ爲スコトヲ得

政府資金ノ供給ヲ受ケタル場合ハ該資金ノ融通條件ニ從フモノトス

七 償還ノ財源

水道事業収入及一般歳入

説明 第三十八號議案(昭和十二年度水道歳入出豫算)ニ伴ヒ本案ヲ提出ス

(償還年次表略ス)

▽江戸川水道取水設備費起債ニ關スル件

左記議案モ前項記載ノ議案ト同一經過ニテ、原案通可決セリ。

第四十一號

東京市江戸川水道取水設備費起債ニ關スル件

一起債金額 百二十九萬五千圓

二 起債ノ目的 江戸川水道取水設備費ニ充當

三 利率 年四分三厘以内

四 起債ノ方法 債券發行又ハ普通貸借ノ方法ニ依リ大藏省預金部、逓信省簡易保險局又ハ銀行其ノ他ヨ

リ起債スルモノトス

起債ノ時期本債ヲ起スニ適當ナラザルトキハ市長ニ於テ適宜償還期限ヲ定メ利率年四分八厘以内ノ短期債ヲ起シ本債ニ代フルコトヲ得但シ此ノ場合ト雖別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ズ

前項ノ短期債ハ其ノ償還期限内ニ本公債募集金及其ノ他收入ヲ以テ之ヲ償還ス

五 起債ノ時期

昭和十二年度但シ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス尙事業進捗ノ都合ニ依リ起債額ノ全部又ハ一部ヲ翌年度ニ繰延起債スルコトヲ得

六 償還ノ方法

別表償還年次表ノ如ク起債年度ヨリ五年度据置爾後二十五年間ニ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利ニ借替ヲ爲スコトヲ得繰上償還ハ据置期間中ト雖之ヲ爲スコトヲ得

政府資金ノ供給ヲ受ケタル場合ハ該資金ノ融通條件ニ從フモノトス

七 償還ノ財源

水道事業収入及一般歳入

説明 第三十八號議案ニ伴ヒ本案ヲ提出ス

(償還年次表略ス)

▽水道應急擴張費起債ニ關スル件

左記議案モ前項記載ノ議案ト同一經過ニテ、原案通可決セリ。

第四十二號

東京市水道應急擴張費起債ニ關スル件

一起債金額 七百二十萬圓

昭和年間 第參章 昭和十二年 第四節 上水道事業

二 起債ノ目的 水道應急擴張費ニ充當

三 利率 年四分三厘以内

四 起債ノ方法 債券發行又ハ普通貸借ノ方法ニ依リ大藏省預金部、逓信省簡易保險局又ハ銀行其ノ他ヨ

リ起債スルモノトス

起債ノ時期本債ヲ起スニ適當ナラザルトキハ市長ニ於テ適宜償還期限ヲ定メ利率年四分八厘以内ノ短期債ヲ起シ本債ニ代フルコトヲ得但シ此ノ場合ト雖別表償還年次表ニ定ムル年次ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ズ

前項ノ短期債ハ其ノ償還期限内ニ本公債募集金及其ノ他收入ヲ以テ之ヲ償還ス

五 起債ノ時期 昭和十二年度但シ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス尙事業進捗ノ

都合ニ依リ起債額ノ全部又ハ一部ヲ翌年度ニ繰延起債スルコトヲ得

六 償還ノ方法 別表償還年次表ノ如ク起債年度ヨリ五年度据置爾後二十五年度ニ償還ス但シ市財政ノ都

合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利ニ借替ヲ爲スコトヲ得繰上償還ハ据置期間中ト雖之ヲ爲スコトヲ得

政府資金ノ供給ヲ受ケタル場合ハ該資金ノ融通條件ニ從フモノトス

七 償還ノ財源 水道事業收入及一般歳入

說明 第三十八號議案ニ伴ヒ本案ヲ提出ス

(償還年次表略ス)

▽配水施設擴張費繼續年次及支出方法

第四十三號

左記議案モ前項記載ノ議案ト同一經過ニテ、原案通可決セリ。

自昭和十二年度 至昭和十五年度 東京市配水施設擴張費繼續年次及支出方法

一金九百萬圓

内 譯

配水施設擴張費

金百萬圓

昭和十二年度支出額

金參百萬圓

昭和十三年度支出額

金貳百萬圓

昭和十四年度支出額

金貳百萬圓

昭和十五年度支出額

說明 本事業ハ水道需要量ノ遞増ニ順應スルト水道施設ノ改善ヲ期スル爲配水本管及配水小管ノ増設移轉工事並井荻淨水場及駒澤給水場ノ一部擴張ヲ爲スモノトシ四ヶ年繼續事業トシテ本費ヲ計上スルモノトス

(支出計算表並ニ計算説明表略ス)

(參考)

配水施設擴張計畫

一 事業計畫概要

兼ニ本市ノ膨脹ニ伴フ水道需要ノ激増ニ備ヘテ第二水道擴張計畫及水道應急擴張計畫ヲ樹立シタルモ最近ニ於ケル需供調節ヲ更ニ圓滑ナラシムル爲配水施設ノ擴張ヲ企圖スルト共ニ府市施行ノ街路並河川工事ニ伴フ水道鐵管ノ整理工事ヲ施行セントス其ノ計畫概要次ノ如シ

(一) 配水施設ノ擴充

(イ) 玉川水道區域配水本管ノ増設

昭和年間 第參章 昭和十二年 第四節 上水道事業

- (口) 砦下系統送配水施設ノ増設
- (ハ) 配水本管連絡工事並井取水道淨水場一部擴築
- (ニ) 配水小管並補助管ノ増設
- (一) 水道鐵管整理工事
- (一) 配水施設ノ擴充

(イ) 玉川水道區域配水本管ノ増設
 本區域内ニ於ケル配水系統ヲ整備シテ給水ノ圓滑ヲ期スル爲水道應急擴張計畫ニ於テ施設スル一、一〇〇耗ノ配水本管ニ連繫シテ下流一帯ニ總延長四七、七四八米(自内徑一、四〇〇耗八種)ノ鐵管ヲ敷設スルモノトス

(ロ) 砦下系統送配水施設ノ増設
 應急擴張計畫ニ於テ施設スル砦下淨水場ノ擴築ニ伴ヒ送配水施設ヲ増設シテ本系統ニ屬スル區域内ノ配水ノ安全ヲ企圖スルト共ニ玉川水道區域ノ配水本管ニ連絡シ相互ノ融通ヲ計リ以テ給水ノ圓滑ヲ期スルモノトス

1 送水本管
 世田谷區玉川瀨田町地先水道應急擴張工事施行ノ送水本管ト駒澤給水場新設配水池トヲ連絡スル内徑六〇〇耗ノ延長二、六七二米ノ鐵管ヲ敷設スルモノトス

2 配水池
 駒澤給水場内既設配水池ニ隣接シテ容量四、二五〇立方米ノモノ一池ヲ増設シ一日最大給水量一六、七〇〇立方米ノ約六時間分ニ相當スル貯水量ヲ有セシムルモノトス

3 配水本管
 駒澤新設配水池ヨリ内徑七〇〇耗本管ヲ以テ引出シ途中砦下系統既設管ニ連絡シ内徑六〇〇耗ニ減シ舊目黒競馬場附近ニ於テ玉川區域及目黒區域ノ配水本管ニ連絡スルモノトス其ノ總延長四、六八〇米トス

(ハ) 配水本管連絡工事並井取水道淨水場一部擴築
 配水本管連絡工事ハ要衝十箇所ニ於テ本管ヲ連絡シ配水ノ圓滑ヲ期セントスルモノニシテ其ノ總延長一四、〇九九米(自内徑四〇〇耗)トス

(ニ) 配水小管並補助管ノ増設
 井取水道淨水場一部擴築工事ハ鑿井水源ノ餘剩湧水量ヲ利用シ既設設備一日最大三、三三九立方米ヲ一日最大九、三三九立方米ノ給水設備ニ擴張セムトスルモノニシテ既設淨水場ニ隣接シ淨水池一池(容量一、〇〇〇立方米)及取水、配水唧筒設備ヲ施行シ鐵管連絡工事ト相俟チ井取水道區域及荒玉水道區域ノ一部ニ補給セムトスルモノナリ

(二) 水道鐵管整理工事
 東京府市施行ノ街路工事並河川改修工事等ニ支障トナル水道鐵管ノ移轉整理ヲ爲スモノニシテ其ノ總延長四九、二七〇米トス

二 工費及工期
 本擴張工事費概算額ハ九百萬圓ニシテ工期ハ自昭和十二年度至昭和十五年度四箇年トス

一金九百萬圓	配水施設擴張費
內 譯	
一金四拾參萬圓	工事費
一金八百五拾七萬圓	用地並補償費
金五萬七千百圓	淨水場費
金拾九萬參千百圓	給水場費
金貳拾貳萬貳百圓	配水管費
金七百九拾壹萬六千九百圓	機械器具費
金拾七萬八千貳百圓	建築費
金四千五百圓	

▽配水施設擴張費起債ニ關スル件 左記議案モ前項記載ノ議案ト同一經過ニテ、原案通可決セリ。

第四十四號 昭和年間 第參章 昭和十二年 第四節 上水道事業